

現代と福祉 SA
 社会福祉論 SA
 現代と福祉 SA

11115

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

この授業は産業社会学部の基礎科目であり、人間福祉学科の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることができない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「その他」参照	

テキスト

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業は5回を1サイクルとして加藤・峰島・山本が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉学科教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

現代と福祉 SB
 社会福祉論 SB
 現代と福祉 SB

11117

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

この授業は産業社会学部の基礎科目であり、人間福祉学科の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。

毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることができない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「その他」参照	

テキスト

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業は5回を1サイクルとして加藤・峰島・山本が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉学科教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

現代と福祉 SC
 社会福祉論 SC
 現代と福祉 SC

11119

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

この授業は産業社会学部の基礎科目であり、人間福祉学科の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。

毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることができない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「その他」参照	

テキスト

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業は5回を1サイクルとして加藤・峰島・山本が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉学科教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、わたしと知 表現とスタイル かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。わたしと知 では、「赤頭巾ちゃん」「ロビンソンクルーソー」などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに 表現とスタイル では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。また かかわりと社会 ではグローバル化する人々の結びつきや文化を通して「個人から社会への関係性」について検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction 「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

* 定期試験として実施 * 日常点評価レポート、出席と試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。
レポート20%
出席20%
試験60%

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
初回の講義で本講義のねらいや方法と共に説明する。	

テキスト

本講義のために編まれた『方法』としての『人間と文化』をテキストとして使用する。開講までに各自購入のこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、わたしと知 表現とスタイル かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。わたしと知 では、「赤頭巾ちゃん」「ロビンソンクルーソー」などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに 表現とスタイル では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。また かかわりと社会 ではグローバル化する人々の結びつきや文化を通して「個人から社会への関係性」について検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

* 定期試験として実施 * 日常点評価レポート、出席と試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。
レポート20%
出席20%
試験60%

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
初回の講義で本講義のねらいや方法と共に説明する。	

テキスト

本講義のために編まれた『方法としての人間と文化』をテキストとして使用する。開講までに各自購入のこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、わたしと知 表現とスタイル かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。わたしと知 では、「赤頭巾ちゃん」「ロビンソンクルーソー」などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに 表現とスタイル では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。また かかわりと社会 ではグローバル化する人々の結びつきや文化を通して「個人から社会への関係性」について検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

* 定期試験として実施 * 日常点評価レポート、出席と試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。
 レポート20%
 出席20%
 試験60%

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
初回の講義で本講義のねらいや方法と共に説明する。	

テキスト

本講義のために編まれた『方法としての人間と文化』をテキストとして使用する。開講までに各自購入のこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

現代と社会 SA
現代社会 SA
社会学 SA

12088

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代なのか、社会構造はどのように変わろうとしているのか、を考えるための「理論的手がかり」および「分析視点」を提供しようとするものです。本講義を通して、受講生諸氏は「現代」というものを理解するための基礎知識―基礎概念群を獲得していくこととなりますが、とりわけ最初に「現代社会」という又工のような実態を「どのように観ていくのか」ということ、すなわちモノ、コトの「観方」について学んでいってもらいます。どこで何にさわったら、どんな問題が見えるのか？検討対象としては、本学系で取扱う研究テーマ群の中から、以下のテーマを今年度は柱として取り上げます。 少子化社会をどう考えるか？(中川) 現代社会の変容とそこに生きる人びとをどう捉えるか？(木田) 「地球環境問題」にどうアプローチしていくか？(山口)以上の柱を探りの糸として、現代社会の実態を把握し、「現代社会」の構造と政策に関する基礎概念を理解するとともに、各領域ごとの問題の処し方、分析のノウハウについて了解していただきたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語および講義時間の途中での出入りは慎むこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

定期試験を成績評価の基本とする。コミュニケーションペーパー、講義中の小レポートなどを活用し日常点も加味する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
少子化社会とは？―なぜ少子化が問題なのか―(中川)	
少子化社会と家族 1) - 変る女性の生き方と家族―(中川)	
少子化社会と家族 2) - 男性の生き方も変化？―(中川)	
少子化対策の現状 なぜ進まないのか？(中川)	
まとめ 家族の行方と少子化の行方 質疑応答(中川)	
現代の社会とその変容―企業社会と新自由主義をめぐって―(木田)	
変容する社会と働く人びと―競争と階層化をめぐって―(木田)	
変容する社会と女性たち―就業の継続と断裂をめぐって―(木田)	
変容する社会と若者・子どもたち―知と人のかかわりをめぐって―(木田)	
まとめ 変容する社会と日本の人びと―「自立型」と「共同型」の市民像をめぐって―(木田)	
環境問題に対するアプローチのありかた―問題の立て方、考え方について―(木田)	
地球環境の現状―現状の構造的理解と今後の社会のデザイン(山口)	
ダム問題へのアプローチ―水力は環境にやさしいか？(山口)	
まとめ 製品寿命からみた技術評価 技術は発展しているのか？(山口)	
定期試験	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
21世紀の日本を見つめる	立命館大学現代社会研究会編 / 晃洋書房 / 4-7710-1592-9

参考書

参考書は教室で指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業スケジュールについては各担当者より初回の授業で改めて説明する。

現代と社会 SB
現代社会 SB
社会学 SB

12089

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代なのか、社会構造はどのように変わろうとしているのか、を考えるための「理論的手がかり」および「分析視点」を提供しようとするものです。本講義を通して、受講生諸氏は「現代」というものを理解するための基礎知識－基礎概念群を獲得していくこととなりますが、とりわけ最初に「現代社会」という又エのような実態を「どのように観ていくのか」ということ、すなわちモノ、コトの「観方」について学んでいってもらいます。どこで何にさわったら、どんな問題が見えるのか？検討対象としては、本学系で取扱う研究テーマ群の中から、以下のテーマを今年度は柱として取り上げます。 少子化社会をどう考えるか？(中川) 現代社会の変容とそこに生きる人びとをどう捉えるか？(木田) 「地球環境問題」にどうアプローチしていくか？(山口)以上の柱を探りの糸として、現代社会の実態を把握し、「現代社会」の構造と政策に関する基礎概念を理解するとともに、各領域ごとの問題の処し方、分析のノウハウについて了解していただきたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語および講義時間の途中での出入りは慎むこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

定期試験を成績評価の基本とする。コミュニケーションペーパー、講義中の小レポートなどを活用し日常点も加味する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
少子化社会とは？－なぜ少子化が問題なのか－(中川)	
少子化社会と家族 1) - 変る女性の生き方と家族－(中川)	
少子化社会と家族 2) - 男性の生き方も変化？－(中川)	
少子化対策の現状 なぜ進まないのか？(中川)	
まとめ 家族の行方と少子化の行方 質疑応答(中川)	
現代の社会とその変容－企業社会と新自由主義をめぐって－(木田)	
変容する社会と働く人びと－競争と階層化をめぐって－(木田)	
変容する社会と女性たち－就業の継続と断裂をめぐって－(木田)	
変容する社会と若者・子どもたち－知と人のかかわりをめぐって－(木田)	
まとめ 変容する社会と日本の人びと－「自立型」と「共同型」の市民像をめぐって－(木田)	
環境問題に対するアプローチのありかた－問題の立て方、考え方について－(木田)	
地球環境の現状－現状の構造的理解と今後の社会のデザイン(山口)	
ダム問題へのアプローチ－水力は環境にやさしいか？(山口)	
まとめ 製品寿命からみた技術評価 技術は発展しているのか？(山口)	
定期試験	

テキスト

参考書

参考書は教室で指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業スケジュールについては各担当者より初回の授業で改めて説明する。

現代と社会 SC
現代社会 SC
社会学 SC

12092

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代なのか、社会構造はどのように変わろうとしているのか、を考えるための「理論的手がかり」および「分析視点」を提供しようとするものです。本講義を通して、受講生諸氏は「現代」というものを理解するための基礎知識－基礎概念群を獲得していくこととなりますが、とりわけ最初に「現代社会」という又工のような実態を「どのように観ていくのか」ということ、すなわちモノ、コトの「観方」について学んでいってもらいます。どこで何にさわったら、どんな問題が見えるのか？検討対象としては、本学系で取扱う研究テーマ群の中から、以下のテーマを今年度は柱として取り上げます。 少子化社会をどう考えるか？(中川) 現代社会の変容とそこに生きる人びとをどう捉えるか？(木田) 「地球環境問題」にどうアプローチしていくか？(山口)以上の柱を探りの糸として、現代社会の実態を把握し、「現代社会」の構造と政策に関する基礎概念を理解するとともに、各領域ごとの問題の処し方、分析のノウハウについて了解していただきたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語および講義時間の途中での出入りは慎むこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

定期試験を成績評価の基本とする。コミュニケーションペーパー、講義中の小レポートなどを活用し日常点も加味する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
少子化社会とは？－なぜ少子化が問題なのか－(中川)	
少子化社会と家族 1) - 変る女性の生き方と家族－(中川)	
少子化社会と家族 2) - 男性の生き方も変化？－(中川)	
少子化対策の現状 なぜ進まないのか？(中川)	
まとめ 家族の行方と少子化の行方 質疑応答(中川)	
現代の社会とその変容－企業社会と新自由主義をめぐって－(木田)	
変容する社会と働く人びと－競争と階層化をめぐって－(木田)	
変容する社会と女性たち－就業の継続と断裂をめぐって－(木田)	
変容する社会と若者・子どもたち－知と人のかかわりをめぐって－(木田)	
まとめ 変容する社会と日本の人びと－「自立型」と「共同型」の市民像をめぐって－(木田)	
環境問題に対するアプローチのありかた－問題の立て方、考え方について－(木田)	
地球環境の現状－現状の構造的理解と今後の社会のデザイン(山口)	
ダム問題へのアプローチ－水力は環境にやさしいか？(山口)	
まとめ 製品寿命からみた技術評価 技術は発展しているのか？(山口)	
定期試験	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
21世紀の日本を見つめる	立命館大学現代社会研究会編 / 晃洋書房 / ISBN 4-7710-1592-9

参考書

参考書は教室で指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業スケジュールについては各担当者より初回の授業で改めて説明する。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。「メディアの研究史」で、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

定期試験80% 詳細:教科書を中心に出題
 日常点20% 詳細:コミュニケーションパーパーなどを使用する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「現代とメディア」講義ガイダンス	
第1部【活字メディア】 活字が世界を変えた	
新聞と民主的な社会	
文化としての出版、消費としての出版	
新聞と読者の視線	
第2部【放送メディア】 放送の発明	
ジャーナリズムとしての放送	
テレビとコマーシャル	
世界に広がる市民の放送	
第3部【メディアと情報化社会】 グローバル・メディア	
「越境する」映画	
通信テクノロジーの発展	
インターネット	
第4部【わたしたちのメディア・リテラシー】 メディア・リテラシーとは何か	
学びの実践	

テキスト

テキスト:「メディア社会の歩き方」伊藤武夫ほか著 世界思想社

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。「メディアの研究史」で、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

定期試験80% 詳細:教科書を中心に出題

日常点20% 詳細:コミュニケーションパーパーなどを使用する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「現代とメディア」講義ガイダンス	
第1部【活字メディア】 活字が世界を変えた	
新聞と民主的な社会	
文化としての出版、消費としての出版	
新聞と読者の視線	
第2部【放送メディア】 放送の発明	
ジャーナリズムとしての放送	
テレビとコマーシャル	
世界に広がる市民の放送	
第3部【メディアと情報化社会】 グローバル・メディア	
「越境する」映画	
通信テクノロジーの発展	
インターネット	
第4部【わたしたちのメディア・リテラシー】 メディア・リテラシーとは何か	
学びの実践	

テキスト

テキスト:「メディア社会の歩き方」伊藤武夫ほか著 世界思想社

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。「メディアの研究史」で、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

定期試験80% 詳細:教科書を中心に出題
 日常点20% 詳細:コミュニケーションパーパーなどを使用する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「現代とメディア」講義ガイダンス	
第1部【活字メディア】 活字が世界を変えた	
新聞と民主的な社会	
文化としての出版、消費としての出版	
新聞と読者の視線	
第2部【放送メディア】 放送の発明	
ジャーナリズムとしての放送	
テレビとコマーシャル	
世界に広がる市民の放送	
第3部【メディアと情報化社会】 グローバル・メディア	
「越境する」映画	
通信テクノロジーの発展	
インターネット	
第4部【わたしたちのメディア・リテラシー】 メディア・リテラシーとは何か	
学びの実践	

テキスト

テキスト:「メディア社会の歩き方」伊藤武夫ほか著 世界思想社

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール内容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール内容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 宝月 誠

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール**内 容****キーワード**

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール内容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール内容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 宝月 誠

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。その後の授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

テキスト

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1A
人間福祉演習 1A

14546

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1B
人間福祉演習 1B

14663

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1C
人間福祉演習 1C

14689

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1D § 人間福祉演習 1D

本文無し

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 1E
人間福祉演習 1E

14671

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1F
人間福祉演習 1F

14732

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1G
人間福祉演習 1G

14687

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2A
人間福祉演習 2A

14708

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2B
人間福祉演習 2B

14673

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2C
人間福祉演習 2C

14691

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2D
人間福祉演習 2D

14571

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2E
人間福祉演習 2E

14718

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期 Semester における学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点 (班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等) やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法 (大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2F
人間福祉演習 2F

14620

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2G
人間福祉演習 2G

14697

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3A
人間福祉演習 3A

14526

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3B
人間福祉演習 3B

14629

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 高木 正朗

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3C
人間福祉演習 3C

14665

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3D § 人間福祉演習 3D

本文無し

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 3E
人間福祉演習 3E

14675

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 仲間 裕子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3F
人間福祉演習 3F

14693

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3G
人間福祉演習 3G

14587

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4A
人間福祉演習 4A

14791

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4B
人間福祉演習 4B

14478

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4C
人間福祉演習 4C

14631

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4D
人間福祉演習 4D

14758

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4E
人間福祉演習 4E

14787

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期 Semester における学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4F
人間福祉演習 4F

14699

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5A
人間福祉演習 5A

14677

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5B
人間福祉演習 5B

14722

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5C
人間福祉演習 5C

14679

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5D
人間福祉演習 5D

14724

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5E
人間福祉演習 5E

14711

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5F
人間福祉演習 5F

14704

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5G
人間福祉演習 5G

14681

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5H
人間福祉演習 5H

14726

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5I
人間福祉演習 5I

14651

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5J
人間福祉演習 5J

14683

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 久津内 一雄

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5K
人間福祉演習 5K

14745

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5L
人間福祉演習 5L

14695

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 宝月 誠

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5M
人間福祉演習 5M

14685

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中川 勝雄

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5N
人間福祉演習 5N

14728

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 50
人間福祉演習 50

14653

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5P
人間福祉演習 5P

14755

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5Q
人間福祉演習 5Q

14715

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 神保 哲生

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1A
人間福祉演習 1A

13642

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1B
人間福祉演習 1B

13630

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1C
人間福祉演習 1C

13734

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

<u>内 容</u>	<u>キーワード</u>
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1D
人間福祉演習 1D

13736

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1E
人間福祉演習 1E

13695

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1F
人間福祉演習 1F

13680

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 石本 幸良

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2A
人間福祉演習 2A

13644

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2B
人間福祉演習 2B

13725

授業開講期間 通年 **単位数** 4 **配当回生** 時間割等参照
担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**評価方法・基準**

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

<u>内 容</u>	<u>キーワード</u>
------------	--------------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト**参考書****授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

演習 2C
人間福祉演習 2C

13646

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2D
人間福祉演習 2D

13648

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

期末レポート

- 2000字-4000字の書評。「文献リスト」の著書および論文のなかで選択(複数選択可)。内容や著者の主張を要約する必要があるが、当該著書(論文)の評価すべき点や弱点、または反論のほうにより重点を置くこと。目安としては、3分の1が要約、著者の主張、そして3分の2は、あなたの評価や反論となるように紙面を配分すること。
- 後期の演習レポートに向けた研究テーマの提案。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2E
人間福祉演習 2E

13686

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2F
人間福祉演習 2F

13692

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3A
人間福祉演習 3A

13677

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3B
人間福祉演習 3B

13697

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3C
人間福祉演習 3C

13688

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3D
人間福祉演習 3D

13650

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 仲間 裕子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3E
人間福祉演習 3E

13713

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3F
人間福祉演習 3F

13699

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4A
人間福祉演習 4A

12451

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5A
人間福祉演習 5A

13738

授業開講期間 通年
単位数 4
配当回生 時間割等参照
担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5B
人間福祉演習 5B

13740

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5C 人間福祉演習 5C	13715
--------------------	-------

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5D
人間福祉演習 5D

13742

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5E
人間福祉演習 5E

13749

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5F
人間福祉演習 5F

13761

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6A
人間福祉演習 6A

13652

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6B
人間福祉演習 6B

13654

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6C
人間福祉演習 6C

13701

授業開講期間 通年
単位数 4
担当回生 時間割等参照
担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6D
人間福祉演習 6D

13703

授業開講期間 通年 **単位数** 4 **配当回生** 時間割等参照
担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**評価方法・基準**

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

<u>内 容</u>	<u>キーワード</u>
------------	--------------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト**参考書****授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

演習 6E
人間福祉演習 6E

13668

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6F
人間福祉演習 6F

13656

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6G
人間福祉演習 6G

13690

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6H
人間福祉演習 6H

13744

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6I
人間福祉演習 6I

13670

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6J
人間福祉演習 6J

13632

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6K
人間福祉演習 6K

13672

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 高木 正朗

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6L
人間福祉演習 6L

13634

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 門田 幸太郎

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6M
人間福祉演習 6M

13636

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 60
人間福祉演習 60

13705

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照

担当教員 荒木 穂積、石井 信子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容

キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6P
人間福祉演習 6P

13746

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6Q
人間福祉演習 6Q

13727

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6R
人間福祉演習 6R

13730

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 黒田 学

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6S
人間福祉演習 6S

13707

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
-------------------------------	--

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6T
人間福祉演習 6T

13638

授業開講期間 通年 **単位数** 4 **配当回生** 時間割等参照
担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**評価方法・基準**

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

<u>内 容</u>	<u>キーワード</u>
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト**参考書****授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

演習 6U
人間福祉演習 6U

13753

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6V
人間福祉演習 6V

13666

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6W
人間福祉演習 6W

13684

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6X
人間福祉演習 6X

13750

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 坂本 利子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 /人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 正純

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年
単位数 4
担当教員 深澤 敦
配当回生 時間割等参照

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 石本 幸良

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 嘉一、出口 剛司

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 有賀 郁敬

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 松田 正隆

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 櫻井 純理

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 高木 正朗

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 仲間 裕子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 石倉 康次、高橋 正人

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 中川 勝雄

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 仲井 邦佳

講義内容・テーマ

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小暮 宣雄

講義内容・テーマ

1) アーツ(=アート、芸術)を社会に伝えるにはどうすればいいのか、2) アーティストが「いま、ここ」にいる意味とは、3) 教育/福祉/医療現場にアーツはどう関わられるのか、4) 演劇ダンス音楽映画美術文学などの各アーツジャンルはどのように鑑賞され創造されるべきか、これらアーツマネージャーが行うアーツマネジメント課題を明らかにしつつ、5) アーツマネジメント手法を更に社会に広げる方策(冠婚葬祭など)を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

小劇場演劇あるいはコンテンポラリーダンスを実際に鑑賞しておくこと。その際は劇場ホール、周辺などの環境観察を行っておくことも大切。そのためには、チラシやインターネット情報をよくチェックすること。講義中、適宜、劇団関係者、ダンスカンパニーの人、アーティスト、アーツマネージャーたちがPRのためにゲストとして来ることが予想されるので、そこで生の情報が得られる可能性がある。なお中間テスト、最終試験とも持ち込み可。演劇ダンス公演、美術工芸展、音楽リサイタルなどを告知したい学生は冒頭にプレゼンテーションできるように配慮する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	最終日試験にしたいが、日程上定期試験になる可能性もある。
日常点(小テスト)	50 %	中間テストを行うが、レポート対応も考慮する。また、あと数回、簡単な小テストで日常点を評価する。

中間テスト、定期試験は基礎知識とともに芸術体験の豊かさ、思考の柔軟性を測る内容とする予定。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。内容は、文化政策、まちづくりとの関係。市場芸術以外のアーツとは？	芸術 文化 政策 政府 自治体 市場(マーケット)原理 対抗的公共圏
アーツマネジメントのabc～アーツマネージャーはどこにいる？	アーツ マネジメント マネージャー アーツプレイス 社会とアーツの架け橋 伊藤裕夫
アーツマネジメントの分類(1)～芸術の種類と分類	演劇 ダンス 音楽 実演芸術 美術 工芸 デザイン 映画 CG 視覚芸術 小説 詩 戯曲 評論 言葉芸術
アーツマネジメントの分類(2)～文化政策とまちづくりとの関係	国家的まちづくり 自治体まちづくり 市民まちづくり NPOとコミュニティ・ビジネス イベントとアーツマネジメントの関係
アーツの「いれもの」論(1)～劇場ホール・ライブハウス	公共ホール 文化ホール 民間劇場 専門劇場 コンサートホール ライブハウス 暗闇 無音
アーツの「いれもの」論(2)～美術館・ギャラリー・映画館	公立美術館 民間美術館 画廊 企画ギャラリー シネマコンプレックス ミニシアター 空っぽ 暗闇 沈黙
アーツの組織論～提供者と鑑賞者、体験者との関係	芸術鑑賞 芸術体験 ワークショップ ファシリテーター アート NPO法人 NPOネットワーク
中間テスト(教科書と講義内容などから出題)	
アートNPO法人の可能性～学校、福祉、医療とを結んで～	エイジス 大阪アーツアポリア アートシアターdB JCDN 芸術文化ワークス
アウトリーチを巡って～ワークショップ、パブリックアートなど	アウトリーチ 腕を伸ばす 芸術の出前 公共性とは？ 公共圏
芸術の可能性～アーツセラピーとアウトサイダーアーツ	芸術療法 エイブルアート ヒーリングとは？
限界芸術論とアーツの公共性～公的メセナの芸術投資の根拠とは	企業メセナ 芸術投資 限界芸術 鶴見俊輔 加藤種男
古典的限界芸術論と宮沢賢治の先駆性	柳宗悦 柳田國男 宮沢賢治 親密圏
人生の節目節目マネジメント～ユニバーサルデザインとの関係	セックスレス親密圏 限界芸術と親密圏 ソフト政策としてのユニバーサルデザイン 野に咲くアーツへ
まとめ 最終的に理解が不足している点についての質疑、補足	

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
アーツマネジメントみち	小暮宣雄/晃洋書房/4771014671

『アーツマネジメントみち』は、生協で販売予定。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
自治体政策とユニバーサルデザイン	波田永実編/学陽書房/431316104x

限界芸術論	鶴見俊輔 / 筑摩書房 / 4480085254
文化政策学の展開	池上惇他編 / 晃洋書房 / 4771014434
アーツマネジメント概論	伊藤 裕夫他 / 水曜社 / 488065020X
アートマネジメント	伊東正伸他 / 武蔵野美術大学出版局 / 4901631527

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.arts-calendar.co.jp/Registration.html> (アーツ情報サイト:このメルマガ登録がのぞましい)

<http://www.arts-calendar.co.jp/Report.html> (アーツレビューサイト:このメルマガ登録がのぞましい)

<http://www.arts-calendar.co.jp/KOGURE/Nikki.html> (こぐれ日記)

<http://kogure.exblog.jp/> (こぐれ日乗)

その他

京橋の大阪ビジネスパーク(OBP)ではOBPアーツプロジェクトを実施していて各大学のアーツやアーツマネジメントに関心のある学生が参加している。またここではJAM West(日本アートマネジメント学会関西支部会)例会も開催。アーツマネージャーの仕事に興味がある学生は是非参加すること。<http://www.artsmanagement.jp/>

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

日常、人が使う言葉に「思う」がある。この日常語に対応する学術用語は「認知」である。人の認知の対象は様ざまであり、対象が自己であるとき、それをアイデンティティとよぶ。アイデンティティは人の行動の有りようを決定する重要な要因である。当科目では、アイデンティティの概念、その形成と発達のプロセス、アイデンティティと心理学的健康、そしてアイデンティティと社会的行動を小テーマにし、アイデンティティの機能的意味を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、とくに受講条件とはしない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

評価は、試験の成績によってのみおこなう。試験では講義内容の全般にわたる理解度を問う。

講義スケジュール

内 容 序	キーワード
アイデンティティの概念と指標	社会的カテゴリー
アイデンティティの自己評価	自尊感情
アイデンティティの形成と集団	内集団、外集団。
アイデンティティの発達	ライフステージ、文化。
アイデンティティと心理学的健康	個人的自尊感情
アイデンティティと社会的行動	集団間関係
社会的アイデンティティと社会的自尊感情の維持・強化	原因帰属、社会的比較、価値転換。
アイデンティティと集団間行動	外集団への評価
内集団ひいき	集団間分化
アイデンティティと内集団ひいき	突出性
集団間の社会的葛藤	社会的アイデンティティの脅威
対外集団への認知と負の集団間関係	認知枠の変化
正の集団間関係への変化	再カテゴリー化
定期試験	

テキスト

テキストは使用しない。レジュメを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会的アイデンティティ理論	M.A.ホッグ・D.アブラムス / 北大路書房 / 4762820407

その他の考書および参考文献は授業の途次、適宜、提示することにした。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

アジア文化論 S
現代文明論 S

14660

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 文 楚雄

講義内容・テーマ

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義方式を取るが、毎回ビデオも見ていく。また、留学生との討議も組み合わせたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	期末の試験に代わるレポートを課す
日常点 (小テスト)	40 %	出席など

期末の試験に代わるレポートを提出しなければならない。期末のレポートや出席などの平常点を総合して判断する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
文化とは何か、視点や方法	
文化・文明の衝突	
日本人・中国人・韓国人の国民性	
日・中・韓文化の特徴	
儒教文化とその伝承	
婚姻法から見た儒教思想	
日・中・韓の食文化とマナー	
本学の留学生との交流	
仏教文化	
文学から見た文化 平家物語を中心に	
言語と文化 日本語、中国語、英語の比較から	
道教・神道・禅	
金閣寺と銀閣寺	
住まい	

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『日本人と日本文化』	司馬遼太郎 / 中公新書 /
『中国人と日本人』	邱英漢 / 中央公論社 /
『韓国人の心』	李御寧 / 学生社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 八田 文裕子

講義内容・テーマ

本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識の習得を目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士としてのみならず、学生諸君の健康管理に必要な医学的知識を概説するため、基礎医学から臨床医学におよぶ広範な領域を短時間でカバーする。専門的知識の習得のためには積極的な勉学姿勢を要求する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	記述及び ×

- * 定期試験として実施
 - * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 筆記試験; 定期試験として実施
 - * レポート; 試験に代わるレポートとして実施
- 出欠の有無は問わない。レポートと定期試験の成績をもって評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
臨床医学の概観	医学の歩み、社会福祉士と医療・医学の関連
人体の構造と機能	解剖と生理
先天性疾患	概念、遺伝子と遺伝、発生、先天性疾患
感染症	従来の感染症の動向、感染症新法
感染症	O157・結核・AIDSなど近年注目される感染症
感染症	O157・結核・AIDSなど近年注目される感染症
神経系疾患	パーキンソン氏病、神経痛、頸椎症、など
生活習慣病の病態・概念と、その予防	概念、悪性新生物、循環器疾患、脳血管障害、糖尿病、高脂血症
その他の疾患	脳性麻痺、筋ジストロフィーなど
老化と身体的変化	老化現象とは、高齢者の疾病の特徴と注意すべき点について
老化と身体的変化	老化現象とは、高齢者の疾病の特徴と注意すべき点について
精神保健	精神障害の診断・分類・理解、精神医療について
リハビリテーション医療、公衆衛生	リハビリテーション医療の概要・専門職種とその業務、人口統計、医療供給システムなど
保健医療対策の現状	健康づくり、地域保険、精神保健福祉、難病痴呆高齢者、などの対策
医事法制の概要	医療関係者に関する法の基本的構造、医師法、医療法など

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
医学一般	福祉士養成講座編集委員会 / 中央法規 / 4-8058-2303-8

新版社会福祉士養成講座14「医学一般」、福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版

参考書

新訂「目でみるからだのメカニズム」、堺 章著、医学書院

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 吉田 幸治

講義内容・テーマ

本講義の目的は、現代のグローバル化が進む社会を生きる上で必要な、基礎的知識や柔軟なものの見方、さらには異文化間で生ずる問題の克服法などについて理解を深めることにある。そこでまず最初に、「文化とは何か」「コミュニケーションとは何か」という基本的なトピックから考察を始め、その基礎的理解をもとに国外および国内における個々の文化的事例(アメリカ合衆国やカナダでの多文化主義に関する実践事例、日本国内におけるアイヌ・沖縄問題や在日韓国・朝鮮人問題等)を検討することによって、私達の生きる現代世界がどのような状況にあり、どのような問題を抱えているのかを考察する。またこのような検討は必然的に、社会・文化的な集団間のコミュニケーションの問題のみならず、個人のアイデンティティ形成と社会・文化的集団との関係についての検討にもなる。本講義では、異文化コミュニケーションに関する事例的・理論的考察を通して、最終的には社会構築の担い手である主体的個人のあり方について理解が得られることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義を通して、受講者の皆さんには、異文化(他者)を理解することが自文化(自分)を見つめ直すことに繋がるということを強く自覚して欲しいと考えている。そのため受講にあたっては、自分を外部からみることを意識し、それまで自明視していた自己の考え方の殻を破って、広い視野と柔軟なものの見方を学ぶ姿勢を持って臨むことをお願いしたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	試験に代わるレポートを実施し、評価を行う。
日常点(小テスト)	30 %	講義期間中にも小レポートを実施する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
異文化コミュニケーションの基礎概念	文化とは何か?
異文化コミュニケーションの基礎概念	コミュニケーションとは何か?
現代世界におけるグローバル化の趨勢	国際化、グローバリゼーション、ローカリゼーションなど。
多文化主義と文化多元主義	多文化主義論争、多文化主義(multiculturalism)と文化多元主義(cultural pluralism)の違い等について。
文化的問題に関する海外の事例	多文化主義を巡るアメリカ合衆国およびカナダの事例を中心に3回講義
文化的問題に関する海外の事例	
文化的問題に関する海外の事例	
文化的問題に関する国内の事例	日本のアイヌ・沖縄問題や在日韓国・朝鮮人問題等を取りあげ、「内なる多文化主義」の観点から3回講義
文化的問題に関する国内の事例	
文化的問題に関する国内の事例	
アイデンティティ(自己)形成と文化	個人の自己形成過程と文化との関係について、2回にわたり講義。
アイデンティティ(自己)形成と文化	
異文化接触によるアイデンティティ(自己)の変容	
講義総括	

テキスト

テキストは使用しない。講義時にレジュメ・資料を配布する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
異文化コミュニケーション(改訂版)	吉田暁監修、石井敏他著/有斐閣(有斐閣選書)/
異文化コミュニケーション・入門	池田理知子、E.M.クレーマー著/有斐閣(有斐閣アルマ)/
異文化コミュニケーション・ハンドブック	石井敏他編/有斐閣(有斐閣選書)/
国際化と異文化理解	寛文生他編/法律文化社/
多文化主義のアメリカ 揺らぐナショナル・アイデンティティ	油井大 三郎他編/東京大学出版会/

上記以外の参考書については、講義時に適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

医療福祉論 S
社会保障論 S

12737

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 宮崎 清恵

講義内容・テーマ

医療福祉とは保健医療分野における社会福祉のことである。保健医療分野での社会福祉実践とそれに関係するあらゆる制度、資源などへの理解を深める。本講義では、人間の生活の全体関連性において、病や障害を得るとどのように生活が影響をうけるのかを理解し、保健医療の場で福祉実践がどのような役割を担うことが必要であるか、また実際に担ってきているかを学ぶ。さらに保健医療の場における福祉実践に関連する幅広い制度および政策についても社会資源の一環として理解を深める。その上で、疾病や障害を抱えつつ現実の生活課題に直面している対象者や家族へのソーシャルワーク援助のあり方について学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉原論・社会福祉概論を習得し、ソーシャルワークについての知識を習得していることが望ましい。さらに特に価値、倫理の部分はよく学んでおいて欲しい。知識のみならず、自己の障害者観、死生観を築き上げていくことに挑んで欲しい。また、文学や映画、演劇等の芸術にも多く触れ、生や死、病や障害が人生に投げかける意味を探って欲しい。さらに個人的な生活歴においての生活の実体験に対する感性を豊かにし、人の苦しみを自分に関係がないこととはせずそれに対して自分はどうに感じるのかを立ち止まって見つめる体験を積み重ねて欲しい。出席を重視し、参加型の授業を行う。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	概念・歴史・理論・技術・社会制度等の基本的な知識の部分について定期試験を実施する。
レポート	20 %	授業の理解度を確認したり、自分の考えをまとめてもらう部分については適時レポートを時間内に作成してもらう。
日常点(小テスト)	0 %	実施せず。
その他	20 %	出席は重視し、さらに発表や発言等の参加の度合いも考慮する。

*具体的な知識については定期試験として実施する。自らの考えを述べてもらう必要がある課題についてはレポートを適時作成し提出を求める。その他、出席状況、受講態度も配慮し、総合評価を行う。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義	
保健医療福祉について概説する。講師の実践体験もおりこみながら知識だけではなく現場の福祉実践についても紹介する。	固有性、価値・倫理・原理・原則・理論・技法の総体としての基本概念
保健医療福祉の歴史を学ぶ。欧米中心。なぜ保健医療の場に福祉職が必要であるのかの理由について確認する。	医療の歴史と保健医療福祉の歴史の関係性、病院にソーシャルワークが必要な理由
保健医療福祉の歴史を学ぶ。日本中心。日本における特色と発展の歴史を学ぶ。	医療の歴史と保健医療福祉の歴史の関係性、病院にソーシャルワークが必要な理由
患者・家族の生活困難の実際と福祉実践を事例により学ぶ。	現在の医療現場の諸生活問題、ソーシャルワークの役割と機能
患者と家族の生活を理解する。ビデオを用いた学習。	病を得た人の心理と生活、その家族の心理と生活、サポートの必要性
患者と家族の生活を理解する。ビデオを用いた学習。	病を得た人の心理と生活、その家族の心理と生活、サポートの必要性
保健医療福祉政策の現状と課題その1	現代の医療制度
保健医療福祉政策の現状と課題その2	疾病と傷病にかかわる社会保障と社会資源
保健医療ソーシャルワークの展開過程	依頼受理、アセスメント、援助活動、評価、終結
小児医療ソーシャルワーク	児童虐待とソーシャルワーク、難病児とソーシャルワーク、新生児医療とソーシャルワーク
腎疾患とソーシャルワーク	透析医療とソーシャルワーク、移植医療とソーシャルワーク
高齢者医療とソーシャルワーク	退院援助
緩和医療とソーシャルワーク	ターミナル期とソーシャルワーク
まとめ	

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
保健医療ソーシャルワーク実践1～3	(社)日本社会福祉士会・(社)日本医療社会事業協会編/中央法規/4-8058-2422-0,4-8058-2423-9,4-8058-2424-7
保健医療ソーシャルワーク原論(改訂版)	(社)日本医療社会事業協会編/相川書房/4-7501-0311-x
医療福祉概論	佐藤俊一・竹内一夫編著/川島書店/4-7610-0698-6

医療におけるソーシャルワークの展開

杉本照子監修 / 相川書房 / 4-7501-0284-9

医療ソーシャルワーク

杉本敏夫監修 / 久美株式会社 / 4-907757-24-7

テキストは特に指定しないが上記の本を適時参考図書として使用する。必要に応じ、講義中に資料、レジメの配布を行なう。参考文献にて理解が不十分なところは補うことが望ましい。適時参照ページ等を指示するので、図書館や購入する等して書物を手に入れて読み込むことが望ましい。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
「新 医療福祉論」	大野勇夫著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-02961-1
「日本の医療ソーシャルワーク史」	50周年記念誌編集委員会編集 / (社)日本医療社会事業協会発行 / 4-7610-0781-8
医療ソーシャルワークの挑戦 イギリス保健関連ソーシャルワークの100年	児島美都子・中村永司監訳 / 中央法規 / 4-8058-1787-9
「現代医療社会福祉論」	「現代医療社会福祉論」 / 学文社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.jaswhs.or.jp/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松島 京

講義内容・テーマ

JAMIESON, L., 1998,
 Intimacy: Personal Relationships in Modern Societies
 を講読する。

私たちにとって、他者との親密な関係は、生活上重要なものであると考えられている。そもそも他者との「親密な関係」とはどのようなものであるのか。テキストの内容を理解するとともに、他者との関係・親密性ということについて、社会学的に考察していく。

受講生によるテキストの翻訳を中心に進める。テーマについて議論することにより内容の理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるので「テキストを読む」「翻訳をする」という自主学習が必要になる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席および、翻訳内容・発言内容

* 日常点評価

試験は行わない。日常点(出席、翻訳内容、発言内容)で評価する。講義のスタイル上、出席および自主学習内容が評価の基本となる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
2回目以降の進め方については受講生と協議をする。基本は輪読形式である。	

テキスト

テキストについてはプリントし配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
親密性の変容 近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム	A.ギデンズ(松尾精文・松川昭子訳) / 而立書房 /
セクシャル・ストーリーの時代 語りのポリティクス	K.プラマー(桜井厚、好井裕明、小林多寿子訳) / 新曜社 /

事前に上記の参考書を読んでおくことをすすめる。また、必要なものについては適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 西田 心平

講義内容・テーマ

政治・経済・文化などのあらゆる局面で、グローバル化が進行しつつあるといわれている。「脱国家化」「脱領土化」などと一般的には訳されるが、いったいローカルな場面において、それはどのような状況として現れているのだろうか。おそらくその本質は、都市の移民労働者や貧困地域の変容において最も顕在化して現れていると思われる。本講義では「グローバル化と社会的不平等」をテーマとして、マクロな視点を学びつつミクロな場面に生じる社会問題の理解をめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

英語文献を翻訳するというだけでなく、労働問題や貧困問題など社会問題への関心を持っていることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

授業の流れに応じて簡単なレポートを課す場合もある。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
2回目以降からは文献を輪読していくことを基本作業とする。	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Globalization and its discontents	Saskia Sassen / New Press /
Urban poverty and the underclass	Mingione Enzo / Blackwell /

翻訳する部分についてはコピーして配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『都市の変異』	浅田彰ほか / NTT出版 /
『グローバリゼーションの時代』	サスキア・サッセン / 平凡社 /
『労働と資本の国際移動』	サスキア・サッセン / 岩波書店 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 森重 拓三

講義内容・テーマ

「抽象的な社会学理論」は「具体的な社会現象」を考察するのにどのように役立つのか、逆に「具体的な社会現象」は「抽象的な社会学理論」の構築に対してどのように有効であるのか。社会学理論と社会現象を相互に突き合わせて考察を進める」という、理論と現象の相互関係に注目したR.K.マーソンの社会学研究の方法(中範囲の理論)を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

日常点を重視するが、内容整理のためのレポートを期末に課す予定。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

The Bearing of Sociological Theory on Empirical Research (p.139) から始める

Methodology(p.140)

General Sociological Orientations(p.141)

Analysis of Sociological Concepts(p.143)

Post Factum Sociological Interpretations(p.147)

Empirical Generalizations in Sociology(p.149)

Sociological Theory(p.150)

Formal Derivations and Codification(p.153)

まとめ

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
“ Social Theory and Social Structure ”	R.K.Merton / Free Press,1968 /

初回の授業で配布。

参考書

授業で指示

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

内容理解を中心に輪読形式で進める。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

コリンズの著書(Sociological Insight)を読み解きながら、「なぜ人々は道徳的感情をもつのか」、「なぜ神は社会の象徴なのか」といった社会学的理解を獲得していただきたい。そのような社会学的理解の中にじつのところ「性愛的所有とはいかなるものか」という問いへの答えが秘められているのだが、詳しくは講義の中で解説していくことにする。本講義におけるテーマは、宗教・道徳・性愛である。

なお本講義では英文をきちんと日本語に翻訳することではなくコリンズ著Sociological Insightの内容の理解に力点を置くので、予習のみではなく、参考書などの文献を当たることが必要である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基本科目を履修していることが望まれる。

学生には順次、文献理解を発表してもらい、その発表に対して私が解説を加えるといったスタイルで講義を進める。(予習は不可欠である。)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

講義を行う

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

文献購読・発表・解説

まとめ

テキスト

Randall Collins, Sociological Insight: An Introduction to Non-Obvious Sociology, Oxford University Press だが、私の方でコピーは用意する。

参考書

メアリー・ダグラス『象徴としての身体 コスモロジーの探求』紀伊国屋書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 市井 吉興

講義内容・テーマ

Z.BaumanとK.Testerとの対談集(Conversations with Zygmunt Bauman)からIndividualization and Consumer Societyという対談を用いて、現代消費社会における「個人化」の問題をZ.パウマンの諸議論、ならびに関連領域との理論的交流を通じて考察する。なお、講義のペースは、TesterからBaumanに対してなされた12の質問に対するBaumanの回答を1つずつ検証していくこととする(講義スケジュール参照)。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、きれいな翻訳を行うのではなく、内容理解と議論に重点を置く。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	講義での議論をもとに現代社会を分析する。
日常点(小テスト)	60 %	5回以上の欠席は、評価の対象とならない。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

Z.パウマンの紹介

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

Individualization and Consumer Society

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Conversations with Zygmunt Bauman	Z.Bauman&K.Tester / Polity /

テキストは購入する必要なし。使用する部分を講義で配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
立法者と解釈者	Z.パウマン / 昭和堂 /
リッキド・モダニティ	Z.パウマン / 大月書店 /
再帰的近代	A.ギデンズ、U.ベック、S.ラッシュュ / 而立書房 /
「近代」: 未完のプロジェクト	J.ハバース / 岩波書店 /
自由からの逃走	E.フロム / 創元社 /

講義ごとに改めて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 吉田 幸治

講義内容・テーマ

本講義では、社会学を学ぶ上での入門書的なテキストであるRandall CollinsのSociological Insight(『社会学的洞察力』)を講読し、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係といった社会の基本的なあり方を把握する上で重要なトピックの考察を通して、社会学を学ぶ上での基礎的な知識や発想について理解を深めることを目的としている。本講義ではその第1章と第2章を受講者全員で輪読することにより、テキスト内で議論されている内容を正確に訳出できる技量の獲得を目指しながら、そこで知りえた知見をもとに活発な議論を行いたいと考えている。なおテキスト中で言及されている、ウェーバーやデュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進める。その進め方については、第一回講義時に受講生と協議を行うが、原則的には輪読形式で行うことを予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくれることが求められる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
輪読	以下、毎回翻訳担当を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜解説や議論を行う。
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
輪読	
講義総括	

テキスト	書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Sociological Insight	Randall Collins / Oxford University Press /

上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する予定である。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

参考書	書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	社会学への招待	P.L.バーガー著 水野節夫他訳 / 新思索社 / 4783511780
	社会学のあゆみ	新睦人他著 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641088578
	ウェーバー プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	安藤英治編 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641087369
	現代社会学講義	佐藤慶幸著 / 有斐閣(有斐閣ブックス) / 4641086281

上記以外の参考書については、講義時に適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小山 帥人

講義内容・テーマ

今日の社会で映像メディアの持つ力はますます大きくなっている。映像を操作することで真実をゆがめ、社会を自分の都合のいいように誘導しようとする動きも絶えることがない。講義では映像と社会の関係を歴史的に考察し、映像がどのように社会に影響を与えたかを中心に、その相互関係を追跡する。そして市民が映像を読み解く力をつけ、映像発信の主体になる新しいメディアのありかたを追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃から映画、テレビのニュース映像やドキュメンタリーなどを分析的に見て、制作者の意図を把握する力を養うことが望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	自己の主張を明確に書くように努めてください。
日常点 (小テスト)	40 %	時折、授業中に映像に関する、小レポートを課します。

* 日常点評価:授業における態度、発表の内容を重視する。そして適宜、小レポートを課し、評価の対象とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
映像の進化	残像現象を利用した動画の発展をたどる
映画の誕生1 (アメリカ)	エジソンのグループによる動画の追求
映画の誕生2 (フランス)	リュミエール兄弟のシネマトグラフ
ドキュメンタリー	ロバート・フラハティの初期ドキュメンタリー
放送の誕生	ラジオの誕生とテレビ時代
テレビドキュメンタリー	「日本の素顔」が描いた日本
パブリック・アクセス1 (アメリカ)	市民が制作する映像のはじまり
パブリック・アクセス2 (ヨーロッパ)	市民テレビやオープンチャンネル
市民の映像発信 韓国と日本	改革された韓国の放送と日本の動き
戦争と映像	戦争と映像の関わりを歴史的にとらえる
映像と人権	人権保護の立場から映像を考える
映像の倫理	映像を制作する場合の倫理を考える
災害と映像	災害による被害の防止のための映像の役割について考える
マイノリティと映像	マイノリティに必要な映像メディアを考える

テキスト

なし。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫・平塚千尋 / 世界思想社 / 4 - 7907 - 0954 - X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

映像メディア分析 S

14624

メディア・リテラシー論 S

メディア・リテラシー論 G

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

テレビを中心とする映像メディアの分析をとおしてメディア・リテラシーについて、また、その取り組みのグローバルな展開について、理論研究と実践的研究の両面から学ぶ。とくに本科目では、テレビのジャーナリズム機能に焦点をあて、時々々のメディア報道をとりあげつつ、それらを市民の視座から社会・政治・経済・文化の文脈で分析する方法を学ぶ。さらに、市民が創るオルターナティブ・メディアの可能性を考え、人間がメディアの能動的な「読み手」へ、創造的に発言する市民へと、主体性を確立していくプロセスを自らの経験として理解する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア・ログ(メディア分析レポート)の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	メディアログ(メディア分析レポート)2本(授業の前半で1本、最終回までに1本)
日常点(小テスト)	40 %	授業への出席・グループ活動などへの参加の度合い

* 日常点評価

授業への出席・グループ活動などへの参加の度合い(40%)と授業中に課すメディアログの内容(30%×2本=60%)による。筆記式の定期試験や最終授業試験は行わない。個人で提出するメディアログは、授業の進行に沿って随時だす課題から各自が選んで執筆し、少なくとも前半に1本、後半に1本の計2本を、課題が出る翌週に提出する。メディアログの書き方:A4でヨコ書き、ワープロ入力、枚数は自由

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
Introduction / メディア社会と映像ジャーナリズム: 授業の構想、評価方法、教科書・参考書、など / メディアの社会的機能 / 時代の要請としてのメディア・リテラシー / ショートエッセイ	メディア社会、映像ジャーナリズム
理論と実践の統合をめざすメディア・リテラシー研究: パラダイムの移行 / 規範理論の系譜 / メディア・リテラシー研究の展開とグローバルな実践 / 目標、基本概念、メディア研究モデル、学びのスタイル	メディア・リテラシー
TVニュースが構成する「現実」(representation) / [リプレゼンテーション]概念の変容について / メディア分析1 - 1: TVニュースはどう構成されているか	リプレゼンテーション
TVニュースが構成する「現実」と映像言語: メディア分析1 - 2 / メディアログ課題1	映像言語
ジャーナリズムとしてのテレビと価値観・イデオロギー / メディア分析2 / メディアログ課題2	価値観、イデオロギー
戦争とメディア: 9.11をめぐって(1): ニュースソース(情報源) / ニュースバリュー / ジャーナリストの役割 / メディア分析3: 危機的状況におけるジャーナリストの役割 / メディアログ課題3	ニュースバリュー
戦争とメディア: 9.11をめぐって(2): 表現の自由をめぐる3局構造: 国家権力、メディア、市民 / メディアの表現の自由と社会的責任 / メディア分析4: メディア・戦争・検閲	表現の自由、検閲、市民
戦争とメディア: 9.11をめぐって(3): メディア分析4(つづき) / メディアの議題設定機能 / 誰のためのニュースか / メディアログ課題4(ここまで必ず1本を提出のこと)	アジェンダ・セッティング
報道と人権・オーディエンス(1): 「報道と人権」をめぐる1995年以降の動き / メディア分析5 - 1: オーディエンスをどう捉えているか	報道と人権、オーディエンス
報道と人権・オーディエンス(2): 制度としてのメディア: 各国にみる報道被害者の申し立て審議制度 / メディア分析5 - 2: 報道と人権・オーディエンスをどう捉えているか(2) / メディアログ課題5	制度としてのメディア
オルターナティブ・メディアを考える - ダブルスタンダードに挑戦するマイケル・ムーア - / メディア分析6: ビデオ・アクティビストによるドキュメンタリー / メディアログ課題6	オルターナティブ・メディア、ビデオ・アクティビスト

地球市民とオルターナティブ・メディア情報多元化へむけて:メディア・デモクラシーをめざす市民の多様な活動/メディア分析8:アルジャジーラTVとは何か/メディアログ課題7	地球市民、メディア・デモクラシー
地球市民とメディア、メディア・リテラシー:コミュニケーションする権利と「市民社会宣言」/IMC制作の「9.11」/メディア分析9:オルターナティブ・メディアを読む/メディアログ課題8	コミュニケーションする権利、WSIS、IMC
全体的なまとめ/メディアログ8提出日	アクティブ・コミュニケーター

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
『メディア・リテラシーの現在と未来』	鈴木みどり編/世界思想社/4-7907-0896-9
『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』	鈴木みどり編/世界思想社/4-7907-0653-2

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『新版メディア・コミュニケーション論』	竹内郁郎他編/北樹出版/
『新版Study Guideメディア・リテラシー[入門編]』	鈴木みどり編/リベルタ出版/4-947637-59-5

他については、参考文献リストを配布し、授業の進行に沿って随時このリストから紹介する。受講生には書籍を多く読むことを期待する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

メディア・リテラシーの世界(Media Literacy Project in Japan) <http://www.mlpj.org/>

Media Awareness Network (Mnet) <http://screen.com/mnet/eng/>

その他

メディア・リテラシー論(メディア・リテラシー論)を受講していることが望ましい。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて楽しく学んでいきたい。福祉、環境、人権等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが「いわゆる」専門家ではない)地域の市民 既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2-3回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、教員が後期に担当している「国際ボランティア論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

下記の行為をする受講生は「D」評価としている。

他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	25 %	論述式
レポート	25 %	中間レポート(必須)
日常点(小テスト)	50 %	出席および授業の理解力・表現力、講義中の発言の積極性など

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ガイダンス(本講義の趣旨、達成目標、成績評価方法)	
NPO・NGOとは何か 阪神大震災におけるボランティア活動を事例にして	
NPO・NGOとは何か 震災後の復興活動を事例にして	
地域社会の変動とNPO 施設福祉から地域福祉へ	
地域社会の変動とNPO 宅老所・グループホームの台頭	
地球環境保全におけるNGOの役割 地球温暖化問題への取り組みから	
NPOの組織構造 NPOの人材とその課題	
NPOの先駆性 アメリカの事例から	
NPOの先駆性 アメリカのホームレス支援の取り組みから	
NPOの制度化 NPO法案をめくって	
NPOの制度化 介護保険法案との関連で	
NPOと行政 パートナーシップの事例から	
NPOと企業 社会貢献活動をめくって	
テスト	

テキスト

特に使用しない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
NPO基礎講座	山岡 義典 / ぎょうせい /

講義時間中にも適時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

担当教員のHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/~akiba/>

その他

NPOを理解することで、これから起こる社会の潮流を自分なりに予測できるようになるかもしれません。その点で、社会人になった時、大いに役立つスキルを習得できるかもしれません。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 池内 靖子

講義内容・テーマ

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。俳優やパフォーマーを招待し、演劇やパフォーマンス空間、身体というテキスト、観客のまなざしなどについてワークショップを行う。京都の劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークも行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

演劇に関する広い興味、関心を持ち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

試験に代わるレポート50 %
試験に代わるレポートとして実施。個人の課題として、自由に設定したテーマについて書き提出する(試験に変わる最終的なレポート)。

日常点評価50 %
グループ・ディスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。一つのレポート課題として、各グループで、劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークを行う。そのフィールドワークについてグループ・プレゼンテーションを行い、レポートを提出する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
都市・地域と劇場	シアター・オリムピックス
近代演劇と女優の誕生	国民国家と演劇
宝塚歌劇	大衆演劇 男役と娘役
異性装 / 越境について	女優シリーズ オリジナルとコピー
セクシュアリティ / ジェンダーの脱構築	
アイデンティティ・ポリティクス	ダムタイプ
アート・アクティヴィズム / 言説と身体	
ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュ、コリオグラフィー
パフォーマンス・アート / 言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテキスト
60～70年代のアングラ小劇場運動	土方巽、舞踏、寺山修司、天井棧敷
80年代～90年代の演劇シーン	消費文化・情報化社会
招待アーティストの演劇とワークショップ	
グループ・プレゼンテーション!	
グループ・プレゼンテーション	

テキスト

指定しない。授業で参考文献を提示するので、それを読むこと。

参考書

さまざまな演劇論、演出論を参考文献として授業で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 鈴江 俊郎

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ Course Description, Focus and Goal 演劇作品を創作する上では、演出家の作業は大変重要なものである。観客には俳優の演技、音響・照明のかもしれない演出、舞台美術による視覚的な刺激が印象深く残るものだが、その総合的な設計、調整を行う演出家は作品に対して全責任を負っている。演出する側にとって必要な素養は単なる演劇上の技巧ではなく、社会に対する批評眼、政治に対する問題意識、人に対する強烈な関心、追体験と実体験を含む人生における体験、なにより現場の創作者集団を率いていくリーダーシップ、人格など多岐にわたる。小劇場、アングラ演劇などの現代演劇作品を中心とする様々な演劇作品の演出を論じる中で、現代社会に生きる人間の思考、思想、感覚を問うていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	40 %	
日常点(小テスト)	10 %	

* 定期試験として実施 * 日常点評価 前期の間に一つか二つ、実際に劇場に観劇に行き、それについてレポートを書いてもらいます。商業演劇、宝塚、ミュージカルは対象にしません。

講義スケジュール内容キーワード

導入

劇場の違い、野外劇、テント、小劇場、四方客席、中劇場、大劇場の質的な違いについて。

芝居を見に行き、感じたことをグループごとにまとめ、語り合おう。

精神分析との関連。

演技論の違い(スタニスラフスキーシステム、ルコックシステムなど)

若者が小劇場演劇をやる、というメンタリティー。

プロデュース体制の違い。「劇団」徒党を組むことの意義。

裏方(舞台美術、照明、小道具、人形)のことごと

様々な演劇作法の違い(アングラ、新劇、つかこうへい、野田秀樹、平田オリザなど)

演出家によって技巧は百人百様。(音響、役者は前を向くべきか、声量、照明・音響・舞台美術への要求、アクションいっぱい、役者の内面をどこまで重視するか、台詞をどこまで重視するか)

リアリティーとはなにか。

自分のための表現。客のための表現。

芝居を見に行き、感じたことをグループごとにまとめ、語り合おう。

演劇は必要か？表現行為はなんのためにあるのか？

試験

テキスト書名著者 / 出版社 / ISBNコード

メソード演技

エドワード・D・イースティ / 構想社 / 構想社 (ISBN:4-87574-501-X)

参考書書名著者 / 出版社 / ISBNコード

演劇雑誌「LEAF」1 - 12号

/ LEAF編集部 発行。編集長 鈴江俊郎 /

靴のかかとの月 鈴江俊郎戯曲集

/ 而立書房発行 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

本講義では、エンターテインメント産業の一つとして映画産業をとりあげ、ハリウッド映画を中心にしたアメリカ映画と日本映画について学ぶ。主に、映画産業の発展の歴史を踏まえながら、経済的社会的側面から見た映画産業の状況と課題を整理していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

映画が見られる講義ではないので、安易に登録しても単位取得が難しいだけである。登録の際、よく検討してほしい。原則として30分以上の遅刻は、入室を認めない。私語など、受講態度のよくない者については学生番号と名前の提示を求め、評価に反映させる。悪質な場合は退室してもらい、今後の受講を認めない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	中間レポート(30%)と期末レポート(40%)
日常点(小テスト)	30 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

受講エッセイと中間レポートを提出していない者は、期末レポートの評価の対象としない。ただし、受講生の人数を確認後、以上のことに変更が生じることもあるが、そのときは授業中に追って知らせる。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
アメリカ映画産業小史1	パテント ハリウッド
アメリカ映画産業小史2	同意判決 ネオ・ハリウッド
アメリカの映画産業 1)ハリウッドとスタジオ・システム	スター・システム
アメリカの映画産業 2)映画ビジネス	プレイヤー コンテンツ
アメリカの映画産業 3)映画製作の流れと契約	プロデューサー・システム
アメリカの映画産業 4)資金調達から分配までの流れ	リスクヘッジ
アメリカの映画産業 5)映画館ビジネス	マルチプレックス
アメリカの映画産業 6)デジタルエコノミーの動き	ハリウッド・ノース
日本映画産業小史1	日本映画黄金時代
日本映画産業小史2	斜陽産業
日本の映画産業 1)統計で見る日本映画	興行収入 配給収入
日本の映画産業 2)資金調達から分配までの流れ	製作委員会
日本の映画産業 3)日本のアニメの海外進出	コンテンツ・ビジネス
日本の映画産業 4)日本映画の課題と将来	映画振興政策

テキスト

特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『ハリウッド・ビジネス』	ミドリ・モール/文春新書/
『ハリウッドはなぜ強いのか』	赤木昭夫/ちくま新書/
『日本映画産業前線』	村上世彰・小川典文/角川書店/
『踊るコンテンツ・ビジネスの未来』	畠山けんじ/小学館/

他は授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

アメリカ映画協会 <http://www.mpa.org/>
(社)日本映画製作者連盟 <http://www.eiren.org/>
文化庁 <http://www.bunka.go.jp/>

経済産業省 <http://www.meti.go.jp/>

その他

海外インターンシップ(専門) GB
 特殊講義(基礎) (インターンシップ) GB
 海外インターンシップ GB
 特殊講義(基礎)1(インターンシップ) GB

14286

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
 担当教員 近藤 清

講義内容・テーマ

本科目は、インターンシップオフィスで募集する「立命館大学全学インターンシップ・プログラム」であり、全学の学部学生(2回生～4回生)を対象に単位認定をおこなっている。このプログラムで単位認定を受けるためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い(登録料を納入)、インターンシップオフィスが実施する「事前・事後研修」をすべて受講すること。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末～4月に実施するガイダンスで発表予定。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)を受講するのが望ましい。また「全学インターンシッププログラム」で学習した内容を一段と深めるために、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	20 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する
日常点(小テスト)	70 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する
その他	10 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する

評価は、事前事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)を総合的に判定し行います。中でも、出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん、遅刻は厳禁です。

講義スケジュール

内容	キーワード
事前研修	
事前研修	
インターンシップ研修(夏季休暇期間中に実施されるものを基本とする)	
事後研修	

テキスト

特に指定なし

参考書

特に指定なし。必要に応じて適宜指示する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特に指定なし。必要に応じて適宜指示する

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 沖野 良枝

講義内容・テーマ

どのような状態になろうとも、人は最後まで誇りと自尊心、自律の精神を持ち続けたいと切望するものです。病気や障害を抱え、老年期に達し多くのものを喪失されてきた介護を必要とする人々に対して、望みを絶つこと無く、喪失に耐えられる程の喜び、安らぎを提供できる介護のあり方を探っていきたいと考えています。学生の皆さんには、講義を通して人の苦しさや痛み、哀しみや寂しさを理解する以上に人の喜びや安らぎ、希望に共感できるような感性を養って戴きたいと思います。講義は、人を援助するための基本的な考え方や実践の「方向性」を焦点に進めていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

介護は、社会福祉の専門性としてはまだ歴史の浅い領域です。医療や看護、家政学とは境界不明瞭な部分も多く、現在、介護のアイデンティティは確立途上にあると言えます。さらに、その現状や対策は流動的な状況にあります。講義では、専門知識や情報、技術の学習に留まることなく幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場に立って戴くことを希望します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	受験は、原則として授業の6割以上の出席を条件とする。試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況进行评估する。
その他	20 %	テーマによっては、グループワークを行う。評価は、ワークへの参加、討議の視点、内容により行う。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1. 介護の理解 1) 介護の概念と歴史 2) 今日の介護問題とその背景	介護の概念、介護の原則、歴史、介護問題、介護問題の背景
2. 介護対象者の理解 1) 人・対象者にとっての生活 2) 人・対象者にとっての健康	介護対象者、生活、家族、地域、健康観、健康の意味
3) 人・対象者にとっての自律/自立 4) 援助の目標としてのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)	自律、自立、援助目標、QOLの意味
3. 介護のしくみ 1) 介護に関する制度、政策 2) 介護の場	介護のしくみ、介護の制度、介護政策、介護の場、施設、家庭
3) 保健・医療・福祉の連携 4) 介護を担う人と役割 5) 専門職の義務と責任	保健・医療・福祉、連携、介護者、介護者の役割、専門職、専門職の責務
4. 介護のスキル 1) 介護(問題解決)過程 ケアマネジメントの方法	介護のスキル、介護過程、問題解決技法 ケアマネジメント、展開方法
2) 介護(援助)技術 観察 援助関係の形成	介護技術、観察の必要性、観察内容、観察の方法 援助関係、コミュニケーション、カウンセリングマインド
ADL(日常生活)援助	日常生活援助の目的、ADLの内容、援助の基本
3) 主な領域と介護 寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの予防、介護の方法
認知症高齢者と介護	認知症、介護の関わり
終末期と死の捉え方	終末期と死、死の捉え方、尊厳死の問題
4) 安全管理と対策 5. 介護における倫理	安全の重要性、事故予防、感染予防、介護倫理、プライバシーの保護、守秘義務、インフォームド・コンセント、意思決定

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新版社会福祉士要請講座14 介護概論	福祉士要請講座編集委員会 / 中央法規出版株式会社 / 4-8058-2044-6

参考書

適宜、紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要時、紹介します。

その他

外国語文献研究 S
中国語文献研究 S

12710

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 甘 琳樺

講義内容・テーマ

このクラスでは、時事中国語テキスト『中文新世紀』を使用し、特に中国語を「読む」能力の養成をめざします。著しい経済成長を成し遂げた中国では、人々の生活が激変し、言葉も大きく変わろうとしています。辞書に載っていない新語も多くまわっていますが、テキストには、それらの新語も分かりやすく紹介されています。激変する中国社会を理解するとともに、読解力を高め、テキスト終了後は、中国語の新聞を読みたいと考えています。2回の授業で1課のペースで学習します。正しい発音で朗読し、難読語句について辞書をひき、ノートに書きとめ、文章の大意をつかんで授業に臨むことを求めます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中国語または中国の文化や歴史、政治、社会などに関心を持っている学生ならだれでも受講できます。積極的な態度で授業に臨んでください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	40 %	
日常点 (小テスト)	60 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
<p>総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。</p> <p>講義のスケジュールとしては、2回の授業で1課のペースで(1つのテーマ)授業を進めていきます。教科書の第八課まで進む予定をしています。</p>	

テキスト

王曙光『中文新世紀 時事中国語中級テキスト』(白帝社)

参考書

日中、中日辞書を持参すること。
ノートを用意すること。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

出席を重視する。

外国語文献研究 S
中国語文献研究 S

14567

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 甘 琳樺

講義内容・テーマ

このクラスでは、時事中国語テキスト『中文新世紀』を使用し、特に中国語を「読む」能力の養成をめざします。著しい経済成長を成し遂げた中国では、人々の生活が激変し、言葉も大きく変わろうとしています。辞書に載っていない新語も多くまわっていますが、テキストには、それらの新語も分かりやすく紹介されています。激変する中国社会を理解するとともに、読解力を高め、テキスト終了後は、中国語の新聞を読みたいと考えています。2回の授業で1課のペースで学習します。正しい発音で朗読し、難読語句について辞書をひき、ノートに書きとめ、文章の大意をつかんで授業に臨むことを求めます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中国語または中国の文化や歴史、政治、社会などに関心を持っている学生ならだれでも受講できます。積極的な態度で授業に臨んでください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	40 %	
日常点 (小テスト)	60 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
<p>総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。</p> <p>講義のスケジュールとしては、2回の授業で1課のペースで(1つのテーマ)授業を進めていきます。教科書の第八課まで進む予定をしています。</p>	

テキスト

王曙光『中文新世紀 時事中国語中級テキスト』(白帝社)

参考書

日中、中日辞書を持参すること。
ノートを用意すること。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

出席を重視する。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

現代という時代や社会は人々の心にどのような問題をもたらしているのか？「癒し」「心の時代」「心の教育」「心の商品化」「心の専門家」「臨床心理士」「カウンセリング」などの言葉が氾濫しているなかで、「心の問題」をどのようにとらえればいいのか？カウンセリングは「心の問題」をどうとらえ、どのようにアプローチするのか？現代社会における心理臨床やカウンセリングの意義、役割、その功罪は何かを考えると共に、主要なカウンセリングの理論や方法についても紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

たんに、心やカウンセリングについての知識を得るのではなく、自分自身をくぐり抜けて、今日の社会や心の問題を真剣に考えてみようと思う人に受講してもらいたい。とりわけ、「平和」が脅かされている情勢の中で、「平和」と「心」の問題に関心をもってほしいひと、持ちたいひとの参加を歓迎する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	10 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

* 定期試験として実施

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
カウンセリングとはどういうものか	
カウンセラーの仕事はどんな仕事？	
カウンセリングの歴史	
今日の社会とカウンセリング(1)	
今日の社会とカウンセリング(2)	
「心の教育」をどう考えるか？	
カウンセリングの基本問題(1)	
カウンセリングの基本問題(2)	
カウンセリングの基本的態度とプロセス(1)	
カウンセリングの基本的態度とプロセス(2)	
クライアント中心療法	
認知療法	
交流分析	
精神分析	

テキスト

なし。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
心を商品化する社会	小沢牧子ら / 洋泉社 /
「こころ」はだれが壊すのか	滝川一広 / 洋泉社 /
生きることと自己肯定感	高垣忠一郎 / 新日本出版社 /
心の視点-カウングトレーニング	横湯園子・高垣忠一郎 / 青木書店 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 大久保 稔

講義内容・テーマ

科学や技術は、一見、生活から縁遠いように見えるが、先端の分野をのぞいては身近にあり、生活に溶け込んで社会の発展を支えている。しかもその研究と開発の過程は極めて人間くさいものであり、幾多のエピソードに包まれている。現代の科学と技術は政治や経済が停滞するなかで、急速に進歩しつつあるが、ともするとミスマッチもおこしやすい。本講では科学技術と人との密接な相関、相互作用について述べる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1 専門的な科学技術分野の話はしない。哲学、科学、技術、経営などをまじえて歴史的発展と現状について述べる。
- 2 講義の前に小話や質問、意見などにたいするコメントを約10分間はなす。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	基準 理解度とオリジナリティを柱とする。
その他	40 %	出席率を重視する。出席回数の少ない者は単位取得資格を自ら放棄したものとみなす。

「試験に代わるレポート」の出題によっておこなう。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
科学と技術の軌跡	科学と技術の違い、接近
技術のみなもと	技術の先行、みなもとは労働
科学のあけぼの	科学は宗教、哲学からはじまる
古代インドの科学思想	「空」の現代的意味
古代中国の科学思想	陰陽5行説
我が国での展開	和魂漢才から和魂洋才へ
我が国での開拓者	明治の技術系創業者
現代科学技術の特徴	対象分野の広がり、傾向、弱点
科学主導型技術	「科学技術」と呼ばれるゆえん
先人の苦闘と成果	科学も技術も人間くさい
身近な科学技術	どこにでもある科学技術
労働の変化	強まる知的労働、省労働
安全のモラル	企業のマイナス面
科学技術の功罪	功も罪も大きい

テキスト

テキストは使わない。図、表で要点をまとめたプリントを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
科学技術史概論	鈴木善次・馬場政孝 / 建帛社 /
図解 科学・技術の歴史(上、下)	平田 寛 / 朝倉書店 /
人類と機械の歴史	リリー (訳:伊藤、他) / 岩波書店 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

今日、社会構造の急激な変化に伴い、さまざまな家族問題が出現している。育児不安、児童虐待、家庭内暴力、夫婦、親子の断絶の危機等、家族の崩壊へもつながりかねない不安定要素が増大し、あらためて家族のあり方が問われている。そこで、家族がお互いの人格を尊重しあい、独自の存在として生きることを妨げる要因及び家族福祉の課題を探りながら、これからの家族について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマを設定して、レポートを書いてもらうことが多い。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	授業を通じて、どのような考え方、見方の変化が生じたのか知るための試験です。
レポート	20 %	数回のレポートを課します。
日常点(小テスト)	20 %	出席点を評価に加えます。

* 定期試験を実施。 定期試験(60%)、レポート、出席状況(40%)によって評価します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
現代家族の諸相－少子化、核家族化	子どもの価値の変化
現代家族の諸相－結婚観の変化、晩婚化	性別役割分業、専業主婦
母親一人の子育てと育児不安	子育て家族の孤立化、育児文化の衰退
3歳児神話の影響	ポウルビー、母性愛剥奪理論
父親の役割、育児参加	父性、育児休業
子どもを虐待する家族の特徴	世代間連鎖、子どもへの認知のゆがみ
子ども虐待と家族援助	親業訓練、子育て支援ネットワーク
思春期、青年期危機と親子関係その1	親の過支配、過干渉、「良い子」の苦しみ
思春期、青年期危機と親子関係その2	親からの自立、心理的離乳
機能不全家族の中の子ども	機能不全家族、アダルトチルドレン
ドメスティック・バイオレンスの中の子ども	家庭内暴力、シェルター
カナダにおける子どもの権利擁護と家族支援	アドボカシー、子ども家庭福祉
世界に学ぶ子育て支援、家族支援の方向	保育保障、経済支援、父親の育児参加
これからの家族のあり方	21世紀家族、性別役割分業の見直し

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	子育て支援の現在	櫻谷真理子他編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03643-xc 3336

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

家族論 N
現代家族論 N

11075

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 未来

講義内容・テーマ

テーマ:現代日本の家族生活をトータルに捉える

現代日本の家族生活におけるさまざまな問題状況を、「全体としての家族」という観点で捉える力を養うことを目的とする。具体的には、戦後の家族生活の変化動向を踏まえたうえで、さまざまな家族論が変化動向の諸特徴をどのように説明しているのかを考察する。そして今日提起されている家族論が、現代の家族生活における具体的現実をどのように反映させるかたちで論じられているかを「全体としての家族」の把握を通じて検討し、家族生活の将来を展望する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義はテキストに沿って進めるので、テキストを購入の上講義スケジュールを参照して事前に該当箇所を読んでおくこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	定期試験にかわるレポートとして実施
日常点 (小テスト)	40 %	各章が終わるごとに4回の小レポートを予定

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イントロダクション(1)本講義の概要

イントロダクション(2)家族をめぐるさまざまな見方

現代日本の家族生活の変化(1)

現代日本の家族生活の変化(2)

現代日本の家族生活の変化(3)

家族論の流れ(1)

家族論の流れ(2)

家族論の流れ(3)

現代日本における家族論1 - 家族社会学の視点から(1)

現代日本における家族論1 - 家族社会学の視点から(2)

現代日本における家族論2 - 新たな視点の取り入れ(1)

現代日本における家族論2 - 新たな視点の取り入れ(2)

家族生活の将来を展望する(1) - 「全体としての家族」とは

家族生活の将来を展望する(2) - 理論の必要

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『第二版現代日本家族論』	飯田哲也 / 学文社 / 4-7620-1039-1

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『第三版 家族と家庭-望ましい家庭を求めて-』	飯田哲也 / 学文社 / 4-7620-1175-4

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	柳澤 伸司				

講義内容・テーマ

活字メディアである新聞は最も古いメディア形式であり多様性に富んだ耐久性のあるメディアである。私たちは日常的に活字メディアの持つ権威(活字で表現されたもの)を疑うことなく接していることが多い。この科目ではメディアリテラシーのひとつとして新聞を分析対象として、その目的、方法、分析結果の読み方を学ぶ。主として新聞を中心に活字メディアのあり方について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者はグループに分かれて互いに協力しながら調査・分析作業ができることを前提に受講登録すること。毎回の授業時間だけ出席していれば済むという授業形態ではないので注意してほしい。受講者にとって互いに迷惑となる遅刻、無断欠席等は許されない。授業はグループ活動と並行して考察に必要な講義を行う。受講者はグループに分かれてテーマに基づき実際に新聞等をベースに文献などを活用しながら調べた内容を整理考察していく。グループで分析した結果を発表し、それについて討論する。最終的に、グループで考察・分析した内容を「新聞」という形式で表現し、グループの作成した「新聞」についての批評レポートを各自で提出してもらう。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	内容のオリジナリティなどの観点で評価。グループで作成した「新聞」と批評レポートで評価。
日常点(小テスト)	30 %	出席・参加の程度により評価。

参加型授業となるので、参加の度合いを平常点とし、最後にまとめを兼ねた批評レポート(各自が作成)とあわせて総合的に評価する。従って、出席と能動的参加は必須条件となる。無断欠席および遅刻は減点する。明確な理由が無く、3回連続して無断欠席した場合は最低点の評価とすることがある。総括的導入講義を除く初回およびグループ分けの第2回目の授業に出席しない人は受講意志なしとして判断するので注意してほしい。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ガイダンス(受講希望者は必ず出席のこと)分析の視点/グループ分け(登録)・作業の計画等授業の進め方について	
グループ調整(受講意志の確認と調整)グループ自身について考察。メンバー間で対象とするテーマについて利用可能なすべての知識・利点を話し合い、探究すること。	
作業グループ/テーマ確定 テーマ(問題意識)に対する自分自身の個人的な関係の追求。自分がそのテーマにどのように取り組めるかテーマに対するメンバー全員の知識を検討する。	
仮説設定 収集した知識や能力がどのようにテーマと関連しているか、グループが探究する問題(テーマ)に対して可能な解決法は何か。	
調査の開始 仮説を発展させるよりテーマを複眼的に捉える、グループの考えを他の人の考えや意見と比較してみる、欠落した情報がないかどうか見極める。	
調査と分析 分析によって課題の整理と分析内容に矛盾がないかどうか検討する。不足したデータがあればさらに収集する。	
調査と分析 分析によって課題の整理と分析内容に矛盾がないかどうか検討する。不足したデータがあればさらに収集する。	
調査と分析 分析によって課題の整理と分析内容に矛盾がないかどうか検討する。不足したデータがあればさらに収集する。	
論点整理 グループの主張としての提案を考察し、その考察が適切かどうかを検討する。	
論点整理 グループの主張としての提案を考察し、その考察が適切かどうかを検討する。	
新聞作成 新聞の形にレイアウトを組みかえる。A3用紙4ページを基本として作成する。可能な限り、その範囲にまともなよう工夫する。	
新聞作成 レイアウトの最終段階。手書きにするか、ワープロ印字したものを貼り付けるか、A3用紙に割り付け作成する。この週で完成させる。	
完成披露 完成した新聞をもとに各グループで報告する。分析の特徴、成果について報告する。	

批評会 完成した新聞を披露し、互いに批評しあう。講評レポートの作成・提出。

テキスト

新聞(一般紙:各自用意すること)、必要に応じて週刊誌など。適宜資料等を用意する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
開かれた新聞 新聞と読者のあいだで	毎日新聞社編/明石書店/
ニュース報道の言語論	玉木明/洋泉社/
新聞の読み方	岸本重陳/岩波ジュニア新書/
新聞記事が「わかる」技術	北村肇/講談社現代新書/

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~syt01970/> (新聞利用学習の研究を参照)

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 山口 正紀

講義内容・テーマ

敗戦から60年、多様化するメディアの中で、活字メディアのあり方が改めて問われている。有事法制が作られ、改憲が政治日程に上る中で、新聞をはじめとするメディアは、「権力チェック」機能を発揮しているのか。その一方、報道による人権侵害(報道被害)に対する市民の批判の高まりとともに、メディアに対する法規制も進行している。本講義では、30年間の新聞記者生活、「人権と報道・連絡会」世話人としての活動体験をもとに、「メディアと権力チェック」に焦点を当て、具体的な報道事例に基づいて、新聞を中心とした活字メディアの「過去・現在・未来」を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イラク戦争や日朝交渉、改憲の動き、戦争責任問題、報道被害、報道の自由をめぐる動きなど、日ごろから問題意識を研ぎ澄ましてメディアに接し、自分なりにテーマを持って受講してほしい。メディア・リテラシー、司法改革、戦後史などに関係する科目の履修が望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	講義内容を踏まえうえでの論理的・実証的論文かどうか

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

新聞の戦争責任(敗戦後の反省と天皇報道を中心に)

新聞の戦後史概論(安保、ベトナム戦争報道を中心に)

現代の戦争・外交と新聞報道 (「9・11」とイラク戦争)

現代の戦争・外交と新聞報道 (日朝国交交渉と拉致問題)

現代の戦争・外交と新聞報道 (有事法制と改憲論)

報道による人権侵害 (松本サリン事件、ロス疑惑など)

報道による人権侵害 (犯罪被害者、地域の報道被害)

報道による人権侵害 (少年、精神疾患患者、性差別報道)

報道被害の原因と構造(事件取材の実態、記者クラブ)

実名報道・匿名報道をめぐる論争

メディア責任制度と報道被害

報道の自由、メディア法規制をめぐる

新聞記者のあり方(権力チェックと批判精神)

メディアと市民(報道の受け手の課題など)

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
メディアが市民の敵になるーさようなら読売新聞	山口正紀 / 現代人文社 / 4-87798-222-1

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ニュースの虚構 メディアの真実ー現場で考えた90～99報道検証	山口 正紀 / 現代人文社 / 4-906531-89-X
新版 犯罪報道の犯罪	浅野健一 / 新風舎 / 4-7974-9392-5

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

人権と報道・連絡会 <http://www.jca.ax.apc.org/~jimopen/welcom.html>
同志社大学 浅野健一ゼミ <http://www1.doshisha.ac.jp/~kasano/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

各種技術の在り方は、今後の地球環境の変化の方向を定める最も重要な要素である。そして、その問題解決にむけては、工学的な知識や理論枠組みとともに、流通・経済構造から、生活スタイルにいたる社会システム全般を視野に入れた幅広い思考枠組みが求められる。その中でも特に電力生産技術(体系)は、今後の地球環境のあり方に大きく影響するものである。本講義では、地球環境に負荷をかける技術群について、上記の電力生産技術を中心に概説し、その技術的課題を整理したうえで、社会的な次元の解決策(工学的な課題について云々するのではない)について考察していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

同時に産業技術論を受講するとより理解が深まる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
日常点(小テスト)	10 %	

定期試験として Semester末に試験を実施するほか、数度講義中にレポートを課す。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
問題の全体構造 1) 地球環境と公	
問題の全体構造 2) 温暖化ガス削減のビジョン	
電力生産技術の問題 1) 概説	
電力生産技術の問題 2) 風力発電	
電力生産技術の問題 3) 太陽光発電	
電力生産技術の問題 4) 原子力発電	
電力生産技術の問題 5) コージェネレーション	
電力消費の問題 1) LCA(LCE)	
電力消費の問題 2) 省エネ	
製品開発の問題 1) 半導体	
製品開発の問題 2) リサイクルと製品寿命	
交通体系の問題 1) 公共交通インフラの課題	
交通体系の問題 2) 社会システムと交通の関係	
まとめ	

テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『新・地球環境論』	和田武 / 創元社 / ISBN4-422-40017-7
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン / 新評論 / ISBN4-7948-0559-4
『クルマ依存社会』	水谷、柴田、永井 / 実教出版 / ISBN4-407-02959-5 c1030

ほかにも随時紹介していきます。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

環境社会論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」 20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例に基づいて、21世紀に持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)の提出を求める。また、環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は6月の最後の講義)。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	100点満点の期末試験の成績の0.8倍
レポート	0 %	自主レポートの優れたものは評価点にプラスする
日常点(小テスト)	20 %	授業の際にときどき提出を求める小レポートを採点

* 定期試験として実施 期末試験に日常点(小レポート)を加味して評価。 評価の比重は、試験80%、日常点20%。なお、優れた「自主レポート」については、成績評価にプラスする。「自主レポート」は内容により+5~+20。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動	
大量生産消費システムがもたらす問題?資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染	
大量生産消費システムがもたらす問題?地球環境破壊	
持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方	
日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法	
日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度	
諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの包装廃棄物リサイクル	
諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の包装廃棄物リサイクル	
諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル	
エネルギー利用のあり方(1)日本のエネルギー利用	
エネルギー資源利用のあり方(2)デンマークとドイツのエネルギー対策	
エネルギー資源利用のあり方(3)持続可能なエネルギーシナリオ	
エネルギー資源利用のあり方(4)市民参加による再生可能エネルギー普及	
持続可能な社会の構築	

テキスト

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 /
ワールドウッチ研究所地球白書(各年度版)	C.フレイビン / 家の光協会 /
環境展望 (Vol.1-4)	日本科学者会議 / 実教出版 /
21世紀世界のリサイクル	ジェトロ・ワールドナウ / JETRO /

和田武『環境問題を学ぶひとのために』世界思想社、日本科学者会議『環境展望1999-2000』『環境展望 Vol.2』『環境展望 Vol.3』実教出版、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

環境省; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会; <http://www.jcpra.or.jp/> 環境go; <http://eco.goo.ne.jp/> 資源エネルギー庁; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構); <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、自然エネルギー市民の会; <http://www.bnet.jp/pare/>、など。

その他

「環境保全論」との重複受講は不可。自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎する。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

環境保全論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例に基づいて、21世紀に持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)を書き、提出を求める。また、環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は12月の最後講義)。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	100点満点の試験点数に0.8がけ
レポート	0 %	自主レポートを採点し、最大20点プラスする
日常点(小テスト)	20 %	数回の小レポートを20点満点で採点

* 定期試験を実施 定期試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点(小レポート)20%。なお、優れた「自主レポート」については、成績評価にプラスする。「自主レポート」は内容により+5~+20%。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動	
大量生産消費システムがもたらす問題?資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染	
大量生産消費システムがもたらす問題?地球環境破壊	
持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方	
日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法	
日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度	
諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの包装廃棄物リサイクル	
諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の包装廃棄物リサイクル	
諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル	
エネルギー利用のあり方(1)日本のエネルギー利用	
エネルギー利用のあり方(2)デンマークとドイツのエネルギー対策	
エネルギー利用のあり方(3)持続可能なエネルギーシナリオ	
エネルギー利用のあり方(4)市民参加による再生可能エネルギー普及	
まとめ:持続可能な社会の構築	

テキスト

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 /
地球白書(各年度版)	C.フレイビン / 家の光協会 /
環境展望 (Vol.1~4)	日本科学者会議 / 実教出版 /
21世紀世界のリサイクル	ジェトロ・ワールドナウ / JETRO /
地球温暖化を防止するエネルギー戦略	林、和田ほか / 実教出版 /

和田武『環境問題を学ぶひとのために』世界思想社、日本科学者会議公害環境問題研究委員会『環境展望1999-2000』『環境展望 Vol.2』『環境展望 Vol.3』実教出版、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

環境省;<http://www.env.go.jp/>、厚生労働省;<http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会;<http://www.jcpra.or.jp/>、環境go;<http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁;<http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構);<http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク;<http://www.jca.apc.org/kikonet/>、自然エネルギー市民の会;<http://www.bnet.jp/pare/>、など。

その他

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも、授業終了後に直接、質問するほうが理解しやすいと思う。なお、「環境社会論」との重複受講は不可のため、注意すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

環境問題を講義する切り口は様々にありうるが、本講では誰にも身近な水環境に焦点を当てて、山林・農地・海岸を結ぶ河川と湖沼・ダムを通じての砂防・洪水防止・水質保全の現状とあり方を、具体的な事例に即して検討してみたい。旧来の伝統的な仕組みからも祖先の英知を学びたい。ダムに関しては廃止を含む再検討の気運が、田中長野県知事などにより高まっているが、その意義と問題点を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員と受講生との自由で対等な関係をめざしたい。開講当初に期末レポートの出題と成績評価の基準案の提案をする。また下記の「授業の流れ」に示すように、ビデオや特別講義に関する感想・批判のアンケートの提出を求めるので、出席を心がけてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	原則として
日常点(小テスト)	30 %	原則として

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義概要に関連したテーマの中から自由に選択する期末レポートを主要対象、5回ほどの各種アンケートを副次的な対象とし、その基準は上記のように開講当初に提案し、受講生の合議で決めたい。開講近くなったの合議による決定は以前から実施していたが、受講生の希望を入れて今年度は開講当初に行うことにする。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
第2講 ビデオ上映『段々畑の歳月 - 太田部耕地の40年』、感想・質問アンケート	開講に当って - 教員と学生の対等な関係、学生の自由な批判と討論をいかに実現するか
第3講 ビデオ・アンケートへの回答 / 過疎問題を考える視角	
第4講 過疎対策 = 山村振興策の基本	
第5講 森林と木の文化 / 北山林業・磨き丸太生産の歴史と現状	
第6講 旧来の農家の半自給的な生活様式と個別複合経営の崩壊がもたらしたもの	
第7講 ビデオ上映(番組未定)、感想・質問アンケート	
第8講 ビデオ・アンケートへの回答 / 産直のあり方を考える	
第9講 現場の農民による特別講義(予定)	
第10講 食料農産物と肥料になる廃棄物の交換 - 都市と農村の根源的關係	
第11講 コメ文化と水田の多面的機能	
第12講 ビデオ上映『襟裳岬に春を呼べ - 砂漠を緑に 北の家族の半世紀』アンケート	
第13講 ビデオ・アンケートへの回答 / 各地の漁民と市民・子供たちによる森づくり	
第14講 西欧と対比しての日本型グリーン・ツーリズムの方向性と課題	
第15講 講義内容・講義方法に関する感想・批判アンケート、績評価基準案の協議・決定	

テキスト

特になし。必要な資料はその都度コピーを配布する。

参考書

参考文献の検索法をガイドする。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業に出ることも有意義だろうが、自分のオリジナルな問題意識を磨く旅を重ねてほしい。それこそが自由選択テーマでの優れたレポートを書くことを可能にするはずだ。

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 荒木 穂積、津止 正敏

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 神谷 雅子

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 柳澤 伸司、坂田 謙司

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 末延 吉正

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 柳澤 伸司、坂田 謙司

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生後期の受講になる。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

基礎社会学では出席を義務づけていて、毎回出席を取る。15回の授業の2/3以上の出席を求める。講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。つまり、出席点、レポート点、定期試験の3項目を総合評価して成績をつける。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
序章 社会学を学ぶにあたって	
第1章 行為と集団	
同上	
第2章 家族と両性関係	
同上	
第3章 地域と住民関係	
同上	
第4章 仕事と職場関係	
同上	
第5章 現代と若者文化	
同上	
第6章 現代社会(論)	
同上	
全体のまとめ	

テキスト

飯田哲也編著『基礎社会学講義』学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

参考書

参考書はその都度紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

基礎社会学は3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者を受講生との双方向のコミュニケーションを取るように工夫する。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生後期の受講になる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

基礎社会学では出席を義務づけていて、毎回出席を取る。15回の授業の2/3以上の出席を求める。講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。つまり、出席点、レポート点、定期試験の3項目を総合評価して成績をつける。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
序章 社会学を学ぶにあたって	
第1章 行為と集団	
同上	
第2章 家族と両性関係	
同上	
第3章 地域と住民関係	
同上	
第4章 仕事と職場関係	
同上	
第5章 現代と若者文化	
同上	
第6章 現代社会(論)	
同上	
全体のまとめ	

テキスト

飯田哲也編著『基礎社会学講義』学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

参考書

参考書はその都度紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

基礎社会学は3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者を受

講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生後期の受講になる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

基礎社会学では出席を義務づけていて、毎回出席を取る。15回の授業の2/3以上の出席を求める。講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。つまり、出席点、レポート点、定期試験の3項目を総合評価して成績をつける。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
2 序章 社会学を学ぶにあたって	
3 第1章 行為と集団	
4 同上	
5 第2章 家族と両性関係	
6 同上	
7 第3章 地域と住民関係	
8 同上	
9 第4章 仕事と職場関係	
10 同上	
11 第5章 現代と若者文化	
12 同上	
13 第6章 現代社会(論)	
14 同上	
15 全体のまとめ	

テキスト

飯田哲也編著『基礎社会学講義』学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

参考書

参考書はその都度紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

基礎社会学は3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者を受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。

特殊講義(キャリア形成論) GA
 キャリア形成論 LA
 ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論) GA
 キャリア形成特殊講義 SA

11552

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1~8
 担当教員 春日井 敏之

講義内容・テーマ

今日、立命館大学には多様な入試制度の下で多様な学生が入学しており、自己形成と人間関係、大学で学ぶ意味、自己実現と進路選択といった課題に対し、まじめに悩み戸惑いを抱えながら学生生活をスタートしている学生も少なくない。進路選択を自律的に進めるためには、在学中を通じての自己確立が極めて重要である。

この授業は、職業選択の前提としての自己認識や自己確立を促すために、教育、文学、歴史、哲学等人文科学の教学領域を素材に、自己の将来やキャリア、社会で生きること、働くことを結んで考えることをねらいとして開講している。

この授業を受けるためには、事前登録が必要なので、注意すること。なお、希望者多数の場合は抽選とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業の内容は、リレー講義の形式を取りながら、前半は人文科学の領域を中心に、発達、文学、哲学、歴史、国際社会等の視点から、人としてのあり方を考える内容で構成している。キャリア形成を「自己との対話」を進めながら、幅広い視点から生き方を考え合うことを目的としている。

後半は、現代の経済社会への考察を行いながら、ゲスト・スピーカーによる公開講座、多様な進路に挑戦している4回生によるパネルディスカッション、自分のライフコースの作成等を通して、多様な「社会につながる学び」のあり方を考察していく。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	毎回のコミュニケーションペーパーの提出、小レポート、出席状況

出席状況と毎回のコミュニケーションペーパーの提出、最終講義時の小レポートによる総合評価。

講義スケジュール

内容	キーワード
青年期の発達課題と大学生生活	春日井敏之(文学部)
青年期の発達課題と大学生生活	春日井敏之(文学部)
文学にみる人間像を通して自己の生き方を考える	瀧本和成(文学部)
文学にみる人間像を通して自己の生き方を考える	瀧本和成(文学部)
人格形成・モラル	北尾宏之(文学部)
変革期の人物像を通して生き方を考える	山崎有恒(文学部)
変革期の人物像を通して生き方を考える	山崎有恒(文学部)
国際化・多文化社会に生きる	江川ひかり(文学部)
21世紀の経済社会 - 工業社会から知識社会へ	長澤克重(産業社会学部)
公開講座:働くことと自己実現	佐藤由美子(サントリー不易流行研究所)
なりたい自分になるために	就職・進学をめざす在学生によるパネルディスカッション
なりたい自分になるために	春日井敏之(文学部)
受講生によるディスカッションと交流	春日井敏之(文学部)
授業のまとめと小論文作成	春日井敏之(文学部)
第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

指定しない。
 適宜資料プリントを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
大人へのなりかた - 青年心理学の視点から	白井利明 / 新日本出版社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特殊講義(キャリア形成論) GA
 キャリア形成特殊講義 SB
 ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論) G3
 キャリア形成論 LC

12025

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

授業は、社会構造の大きな転換期において、学生諸君が、雇用と仕事と生活をめぐる今日的な諸問題について、多面的に深く解読する科学的思考力を獲得し、職業理解および職業的自立を通じて、豊かな人生を切り開くことに資するものとして開講する。具体的には、若年雇用問題に焦点をあて、1)社会構造の問題として多面的な視点から理解を深め、2)自己の生き方、働き方と関わらせながら解決策を探り、3)自己の将来進路を展望し、大学での学びを一層充実・活性化させることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義はゲスト・スピーカーを中心とするオムニバス形式となる。毎回、講義に続いて質疑を行うので、受講者は常に発言する用意をすることが望まれる。あわせて、毎回講義の感想レポートを課す。なお、複数回の講義では、それまでの授業を受けて、卒業生を招いたパネルディスカッションや受講生間でのグループワークを取り入れた参画型の授業を実施する。ここでは、自分の将来、社会で生きることや働くことの意味を考え、他者と語り合いながら学んでほしいと期待しており、能動的な授業態度が望まれる。

評価方法・基準

毎回の出席・小レポートおよび期末に試験に代わる全体を総括するレポート実施

講義スケジュール

内 容	キーワード
1講「導入」	
2講「働くことの意味 = 立命館の改革実践を通じて =」: 川本 八郎(立命館理事長)	
3講「脱フリーター社会 = 大人たちにできること =」: 橘木俊詔(京都大学経済学部教授)	
4講「国内外の若年雇用実態と課題」: 小杉礼子(労働政策研究・研修機構副統括研究員)	
5講「若年労働をめぐる法制度」: 吉田美喜夫(立命館大学法学部教授)	
6講「企業社会と若年雇用、新規大卒に求めるもの」: 未定	
7講「若者を取り巻く雇用・教育の現状と課題」: 未定	
8講「仕事と家庭」: 武石恵美子(ニッセイ基礎研究所)	
9講「青年期発達課題と将来進路」: 春日井敏之(立命館大学文学部教授)	
10講「大学教育における確かな学びと進路」: 宇野木洋(立命館大学法学部教授)	
11講「キャリアデザインの方法」: 大久保幸夫(ワークス研究所所長)	
12講「大学での学びと職業・社会生活」: OBによるパネルディスカッション	
13講「キャリアフォーラム」: 受講生によるグループディスカッション	
14講「キャリアフォーラム」: ディスカッション結果の報告とまとめ	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

キャリア形成論 G

12496

キャリア形成論 LD

キャリア形成特殊講義 SC

ビジョン形成特殊講義(キャリア形成論) GA

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生以上

担当教員 加藤 敏明、藤田 敬司、大垣 尚司、服部 利幸、宮脇 正晴、稲葉 和夫、田中 力、佐藤 敬二、細井 浩一、宮井 雅明

講義内容・テーマ

現在在学中の皆さんは、小学校入学時頃にバブル経済が崩壊し、以来、日本経済は低迷。リストラの嵐や相次ぐ不祥事などを見聞き続ける中で、企業社会に対する「悪」のイメージが強く植えつけられているように思えます。本格的な就職活動やインターンシップの集中する夏季を控え、本講義では「経営・経済学」「法学」「総合科学」の3つの分野から、学内人材を最大限活用し、「会社」の科学的解明と正しい認識、理解の促進を目指します。1～5講は、日ごろ受講機会の乏しい経営学部及び経済学部所属の教員から、会社の基本的な見方を学びます。6～10講では、商法(会社法、取引法)、経済法、労働法の各分野から法学部教員が分かりやすく解説。11～15講では「コンテンツ人材」「知的財産権」「女性労働」「自我」「キャリア」をテーマに、会社の科学的解明の仕上げを行います。なお、全体のコーディネイトは加藤(大学教育開発・支援センター)が担当します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講をより理解するために、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)を受講するのが望ましい。なお、本講は就職に結びつけた内容、構成をとってはいませんが、卒業後ビジネス社会に巣立ち活躍したいと真剣に考える学生にとって、基礎的な視点・視座(会社の科学的解析力)を習得できることから、受講を強く勧めます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	30 %	定期試験を実施します。
日常点(小テスト)	10 %	各講師の行う「評価物」を意味します。
その他	60 %	「出席要件」を意味します。

評価は、「定期試験」「日常点」「出席要件」を総合的に判定し行います。中でも、キャリア教育科目に位置づけられる本講の性格に照らし、出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん、遅刻は厳禁です。

講義スケジュール

内容	キーワード
「経営・経済学」「法学」「総合科学」の3つの学問領域からアプローチする本講の位置づけを解説する。	導入 + 「会社とは、キャリアとは」
不祥事相次ぐ日本の企業では今、明確な経営理念を構築しそれを実践する意義が再認識されている。本講では改めて、企業が何を対象にどのように活動し何を求めるのか、社会に何を還元しうるのが、全体像を考察する。	会社の諸活動が持つ「社会的役割」
高度経済成長はなぜ実現し、なぜ1990年代に入り収束したか、その根源的要因を探る過程で、会社がどのように成長し変貌してきたのかを解析。その上で、近未来の日本の会社像を経済学の立場から具体的に展望する。	「高度経済成長」と企業社会、会社
豊かな日本と高度経済成長は深く関わりあう。将来にわたり高成長が再び訪れる可能性の見えない昨今、豊かさを維持しつつ私たちはどのように生き、どのように働くべきかを考える。	「高度経済成長」と企業社会、会社
財務ディスクロージャー(情報公開)の動きは、企業の社会的評価に直結する重大な案件の一つ。企業診断手法の決め手とも言える有価証券報告書を読み取る力を涵養する。	「有価証券報告書」から捉える会社
会社法は商法中、質量とも最大の規模を有し、近年大規模な改正が行われた。本講では平成14年改正会社法をもとに、企業統治関連部分(取締役の責任軽減や委員会等設置会社など)を重点的に解説する。	「商法(会社法)」と株式会社
2回連続の講義を通じ、株式会社の仕組みを法解釈手法から解き明かすとともに、会社が単なる営利組織でなく、社会貢献という大きな責務を法的側面からも負わされている姿を明示する。	「商法(会社法)」と株式会社
商法総則及び商行為法の基本概念の理解からスタートし、契約法、債権法、物権法等、各分野の成果を総動員し、取引法をめぐる今日の課題とともに、法学的見地による動的な会社解析の手法を明らかにする。	「商法(取引法)」と株式会社
集团的労働関係法は国境を越えて重要性が高まっている。本講では、労働法の基本概念から労働契約、労働協約、就業規則など、学生にとって近い将来深く関わる分野について解説。法律から企業を診断する力を養う。	「労働法」と株式会社

構造改革と規制緩和の風潮のなかで独占禁止法の役割が改めて強調されつつある。今後の企業法務において独占禁止法の理解は不可欠であるといつてよい。独禁法と関連法規を平易に解説する。	「経済法」と株式会社
従来のもノづくりの尺度で規定できる仕事から、多様な業務に対応可能な企画・制作ノウハウを多面的に併せ持つプロデューサー的人材への要請が高まっている。政策科学部科学部の目指す人材像をもとに考察する。	「プロデューサー」として見る会社
工業著作権をめぐる世界的な係争動向から再編が進む会社の法務部の動きなどを解説。大きく揺れ動く知財の世界から会社組織の解析を試みる。	「知的財産権」と会社
今や先進工業国では、健全な経営体を維持する有効な手段として、女性労働の活用は不可欠。関西の私大最多の女子学生が在籍する本学として、女子学生への意識啓発はもとより、男子学生にも新機軸の会社観を教授。	「女性労働」から捉える会社
職業選択に際して、「自己実現」の理念と実際の求職活動、就業内容とのギャップが厳然として存在する。本講では、欧米社会における職業倫理を糸口にして、個人と組織、自由と他律との関係を考察する。	「自我」から見つめる会社
会社の研究は単なる就職向けの情報収集と分析に終わるものではなく、本来、経済社会を見極めるための優れた科学的研究アプローチであることを終講にあたり総括。定期試験を実施。	会社を「総括」する

テキスト

特に指定しません。

参考書

特に指定しませんが、各講師から適宜示されます。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の中で適宜紹介します。

その他

学部横断的な科目であり、講師陣も学内両キャンパスの教員が担当します。広く「立命館大学」で学ぶことのできる本講を積極的に活用し、地に足着いた社会観、組織観、ひいては就労観や人生観を養ってください。

特殊講義(キャリア探偵団) GA
キャリア形成特殊講義 SD

12032

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

さまざまな業種、職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。またフィールドワークを伴う実践型の授業とし、論理力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を鍛える。

- (1) 民間企業のあらゆる業種・分野の職種調査と、その職種に求められる要件(資格・語学・アカデミックキャリア)の調査。
- (2) 職種ピックアップとインタビュー
- (3) 調査に基づく議論、レポート作成、VTR作成、プレゼンテーション、HPでの公開
- (4) 1グループ5名程度のグループワークとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1) 企業現場の人々とのディスカッション、OB訪問等を実施します。
- (2) OB訪問の内容をビデオで撮影し、これを編集したものを提出していただきます。
ビデオカメラは大学から貸与するが、編集については学生自身が責任をもって対応する。
ビデオ編集機能付のパソコンを持つことを推奨する。

評価方法・基準

- * 日常点評価
出席点 + 課題作品提出。成績評価はPとします。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
第02週 第01回 仕事と個人の能力開発(講義)	
第03週 第02回 仕事の学校1	
第04週 第03回 仕事の学校2	
第05週 第04回 仕事の学校3	
第06週 第05回 仕事の学校4	
第07週 第06回 フィールドワーク1	
第08週 第07回 フィールドワーク2	
第09週 第08回 フィールドワーク3	
第10週 第09回 フィールドワーク4	
第11週 第10回 プレゼンテーション1	
第12週 第11回 プレゼンテーション2	
第13週 第12回 プレゼンテーション3	
第14週 第13回 プレゼンテーション4	
第15週 第14回 プレゼンテーション5	

テキスト

必要に応じて資料を提供します。

参考書

特になし。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし。

その他

- ・本科目の担当回生は1回生のみです。
- ・本科目は事前登録科目です。

・本科目の授業詳細については第1回目の授業で説明します。

インターンシップ入門 GA
 キャリア形成特殊講義 SE
 ヴィジョン形成特殊講義(インターンシップ入門) GA

14281

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 加藤 敏明, ENNO BERNDT

講義内容・テーマ

本講義は、実施された全学インターンシップ・プログラムの事前授業に位置付けられる講義ですが、単にインターンシップの事前学習の枠に納めず、全人間的な育成、つまりキャリア教育を強く意識した内容で構成されています。具体的には、1～5講は、日本を含めた各国の高等教育事情と人材育成教育の変遷をたどる「基礎学習」。6～9講では、問題解決型の企画立案能力を伸ばすことを目標に、グループワークを一部採り入れ外部講師を招聘した「実践学習」。10～12講は、学内外の講師による多角的な視座から実践的教育(インターンシップを含む)を考察する「発展学習」。そして13～15講では論文文能力を養う「総括学習」で構成します。なお、全体のコーディネイトは加藤(大学教育開発・支援センター)が担当します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

インターンシップ履修を希望しない学生でも受講は可です。また、本学のプログラム以外のインターンシップにエントリー希望の学生にも、強く受講を勧めます。さらに、本講で学習した内容を一段と深めるために、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	「最終授業レポート」を実施します。
日常点(小テスト)	20 %	各講師の行う「評価物」を意味します。
その他	50 %	「出席要件」を意味します。

評価は、「レポート」「日常点」「出席要件」を総合的に判定し行います。中でも、キャリア教育科目に位置付けられる本講の性格に照らし、出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん、遅刻は厳禁です。

講義スケジュール

内 容	キーワード
高等教育における産学連携型教育の重要性が指摘されている。そもそも、人材とは何か、どのような人材が求められているのか。学生の目線でキャリア教育全般を見渡し、検証する。	導入 + 「キャリア教育考」
米、英、独などに見る、高等教育改革の動向とその下で展開される産学連携型教育の基本的精神、運用、そして普及の実態を紹介しながら、インターンシップに代表される人づくり教育の重要性を学ぶ。	「欧米における産学連携の歴史的展開」
モリル法の果たした役割は何か、黄金の50年代の残したものは、80年代末に日米で何が起こっていたのか。産学連携の発展と、それに伴う連携型教育、インターンシップの急速な普及の背景に迫る。	「産学連携と高等教育」
地球規模で展開される正規カリキュラムの地位を確立しているCO-OP教育は、どのような環境から生み出され、どのような歩みをもって今日に至っているか、インターンシップ事前授業必須の要件を解説する。	「インターンシップとCO-OP、今日的課題」
400万人超とも推計されるフリーターの大量出現や、早期退職者の「753現象」など、雇用をめぐる動向は激動の一言に尽きる。本講では若年者雇用の近未来像を、経済学手法をもとに考察する。	「人材と雇用」
ビデオ教材を用い、日本が抱える今日的課題と企画立案能力の重要性を改めて考える。	「企画立案の展開」
企画立案型、つまり即戦力としての人材が強く求められている。求められる人材とはどのようなものか。第一線で活躍する学外講師を招き考察する。	「企画立案の現場」
7講を受け、グループワークを展開する。	「企画立案への挑戦」
7、8講を受け、学外講師を交え双方向型授業を展開、問題解決型の企画立案能力につき学習を深める。	「企画立案の実行」
立命館大学のインターンシップは基本理念及び基本方針に基づき運営される。専攻とつながる実践的教育のあり方を考察する。	「専攻と実践的教育」
企業社会の主人公は人、すなわち人材である。企業(会社)の原点に立ち返り、改めて組織と個につき考察する。学内講師による授業。	「企業風土と企業文化」
受入者の側から実践的教育(インターンシップを含む)を捉える。本学生を受け入れている企業関係者を招き、インターンシップ生に求める資質、能力、さらには人材としてのあり方を幅広く考察する。	「人事部から見るインターンシップ」

インターンシップのエントリーが高倍率化している現状を鑑み、3講連続でエントリーに向けた論作文講義を展開する。	「戦略的エントリー法 (指導)」
13講を受け、エントリーシート作成に挑戦する。	「戦略的エントリー法 (作成)」
14講を受け、エントリーシート(期末レポート)に挑戦する。	「戦略的エントリー法 (期末レポート作成)」

テキスト

特に指定しません。

参考書

特に指定ませんが、学内外の講師から適宜示されます。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の中で適宜紹介します。

その他

学部横断的な科目であり、インターンシップに限定されないキャリア教育科目です。卒業後ビジネス社会に巣立ち活躍したいと真剣に考える学生にとって、実践的な高等教育の背景やその基礎的な視点・視座を習得できることから、受講を強く勧めます。

居住環境デザイン論 S
都市構造論 G
都市構造論 S

12848

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。多くの具体的事例を通して、「空間・場(都市・まち)」、の質が「ひと」の在り方(社会関係や文化等)を規定し「できごと(生活のドラマ)」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スライド映像等を活用しつつ、事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」をよみといていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます。なお、本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	基本的には提出された「試験にかわるレポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
日常点(小テスト)	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価「試験にかわるレポート」を中心に評価しますが、評価には講義中出席がわりにたまに書いてもらうミニレポートの回数を加味します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「居住環境デザイン論」ってなに? 「居住環境」ってなに?	本授業の視点: 「ひと」と「場所 = 都市(まち・地域)」の関係論
だから都市はおもしろい その1	主に京都を題材にしながら、「都市」の魅力がその多層性・多義性にあることを示す
だから都市はおもしろい その2	あわせて、都市を「無数の中心(結び目)のある」「自然成長的で非方向的な」小単位の「編目」(コミュニティ)の重なり合いとして捉える視点を紹介し
だから都市はおもしろい その3	「人の眼差し」のなかに「都市」を位置づける「まちづくり」の視座を準備する
「都市を創る企て」としての近代都市計画 その1	はたして「理想の都市」は「創れる」のか、近代都市計画の光と影を通して考える
「都市を創る企て」としての近代都市計画 その2	
「都市を創る企て」としての近代都市計画 その3	
「都市」の構造を継承するころみ その1	具体的な事例をみながら、「ひと」と「まち」の関係を継承し発展させていく「まちづくり」の必要性を考える
「都市」の構造を継承するころみ その2	
「都市」の構造を継承するころみ その3	
「都市」に住み続けるために その1	京都を中心にいくつかの「まちづくり」事例をみながら、人々が「都心 = インナーシティ」に住み続けていける方策を考える
「都市」に住み続けるために その2	
「都市」に住み続けるために その3	
まとめ: 「参加」とはなにか	

テキスト

教科書は使わず、資料はプリントを配布します。

参考書

適宜講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 蔵田 力

講義内容・テーマ

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
日常点 (小テスト)	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

*試験に代わるレポートとして実施

前期試験・レポートの提出による～講義内容の理解及び自主的な学習の度合い等考慮して評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

住宅総論 「住まい」とは

住宅総論 「居住の権利宣言」を学ぶ

住宅総論 日本、世界の住宅政策と福祉政策

住宅各論 バリアフリーの考え方

住宅各論 -1 「住まいの環境改善」のあり方

住宅各論 -2 「住まいの環境改善」における専門家の連携

住宅各論 -3 事例研究

住宅各論 「住まい」と家族

住宅各論 「住まい」と健康

住宅各論 ホームレス問題

地域論 日本と世界の都市政策

地域論 -1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”

地域論 -2 生活圏構想

まとめ

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
居住福祉	早川和男著 / 岩波新書 /

大学生協等にて各自購入

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会福祉方法原論	植田、蔵田他著 / 法律文化社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

グローバルメディア論 S
 マス・コミュニケーション論 S
 グローバルメディア論 I

14563

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

マスコミュニケーション研究の展開および現状について歴史的に検討した上で、近年におけるメディアの資本、活動、そして表象の諸側面におけるグローバル化動向について考察する。国際コミュニケーション状況をめぐる理論パラダイムや諸言説を紹介し、主要な理論上の対立点について、メディアのグローバル化がさらに進んだ今日の視点で再評価する。そして、東アジア地域におけるメディア・文化の越境化動向を、地域固有の状況や最近における社会変動との関連で、分析・考察を行なう。その上で、マスコミュニケーション現象のもたらした近代的現象のひとつとして、「われわれと彼らの認識」すなわち「自画像と他者画像」の問題にも取り組みたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	試験に代わるレポート
日常点(小テスト)	20 %	
その他	10 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
マスコミュニケーションの史的発展過程	
マスコミュニケーションの理論の展開	
日本におけるマスコミュニケーションの展開およびその特質	
国際コミュニケーションの理論1 - 近代化論、相互理解論	
国際コミュニケーションの理論2 - 新世界情報秩序論、文化帝国主義批判	
中間総括および討論	
東アジアにおけるメディアのトランスナショナル化 - その概観	
「日本発ポピュラー・カルチャー」の東アジアでの受容	
東アジアにおける「韓流ブーム」の展開と受容	
関連動向の紹介および討論	
国際報道と他者表象 - 『「日本」はどう報じられているか』を読む	
スポーツ報道における自画像と他者表象	
『ワールドカップのメディア学』を読む	
講義総括および質疑応答	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『概説マスコミュニケーション論』	早川善治郎 / 学文社 /
『日本はどう報じられているか』	石澤靖治編著 / 新潮社 /

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『トランスナショナル・ジャパン アジアをつなぐポピュラー文化』	岩淵 功一著 / 岩波書店 /
『ワールドカップのメディア学』	黒田勇・牛木素吉郎編著 / 大修館書店 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その都度、案内する。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

欧米では、新自由主義政策下での社会福祉費用の圧縮、コミュニティケアの独自の歴史、多様な問題をかかえるクライアントに対するソーシャルワークの生成などを背景にして、ケアマネジメントの手法が形成された。日本では社会福祉基礎構造改革の政策動向のもとで浮上し、2000年4月以降、介護保険制度の運営として採用されている。本講では高齢者ケアマネジメントを中心に、具体的なアセスメントやプラン作成も行い、その方法・特徴・問題点を学ぶ。また介護保険利用者の生活課題と制度の矛盾、ケアマネジャーがおかれている困難な状態を学ぶ。さらに2008年度に向けた見直しの内容と問題点を解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高齢者のケアに関心を持つ学生であること、事前に社会保障論、老人福祉論、介護概論を学習しておくこと。社会福祉援助技術論を受講していることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	ケアマネジメントと問題点についての理解を中心とした設問
日常点 (小テスト)	50 %	講義内容に対応した感想・意見、ケアプランなどの成果物、社会保障制度についての知識テストなどを行う。

* 定期試験として実施 * 日常点評価 定期試験または最終講義日試験とする。開講中に随時社会保障論制度、老人福祉制度、介護保険制度等について的小テスト、レポートなどを行なう。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ケアマネジメント論の概要と生成	
ケアマネジメントの概念と共通するプロセス	
高齢者ケアマネジメントの対象(1)	事例を通じて考える
高齢者ケアマネジメントの対象(2)	事例による生活問題の考察
高齢者ケアマネジメントの対象(3)	社会問題・生活問題・社会福祉課題・介護課題
高齢者ケアマネジメントの対象(4)	高齢者の生活後退
高齢者ケアマネジメントの資源の理解(1)	介護保険制度
高齢者ケアマネジメントの資源の理解(2)	一般財源によるサービス、地域住民の活動など
ケアマネジメントの過程(1)	要介護認定
ケアマネジメントの過程(2)	エントリーからアセスメントまで
ケアマネジメントの過程(3)	アセスメント総括と課題分析
ケアマネジメントの課題(4)	ケアプラン作成と給付管理
介護保険をめぐる課題(1)	利用者とケアマネジャー・サービス提供者の状態
介護保険をめぐる課題(2)	介護保険見直しの動向・障害者への拡大の動向など

テキスト

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
利用者のためのケアマネージメント	大野勇夫 / あけび書房、2000年 /
自治体は高齢者介護にどう責任を持つか	石川満 / 萌文社、2002年 /

参考図書として石川満他『自治体は高齢者介護にどう責任を持つか』萌文社、2002年を読んでおくこと。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

テーマ「日本経済の諸問題」

現代日本経済の展開過程、とくに1990年以降のバブル崩壊不況からなお抜け出せない日本経済の現局面を素材として、経済学の基礎的知識を学ぶことを主な課題とする。(経済理論の問題には深入りしない)

具体的には、日本の貿易と資本の展開、法人資本主義と日本的経営、賃金と労働条件の格差構造、日本国民の所得と資産の分布、などについて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

評価方法

日常点評価と試験にかわる期末レポートにより評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
はじめに - 日本経済の概況	
大企業体制の2類型	
「高度成長」と企業社会の成立	
企業社会と市民社会	
貿易と資本の対外展開	
不良債権問題の経過と問題点	
法人資本主義と日本的経営	
同上?	
国家財政の動向	
勤労者層の賃金構造	
同上、労働諸条件	
外国人労働者問題の現状	
国民の所得構成	
同上、資産構成	

テキスト

テキスト

使用しない。ただし、必要なレジメを授業で適時配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 正純

講義内容・テーマ

経済理論を理論としては講義しない。テーマを「北欧福祉国家はなぜ『成長競争力』が高いのか」として、市場経済と公共の責任との関係を考えてみたい。日本では、政府および財界がしきりに、「国民負担率」(国内総生産に対する租税・社会保障費負担)が50%を超えると経済活力がなくなると喧伝している。ところが、北欧諸国は「国民負担率」がすでに50%を超えている。しかし、世界経済フォーラムの調査によると、北欧諸国は日本より「成長競争力」が高い。実はここには、市場経済の活力を本当に働かせるために必要な「公共の責任」という問題が存在するのである。ビデオも使いながら、身近な問題に引きつけて、講義するつもりである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会に対して関心をもつこと。政治・経済に関するニュースも知ろうとすること。日本の諸制度は日本固有のものであって、日本を延長して、世界を考えないこと。外国に対する関心をもつこと。新書程度でよいから、毎日持ち歩いて、時間を見つけては読むこと。インターネットで入手した情報も使うので、インターネットが使えない人は使えるようにしておくこと。講義中の私語は講義妨害であるので、厳しく叱責する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	85 %	記述式論文試験。持ち込み不可。
その他	15 %	講義中の感想文提出

受講生の数によるが、人数が少ないようだと、日常点(小テスト)を実施するかもしれない。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
新自由主義 対 新 社会民主主義	「大きな政府」「小さな政府」
「国民負担率」の高さと「成長競争力」の強さは無関係	「成長競争力指数」ランキング
市場経済と公共の責任との関係	「公共の責任」
「知識社会」の競争力の源泉は「生涯学習」による教育力	「知識社会」「生涯学習」
エンプロイアビリティとはなにか。EU、アメリカ、日本での理解の違い	エンプロイアビリティ
出生率の高さは働き方・働かせ方によって決まる。北欧諸国の母親指数はトップクラス	合計特殊出生率、社会サービス法
労働時間の長さを決定するのは労働者の権利！？ オランダのパートタイム社会	パートタイム、ベイ・エクイティ
景気回復と財政再建は両立する。北欧諸国の財政は黒字。日本の財政は大赤字。	財政再建、「生活の安全」
財政・社会保障に対する信頼度 : 北欧。透明度の高い情報公開。	高い所得再配分。税は国家に対する投資
財政・社会保障に対する信頼度 : 日本。透明度の低い情報公開。「粉飾国家」	一般会計、特別会計、
日本の財政はなぜ重税感が強いのか。「成長政策」で骨抜きにされた戦後のシャープ税制。	不公平税制、みなし法人課税、分離課税
日本の消費税とEUの付加価値税は別物。インボイスが付いているか付いていないかは天地の差。	垂直的公平と水平的公平
新しい階層社会日本の出現、日本の増税路線は所得格差の拡大をもたらしている。	所得税減税、ジニ係数、希望格差社会
再論、新自由主義 対 新社会民主主義。アメリカはどこにいく。日本はどこにいく。	持続可能な社会、浪費社会

テキスト

なし

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純編 / 桜井書店 / ISBN4-921190-16-X
高福祉・高負担国家 スウェーデンの分析	井上誠一 / 中央法規 / ISBN4-8058-4453-1
スウェーデンの財政	藤岡純一 / 有斐閣 / ISBN4-641-28060-6

スウェーデンの労働と産業

篠田武司編 / 学文社 / ISBN4-7620-1010-3

粉飾国家

金子勝 / 講談社 / ISBN4-06-149721-9

その他は講義中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

地球温暖化の進行と消費生活、その経済社会的影響

温暖化はすでに、確実に進行しており、温暖化による社会経済的影響について理解し、その被害を最小化するための対策を考える段階にきている。

ここでは、温暖化の進行の状況、社会各分野での影響、被害予測のデータ、被害最小化のための対策プログラム、被害最小化のための環境教育のあり方について、できるだけ最新の資料にもとづき、検討をおこなう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	最終講義試験を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

講義の目的、温暖化影響と被害対策の重要性

温暖化の進行状況について(概観)

日本の食ライフスタイルと温暖化負荷

日本の食糧自給率、輸入農産物への依存

温暖化と食糧生産、農業生産活動への影響、

気候変動と水供給、日本における影響

温暖化と降雨量変化、台風・洪水予測、

温暖化と健康・保健への影響

夏季高温日、熱波と熱中症の警戒

海面上昇、沿岸部海岸線後退、その社会経済的影響

気候変動と動植物への影響

海洋における二酸化炭素の吸収の役割、熱帯雨林と二酸化炭素吸収の役割

温室効果ガスの排出削減政策、その緊急性、意義

影響予測情報、影響最小化のための環境教育

テキスト

テキストは使用しない。イギリス気象局Met Office のレポート、IPCCのレポート、国立環境研究所の資料、その他を使用する。

参考書

参考文献、参考サイトは授業中に指摘する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

芸術社会論 S
芸術社会論 S

12757

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

イタリア・ルネサンスの絵画を鑑賞しながら、その絵が当時の社会をどのように把握していたかについて学習したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は美術論ではない。絵画に込められた思想を理解したい。歴史に関する知識を身に付けていることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施
評価は定期試験による。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ルネサンスの発生・形成・発展・消滅に沿って講義をすすめる。(詳細については授業中に説明する)	

テキスト

なし。

参考書

その都度、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 田中 不二夫

講義内容・テーマ

1950年代に入り日本映画は第二の黄金時代を迎える。戦後の復興と占領体制の終焉とともに日本映画は戦前の活況を取り戻し、娯楽の殿堂としての地位を不動のものとする。また、溝口健二、小津安二郎、黒澤明などの国際的に評価される作家たちが輩出する。講義では、時代劇映画、文芸映画などのジャンル映画が担っていた社会的・時代的な意味に検討を加えた上で、これらの作家たちの作品の独自性や魅力を検証していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	基礎的な知識が習得できたかを問います。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
-------------------------------	--

講義のガイダンス	
----------	--

占領体制下の日本映画	
------------	--

占領体制下の日本映画	
------------	--

黒澤明の台頭	
--------	--

黒澤明の台頭	
--------	--

黒澤明の台頭	
--------	--

占領体制の終焉と日本映画の変容	
-----------------	--

占領体制の終焉と日本映画の変容	
-----------------	--

時代劇の復活と溝口健二	
-------------	--

時代劇の復活と溝口健二	
-------------	--

時代劇の復活と溝口健二	
-------------	--

小津安二郎	
-------	--

小津安二郎	
-------	--

小津安二郎	
-------	--

定期試験	
------	--

テキスト参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
日本映画史 100年	四方田犬彦 / 集英社新書 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

芸術表現論 S
 芸術表現論 S

12777

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 三木 順子

講義内容・テーマ

近代以降、「芸術」はもはや自明のことではなくなった。芸術家は、芸術表現をとおして、「芸術とはなにか」という問いをたて、みずからそれに答えているといってもよいだろう。その限りにおいて、芸術表現は、解釈されるべき「論理」をもつ営みであり、芸術家たちは、ユニークな芸術理論家/美学者たりうるといえよう。この授業では、何人かの芸術家たちの芸術理論/芸術家美学をとりあげ、その意義と問題点を探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

造形芸術・音楽・演劇・文学など、さまざまなジャンルの芸術作品を積極的に鑑賞し、豊かな芸術経験を身につけ、その経験のなかから、芸術に関する自分なりの問題意識をあぶりだすことを普段から心がけておくのが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	授業の内容を的確に理解しているかどうか、また、自分なりの問題意識をどのように打ち立て展開しているかを評価する
日常点(小テスト)	20 %	授業中に適宜意見を求めたり小レポートを提出してもらうことがある

学期末に提出されるレポート(80%)と授業中に適宜提出を求める小レポート(20%)で、総合的に成績を評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ガイダンス	授業で取り上げる問題の概略
制作をめぐる芸術論	アリストテレス『詩学』からニーチェ『悲劇の誕生』まで
制作をめぐる芸術論	アリストテレス『詩学』からニーチェ『悲劇の誕生』まで
制作をめぐる芸術論	アリストテレス『詩学』からニーチェ『悲劇の誕生』まで
美の創造者としての芸術家によるエッセイ	ウィトルウィウスからロマン主義の文学まで
美の創造者としての芸術家によるエッセイ	ウィトルウィウスからロマン主義の文学まで
美の創造者としての芸術家によるエッセイ	ウィトルウィウスからロマン主義の文学まで
芸術家によるマニフェスト	アヴァンギャルドの挑発とメディア戦略
芸術家によるマニフェスト	アヴァンギャルドの挑発とメディア戦略
芸術とはなにか - みずから問い、みずから答える芸術家 -	もはや自明でなくなった芸術に向かって
芸術とはなにか - みずから問い、みずから答える芸術家 -	もはや自明でなくなった芸術に向かって
芸術とはなにか - みずから問い、みずから答える芸術家 -	もはや自明でなくなった芸術に向かって
沈黙の美学のパラドックス	押し黙ることにおいて開かれる「表現」
沈黙の美学のパラドックス	押し黙ることにおいて開かれる「表現」

テキスト

特に指定しない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『美術史をつくった女性たち』	神林恒道・仲間裕子編 / 勁草書房 / 4-326-80051-8

その他、授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

計量社会学 S
計量統計学 S
計量社会学 S

14550

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

本科目では、社会学方法論のなかでも特に、量的調査データ、官庁統計やマクロデータ分析を中心に展開される。ツールとしてSPSSの統計解析ソフトウェアを用いる。社会学方法論の視点 - つまり、"一本の木ではなく、全体の森のかたちを描くように" - から、変数の度数分布、クロス集計表、比例尺度の変数を用いた相関係数、分散分析等の統計解析技法が使えるように実習形式で取り組む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生時に、「情報処理」(SPSS)を履修しておくことが望ましい。なぜなら、本科目はSPSSの知識があるとの前提で実習を行う。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	分析レポート
日常点 (小テスト)	60 %	実習課題 20%、実習課題 20%、実習課題 20%

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

科目ガイダンス： 受講生の受講データ用紙記入

社会学方法論 - 質的方法と量的方法、質的データと量的データ

社会学方法論 - 因果関係と相関関係、疑似相関と媒介変数

データファイルサーチ 実際に用いられた社会調査のデータ例

データファイルサーチ 官庁統計のデータファイル

データ解析の手法 - 度数分布

データ解析の手法 - クロス表

データ解析の手法 - 多重回答のクロス表

データ解析の手法 - 3重クロス表

データ解析の手法 - 散布図、相関係数、相関表

データ解析の手法 - 分散分析

分析報告書の書き方 図・表の作成

報告書の書き方 分析結果の書き方

受講生による分析報告のプレゼンテーション

テキスト

西田晴彦・新睦人『社会調査の理論と技法()』(川島書店、1976年)

参考書

必要に応じて紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

言語コミュニケーション論 N
言語コミュニケーション論 N

11056

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 雑賀 恵子

講義内容・テーマ

人間は言語を通して思考するのだが、その言語とは一体なにか。言語論を通して、現代思想の巨星たちは何と闘ってきたのかをまず、考える。このとき、私たちは、国家や民族と個人の関係性、暴力とはなにか、といった問題にも向き合っていることに気が付くだろう。次に、「わたし」の思考やその表現は他者と関わらざるを得ないが、その「わたし」とはなにか、「他者」とはなにか、理解するということはどういうことなのか、共に在ることとはなにか、について、探っていきたい。いま、ここに、生きて在るものとして、学生諸君と一緒に考えていきたいと願っている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	
日常点 (小テスト)	40 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

この講義は何を対象としているか

日本語とはなにか・・・国家と言語

日本語とはなにか・・・国家と言語

記号？言語？

記号？言語？

時間と言語・・・法則という閉域

時間と言語・・・法則という閉域

交通について

交通について

いま、ここに、あるもの

わたしと他者

わたしと他者

理解することの可能性/不可能性

暴力に抗する言語

テキスト

特に指定しない。参考文献は講義中に紹介する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 久津内 一雄

講義内容・テーマ

言語コミュニケーション論テーマ

我々はソラとかアオイとかのオトを、熟慮の上で、美しいからといって日本語を選んだのではない。まだ物心つかぬうちに、無理矢理、社会の暴力によって覚えさせられたにすぎない。暴力というのは決して誇張ではない。選択の余地がなく、それを受け入れないと生存も難しいからだ。こういう個人がただ受け入れるしかない社会のシステムを、ソシュールは「社会的事実」と呼び、言語は社会的事実の中でもっとも強力な圧力を及ぼすものと述べたのである。社会的事実とは、その社会を成り立たせている個々人の意志を超えて、その上に君臨するシステムである。ソシュールはこの語を同時代のフランスの社会学者、デュルケムから借りてきたことはよく知られている。

ひとたび身につけた意味づけの体系が習慣として確立すると、それは逆にそれを身につけた人を捕らえて放さない「牢獄」にもなる。捕らえられた人間は、その意味づけの体系の決まりに従って、ものを捉え、行動する。人間は機械のように動き、すべてが「自動化」する。何かが起こっているようで、実は何も起こっていない世界が生じてくる。

こういう言語観は言語学の枠を超えて、記号学として文学研究や映画、演劇、建築などの芸術理論、民話やフォークロアの研究に適応されて発展を遂げることになる。言語と文化との相関性の仮説に基づいて、神話の分析や未開社会の親族構造の解明に応用したクロード・レヴィ＝ストロースの社会人類学や、ソシュールの記号学をルイス・イエルムスレウの「共示」の概念を手がかりに発展させ、モードや広告など現代社会の文化現象を記号として解読したロラン・バルトの記号学、「無意識は言語のように構造化されている」として人間の深層心理を言語モデルから説明したジャック・ラカンの精神分析などが、ソシュール派記号学の20世紀後半におけるその到達点である。人間の無意識から、文化、社会のおよそあらゆる領域にいたるまでを説明する基礎理論として、記号学は発展したのである。こういう言語観にたつと、言語は単なるコミュニケーションの道具ではなくて、人間や社会や文化の背後にある構造やシステムを根底から支えている、いや、むしろ支配している社会制度としての姿が現れてくる。「文化は言語である」と言われたり、「国家は言語である」と言われたり、「絵は言語である。絵には文法と辞書がある」と言われたり、「建築は言語のようなものとして捉えられ、建築言語の概念が用いられる」と言われたり、あるいは、「夢と神話はすべて一つの共通点を持っている。いずれも、同一の言語、象徴的な言語で書かれている」と言われたりするの、人間や社会や文化の背後にある構造やシステムを根底から支配する社会制度としての言語の姿を捉えているからである。

従って、まず、以上のような言語観にたつ言語学・記号学の基礎理論を整理・理解した上で、言語活動(広義のコミュニケーション活動)をグローバルに考えることが大切である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	
定期試験として実施。論述問題1問。		

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義	
言語論(1) 言語とは?ランゲージュ:言葉能力・活動/ラング=コード:言語社会制度/パロール:個人の言行為	
言語論(2) 「記号」「シニフィアン」と「シニフィエ」	
言語論(3) 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 認知語用論	
言語論(4) 「ラング」(言語)と文化 「サビア=ウォーフ仮説」	
言語論(5) 「パロール」 ヴイトゲンシュタイン「言語ゲーム論」/共時態と通時態	
言語論(6) クロード・レヴィ＝ストロース/ロラン・バルト/ジャック・ラカン	
世界の言語/ビジン語とクレオール語 英語もフランス語ももとはビジン語	
国家語の強制(1) 俗語が文法を所有する/フランス革命と言語	
国家語の強制(2) 英語公用語化/フランス語使用法/日本語国連公用語化論	
日本のことばの問題(1) 森有礼の英語国語化論/英語無用論 藤村作と加藤周一	
日本のことばの問題(2) 平泉試案/英語第二公用語化論	
日本のことばの問題(3) 日本の言語政策/標準語と方言/「ことばの乱れ」	

まとめ(1)

まとめ(2)

定期試験

テキスト

講義時レジユメ配布。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『ソシュールを読む』	丸山圭三郎 / 岩波書店 / 4-00-001220-7
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6
『記号論への招待』	池上嘉彦 / 岩波書店 / 4-00-420258-2
『そうだったのか現代思想』	小阪修平 / 講談社 / 4-06-256674-5
『日本語は国際語になりうるか』	鈴木孝夫 / 講談社 / 4-06-159188-6

入門参考書ベスト3

橋爪大三郎著、『はじめの構造主義』(講談社現代新書898), 講談社, 1988年. ISBN4-06-148898-8
 ともかくわかり易い。入門参考書としてはハイ・クオリティーである。著者の立場は、システム論的社会学。

田中克彦著、『言語学とは何か』(岩波新書303), 岩波書店, 1993年. ISBN4-00-430303-6

ソシュールの思想自体についてはもっとよい本があるが、20世紀的な言語 構造 の考え方の潮流を知るにはこれが一番だと思う。著者の立場は社会言語学なので、ソシュールの言語思想が、妙に神秘化されていないところがお勧めで、普遍文法、歴史言語学、変形生成文法などへの言及もある。

立川健二、山田広昭共著、『現代言語論 ソシュール・フロイト・ヴィトゲンシュタイン』(ワードマップ・シリーズ)新曜社, 1990年.
 ISBN4-7885-0372-7

この本の主題は、言語論 / 言語哲学である。構造主義と密接な関係にある、記号論 / 記号学の潮流を理解するにはよい本である。「哲学の言語論的展開」といわれる、ヴィトゲンシュタイン～言語行為論への潮流は、直接構造主義には関わってこないけれど、記号論 / 記号学を媒介にして観ると、同じ関心への別アプローチ、とも見える。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

言語表現論 S
言語表現論 S

12786

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 瀧本 和成

講義内容・テーマ

<新文学の機運 近代文学の萌芽と成立> 本講義は、江戸から明治へ、封建社会から近代社会への転換期に位置する明治元(1868)年から20(1887)年までの文学を取り上げる。政治・経済・文化等あらゆる方面で近代化の扉が開かれたこの時期に焦点を絞り、日本近代文学の言語表現の変遷(文語体から口語体へ・言文一致運動とその展開を中心に)の過程を考察・分析したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキスト収録の作品読解を中心に講義形式で行う。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	85 %	
日常点 (小テスト)	15 %	

定期試験の成績を主とし、これに出席等の平常点を加味して総合評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

明治初期の文学(1)

明治初期の文学(2)

福沢諭吉『学問のすすめ』を読む(1)

福沢諭吉『学問のすすめ』を読む(2)

坪内逍遙『小説神髓』を読む(1)

坪内逍遙『小説神髓』を読む(2)

坪内逍遙『当世書生気質』を読む(1)

坪内逍遙『当世書生気質』を読む(2)

二葉亭四迷『小説総論』を読む(1)

二葉亭四迷『小説総論』を読む(2)

二葉亭四迷『浮雲』を読む(1)

二葉亭四迷『浮雲』を読む(2)

坪内・二葉亭から森鷗外へ(1)

坪内・二葉亭から森鷗外へ(2)

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
明治文芸館	上田 博・瀧本和成編 / 嵯峨野書院 2001・5 /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
明治文学史	上田 博・瀧本和成編 / 晃洋書房 1998・11 /

その他適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

テーマー「日本における現代家族の諸問題」ー

家族は、身近かであるために、すでにすべてをわかっていると思いがちである。家族は研究するに値する領域として、認知されたのは最近のことである。いまや家族は、少子高齢社会の今後を検討するとき、はずすことの出来ない重要な領域となっている。現代の家族は、どのような役割を期待されているのか。家族というユニットがその役割を担おうとするとき、それを構成するユニットである個人の生き方にどのような問題を投げかけるのだろうか。正解を決めがたいこうした問題に、自らの「解」を与えるための基礎を、この講義を通じて学んでほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ジェンダー論を受講しているか、平行して受講することを希望する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	

* 日常点評価

最終講義日に試験を行う。

同時に、講義の節目で、小レポートを課し、評価に組み込む。比重は、2割程度とする。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

以下の3部構成で講義を構成する。(具体的な授業運営については講義で説明する)

 家族の現状 統計データから家族変化をどう読むか？

 家族とその変容に関する主な議論の検討 エンゲルス・パーソンズ・フロイト フェミニズムと「家族」

 日本型近代家族の生成と変容 少子高齢化社会と家族機能の「社会化」 家族の個人化・選択化

テキスト

テキストは使用しない。

配布レジュメに、関連参考文献・資料を記載する。

参考書

参考文献は、レジュメに掲載。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ<http://www.gender.go.jp>その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 櫻井 純理

講義内容・テーマ

テーマ「日本の企業労働の変容」

経済のグローバル化の影響を強く受け、日本企業における労働のありようは大きな転換期を迎えている。若年層の就職難とフリーターの増加、正社員のリストラと非正規雇用の増大、過労死・過労自殺問題、「成果主義」の強化などが進行している。この講義では、主に企業と労働者の関係に焦点を当てながら、企業と社会の関係に今起こりつつある変化について、現状と課題点を考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必要な知識・スキルは特にない。なるべく授業に出席し、自分自身の労働生活の糧にしてもらいたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	授業内容についての理解度や意見を求める試験。
レポート	20 %	調査データの加工、読み取りの簡単なワークを実施する。
日常点 (小テスト)	10 %	授業時間中に感想・意見を求める場合がある。

定期試験の成績(100点満点)をベースとし、中間レポートの点数を20点満点で加点する。感想文程度の提出を授業中に求めることが1、2回あり、各回5～10点程度を加点する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
講義概要の説明、「企業社会」を考える	企業社会
職能賃金と職務賃金	賃金制度
賃金制度と様々な評価制度	評価制度
年功賃金と成果主義	年功賃金 成果主義
長期雇用慣行と人員リストラの増大	終身雇用 リストラ
企業再編に伴うリストラ・労働条件変更と解雇規制	解雇規制
企業内キャリア形成の類型	企業内キャリア形成
キャリア・アンカーと雇用の多様化	キャリア・アンカー
雇用の非正規化	非正規雇用
派遣労働とパートタイム労働	派遣労働 パートタイマー
ペイ・エクイティと間接性差別	ペイ・エクイティ 間接性差別
長時間労働と過労死・過労自殺	過労死
サービス残業(不払い残業)と労働者心理	サービス残業
コーポレート・ガバナンス、株主重視の経営と働きすぎ	コーポレート・ガバナンス

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	「何がサラリーマンを駆りたてるのか」	櫻井純理 / 学文社 / 4-7620-1110-X

参考書	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	「能力主義と企業社会」	熊沢誠 / 岩波新書 / 4-00-430486-5
	「ルボ解雇」	島本慈子 / 岩波新書 / 4-00-430859-3
	「窒息するオフィス」	ジル・A・フレイザー / 岩波書店 / 4-00-023817-5
	「雇用の未来」	ピーター・キャベリ / 日本経済新聞社 / 4-532-14925-8

その他は授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

株主オンブズマン、大阪過労死問題連絡会、労働基準オンブズマン、派遣労働ネットワークなど。詳細は授業中に適宜紹介する。

その他

就職活動を控えた学生のみなさんには身近なテーマのはずなので、ぜひ関心を深めてほしいと思います。ビデオ教材等も使用し、なるべく時事的な話題を取り上げていきます。

現代経済論 S
現代経済論 S

12870

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と企業社会」について考えたい。1990年以降のバブル崩壊不況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目は、もちろん独立した科目であるが、隔年開講科目「日本経済論」と連結しておりその前半部分にあたる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
はじめに - 問題の所在	
日本経済の概況	
「高度成長」と企業社会の成立	
企業社会と市民社会	
市民社会の概念規定	
大企業体制の2類型	
貿易関係と資本の対外的展開	
同上(2)	
不良債権問題の経過と問題点	
同上(2)	
六大企業集団と法人資本主義	
同上(2)	
日本的経営について	
まとめ	
定期試験	

テキスト

なし、但し統計資料を中心としたレジメを講義で配布する。

参考書

授業中に適時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

テーマ「創造的なコミュニケーションの可能性の条件」

本講義では、創造的なコミュニケーションの可能性の条件、言い換えれば、いかにして創造的なコミュニケーションは可能かという問題を探求していく。その際、社会的な観点を中心に据えて、フランスの歴史学者でありかつ哲学者であるミシェル・フーコー (Michel Foucault, 1926-1984) が最晩年に考察した自律的な「主体」形成の問題 (倫理・政治的な実践の問題) に焦点を当てつつ、上のテーマを理論的かつ原理的に追求していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義全体がひとつの一貫した論理によって構成されているため、継続的な出席を必要とする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	最終講義日試験で評価をする。またレポートの提出を求める場合があるが、その場合はレポート提出も評価の対象になる。

この講義の登録者が多い時は、定期試験に変更する場合がある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
本講義のテーマと方法	創造的なコミュニケーションの可能性の条件。
「社会」とは何か。	社会。世間。
社会学の理論上の根本問題 歴史的考察	社会統合。
社会学の基礎概念	社会化。規範。サンクショ。ン。
コミュニケーション概念	社会的コミュニケーション。相互作用。記号。
コミュニケーションの形態	統合と組織化。
コミュニケーションの形態	自己とのコミュニケーション。
コミュニケーションの形態	自己とのコミュニケーション。
自己統御	生存の技法。自己の実践。アスケーシス。
自己統御	自己統御。
自己陶冶	自己陶冶。
自己陶冶	自己への配慮。
まとめ	創造的なコミュニケーションの可能性の条件。自己とのコミュニケーション。自律的主体。
定期試験	

テキスト

講義レジュメを配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

現代産業社会論 N
 産業社会学 N
 現代産業社会論 GA

11076

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 千守 隆夫、篠田 武司

講義内容・テーマ

戦後の高度経済成長期を経て、日本では大企業を中心としたいわゆる「企業社会」が形成され、日本企業はそれに続く低成長期においても、協調的な労使関係等を背景に、長期雇用と年功型賃金を柱とした雇用システムを維持しつつ、高い水準で国際競争力を保持し続けた。その反面、企業社会は、「過労死」に象徴されるさまざまな社会病理を生み出してきた。とはいえ、90年代以降の不況と急速なグローバル化の進展のなかで、変化する内外の様々なニーズに対応すべく、日本の社会構造もまた、その変革を迫られるようになった。世界的に、いわゆる「新自由主義」が支配的な趨勢となるなかで、日本社会も新自由主義的な社会へと変貌を遂げつつある。本講義では、企業社会の構造や現況についての理解を深化させるとともに、新自由主義的な競争原理ではなく、社会的連帯に基づく社会形成の可能性について展望したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、毎回配布するレジュメをもとに進めていく。なお、講義内容・スケジュールについては、若干の変更の可能性がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点(小テスト)	30 %	数回の小レポート(感想文)

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
現代と日本社会1 現代社会論という視点から	
現代と日本社会2 産業社会論という視点から	
企業中心型社会の歴史的形成過程	
日本的経営システムと企業社会の構造1	
日本的経営システムと企業社会の構造2	
企業社会と価値意識・生活様式	
企業社会と社会病理	
グローバル化の進展と企業社会の変容1	
グローバル化の進展と企業社会の変容2	
高度情報化社会の到来と知識経済	
環境問題と日本社会・企業	
ステークホルダーとの共生と企業の社会的責任	
社会関係資本をめぐって	
まとめ	

テキスト

特に指定はしない。

参考書

講義中、適宜、紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

現代産業論 S
現代産業論 S

14495

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小野 秀生

講義内容・テーマ

現代の社会は、国際化、情報化、サービス化の真直中にある。その土台となり、基軸になっているのが、諸般の産業活動である。本講義は、このように変化する現代の産業活動を、総合的かつ包括的に分析するために必要となる理論と方法を学習し、これをもとに現代産業の構造とその発展方向を解明する。とくに現代日本の産業活動の具体的な内実に着目し、ここに主眼をおいた分析を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

適宜資料を配布して講義するので欠席のないよう受講を求めたい。また、今日的な課題も扱うので、新聞の切り抜きなど産業をめぐる独自は情報の収集を薦めたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	基本的に試験により評価するが、受講状態を加味することも考えたい。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

現代産業論の課題と構成

資本主義の発展と生産概念の展開

技術・資源と労働、労働編成

資本 = 企業の蓄積と競争

社会的分業と産業構造

社会的分業の深化と産業連関(競争と独占)

技術革新とプロダクト・サイクル

産業活動とポリシー・ミックス

日本産業発展と蓄積モデル

現代産業の情報化とサービス化

産業発展と資源・環境問題

WTO体制と現代の多国籍企業

日本産業の国際化と東アジア

21世紀の産業展望 その理論と政策課題

テキスト

特に指定しない。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
通商産業政策(国際公共政策叢書 7)	萩原伸次郎 / 日本経済評論社 / 4-8188-1514-4
現代福祉と公共政策	小野秀生 / 文理閣 / 4-89259-415-6

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:世界史における現在。現代はグローバル化の進展により多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差などの拡大を背景とした戦争が絶えない。この講義では、世界の近現代の流れを確認しつつ、世界史の視点から日本の近代化、教育・福祉・地方自治、階層間格差などの問題の今日的な位置と課題を検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科3回生以上 1回生時に「現代と社会」、「現代とメディア」を受講していることを希望する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	基本的に定期試験で評価
日常点 (小テスト)	20 %	4回ほど、質問紙による応答を実施

* 定期試験として実施 授業の進行過程で、質問紙の提出を求める。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
近代世界の成立と国民国家	国民国家の誕生
資本主義世界システムの展開と産業革命	産業革命
第1次世界大戦前夜	三国同盟と三国協商
第1次世界大戦とヨーロッパ世界の再編	総力戦体制
日本の国際舞台への登場	ベルサイユ体制
孤独な帝国日本とフランス	ワシントン体制
世界大恐慌ーアメリカとヨーロッパ	世界大恐慌
ファシズムの台頭と東欧分割	ナチスとムッソリーニ
第2次世界大戦日本の大陸侵攻	三国同盟
東西冷戦構造と西側の復興	マーシャル・プラン
日本の戦後	1955年体制
植民地主義の崩壊と発展途上国の困難	新植民地主義
先進工業諸国の家族・教育・文化	社会福祉の変容
グローバル化と新世界秩序をめぐって	新世界秩序

テキスト

テキストは指定しない。各講義ごとにレジュメを配布し、また講義の理解を進めるための参考文献を紹介する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
20世紀のヨーロッパ経済	D・H・オールドクロフト / 晃洋書房 / 4-7710-1402-7
昭和史 全2巻	中村隆英 / 東洋経済新報社 /
20世紀の歴史 上・下	E・ボズボーム / 三省堂 / 4-385-35677-7

そのほか、講義のなかで適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義のなかで適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。それは、これまで国家がもたらした公共性の名のもとに経済的にも社会的にも大きな影響力を社会に与えてきたことに対して疑問が出始めているからです。といて、国家がやってきたことを民間企業に任せるのでは利潤主義に走りかねないので社会にとっては困ります。福祉事業などをみればこの点明らかです。したがって、国家や企業だけでなく、市民社会を育てながら新たな公共性を作り上げ、協治のシステムを作り上げていくことが可能なかどうか議論されはじめています。しかし、こうした議論はすでにこれまで社会形成論として議論されてきました。社会科学は、これまで一貫して市民社会とは何かを問うてきたのです。こうした議論を振り返りながら、本講義では、あらためて何故いま市民社会の議論が必要なのかを考えていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	講義の内容が理解されているかを定期試験にて考査する。なお、持ち込みは不可。
その他	20 %	出席を、2 - 3回とり、それを出席点として評価に加味する

* 出席を評価に加味するので、A以上の評価を受けるためには出席は必須。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
市民社会の成立 - フランス革命を辿る	
市民社会の成立 - フランス人権宣言を読む	
古典にみる社会像 - ルソーの描いた社会	
古典にみる社会像 - スミスの描いた社会	
現代の市民社会論 - 復権する市民社会論	
現代の市民社会論 - ハーバマスの市民社会論	
コラム - アメリカのゲイテッド・コミュニティ	
ハーストの市民社会論 - 国家と市民社会	
ハーストの市民社会論 - 社会の統治(ガバナンス)論	
ハーストの市民社会論 - ラディカル・デモクラシー論	
ハーストの市民社会論 - グローバル化と市民社会	
「第三の道」と市民社会 - アクティブ市民社会	
社会関係資本と市民社会 - 信頼の構造	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
アソシエーティブ・デモクラシー	P・ハースト(篠田・福地訳) / 晃洋書房 /

上記の翻訳本(9月刊行予定)を使用する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『現代市民社会論』	山口定 / 有斐閣 /
『相対化の時代』	坂本義和 / 岩波新書 /
『市民の政治学』	篠原一 / 岩波新書 /
『第三の道』	A・ギデンス(佐和訳) / 日本経済新聞社 /

レジュメも用意するので、講義の際、入手すること。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

現代社会入門 N
現代社会 N

11032

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 森重 拓三

講義内容・テーマ

本講義では「社会と個人は互いにつくりながらつくられる関係にある」という視点から人間の諸活動をみる社会学の基本的な考え方を学び、それに基づき社会現象の理解を目指す。この過程を通じて受講者各自が、これまで自明視してきた様々な現象を「考える対象」として捉える視点を身につけ、また、現代社会における関心領域を明確にしていくことを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	社会学的概念の社会現象への応用を課題とするレポート。3200字程度。
日常点 (小テスト)	40 %	社会学的概念の理解を課題とする中間小テスト。2回実施する予定。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会学の領域・方法1	
社会学の領域・方法2	
社会的实在論の考え方1	社会的事実(E.デュルケーム)の概念
社会的实在論の考え方2	
社会的实在論の考え方3	
中間小テスト	
社会的名目論の考え方1	社会的行為(M.ウェーバー)の概念
社会的名目論の考え方2	
社会的名目論の考え方3	
中間小テスト	
社会的实在論と社会的名目論の社会現象への応用1	
社会的实在論と社会的名目論の社会現象への応用2	
社会的实在論と社会的名目論の社会現象への応用3	
まとめ	

テキスト

特に定めない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『自殺論』	E.デュルケーム / 中公文庫 /
『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	M.ウェーバー / 岩波文庫 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

現代生活論 S
生活経済論 S

12801

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

私たちは、「家族」「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属し、日々「生活」を営んでいる。日常「生活」をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、もっとも身近な「生活」空間としての「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講に際しては、社会学の基礎知識を有していることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	講義に関する総合的理解
日常点 (小テスト)	50 %	個別テーマに関する理解および批判的検討

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション - 現代生活論の基礎概念	
今日の生活構造の形成過程と「家族」 ライフコースの歴史的变化	ライフコース、ライフスタイル、ポスト青年期
今日の生活構造の形成過程と「家族」 「近代家族」の誕生	近代家族、心性、歴史社会学
今日の生活構造の形成過程と「家族」 結婚の変化	セクシュアリティ、ロマンティック・ラブ、モノガミー、親密性
今日の生活構造の形成過程と「家族」 親子関係のゆらぎ	実子主義、生殖技術
少子・高齢社会の「生活」 子育ての「社会化」	ケア労働、ババ・クォータ、社会化、私化
少子・高齢社会の「生活」 介護の「社会化」	遠距離介護、男性介護
少子・高齢社会の「生活」 福祉国家の変容と「生活」	福祉多元主義、人稱的連帯、非人稱的連帯
企業社会の変容と「生活」 企業社会の変容とジェンダー	ジェンダー、日本型企业社会、労働の女性化、ワークシェアリング
企業社会の変容と「生活」 アンペイドワークをめぐる課題	ペイドワーク、アンペイドワーク
地域社会の変容と「生活」 生活経済と地域づくり	地域通貨、ボランティア
地域社会の変容と「生活」 新しい地域社会の創出	サスティナブル・コミュニティ
グローバル化と「生活」の構造変動	グローバリゼーション、個人化
現代生活論の可能性と課題	

テキスト

指定しない。適宜講義の中で紹介する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

20世紀の科学 = 技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は"紛争と革命の世紀"でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って"ゆらぎ"始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞やニュースに普段から接するように心がけること、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る
レポート	10 %	講義内容あるいは特別講義に関するもの
日常点(小テスト)	10 %	出席点を加味する

* 定期試験として実施 成績評価 = 単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します。

講義スケジュール

内容	キーワード
以下の概要で講義を行なう予定である。 歴史認識と政治学の視点、第1回：現代という時代 20世紀から21世紀へ 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀	20世紀
第2回：政治学の方法と課題 グローバル・プロブレマティクとは何か	政治学、グローバル・プロブレマティク
現代政治の諸相 国家、民族、紛争 第3回：「国民国家の拡大と"ゆらぎ" 相対化の時代」か	「国民国家」、「相対化の時代」
第4回：国家とは何か	国家
第5回：国家形成と国民形成	国家と国民
第6回：民族とは何か	民族
第7回：現代民族問題の概観(1) 人種、言語、宗教との関わりで	人種、言語、宗教
第8回：現代民族問題の概観(2) いくつかの事例を中心に	民族問題の現状
第9回：「国民国家」と民族問題の将来	国家と民族問題の展望
分析枠組、第10回：「世界システム論」の方法	世界システム論
第11回：「世界システム論」の意義と問題点	世界システム論
第12回：「国際社会学」の方法 超国家・国家・地域ないし民族	国際社会学
第13回：「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第15回：グローバル・ガヴァナンスとグローバルデモクラシー	グローバル・ガヴァナンス、グローバルデモクラシー
まとめと展望：グローバルデモクラシーの可能性 「2001.9.11」以前と以後で何が変わったか？グローバル化とリージョナリゼーション、ナショナリズムの相克現代社会のゆくえと主体形	「グローバル化」の時代

テキスト

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書

現代の世界的状況を理解するための参考書として、D.ヘルド編(中谷義和監訳)『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業の中で紹介します。

その他

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

Democracy has become a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What is the relationship between democracy and individual rights? What is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

All classes will be conducted in English.
Students will need to prepare for classes by reading selected articles written in English, completing short answer worksheets and by learning key vocabulary.

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	20 %	final test in the last class
レポート	20 %	several written assignments during the semester
日常点(小テスト)	60 %	attendance; participation; student presentations; regular short-tests

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
Orientation: key concepts and questions	Reading from R. Dahl, 'On Democracy'
Athenian democracy	Reading from R. Dahl, 'Democracy & Its Critics'
Citizenship in Athenian democracy	Reading from I. Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'
(Short Test#1); Liberalism	Reading from G. Sorenson, 'Democracy & Democratization'
Representative government	Reading from D. Beetham & K.Boyle, 'Introducing Democracy'
Electoral systems	Reading from D. Beetham & K.Boyle, 'Introducing Democracy'
A right or a duty? Should voting be compulsory?	Readings: Puplick, 'The case for compulsory voting'; McGuinness 'The case against compulsory voting'
(Short Test#2); Measuring democracy #1	Reading from R. Dahl, 'On Democracy'
Measuring democracy #2	Reading from Freedom House survey, 'Freedom in the World'
The Third Wave of Democracy	Reading: R. Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'
Globalization: some implications for democracy	Student research for presentations in Wk 13
Global democracy and the UN: Student presentations & discussion	Reading from J. Fishkin, 'The Voice of the People'
The Deliberative Poll: An effective way of deepening democracy?	
Final examination	

テキスト

No set textbook.All materials for this course will be provided by the instructor.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 久保 和洋

講義内容・テーマ

都市形成の二つの論理と京都

都市の形成には二つの原理があるようです。一つは権力によるそれと、都市住民の自治によることです。そしてこのふたつの都市は、都市が都市として存続するためには、いくつかの条件(都市構造)があります。本講義では、遠回りですが、前者の都市の典型で、都市構造を明確に示している古代都市を通じて、都史とはなにか(都市理論)を考えてみたいと思います。その上で、古代都市である平安京を引きずる京都を、歴史的にその都市構造の特徴を捕らえ、近代・現代の都市形成の原理のなかでの今日の京都の都市状況を考えてみたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

できるだけ日常、新聞を読み社会の動きに注意してください

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	講義についての基本的な理解を最低限の基準に、論理形成、独自性を評価基準
日常点(小テスト)	20 %	講義についての基本的な理解を評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

ビデオ(都市の成立、歴史遺産シエナ)

古代都市の成立、その諸側面(宗教・経済・文明・都市と農村・道路・居住)

アテネと自治都市、その諸側面(宗教・経済・文明・都市と農村・道路・居住)

シエナ;自治都市の都市景観

京都は古代都市か、平安京の歴史的、都市的特性

「町」(町内会)の成立

都市(神)祭 = 祇園祭と自治都市、その今昔

都市集住の「町屋」の特性、自治の空間的特徴

「町」の自治力の根源・土地規制・職住の都市

京都、二つの都市計画 = 郊外と都心、近畿住区論

国土利用計画と都市計画・・・日本の都市計画の特徴

道路交通と都市・・・自動車は都市を変える

もう一つの都市 = 生活都市、その住居、交通、担い手他

まとめ

試験

テキスト

テキストは定めません。随時参考文献を紹介します

参考書

テキストは定めません。随時参考文献を紹介します

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	鈴木 隆				

講義内容・テーマ

この講義では、現代という時代を、生産力が、人の自然な消費の水準を超えて成長した時代としてとらえ、その文化を、この過剰に供給される商品を食い尽くす消費の欲望が創出されるライフスタイルとして論じて行きたいと思う。そして、この過剰な、もしくは肥大した欲望の充足に至上の価値を置くライフスタイルが、高度成長期以降の日本の社会においてもたらしていた、思いもよらぬ帰結について論じたいと思う。なお、こうしたテーマを論じるにあたって、必要最小限の理論的前提として、「アノミー論」について、講義の最初の部分で、少し詳しく話す予定である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義では、かなり詳細な資料を前以って配布し、これに沿って講義を進める予定であるが、これは教科書ではないし、また、講義の方も、この資料の棒読みとなるわけでもない。比喩的に言えば、この資料は、楽譜のようなもの、つまり、楽譜を見るだけでメロディーを鑑賞できるのは、概して、専門家だけであり、大部分の人にとっては、すでにそのメロディーを聞いたことがあるから読むことが出来るものなのだとすることを、前もって警告しておく。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	複数出題の中から一問を選択する筆記試験。

* 定期試験として実施

テストの一発勝負。ただし、講義内容の理解ポイントになるようなキーワードもしくは、キー概念を提示するように心がけるつもりであり、その意味がどの程度、理解できているかを重視する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
富が貨幣として存在することが一般化することの文化的意味	賞味期限のない富
「分業社会」としての近代社会	有機的連帯とシステム
無規制的分業としての「アノミー」	社会規範
「自殺論」とアノミー	集団の凝集性
欲望……近代人固有の苦悩/「金色夜叉」について	アノミー自殺
20世紀、欲望が走った/百貨店と「買い物」の変質	人為的に加速された消費のサイクル
マスメディアの時代/R.マートンのアノミー論と映画「駅馬車」	夢見ることの平等な社会のパラドクス
ワイアット・アープ/エリオット・ネス/ダーティ・ハリー	正義の味方はどんな悪党とも必ずピストルで戦う
資本主義は、何故、巨大な消費を必要とするのか?	需要と供給
資本主義は、いかにして、巨大な消費を調達するのか?	マスメディアと消費社会
映像資料の上映とディスカッション	
高度成長と高齢化=少子化社会の兆候	過剰な消費
アノミーの一形態としての高齢化=少子化	家族の機能の縮減
定期試験	

テキスト

テキストは使用しない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代社会の理論	見田宗介 / 岩波新書 / 4-00-430465-2
「欲望」と資本主義	佐伯啓思 / 講談社現代新書 / 4-06-149150-4

その他、講義資料の中で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中にいくつか紹介する。

その他

いくつか、教材として、資料映像を用意するが、少なくとも一回は、長時間のビデオを上映し、その内容について話し合う時間を設定したいと思っている。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

メディアとコミュニケーションの歴史を概観しながら、メディアについての基礎的な話をした上で、電波メディア、映像メディアが引き起こした三つの出来事(宇宙戦争事件・ナチスのプロパガンダ・高度消費社会)に、主に焦点を絞って、マスメディアの時代としての現代という言葉の意味を明らかにして行きたいと思う。また、私が担当する「現代文化研究N」(後期・月6限)では、とくに「高度成長」に関して、この講義の続編的内容を含む予定なので、興味があれば、是非とも受講してほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

様々なエピソードとか資料映像を多用したいと思う。リラックスして聞いてほしい。また、詳細な資料を配付し、これに基づいて講義を進めて行く予定である。ただし、これは教科書ではないし、また、講義は決して、この資料の棒読みのような内容にはならないつもりなので、資料を読んでおけばテストは何とかなるなどというなめた考えは持たないように。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	複数出題から一問選択の記述問題(の予定)。

* 定期試験として実施

テストの一発勝負！：テストは正確な記憶よりも、ユニークな連想、論評を期待したい。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会と言語の発生の経緯について	血縁集団と社会
直接表現メディア/伝言ゲームの頼りなさについて	情報保存の手段としての記憶
代行表現メディア/記憶の彼方の過去からの手紙としての「日記」	文字と古代国家
機械表現メディア-1/複製技術	作家の出現
機械表現メディア-2/通信技術	情報のテレポーテーション
通信メディア補論/長篠合戦での「鉄砲の三段撃ち」は絶対にウソだ	メディアとシステム
新聞/議会制民主主義と、言論・報道の自由について	
日本新聞小史/自由民権論争と白虹事件	
戦争と言論統制-ゾルゲ事件	ジャーナリズムということ
ナチズムと大衆操作-ゲッベルスの映像プロパガンダ理論	映像と疑似イベント
「自由からの逃走」と疑似イベント	自由であることの重荷
ルワンダ・「千の丘ラジオ」虐殺事件	
高度成長=高度消費社会/テレビの時代	過剰な消費
定期試験	

テキスト

テキストは使用せず、資料を配布し、これに基づいて講義を進める。

参考書

「古代都市国家と楔型文字」、篠田正浩インタビュー「私とゾルゲ事件」、「メディアと権力:ゲッベルス」、「ルワンダ虐殺事件と扇動ラジオ放送—なぜ隣人を殺したのか」:以上の映像資料を当方で用意する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中、適宜、指示する。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 重森 臣広

講義内容・テーマ

この講義では、イギリスにおける社会政策領域の発展を促した救貧法(Poor Law)の歴史的動向をとりあげる。およそ350年におよぶ歴史をもつこの制度は、困窮者の社会的救助の理念を基本にすえながらも、時代の変化とともに様々な要素が付加され、改訂され、また社会的な論争の焦点となってきた。家族手当をはじめとする所得補給、社会的に周辺部分に位置する人々の隔離収容、独立生活への復帰をめざしたフィランソロピ運動、公的な予防医療などのアイデアはどれも、この制度の改訂や批判の中から生まれてきたものである。ここでは、救貧法という制度をめぐってどのような政策理念が交錯してきたのかについて思想史的な考察を行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は担当者が用意した配布物にそって行なわれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施 論述式の試験。持ち込みは不可。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

救貧法制の概観

1790年代の救貧法危機とこれにたいする知的応答(1)

1790年代の救貧法危機とこれにたいする知的応答(2)

ジェレミー・ベンサム「全国慈善会社」構想(1)

ジェレミー・ベンサム「全国慈善会社」構想(2)

1834年の改訂救貧法とその思想的背景(1)

1834年の改訂救貧法とその思想的背景(2)

就労支援のパラダイム：COSと道徳的再生の探求

就労支援のパラダイム：チャールズ・ブースと労働市場の組織化構想

就労支援のパラダイム：ウェブ夫妻と普遍的支援・規律

英国優生運動と困窮者問題(1)

英国優生運動と困窮者問題(2)

統治の科学化と科学の統治資源化

まとめ

テキスト

講義は担当者が用意した配布物にそって行なわれる。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
福祉国家再編の政治	宮本太郎編著 / ミネルヴァ書房 /
イギリス社会保障の史的研究(I)(II)	榎原朗 / 法律文化社 /

その他の文献については講義のさいに適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/shige2/biblio2/search.htm>
<http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/shige/sgb/chronology.html>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

テーマ:「現代広告論」

本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。受講する学生には、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的には広告理論を講義形式で解説する。不定期であるが授業の後半で個人レベルでの短い課題に取り組むこともある(例:雑誌広告を広告の機能別に分析するなど)。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	教科書およびノートなどの持込は不可
日常点(小テスト)	30 %	不定期に授業内で課題を課し、各内容がどの程度理解できているかを判断する。
その他	10 %	受講姿勢など

定期試験と共に、課題等各授業への態度も重視する。広告論全般に関しての包括的な理解を目的とする。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
広告の歴史および定義	
広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	
広告産業とは、特に広告代理店の役割と今後の方向性	
広告のブランド構築への役割	
広告戦略立案プロセス	
表現戦略(1)(TVCMの制作プロセスと表現の吟味)ACC賞受賞作品の解説	
表現戦略(2)タレント広告の役割とその功罪	
メディア戦略	
IMC戦略	
広告の効果測定(質的/量的な広告調査)	
アカウントプランニングとコンシューマーインサイトの発見	
現代の情報環境の中での広告の役割(新しいメディアの出現)	
CSR(企業の社会的責任)と広告	
講義の総括	

テキスト

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『現代広告論』	岸志津江、田中洋、嶋村和恵/有斐閣/4-641-12082-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

公的扶助論 S
公的扶助論 SG

11757

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

Course description 公的扶助とは、生活に困窮する者に対し、その者の資力と需要を調査した上でその必要に応じて、公的な一般財源から支出される経済給付を意味する。諸外国の公的扶助制度としては、社会扶助、所得扶助などと呼ばれるものがある。一方、わが国の公的扶助の中核をなすのが生活保護である。現行生活保護法は、1950年5月に制定され今日に至っている。この制度は日本国憲法第25条に規定する理念に基づいており、わが国の社会保障制度の根幹をなし、国民生活にとって最後のよりどころとなっている。本講では、実践編として生活保護制度のあらましを平易に解説し、理論編として貧困・社会的排除概念を講述する。また、社会福祉士試験に対応するように留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction 近年のグローバル化に伴い、経済発展の地域間格差、貧富の格差の拡大等が深刻化している。グローバル化はまた福祉国家の再編を進めてきた。その結果、競争原理を働かせて、効率化や質の向上を図ろうとする行政管理が行われている。権利と義務を直接的に結びつけるワークフェアがその一例である。真のセイフティネットとは何か。公的扶助と相談業務を技術論として学ぶだけでなく、上記のマクロ的視点をもって受講して欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	論述試験
レポート	50 %	市町村の生活保護行政に関する調査レポート(2回)

* 定期試験として実施する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
生活保護制度のあらまし	基本原理と原則
保護とはどのようなものか	保護の種類と範囲、8種類の扶助
保護の要否判定の仕方	世帯認定、保護基準、収入認定等
被保護者の権利と義務	被保護者の権利と義務、不服申し立て、行政訴訟
最低生活費の計算の仕方	第1類費、第2類費、加算額、住宅扶助、教育扶助、介護扶助、医療扶助等
収入認定額の計算の仕方	勤労収入、事業収入、農業収入、その他収入
市町村の級地	1級地-1、1級地-2、2級地-1、2級地-2、3級地-1、3級地-2
福祉事務所の機構	社会福祉法、ケースワーカー、査察指導員等
具体的事例	
ヨーロッパの社会的排除	deprivation, social exclusion, social inclusion
イギリスの公的扶助	welfare to work
イギリスの地域再生・ソーシャルインクルージョン	single regeneration budget
朝日訴訟の再考	憲法25条・生存権、人間裁判
生活保護とホームレス	ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
保護のてびき	厚生労働省・生活保護制度研究会 / 第一法規出版 /

社会福祉士受験対策として、『社会福祉士要講講座6 公的扶助論』中央法規

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
生活保護法の挑戦	木下秀雄編著 / 高菅出版 /

特になし

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省ホームページ

その他

特になし

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

特定の文化的、社会的背景から生まれた教育思想の実践例を検証する。「学校教育」をめぐる問題群を社会、文化的コンテキストの中で学際的な視野でとらえなおす。大きくわけて四つのテーマをとりあげる：1)国家形成と教育施策 2)芸術/音楽と教育施策(例:ハーレムの音楽活動、シュタイナーの芸術教育)、3)コミュニティと教育施策(例:アメリカのチャータースクール)。4)変わる学校

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

アカデミック・ペーパーは、ワープロで打ったもののみ受け付ける。電子メールで提出物は受け付けしない。テキストの購入は、初回の授業に出席して、担当者からの授業の展開方法に関する説明を聞き、どのテーマに絞るかを各自が決めてからにすること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	50 %	授業中に提出するリアクション・ペーパー10回、それに基づいた発表
その他	50 %	学期中に提出するペーパー二つ

* 日常点評価

期末試験なし。平常点評価。アカデミック・ペーパーを開講中に*B評価以上*のペーパーを最低二つ。希望者は三つ提出してもよい。(50%+)。授業中に書いてもらう14回の課題リアクション・エッセイ(50%)のうち、最低10回は提出必要。ペーパーの提出締切日の講義開始時間より20分以内に提出なきものは、いかなる事情でも受け付けない。メールでの提出は認めない。シラバスの変更があるかもしれないので欠席したら必ずWeb CTでの掲示を確認。#1、#2のペーパーでC評価の学生はやり直し可能。ただし「F」評価を貰った人は再提出資格なし。#3のペーパーは再提出の資格なし。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
平和教育 ユネスコ憲章	
海外の日本人学校	
被抑圧者の教育学	
脱学校社会	
シュタイナー教育：カリキュラム	ペーパー #1 提出日
シュタイナー教育：芸術教育	
シュタイナー教育：福祉とコミュニティ	
学校が変わる：東京品川区	ペーパー #2 提出日
校長のリーダーシップ：イギリス	
市民が創る学校：米国チャータースクール	
NPOとハーレムの音楽学校	
「生きる力」：ジョン デューイ：カリフォルニア州のカリキュラム	
OECD調査と国家戦略 フィンランド	
OECD調査 ドイツ	#1、#2 C評価再提出日 及び #3 締切り

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
「脱学校の社会学」	イヴァン・イリイチ//
「被抑圧者の教育学」	パウロ・フレイレ//
「シュタイナー教育を考える」	子安美智子/朝日文庫/4022604530
「競争しなくても世界一：フィンランド」	福田誠治/アドバンテージサーバー/4901927264

ペーパーの内容は授業で詳しく説明するのでその指示に従うこと。当日、欠席したものはWeb CTで「ペーパーのルール」をダウンロードして参照。最も重要なことは自分なりのテーゼを序文で明確にする。本論でテーゼを支える根拠(事例、データ、経験など)を述べる。段落は必ず序文、本文、結部に分ける。A4で3-4枚。直接引用した箇所は必ず「」をつけ文末脚注を最後につける。3行以上の直接引用は避ける。他人の業績、インターネットからの写しは不合格。参考文献リストは原稿の文字数に入らない。ペーパー提出後、教員からのフィードバックを送るのでその方法は授業で説明する。映像を多く使用します(ビデオ、パワーポイント)。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

使用する教室に大きく影響しますので受講しないと決めた人は、めんどうでも開講時に登録を取り消して下さい。オフィスアワーについては、開講期間中、Web CT を参照。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

21世紀に入って経済のグローバル化が今後ますます進行すると思われるが、それと共に、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層のグローバル化が求められることになる。とはいえ、第一次世界大戦の終結と共にILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を超えて明確に国際化の方向性を示してきた。本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、すなわちグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を解明することを課題としている。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現われているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常的に新聞などを通じて労働問題や社会政策の動向に注目すること。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかに関心を持つこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	10 %	
日常点(小テスト)	10 %	

* 定期試験として実施

出席を重視し、適宜コミュニケーション・ペーパーやレポートの提出を求める。評価は、期末試験以外にもこれらの項目を加味して行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
I) 社会政策の基礎理論	1) 社会政策とは何か 2) 社会政策の道義論 3) 社会政策の政治論 4) 社会政策の経済理論
II) 国際社会政策の登場 格	1) 国際社会政策の概念 2) 国際社会政策の内容と性 3) 国際社会政策成立への途 4) 国際労働者保護立法協会の成立
III) ILOの機能と日本	1) ILOの機能と戦前の活動 2) ILOと日本(その一) 3) ILOと日本(その二)
IV) 現代の国際社会政策 権	1) 国際社会政策と基本的人権 2) ジェンダーと国際社会政策
定期試験	

テキスト

テキストは用いない。講義の初めにレジュメや資料をその都度配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
福祉国家とジェンダー・ポリティクス	深澤和子著 / 東信堂、2003年 /
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィットワース著 / 武者小路公秀(代表) 監訳 / 藤原書店、2000年 /
社会政策－国際化・高齢化・雇用の弾力化	石畑良太郎・牧野富夫編著 / ミネルヴァ書房、1999年 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ilo.org>

<http://www.socialeurope.com>

その他

現代世界における労働と福祉とジェンダーの諸問題に関心を持ち、しかもそれらを歴史的かつ国際的視点から考察することに興味のある学生の積極的参加を期待する。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がますます進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わりつつあります。それは、経済や社会のガバナンス(統治)のあり方を変えつつあります。また、市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いままを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメや資料を配布して講義を行う。参考文献を参照。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	講義の理解度を考査。持ち込みは不可。
その他	20 %	出席を2 - 3回とり、それを出席点として加味する。

* 基本的に試験によって評価するが、出席店も加味するので、A以上を取るためには出席は必須である。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

グローバル化とはなにか - いつ始まり、その定義は？

経済のグローバル化 - 資本の文明化作用

経済のグローバル化 - その特徴

グローバル化をめぐる議論 - 3つの考え方

多国籍企業 - グローバル化を推進する主体

多国籍企業 - 多国籍企業の光と影

グローバル化とリージョナル化 - EU統合

グローバル化と市民権 - EUに見る市民権問題

グローバル化と市民権 - 多文化共生と市民権

コラム - 日本における定住外国人と市民権

グローバル化と開発途上国 - 貧困問題

グローバル化と開発途上国 - 社会・人間開発へ

グローバル市民社会の可能性

まとめ

テキスト

特に、テキストは指定しない。参考文献を参照。また、講義はレジュメに沿って行われる。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳 / 法律文化社 /
『貧困と人間開発』	UNDP / 国際協力出版会 /
『ラテンアメリカの開発と福祉』(宇佐見編『ラテンアメリカ福祉国家論序説』)	篠田武司 / アジア経済所 /
『ヨーロッパ市民の誕生』	宮島喬 / 岩波新書 /

レジュメを配布し、それに沿って講義を進める。また、参考文献は上記以外にも授業中に適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.europa.eu.int>

<http://www.worldbank.org>

その他

社会経済学が専門。人間らしい生き方が可能な経済社会とは何か、を勉強している。地域研究としては、働くことと生活することとのバランスが取れた社会を作り出してきたスウェーデン、ならびにグローバル化の中で格差がひろがり、苦闘している開発途上国、特にラテンアメリカを対象として調査。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 中嶋 陽子

講義内容・テーマ

前半は、主に、具体的説明を混じえて、ネットワーキングの特徴に焦点を当てる。中盤からは、90年代以降、国際社会で注目されるようになったグローバリズムと社会開発・人間開発との交錯を念頭に、国連とNGOの関係調整部署の役割と機能について、学ぶ。終盤は、事例研究として、1、2の団体を取り上げ、詳細な分析を試みたい。なお、科目の内容上、関連HPは英語のものもあるが、なるべく当事者たちの一次情報に接したいと考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者の周辺で活動しているNPOやボランティア団体に関心を持っていただきたい。その活動内容よりも、むしろ組織運営のしかたに注目してもらいたい。受講者が団体やグループのメンバーである場合、臨場的な省察が可能な機会として、授業に臨んでもらえれば幸いである。なお、海外HPについては、英語に抵抗のある場合、PC翻訳機能をフル活用されたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	90 %	試験に代わるレポートを1本課す。
その他	10 %	プレゼンや自主報告、自主レポートにつき、上限10点として、レポート評価に加点する。

* 試験に代わるレポートとして実施

試験に代わるレポート一本に教室での姿勢が加味される。C - 授業概要が理解できているが、基本的な点での誤解が散見され、コメントが感想文レベルのもの。B 基本的な点での誤解が少なく、コメント部分が感想以上の説得力を持って書いているもの。その上で、授業への積極的参加、報告などを加点対象とし、総合的に優れたものをA、秀逸なものをA+とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ネットワークによる社会的コミュニケーション	2) 文脈
個人とネットワーク	3) 差異性
組織動態とネットワーク	4) 場の設計
情報の中の関係性	5) 情報の蓄積
ネットワークと自己組織化	6) 動的情報
文脈の拡張	7) 異質性の連結
国際社会のなかのネットワーク	8) インターガバメント
NGOと国連NGLS	9) 社会開発・人間開発
大規模NGOの国別・地域別「支部」	10) ツリー型組織
群発的なNGOの国際的連携行動	11) ドメイン
NPO/NGOの国際ネットワーク事例	12) ミッション
同上 動的情報の文脈化	13) 資源の動員
同上 変幻自在と連結性	14) 情報の編集
まとめ	

テキスト

なし。適宜プリント配布するが、自分の授業ノートをつくる。

参考書

大畑裕嗣ほか「社会運動の社会学」有斐閣 2004
 UNDP 人間開発報告書2003「ミレニアム開発目標と人間開発」国際協力出版会 2003(下記HPで概要閲覧可能)
 同上報告書1999「グローバリゼーションと人間開発」国際協力出版会 1999
 今井賢一ほか「ネットワーク組織論」岩波書店 1988

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

グリーンパル緑の国際ネットワーク <http://www.greenpal.org>
 日本キリスト教海外医療協力隊 <http://www.jocs.or.jp>

国際協力NGOセンター <http://www.janic.org>

ILO <http://www.ilo.org>

国連開発計画 <http://www.undp.or.jp>

その他

授業中に対応する。(非常勤であり、時間外は団体代表として多忙を極めるため)

国際福祉論 S
比較福祉論 S
国際福祉論 I

14639

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

「国際福祉」という学問分野は未開拓の分野であるため、「比較福祉」という視点から講義する。この講義では、国際比較の視点から、特に「労働」と「福祉」について考え、これからの日本の福祉社会のあり方を探る。講義は主に次の手順で行われる。まず第一に、国際福祉の方法について講義する。特に福祉社会を国際比較の視点から捉えるための枠組みを提示する。第二に、主にオランダ、日本を対象として比較福祉論を講義する。具体的には、失業問題、女性の労働、家庭生活と仕事、高齢者の就業といった個別の領域について国際比較の視点から講義する。第三に、国際比較から各国の福祉の実態を相対化し、日本のこれからの福祉について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基礎的な知識があること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	講義中の小課題
日常点(小テスト)	30 %	出席点
その他	40 %	最終講義日試験

出席点・小課題(レポート)・定期試験による総合評価。講義期間に何度か小課題レポートを実施する。レポート等を提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。遅刻・早退は厳禁。出席等は厳しく評価するので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
福祉国家の考え方	
福祉国家の考え方	
福祉国家の考え方	
福祉国家の考え方	
イギリスの福祉改革	
イギリスの福祉改革	
日本におけるジェンダーと労働	
日本におけるジェンダーと労働	
福祉と自立の概念 - 開発途上国の貧困問題と福祉	
福祉と自立の概念 - 住民の自立と福祉	
オランダの生活と福祉	
オランダの生活と福祉	
まとめ	
最終講義日試験	

テキスト

テキストは特に指定しない。講義中に参考文献を随時紹介する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能	富永健一 / 中公新書 /
仕事と家庭生活の調和 - 日本・オランダ・アメリカの国際比較	前田信彦 / 日本労働研究機構 /
ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ	アラン・ウォーカー / ミネルヴァ書房 /

そのほかの参考文献は、講義中に紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデートな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

下記の行為をする受講生は「F」評価となる。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室などマナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	25 %	論述式
レポート	25 %	中間レポート(必須)
日常点(小テスト)	50 %	出席および授業の理解力・表現力、講義中の質問、議論における発言の積極性

教員はガイダンスで詳細な説明をする。受講者には納得してもらった上で受講登録してもらっている。そのため、ガイダンスには必ず出席すること。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

講義のガイダンス(授業の趣旨、達成目標、成績評価方法)

NGOの台頭とその社会的背景

「政府の限界」とNGOの「機動性」 「国境なき医師団」を事例として

日本のNGOの活動分野と協力形態 児童支援NGOを事例として

NGOの活動分野と協力形態 環境NGOを事例として

NGOと人権 アムネスティ・インターナショナルを事例として

NGOと国際化 多文化共生に取り組むNGOを事例として

NGOの新たな戦略 「マイクロクレジット」を事例として

NGOの新たな戦略 「フェア・トレード」を事例として

NGOを取り巻く環境 政府とのパートナーシップをめぐって

NGOを取り巻く環境 国連とのパートナーシップをめぐって

NGOを取り巻く環境 グローバリゼーションによる社会構造の変化

まとめと振り返り

テスト

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
ハンドブックNGO 市民の地球的規模の問題への取り組み	馬橋憲男、斎藤千宏編著(1998)/明石書店/

参考書

講義中に指示する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この授業を通じて、一般メディアから流れる国際社会の情報とは違った角度から社会を見ていくことができるかもしれません。

国内インターンシップ(専門) GA
 国内インターンシップ GA
 海外インターンシップ GA
 海外インターンシップ(専門) GA

13502

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 2以上
 担当教員 加藤 敏明

講義内容・テーマ

本科目は、インターンシップオフィスで募集する「立命館大学全学インターンシップ・プログラム」であり、全学の学部学生(2回生～4回生)を対象に単位認定をおこなっている。このプログラムで単位認定を受けるためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い(登録料を納入)、インターンシップオフィスが実施する「事前・事後研修」をすべて受講すること。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末～4月に実施するガイダンスで発表予定。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)を受講するのが望ましい。また「全学インターンシッププログラム」で学習した内容を一段と深めるために、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	20 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する
日常点(小テスト)	70 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する
その他	10 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する

評価は、事前事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)を総合的に判定し行います。中でも、出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん、遅刻は厳禁です。

講義スケジュール

内容	キーワード
事前研修	
事前研修	
インターンシップ研修(夏季休暇期間中に実施されるものを基本とする)	
事後研修	

テキスト

特に指定なし。

参考書

特に指定なし。必要に応じて適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特に指定なし。必要に応じて適宜指示する。

その他

国内インターンシップ(専門) GA

14294

国内インターンシップ GA

海外インターンシップ GA

海外インターンシップ(専門) GA

特殊講義(基礎) (インターンシップ) GA

特殊講義(基礎)1(インターンシップ) GA

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
 担当教員 加藤 敏明

講義内容・テーマ

本科目は、インターンシップオフィスで募集する「立命館大学全学インターンシップ・プログラム」であり、全学の学部学生(2回生～4回生)を対象に単位認定をおこなっている。このプログラムで単位認定を受けるためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い(登録料を納入)、インターンシップオフィスが実施する「事前・事後研修」をすべて受講すること。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末～4月に実施するガイダンスで発表予定。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)を受講するのが望ましい。また「全学インターンシッププログラム」で学習した内容を一段と深めるために、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	20 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する
日常点(小テスト)	70 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する
その他	10 %	事前・事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)をもとに総合的に判断し評価する

評価は、事前事後研修への出席、インターンシップ研修、提出物(レポートなど)を総合的に判定し行います。中でも、出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん、遅刻は厳禁です。

講義スケジュール

内 容	キーワード
事前研修	
事前研修	
インターンシップ研修(夏季休暇期間中に実施されるものを基本とする)	
事後研修	

テキスト

特に指定なし。

参考書

特に指定なし。必要に応じて適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特に指定なし。必要に応じて適宜指示する。

その他

心のケア N
カウンセリング論 N

11584

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 松島 京

講義内容・テーマ

近年、私たちは「心のケア」という言葉をよく耳にする。そもそも、「心」とは何か、そしてその心をケアするとはどういうことなのだろうか。本講義では、「心のケア」とは何かということを用いるいろいろな角度から考えていく。その際には、臨床心理学的な視点だけではなく、相互作用や関係性の病理といった社会学的な視点も組み込んでいく。「心のケア」というテーマは、臨床の専門的な現場の実践だけに関わることではない。私たちの日常生活にも関わるものである。このことを、本講義を通して受講生が考える場となれば、と考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回の講義を重ねることによって、テーマへの関心が深まる構成となっている。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	授業の総括としてのレポート
日常点 (小テスト)	40 %	授業内容に関わる小レポート

*試験に代わるレポートとして実施
講義中の小レポートおよび期末のレポート試験によって、総合的に評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
心のケアに関わる歴史的背景(1)	
心のケアに関わる歴史的背景(2)	
災害や事故(犯罪被害)とPTSD	
暴力・虐待と複雑性PTSD	
「語る」ということ	
「聴く」ということ	
「心」と「ケア」	
回復するということ～実践事例(1)	
回復するということ～実践事例(2)	
回復するということ～実践事例(3)	
臨床現場における課題(1)	
臨床現場における課題(2)	
私たちと心のケア	
まとめ	

テキスト

必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
心的外傷と回復	J.L.ハーマン(中井久夫訳) / みすず書房 /
「聴く」ことの本質 - 臨床哲学試論	鷲田清一 / TBSブリタニカ /

その他必要な文献については講義中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

講義のスケジュールはあくまでも目安である。受講生からの意見を尊重し、柔軟に講義をつくりたいと考えている。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 大橋 喜美子

講義内容・テーマ

【講義目的と内容】 前半は子どもの発達と環境要因の関わり、表現と発達について学習する。後半は幼児教育を代表する先駆者の思想から、また、異文化から学ぶ子育てについてなど、さまざまな角度から論じ、子どもの心に響く子育て文化について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

各自がテーマに関心を持ち子育ての課題を明らかにしておく。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	講義における学びの他、自主的に文献から学び考察を行なった記述を期待する。
日常点(小テスト)	25 %	ミニレポートの記述において問題意識とその展望を論じる事。
その他	25 %	出席点を加味し日常的に学習に対する意欲や態度を期待する。
*試験に代わるレポートとして実施		レポート点等

講義スケジュール

内容	キーワード
子どもの発達と環境	0歳児 1歳児 2歳児 3歳児 4歳児 5歳児
子どもの表現と発達	ことば 描画 紙版画
幼児教育の原点	倉橋惣三と幼児教育 フレーベルと幼児教育
異文化から学ぶ子育て	地域の中で 保育園・幼稚園の場で
子育ての原風景を探る	自然が伝える教育 優しさと共感が語る心への響き

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
事例でわかる保育と心理	大橋喜美子 / 2002 朱鷺書房 /

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

メディアの産業化動向、さまざまなニューメディアの登場、そして近年におけるデジタル技術の発展などによって、既存のコミュニケーション制度の根幹を揺るがす変動が起こっており、社会的コミュニケーション全般について、包括的に考慮するコミュニケーション政策への要請は年々高まっている。本講義では、コミュニケーション政策論の成立に関わる歴史的経緯、政策論の展開および今日の状況、理論的枠組みおよび対立点について検討する。具体的には、日本と諸外国のメディア・システムおよび政策の動向を比較考察し、またメディアのグローバル化やデジタル化のなかで、どのような政策論議が展開されているかについても考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	試験に代わるレポート。
日常点 (小テスト)	30 %	講義内クイズ + 中間レポート (講義中に案内済み)

Grades: 100 Total points (90-100 or top 5%=A+, 80-89.9=A, 70-79.9=B, 60-69.9=C, 0-59.9=F)

Midterm report 1 or In-class Quiz = 15 points

Midterm report 2 = 15 points There will be no make-up report without a written doctor's excuse.

Take-home final exam: this is to be an 8-12 page paper based on course readings and your own survey.

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

最近の出来事から - 「NHK問題」、「ライブドア問題」 4 / 13

コミュニケーション政策とは何か - 定義、主体、範囲、含意 4 / 20

日本におけるメディア・システムの成立と政策 4 / 27

日本における放送政策の展開 - 「放送の自由・独立」、「政治的公平」などの争点を中心に 5 / 11

メディア政策と公共性 (1) 5 / 18

メディア政策と公共性 (2) 5 / 25

中間総括としてのクイズ 6 / 1

韓国のメディア・システムと政策の展開 (1) (6 / 8)

韓国のメディア・システムと政策の展開 - 外国性規制、日本文化禁止を中心に (6 / 15)

韓国のメディア・システムと政策の展開 - 民主化と放送改革 (6 / 22)

アメリカのメディア・システムの成立 6 / 29

アメリカにおけるメディア政策の展開および論点 (7 / 6)

関連ビデオ鑑賞および討論 (7 / 13)

コミュニケーション政策における論点 - 近年における論点の整理と討論 (7 / 20)

テキスト

指定しない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『データブック・世界の放送』	NHK出版 / NHK /
『通信・放送新時代の制度デザイン - 各国の理念と実態』	根岸毅・堀部正男編著 / 日本評論社 /
『公共圏という名の社会空間 - 公共圏・メディア・市民社会』	花田達朗 / 木鐸社 /
『アメリカのメディア産業政策』	菅谷実 / 中央経済社 /
『多くの声、一つの世界』	The International Commission for the Study of Communication Problems / 日本放送出版協会 /

その他の参考文献などについては、講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

日本放送協会 <http://www.nhk.or.jp>
日本民間放送連盟 <http://www.nab.or.jp>
日本新聞協会 <http://www.pressnet.or.jp>
F C C <http://www.fcc.gov>
韓国放送委員会 <http://www.kbc.go.kr>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

コミュニケーション理論 社会科学の方法としてのコミュニケーション論-「コミュニケーション」は、さまざまな思いをこめることのできる多義的なキーワードになっている。ますますビジネス化する生活に潤いをもたらすものとして、金銭づくの人間関係から癒された精神へと救済する途として、さらには、国際社会のなかで生き残る手だてとして、「コミュニケーション」がひきあいにだされる。しかしこうした日常的な使用とは別に「コミュニケーション」は現代の社会諸科学の共通のキーワードでもある。戦後の社会科学、つまり社会心理学、経済学、社会理論、情報理論などはそれぞれ「コミュニケーション」を軸として新たな歩みをはじめたといえるし、これらはそれぞれが多義的な「コミュニケーション」の特殊な面を取り上げたものともいえる。この講義では、「コミュニケーション」に関する考え方を軸として現代の四つの理論を順に検討して、四種の「コミュニケーション」イメージについて理解を深める。現代的なトピックスも利用するが、トピックスを軸とした構成でなく、考え方の骨格を学ぶことを目標として、方法論を軸にした構成を採用するので、やや難解であることは承知してもらいたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語は厳禁。基礎的専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。また確率論の初歩と対数に関する初歩的知識は前提とする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	客観テスト60% 論述40%
* 定期試験として実施	* 2004年度の成績分布は、A+3.8% A10.8% B32.8% C35.8% F16.7% であった。	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「コミュニケーション」と現代社会科学	
同調圧力としてのコミュニケーション1 状況の力	
同調圧力としてのコミュニケーション2 同意への圧力	
同調圧力としてのコミュニケーション3 沈黙への圧力	
戦略としてのコミュニケーション1 その選択は損か得か	
戦略としてのコミュニケーション2 裏切りと協調のはざま	
戦略としてのコミュニケーション3 説得と交渉	
議論としてのコミュニケーション1 議論のトウルミン・モデル	
議論としてのコミュニケーション2 「妥協」と「合意」の見分け方	
議論としてのコミュニケーション3 「市民社会」と日常生活	
通信としてのコミュニケーション1 不確実性と情報	
通信としてのコミュニケーション2 通信システム	
コミュニケーションと「場所」	
全体まとめと補足	

テキスト

レジメ(資料)を使用する。レジメは講義時教室でのみ配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『影響力の武器 なぜ、人は動かされるのか』	ロバート・B・チャルディーニ / 誠信書房 /
『世論 上・下』	W. リップマン / 岩波文庫 /
『沈黙の螺旋理論 世論形成過程の社会心理学』	N. ノイマン / プレーン出版 /
『囚人のジレンマ』	W. パウンドストーン / 青土社 /
『コミュニケーション行為の理論』	J. ハーバーマス / 未来社 /

参考になるWWWページ

その他

参加のデザイン論 S
市民参加論 S

14642

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

世間では「参加」が大流行。もはや「参加」を思索・啓蒙する時代ではない。参加の意味と必要性(あるいは必然性)を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。本講義では、環境創造(まちづくり)活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習も行いたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「参加」の「制度」論ではありません。事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと。なお、本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずですが。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	基本的には提出された「試験にかわるレポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
日常点(小テスト)	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

* 試験に代わるレポートとして実施 * 日常点評価 「試験にかわるレポート」を中心に評価しますが、評価には講義中出席がわりにたまたま書いてもらうミニレポートの回数を加味します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総論的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
参加のデザインってなに？	この講義の目的と位置づけ
「参加」の事例を見て考えよう...パート1	住み手参加(主体)の住まい・まちづくりであるコーポラティブ・ハウジング「ユークート」の事例から「参加」を考える
「参加」の事例を見て考えよう...パート2	40年にわたって住み手主体のまちづくりに取り組んでいる神戸市真野地区のこれまでの歩みと、震災時の自律的な活動、復興まちづくりの動きから「参加」を考える
ユークートから「参加」を読み解く その1	参加のプロセスのなかでの主体の変容をみることで、「参加」の意味や可能性、成立要件を明らかにする
ユークートから「参加」を読み解く その2	
真野まちづくりから「参加」を読み解く その1	まちづくりのプロセスとその特質を明らかにしつつ、多様な主体が関わる場合の「参加」の捉え方や成立要件を考える
真野まちづくりから「参加」を読み解く その2	
真野まちづくりから「参加」を読み解く その3	
行政と住民のパートナーシップ型まちづくり その1	近年の京都の事例を通して、「参加」における行政・専門家の役割やあり方を考える
行政と住民のパートナーシップ型まちづくり その2	
参加の手法を学ぶ その1	イキイキとした参加の状況を創り出す手法として近年盛んになっている「ワークショップ」の事例を紹介する
参加の手法を学ぶ その2	ワークショップの進め方や考え方を学ぶ
参加の手法を学ぶ その3	時間および講義規模が許せば、ワークショップ体験学習を行いたい
まとめ:「参加とはなにか	

テキスト

教科書は使わず、資料はプリントを配布する。

参考書

(下記以外は適宜講義のなかで指示する)

「都市計画から参加のまちづくりへ」乾(「新・人間性の危機と再生」飯田哲也他編著・法律文化社、所収)

「対話による建築:まち育てー参加と意味のデザイン」(日本建築学会「意味のデザイン」小委員会編・学芸出版社)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

最初にも書いたけど、第1週・第2週・第3週はいわば問題提起なので必ず出席のこと(この注意はちょっとへんやね...常に出席するのが当然です、勘違いしないように。念のため)

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかにか絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えるものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本来技術論は社会科学に属する学問です。対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもあります。そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提と致しません。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	通常通り Semester 末に行う
日常点 (小テスト)	10 %	講義中にレポートをかす

Semester 末に試験を実施し、それを成績評価の柱とするが、数度講義中にレポートを課す。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
導入1 技術発展と社会発展	発展
導入2 技術開発と普及のタイムラグ	帆船と汽船
導入3 「大型化の利得」について	表面効果と体積効果
産業革命論1 道具と機械	機械 産業革命
産業革命論2 大量生産	産業革命 大量生産
工作機械論 汎用と専用	工作機械 汎用
フォーディズム1 流れ作業	コンベア流れ生産 テーラーシステム
フォーディズム2 フォードとGM	仕様変更
日本的生産様式1 「リーン生産方式」	JIT カンバン QC
日本的生産様式2 FMS	NC FMS
ロボット論	ロボット Rキューブ
半導体工業論	半導体 IC
エレクトロニクス製品の現状 楽器の問題	PCM デジタル
まとめ	

テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『技術と労働』	大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9 c0336
『アメリカンシステムから大量生産へ』	D.A.ハウンシェル / 名古屋大学出版会 / ISBN4-8158-0350-1

随時紹介していきます

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル(労働や生活をめぐる生き方)に焦点を絞り、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をみつかが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用(不況)、女性、若もの/子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント(コミュニケーション・ペーパー)を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点(小テスト)	20 %	講義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する可能性がある

* 定期試験として実施

講義の基本的な内容の理解を問う試験をする。講義へのコメントは、評価に加味する場合もある。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
本講義の産業社会学について	社会学、産業社会学
現代社会と生活スタイル1 現代社会論と日本社会の位置	現代社会論
現代社会と生活スタイル2 社会学理論と生活スタイル	生活スタイル
日本社会と生活スタイル1 日本社会の変容:企業社会から新自由主義社会へ	企業社会、新自由主義社会
日本社会と生活スタイル2 活志向と企業社会志向	私生活志向、企業社会志向
日本社会と生活スタイル3 企業社会志向)をめぐって	両方志向
日本社会と生活スタイル4 日本人論、日本的集団主義論をめぐって	日本的集団主義
日本社会と生活スタイル5 企業社会の病理とその変容	会社人間
日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容	業績原理、縁辺化、階層化
日本社会と日本人の諸層2 女性の社会的進出	M字カーブ、男女共同参画
日本社会と日本人の諸層3 若もの/子どもの意識変容	知と人、教育改革
日本社会の変容と生活スタイル1 現代社会のこれから	第三の道、共同体主義
日本社会の変容と生活スタイル2 日本社会のこれからと新しい生活スタイル	自分たちの社会
まとめ	

テキスト

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『変容する企業と社会』現代日本の再編ム』	浪江巖・木田融男・守屋貴司編/八千代出版/
『企業社会・日本はどこへ行くのか』	渡辺治/教育史料出版会/
『転換期の人間と社会』	佐々木嬭代三・中川勝雄編/法律文化社/
『変貌する社会と文化』	木田融男・佐々木嬭代三編/法律文化社/

浪江巖・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会-現代日本の再編-』八千代出版。

渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会

佐々木嬭代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社。

木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 要 真理子

講義内容・テーマ

デザインは近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっている。この講義では、産業革命以後の、とくにイギリスのデザインに注目する。イギリスにおいて、実際にどのようなデザイン活動が展開したのかを具体的に検証し、そこから他国と比べてデザインにおける工業化が遅れた原因を探りたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回スライドを使用し、複数の対象(例:装飾品、建造物)について説明するので、そのなかで重要と思われるものについてはそのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでもらいたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

おもに最終試験または最終レポートによって評価するが、セメスターの途中で小テストを行う場合がある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
高級な芸術と低級な芸術	
ロンドン万国博覧会(1)	鉄、ガラス
ロンドン万国博覧会(2)	
ウィリアム・モリスの理論と活動(1)	
ウィリアム・モリスの理論と活動(2)	
アーツ・アンド・クラフツ運動(1)	生活のための芸術
アーツ・アンド・クラフツ運動(2)	
唯美主義	芸術のための芸術
日本趣味	
大衆と大量消費社会	
大量生産と多品種少量生産	
コミュニケーションデザイン	環境、コミュニケーション、関係
まとめ	
試験	

テキスト

とくに指定しない。授業毎にプリント資料を配付する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『ウィリアム・モリス』(SD選書226)	藤田治彦 / 鹿島出版会 / 4-306-05226-5
『現代デザイン論』	藤田治彦 / 昭和堂 / 4-8122-9908-X
『国際デザイン史』	デザイン史フォーラム / 思文閣出版 / 4-7842-1079-2

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業内で適宜紹介する。

その他

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	高橋 裕子				

講義内容・テーマ

諸個人が暗黙裡に規定する「女」のイメージが、実は社会的・文化的に構築されていることを社会学及び文化人類学の知見から明らかにし、現代社会における女のリアリティを考察する。「自立した女」や「家庭的な女」といったイメージもまた諸個人の自由な選択を超えて社会・文化に規定されたものであるが、社会・文化に規定されつつも、諸個人はまたそのイメージを相互行為上の戦略の資源として用いているのである。そして、その結果、女はどのようなリアリティを生きているのだろうか。「社会」と「個人」の関係性を具体的な事例から掘り取り、自由と束縛のなかで揺れる女のリアリティへの洞察を深めていただきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者数を見て可能ならば、ディベート方式を採用することもある。そうでない場合でもジェンダーを自らの問題として引き受け、考え、発言していく姿勢を受講者には求めたい。(そうすることで他の受講生の考え方を知り、引いては当講義を各々の有意義な実践へと繋げて行くことができるはずである、と期待する。)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
日常点(小テスト)	20 %	

アンケート・感想文などを通常の講義内に書いていただく他、レポートを課す予定です。下記の通り、レポート課題に関しては、体裁・提出期限・提出先・提出方法は厳守してください。また、最終講義日試験を行う予定ですので、試験の日程に注意が必要です。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	
生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	
身体技法総論	
身体技法に見る「男らしさ」「女らしさ」	
身体技法を読み解く	
性同一障害事例について	
相互行為論総論	
相互行為論総論	
相互行為論：ジェンダーをどう見なせば良いのか	
「男らしさ」「女らしさ」が導き出すもの――pair-formation	
「男らしさ」「女らしさ」が導き出すもの――pair-formation	
決め付けのポリティックス	
「弱者」とは誰なのか？――「男」or「女」？	
最終講義日試験	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
女らしさの社会学	高橋裕子 / 学文社 / 4-7620-1164-9

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
改訂版 21世紀のジェンダー論	池内靖子他編 / 昇洋書房 / ISBN4-7710-1565-1
「女らしさ」の社会学――ゴフマンの視角を通して	高橋裕子 / 学文社 / ISBN4-7620-1164-9

講義中の携帯電話の使用(メールも含む)は一切認めません。

私語など他の受講生の迷惑になる行為を繰り返す学生には退室を求める場合もあります。

レポート課題の体裁・提出期限・提出先・提出方法は講義内で説明しますので、厳守してください。(疾病などの理由でなおかつ診断書がある場合は別途相談にのります。)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

日本社会に浸透しつつある心理主義を批判的に問題とする。私たちの日常に浸透しつつある心理主義は、管理社会化の徹底による私的生活空間の極小化の達着点とも言えるものである。経済的・政治的要因をも背景にして急速な広がりを見せており、それならではの意義はもちろんあるわけだが、いくつもの問題点や検討課題が次第に明らかになってきている。本講義では、「私」の実質として主観的に体験される自我心理が心理主義に回収されていくことの問題を、社会学的視点から批判的に問題化してみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

大規模講義ではあるが、学生と教員との協働を通じて考察を深めることを望んでいる。出来合いの知識のパッケージを提供するつもりはない。自分自身の経験のリアリティと想像力を総動員することによって、私たち自身の日常生活を自ら捉え返す視点を獲得することを目指している。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	講義第13回目に論題を提示し、最終講義日に提出してもらう予定。

* 試験に代わるレポートとして実施

出席はとらない。評価は Semester 末レポートのみで行い、講義の中で行う小レポートは評価の対象としない予定。なお、講義の進め方や評価基準等については最初の時間に説明するので、必ず出席のこと。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イントロダクション(講義設計・評価などについての説明)。小レポート。

小レポート へのレスポンス。講義開始。

講義。

講義。

講義。

講義。小レポート。

小レポート へのレスポンス。

講義。

講義。

講義。

講義。小レポート。

小レポート へのレスポンス。Semester 末レポート論題提示。

講義。

総括。Semester 末レポート提出。

テキスト

なし。資料・レジュメ等はこちらから配布する。

参考書

講義の中で適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 長澤 高明

講義内容・テーマ

市民とは何かということを常に念頭におきながら、自らを治めるとはどのようなことか、代議制民主主義の下で政治に参加するとはどのようなことかということを皆さんに考えてもらうのが本講義の目的です。

時事問題について解説すると同時に、政治学や社会学の専門用語についても基本から説明します。そして学生諸君と討論しながら講義を進めます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

政治学関係と社会学関係

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	どの程度、講義内容を深めることができたかをみます。
日常点 (小テスト)	50 %	出席重視。および、その講義のキーワードの説明が正確にできているかどうかをみます。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
日本の政治文化と自治意識	同調
市民とは何か	市民社会
議院内閣制と大統領制の思想的相違	直接選挙、間接選挙
自由とはなにか	市民的自由
権力とはなにか	社会権力、政治権力
自治と地方分権	直接請求権
市民による政策作成	ワークショップ
市民運動の諸類型	告発、抵抗、参加
政党政治と市民参加	立候補者公募制
圧力政治	新しい社会運動
世論	世論操作
マスコミと大衆	アナウンス効果
選挙制度と選挙過程	穏健な多党制
市民と現代国家	行政国家

テキスト

使用しません。毎回レジュメを配布します。

参考書

そのつど紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

児童青年の心理 S
 児童福祉論 S
 児童青年の心理 SG

10854

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

本講義では、児童心理学、青年心理学の基本を講義する。なおこれに加えて、児童福祉について母子保健、障害児福祉を中心に解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

随時小テストを行う

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

試験を行うと共に小テスト結果を加味する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1 乳幼児の発達	
1.1 乳幼児の発達(1) 1.2 乳幼児の発達(2) 1.3 1歳児の発達 1.4 2歳児の発達 1.5 3歳児の発達 1.6 4歳児の発達 1.7 5歳児の発達	
2 児童・青年の発達	
2.1 学童期の発達 2.2 思春期の発達 2.3 青年期の発達	
3 子育てと児童福祉	
3.1生まれる前から始まる母子保健 3.2 乳幼児健診・相談 3.3 障害児の早期発見・対応 3.4 子育て支援と保育 3.5 子ども 家庭 学校 地域	

テキスト

特に設けない

参考書

講義の中で紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

児童福祉論 S
 児童福祉論 S
 児童福祉論 SG

10739

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。特に児童虐待や非行など、困難な援助領域の基本を学ぶ場としたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基礎を学ぶものであるため、教養レベルではないのでこころして受講されたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	通常の試験として実施。
レポート	30 %	中間でレポートを求めるが、講義中の指示と回収を行うので注意すること。
その他	10 %	原則として毎回コミュニケーションカードによるコメントを求め、加点要因として扱うことがある。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜

子どもの権利条約

日本の子どもの課題

子ども家庭福祉の施策

子ども家庭福祉の実施体制

分野別の課題(子育て支援・保育)

分野別の課題(健全育成)

分野別の課題(自立支援)

分野別の課題(児童虐待)

分野別の課題(非行)

分野別の課題(ひとり親)

子ども家庭福祉の専門職

子ども家庭ソーシャルワーク

子ども家庭福祉の今後

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
子ども家庭福祉論	高橋重宏・才村純編著 野田正人他著 / 建帛社 /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野 / 信山社 /
子どもを虐待から守る制度と介入手法	峯本耕治 / 明石書店 /
国民の福祉の動向	厚生統計協会 / 厚生統計協会 /

昨年度法体系が大きく変化しているので、参考文献はその都度指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉士の基本科目であり、温情的扱いは資格の信頼性を損なうと同時に利用者の人権を損なうこともあり得るため、厳しく合否を

決めている。特に最近高学年の不合格が多いが、この場合国家資格受験ができないので、心されたい。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになってきている。本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、それらも基礎の一つとして福祉分野の科目であることを充分認識して受講されたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	試験に代わるレポートとして実施
レポート	30 %	講義中に課題を提示し、レポートを求めるので注意すること。
その他	10 %	原則毎回のコメントを求める。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
-------------------------------	--

司法福祉の概念と定義	
------------	--

司法手続の概要	
---------	--

司法に関わる福祉課題(親族)	
----------------	--

司法に関わる福祉課題(夫婦と子ども)	
--------------------	--

司法に関わる福祉課題(児童虐待)	
------------------	--

司法に関わる福祉課題(地域福祉権利擁護事業と成年後見)	
-----------------------------	--

少年保護制度と少年法	
------------	--

少年法と児童福祉法	
-----------	--

非行へのまなざし	
----------	--

非行を見分けること	
-----------	--

非行を施設で克服すること	
--------------	--

非行を在宅で克服すること	
--------------	--

被害者を支えること	
-----------	--

司法福祉の今後	
---------	--

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
わかりやすい司法福祉	/ ミネルヴァ書房 /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
家庭裁判月報	最高裁家庭局編 / /
司法統計年報(家事・少年)	最高裁 / /
犯罪白書・警察白書・厚生労働白書	各省庁 / /
司法福祉の焦点	加藤・野田・赤羽 / ミネルヴァ書房 /
司法福祉論	山口幸男 / ミネルヴァ書房 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

現代社会を市民(社会)と企業(社会)の関連性からとらえつつ、とりわけ社会学理論から欧米市民社会の成立・問題・消滅・再生の流れをみる。さらに、日本社会において市民社会成立の模索をしながらも、企業社会の成立と変容の流れをみ、そこに生きる人びと(働く人、女性、若もの/子ども)の実情を描き、最後に市民社会そして日本社会の今後をさぐる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント(コミュニケーション・ペーパー)を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点(小テスト)	20 %	講義へのコメントを不定期にとる。全体の成績によって評価に加味する場合がある

講義の基本的な内容の理解を問う定期試験をし、それを重視する。講義へのコメントは、評価に加味する場合もある。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
現代社会の位置 市民社会と企業の位置	市民社会 企業社会
社会学理論と市民社会/企業 市民社会の成立	プロテスタンティズムの倫理
同 市民社会の問題	貧困と疎外
同 市民社会の消滅	大衆社会
同 市民社会の再生	新自由主義
日本社会と市民社会/企業 戦前の日本社会	半封建制社会
同 戦後の市民社会の模索	市民社会
同 産業社会、大衆消費社会など	産業社会、大衆消費社会
同 日本的企業社会	日本的企業社会、会社人間
同 企業社会の変容	新自由主義社会、市場原理社会
日本社会と人びと 働く人びと	業績/競争原理、階層社会
同 女性たち	M字カーブ、男女共同参画
同 若もの/子どもたち	知と人間関係のあり方
日本社会のこれから 新しい社会と人びと	第3の道、自分たちの社会

テキスト

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかで紹介する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『変容する企業と社会』現代日本の再編	浪江巖・木田融男・守屋貴司編/八千代出版/
『企業社会』日本はどこへ行くのか	渡辺治/教育史料出版会/
『転換期の人間と社会』	佐々木嬭代三・中川勝雄編/法律文化社/
『変容する社会と文化』	木田融男・佐々木嬭代三編/法律文化社/

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	柳澤 伸司				

講義内容・テーマ

現代の市民社会に不可欠なメディア。環境や権力の監視とそれを伝える機能はジャーナリズムの本質である。何を伝え、何を言わなければならないか。現代社会におけるジャーナリズムの役割はますます重要になってきている。本講義では主として日本におけるジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由とそれをめぐる歴史・現状などについて多面的に考察する。時事的・実際的な問題を取り上げながらジャーナリズムについて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

一方的な講義ではなくテーマに関わって受講者の発言や意見を求めながら授業を進めたい。時事的な問題を扱うことが多いので、テーマによっては内容の変更もあることを了解の上、受講してほしい。レジュメ・資料等の配布物は授業時(教室)以外では配布しない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。
日常点(小テスト)	30 %	授業中に出す課題レポート(数回)のオンライン提出。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価。

ジャーナリズム論の評価に関わるレポートの課題・評価基準等、詳細な執筆要領とレポート評価点票を最初の授業時に配布し説明する(この評価点票がないとレポートの評価点が下がる)ので必ず出席して受け取ること。なお、この評価点票の配布は総括的導入講義を除く第3回目までの授業時までとし、それ以降の教室配布は原則として行わない。なお、レポートは基本的にオンライン(メール)による提出となるので注意してほしい。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
はじめに～授業の進め方と評価について・総論	
ジャーナリズムとは何か～ジャーナリズムとジャーナリストを考える	ジャーナリズム
言論表現の自由～歴史的視点(1)黒岩涙香と宮武外骨	黒岩涙香、宮武外骨
言論表現の自由～歴史的視点(2)白虹事件と朝日新聞	白虹事件
言いたいことと言わねばならないこと～歴史的視点(3)菊竹六誠と桐生悠々	菊竹六誠、桐生悠々
報道することの難しさ～ジャーナリズムのアキレス腱?	皇室報道
報道システムの構造的問題～権力を監視し批判するということ	記者クラブ制度
取材と報道のバランス～取材のプロセス	雑誌記者
メディアが作り出す報道被害～報道と人権の狭間で	犯罪報道、報道被害
報道システムの構造的問題～国家秘密と知る権利(1)告発	沖縄返還密約事件
記者の倫理と企業の論理～国家秘密と知る権利(2)メディアの敗北	記者の倫理
戦争報道とメディア～(1)戦争報道から何を学ぶか	宣伝、情報操作
戦争報道とメディア～(2)メディアは何を伝えるか	映像メディア
ジャーナリズムをどうするか～いま言わねばならないことまとめ	

テキスト

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を用意する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
日本のジャーナリズムとは何か 情報革命下で漂流する第四の権力	柴山哲也 編著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03977-3

その他、適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~syt01970/>

<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~sojurnls/>

その他

ジャーナリズム論はそのテーマ性から時事的な問題を扱うこともあるので、予定されたテーマと異なる主題となることもあり得ることを了承の上、受講してほしい。

社会意識論 S
社会意識論 S

14610

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

社会(Gsellschaft)を科学的に把握する手順を学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「知られていることは、知られているからといって認識されているわけではない」というヘーゲルの文言を常に念頭におくこと。科学することはなかなか困難。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施
評価は定期試験による。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
脳髓の形態と認識論とが対応していることを学び、この成果のうえに立って社会を捉えた知識、これを人類史レベルの記憶によって社会の総体から整理してみたい。	

テキスト

なし。

参考書

その都度、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中川 輝彦

講義内容・テーマ

本講義の狙いは、受講生が「階層(社会階層)」というコンセプトを理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するためのコンセプトです。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層(格差)を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念、論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

定期試験によって判定します。試験は暗記を求めるものではなく、理解を問うものを予定します。特に、問題に対して平易な言葉で答えることができるかどうか、を問います。したがって、「ジャーゴン」を説明なしに並べている答えは評価しません(「努力点」もありません)。なお、本講義は一般的な講義形式を予定していますが、受講者数が少なく、双方向的な授業形式(ディスカッション等の導入)をとりうる場合は、そうしたいと考えています。その場合は「日常点」も成績判定に加味されます。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
階層と階級(1)	階層、階級、社会移動
階層と階級(2)	階層、階級、社会移動
教育と階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産
教育と階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産
教育と階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産
職業と階層(1)	職業的キャリア、職業威信
職業と階層(2)	職業的キャリア、職業威信
ジェンダーと階層(1)	ジェンダー
ジェンダーと階層(2)	ジェンダー
家族と階層(1)	地位の世帯共同性、近代家族、個人化
家族と階層(2)	地位の世帯共同性、近代家族、個人化
家族と階層(3)	地位の世帯共同性、近代家族、個人化
福祉国家と階層(1)	総力戦体制、グローバリゼーション
福祉国家と階層(2)	総力戦体制、グローバリゼーション

テキスト

特定のテキストは指定しません。授業時配布のプリントが「教科書」となります。

参考書

授業中に紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

F・エンゲルス著『空想から科学へ』第一章を読む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

各自、何度もこの著書の本文を通読する必要がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

評価は日常点評価(最終講義日試験を含む)による。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
----- 講義の内容については「その他」の欄を参照のこと。 -----	

テキスト

大内兵衛訳『空想から科学へ』岩波文庫。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

科学的方法への関心を高めるとともに、古典の読み方をマスターしてもらいたい。

1. 次の点に留意すること。人に付いて習うというような意味の学問(Lehre)、史料などを漁るような好事家的作業ないしリサーチ(Entdeckung)、素材を詳細に我がものとし、素材のさまざまな発展形式を分析し、それらの発展諸形式の内的紐帯を探り出すような研究(Forschung)、そして何等かの対象に関するそれら諸領域で得られた諸々の知識を、これらが示している思考上の意義と限界をつぶさに吟味し、最も単純な観念から最も複雑な観念へ体系化し、精神的に具体的かつ総括的なものへ上向するような人間の「思考の最高形式」である科学(Wissenschaft)。以上の異同。

2. 受講者には初めのうちは流読を薦めておきたい。そのうえで何ゆえかくかくの構成部分が取り上げられ、それらが決められた手順で組み立てられざるを得なかったのか、構成諸部分それぞれの中がどう大別されて諸々のパラグラフが組み入れられ、これらがそこでこの順序に従って配列されざるを得なかったのか(だから小見出しが必要)、パラグラフ内のいろいろな文章がそのような文脈で述べられざるを得なかったのか、文章各々の中にしかじかの用語が何ゆえに取り入れられ、それぞれの順番で並べられざるを得なかったのか、必要な事柄を漏らしていないのか、不必要な事項を盛り込んでいないのか等々、論文の中へ中へ「下向的に」検討してゆかなければならない。講義では、この訓練を展開したい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

F・エンゲルス著『空想から科学へ』第三章を読む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期の「社会学講読」を履修しておくことが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

評価は日常点評価(最終講義日試験を含む)による。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。 「社会学講読」と同じ修行を継続し、その上で第一章と第三章の対応関係を見出す。参考書 / Reference book(s) 「社会学講読」と同じ修行を継続し、その上で第一章と第三章の対応関係を見出す。	

テキスト

大内兵衛訳『空想から科学へ』岩波文庫。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 春吉

講義内容・テーマ

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、その重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学を学ぶ学生にとっては必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないでプリントや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	講義内容をもとに、社会学史に関する知識の習得状況をテストする。

* 定期試験として実施

この講義は、基本的な知識の習得が肝心なので、重要事項が理解できているかを試験する。講義に出席し、プリントを読み、講義内容をしっかり理解していないと全く答えられないということになるので、そのつもりで学習して欲しい。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会学成立の背景; 19世紀ヨーロッパの市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
社会学の前史としての社会思想; 近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論1, ホブズ、ロック、ルソー	近代市民社会の思想; 自然権、自然法、社会契約
社会学の前史としての社会思想; 近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論2, アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
社会学の生誕とその意味; 資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻という時代状況に立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙主義の破綻と変容。19世紀的転換期の危機
社会学の生誕1; コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(1)	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(2)	史的唯物論、生産力、生産関係、生産様式、土台と上部構造
社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1; ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケーム	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、聖なるもの
社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; マックス・ヴェーバー(1)	価値自由、理念型、方法的個人主義、行為の諸類型、理解社会学
社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; マックス・ヴェーバー(2)	支配、権力、支配の諸類型、諸団体類型
社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; マックス・ヴェーバー(3)	カリスマ、プロテスタンティズム、世俗内禁欲、使命予言
第一次大戦以後の社会学1; シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、ミード
現代社会学の出自; パーソンズ社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、コミュニケーション合理性

テキスト

テキストは特に指定しない。講義ノートは、詳しいものと、授業用のレジメと二種類用意する。講義レジメは授業中にプリントして配布する。プリントは出席者のみ配布する。レジメボックス等は利用しないので前回欠席者も次回の授業に出席して受領して欲しい。詳しい講義ノートは受講者のみ見ることができるWebCTの講義ボックスにアップロードする予定である。

参考書

講義(プリント)で詳しい参考文献は提示するが、以下の参考書はあらかじめ購入し、参考にすると理解に役立つと思う。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み、パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗他『社会学小事典』有斐閣

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会学入門 N
社会学概論 NA

11054

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

題材・テーマ: 社会学的想像力
 獲得目標: 学説的知識よりも、社会学的な考え方、ものの見方を身につける
 授業で扱うトピックなど: マルクス、ウェーバー、デュルケイム等の基本的考え方を紹介するとともに、現代日本の社会状況等を、皆で議論しながら考えていきたい

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

哲学や社会思想史に関する講義
 理論への関心をもつと同時に、現代の社会状況に敏感であってほしい

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	期末に2,000字のレポートを課す
日常点 (小テスト)	30 %	200字の中間レポートを二回ほど課す

出席はとらない(したがって出席の有無を評価の対象にはしない)

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会問題と社会学の役割	生活 実存的課題 社会問題 社会学 マルクス ウェーバー デュルケイム
社会学的想像力とはなにか?	チャールズ・ライト・ミルズ 「社会学的想像力」 畏としての社会制度 カール・マンハイム 「イデオロギーとユートピア」 心理主義批判
マルクスの課題と方法	「ドイツ・イデオロギー」 史的唯物論 「経済学批判」序言 土台 上部構造
マルクスの近代社会批判	疎外 物象化 資本主義 市場 階級 イデオロギー 社会主義
ウェーバーの課題と方法	価値自由 客観性 価値判断 理念型 方法論的個人主義 理解社会学
ウェーバーの合理化批判	「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 エートス 合理化 世界の脱魔術化 計算可能性 予測可能性 意図せざる結果 末人 ニーチェ
レポートの書き方について	
デュルケイムの課題と方法	「社会学的方法の基準」 実証主義 モノとしての社会 方法論的全体主義
デュルケイムの近代社会観	「自殺論」 アノミー的自殺 自己本位的自殺 集団本位的自殺 宿命的自殺
現代人の不安と孤独	ウェーバー プロテスタンティズム 世界の脱魔術化 神の死 サルトル 実存主義
能力主義の陥穽	道具的理性 であること すること 自己責任 階層
近代社会における学校の機能	ブルデュー 「再生産」 文化資本 学歴主義 個性 教育基本法「改正」
企業社会と労使関係	会社本位主義 日本的経営 バブル崩壊 トヨタ主義 年功主義 能力主義管理
新自由主義とファシズムの芽	フロム 「自由からの逃走」 市場絶対主義 階層間格差 安心 のファシズム プチ・ナショナリズム

テキスト

使用しない
 毎回、レジュメが抜き刷りを配布する

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会学的想像力	C. W. ミルズ / 紀伊国屋書店 /
自由からの逃走	エーリッヒ・フロム / 東京創元社 /

それ以外の参考書は適宜、講義の中で紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特にない

その他

講義はあくまでも生き物なので、「講義スケジュール」通りには進まない
スケジュールは、大雑把な流れ程度に考えておいて欲しい
また講義では、理解を促進するために適宜、ビデオ等を使用する
本講義は双方向性を重視するため、聴講生の主体的参加、および発言の機会を多く設けたい

社会学理論 S
社会学理論 S

14528

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 宝月 誠

講義内容・テーマ

社会学の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのためにデュルケムやヴェーバーなどの古典と現代の社会学の主要な理論(合理的選択理論や相互作用論など)を紹介する。さらに、社会学理論が社会現象の研究にどのように活用されているのかを、テキストの事例を解説しながら具体的に示したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会科学全般についての基礎科目をできるだけ幅広く履修しておくことが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	講義の理解度を確認する
日常点(小テスト)	40 %	テーマが変わるたびに、授業の最中に行う

すべての理論を単に理解することよりも、自分の関心に適合し、活用できる理論的視点を最終的に各自が見出してほしい。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会学の思考	合理性の非合理的基礎
デュルケムの世界	
儀礼論の展開	
権力の逆説	
ヴェーバーの支配・権力論	
犯罪の常態性	
シカゴ学派の世界	
シンボリック相互作用論の展開	
機能主義とシステム論	
愛と所有	
不平等の社会学理論	
社会関係・ネットワーク論	
社会的世界論・場の理論の可能性	
総括と討議	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	『脱常識の社会学』	ランダル・コリンズ / 岩波書店 / 4-00-001275-4
	『社会学のあゆみ』	新睦人・大村英昭・宝月誠・中野正大・中野秀一郎 / 有斐閣 / 4-641-08857-8

テキストは2冊とも必携

参考書

授業の中で参考書はそのつど紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 太田 美帆

講義内容・テーマ

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思えます。なお毎回、具体的事例を用いながら講義を進めます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講のためにあらかじめ必要とされる知識・スキルは、特にありません。新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	講義の内容が理解されているかを考査する。
日常点(小テスト)	40 %	小テストおよび講義への参加態度により判断する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
導入：社会ガバナンス論概説	グローバル化、国民国家のゆらぎ
社会的背景(1)：豊かな社会の出現と人々の意識の変化	イデオロギーの終焉、静かな革命
社会的背景(2)：住民運動と地域社会の再編	社会運動論、公共圏
政治家および行政職員の役割変化	代表制民主主義、政治責任、官僚制、専門主義
分権型福祉社会へ向けて	地方自治、中央-地方、自治体合併、道州制
行政組織の効率化	NPM、e-ガバメント
アクターの多元化	NPO・NGO論、社会的企業論、アソシエーション論、福祉多元主義
事例研究(1)：教育分野でのガバナンス	コミュニティ・スクール
事例研究(2)：災害・危機管理分野でのガバナンス	
事例研究(3)：環境問題への対応	企業の社会的責任、共生社会
国際機関とグローバル・ガバナンス	民主主義、持続可能な発展、グッド・ガバナンス
EU統合：民族、国民国家、リージョン(region)	マルチレベル・ガバナンス、シティズンシップ
EU加盟国の地域福祉：スウェーデンを例に	新しい協同組合、EU構造基金
まとめ：福祉国家と福祉社会	
定期試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	福祉国家のガバナンス	武智秀之 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03772-X
	アソシエティブ・デモクラシー：経済と社会の新しいガバナンス	ポール・ハースト著 / 晃洋書房 /

その他、講義中に指示します。

参考書	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	福祉国家と福祉社会	W.A. ロブソン / 東京大学出版会 / 4130020048
	福祉社会：社会政策とその考え方	武川正吾 / 有斐閣 / 4-641-12119-2

その他、講義中に紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ**

講義中に適宜、紹介します。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

構造改革、規制緩和あるいは年金改革などにみられるように、現在、日本の経済社会は大きく変化しつつあります。こうした変化は、日本ばかりではありません。80年代以降、世界的に進む新自由主義的な改革の流れの一環をなしています。それは、大量生産・大量消費といった経済システムと、また福祉の充実を特徴としてきた戦後世界の終焉を意味してもいます。グローバリゼーションの進展や知識社会の到来が、またそうした変化を促してもいます。本講義では、こうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念(言葉)、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような経済社会を構想すべきなのかについても考えたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

経済学理論の講義を受けるとより理解が深まるだろう。特に数理的手法をもちいた講義ではない。質問があれば、講義後、あるいは研究室に来られたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	講義の理解度を問う。持ち込みは不可。
日常点(小テスト)	20 %	小レポートを兼ね、期間中、2-3回出席をとり、その出席点を加味し全体として評価を行う。

* 上記のように評価を行うので、A以上を取るためには出席は必須の条件となる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
経済空間と資本 - 市場とは？	
資本と産業 - 産業構造の特徴	
経済の基礎概念 - 国内総生産、国民所得とは？	
戦後経済とフォーディズム - 戦後社会の特徴	
ケインズ主義とフォーディズムに危機 - 新たな段階へ	
コラム - 現代の雇用問題	
グローバル化と知識社会 - 現代社会の特徴	
新自由主義の経済学 - ケインズ主義批判	
新自由主義の価値観 - 自由、平等？	
コラム - 中流の崩壊	
「第三の道」の経済社会 - 福祉国家と新自由主義を越えて	
人間中心の経済社会を求めて	
まとめにかえて	

テキスト

テキストは使用しない。下の参考書を参照。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『21世紀の経済社会』	浅野、篠田編 / 八千代出版 /
『漂流する資本主義』	佐和隆光 / ダイヤモンド社 /
『人間回復の経済学』	神野直彦 / 岩波新書 /

基本的に、レジュメを配布し、それに基づいて講義を進める。したがって、レジュメは手に入れること。上記、以外にも関連する参考書を講義の際に適宜、指摘する。

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ****その他**

レジユメ、資料は講義時のみに配布するものとする。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 栄樹

講義内容・テーマ

テーマ: 両大戦間期の日本社会

内容: 第一次世界大戦と第二次世界大戦との間は、一般的には、いわゆる「大正デモクラシー」からファシズムに至る時期として知られる。この時期の日本は、国家に対する個人の意識が高まるとともに、大衆社会化のなかで、その個人の画一化への動きが早くも進みはじめる。二つの戦争が、日本の産業構造を大きく変化させ、さらには社会のあり方を変貌させたといえる。また、そうした変化が、様々な分野での多様な可能性や試みを開花させ、あるいはつづけていった。第二次世界大戦後の政治や社会のあり方が「見直し」を受けようとしている現代の諸問題にも関わらせながら、両大戦間期の日本社会を再考していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講にあたっては、日本近代史全般についての概説的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分の問題関心を培ってほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、それに対する準備が望ま
日常点(小テスト)	20 %	小テストということではない。下記の備考を参照。

*** 定期試験として実施**

随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主として、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

講義スケジュール

内容	キーワード
開講にあたって(授業の概観、授業の進め方、成績評価等について)	
ビデオ教材(「映像の世紀」11集 Japan)	
第一次世界大戦前の日本社会1	
第一次世界大戦前の日本社会2	
ビデオ教材(「映像の世紀」第2集 大量殺戮の完成)	
第一次世界大戦と日本社会1	
第一次世界大戦と日本社会2	
第一次世界大戦後の日本社会1 1920年代1	
第一次世界大戦後の日本社会2 1920年代2	

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
近代日本経済史(Iwanami Textbooks)	橋本寿朗・大杉由香/岩波書店/4-00-026025-1
現代日本経済史(Iwanami Textbooks)	橋本寿朗/岩波書店/4-00-026027-8

その他、毎回の授業時にレジュメと資料とを配付する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
法と社会の昭和史(岩波セミナーブックス25)	渡辺洋三/岩波書店/4-00-004895-3
昭和経済史(岩波セミナーブックス17)	中村隆英/岩波書店/4-00-004887-2
日本の歴史19帝国主義と民本主義	武田晴人/集英社/08-195019--9
日本の歴史20アジア・太平洋戦争	森武麿/集英社/08-195020-2
昭和史 増補版	金原左門・竹前栄治編/有斐閣/4-641-18123-3

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ**

<http://www.kyoto-phu.ac.jp/labo/kyouyou/eijuszk/index.html> (鈴木栄樹)

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

国際化時代の現代社会思想の諸課題と動向を検討する。具体的なテーマやトピックは講義計画を参照してください。全体として21世紀の社会・文化・人間が直面するであろう多文化・多民族共生社会への接近にかんする構想力・想像力形成が、本講義の目標です。したがって断片的な知識の習得ではなく、総合的な思考力の養成を重視します。文献読解力や文章表現力の向上はそのための必要条件です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文献等の事前学習、小論文やレポート作成能力(アカデミック・ライティング)の向上に自覚的に取り組んでほしい。講義内容に関する質問や講義方法についての意見を歓迎します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点(小テスト)	30 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ステレオタイプ(概念)	
同(事例)	
エスノセントリズム(自民族中心主義)(概念)	
同(事例)	
権威主義	
全体主義	
中間まとめ、質疑応答、小レポート(感想文など)	
講評と討論、講義計画後半についての概説	
オリエンタリズム	
オリエンタリズムとポストコロニアル	
ポストコロニアルとサバルタン	
多文化主義と「寛容」の文化	
総括、質疑応答、レポート作成の注意事項	

テキスト

テキストは使用しない。テーマにおうじて参考文献を紹介する。重要なものは資料レジュメとして配布する。

参考書

リップマン「世論」岩波文庫
サムナー「フォークウエイ」青木書店
アドルノ「権威主義的パーソナリティ」青木書店
エーコ「永遠のファシズム」岩波書店
サイド「オリエンタリズム」平凡社ライブラリー
姜尚中編「ポストコロニアリズム」作品社
ルーンバ「ポストコロニアル理論入門」松柏社
スピヴァク「サバルタンは語りうるか」みすず書房
グハ他「サバルタンの歴史」岩波書店、いずれも図書館で閲覧可能。
新しい文献は開講時に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

多数あるので関心あるキーワードで検索してください。とくに海外のサイトにアクセスすること薦めます。

その他

研究発表その他自主的講義参加を歓迎します。希望者は担当者まで申し出てください。

社会思想論 N
社会思想 N

12066

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

題材・テーマ: 社会問題と思想
獲得目標: 思想を社会問題、日常生活とつなげて理解すること
授業で扱うトピックなど: ルソーやカント、マルクスやウェーバー等の思想だけではなく、教育問題、沖縄問題等、具体的な問題にもできれば触れたい

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	期末に2,000字のレポートを課す
日常点 (小テスト)	30 %	200字の中間レポートを二回ほど課す

出席はとらない(したがって出席の有無を評価の対象にはしない)

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
思想とはなにか?	森有正 経験 体験 言葉 概念 思想
思想、常識そして日常生活	グラムシ 「獄中ノート」 生活 実践 常識 良識 哲学
社会思想論の考え方	思想史 思想論 丸山真男 カール・マンハイム 「イデオロギーとユートピア」
資本主義と市場主義	アダム・スミス 「諸国民の富」 市場 神の見えざる手 予定調和
近代的思惟の範型	デカルト 「方法序説」 ベーコン 「ノヴムオルガヌム」 イドラ 先入見 帰納法 演繹法 分析
反啓蒙主義と啓蒙主義	ルソー 「学問芸術論」 カント 「啓蒙とは何か」
レポートの書き方について	
実証主義と歴史の進歩について	コント ヘーゲル 「歴史哲学」
近代社会と合理化	ウェーバー 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 数量化 計算可能性 予測可能性
資本主義と社会主義をめぐって	マルクス 「共産党宣言」 ウェーバー 「社会主義」
近代資本主義、近代科学とファシズム	フロム 「自由からの逃走」 サディズム マゾヒズム 権威主義的パーソナリティ ナチズム
グローバリゼーションと新自由主義	ネオ・リベラリズム ネオ・ナショナリズム 反グローバリズム アメリカ 戦争
教育の現在と能力主義の批判	アルチュセール 国家のイデオロギー装置 抑圧装置 ブルデュー 「再生産」 文化資本 能力主義 教育基本法「改正」
現代日本の思想状況	西部・佐伯 戦争 戦後民主主義 憲法九条 丸山真男 大塚久雄

テキスト

使用しない
毎回、レジュメが抜き刷りを配布する

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代の哲学	木田元 / 講談社 /
現代哲学の岐路	生松敬三・木田元 / 講談社 /
戦後日本の思想	久野収ほか / 岩波書店 /
近代日本の批評・昭和篇(上)(下)	柄谷行人ほか / 講談社 /
思想史のなかの科学	広重徹ほか / 平凡社 /

それ以外の参考書は適宜、講義の中で紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特にない

その他

講義はあくまでも生き物なので、「講義スケジュール」通りには進まない
スケジュールは、大雑把な流れ程度に考えておいて欲しい
また講義では、理解を促進するために適宜、ビデオ等を使用する
本講義は双方向性を重視するため、聴講生の主体的参加、および発言の機会を多く設けたい

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

人びとの社会的行動を対象とし、それを社会心理学的な方法によって考察する。講義では、研究の対象、研究課題、研究方法、対人行動、集団行動、集団間行動、集合行動をとりあげ、その中の個別的、具体的な論点をあつかう。講義の目標は、知識の習得だけではなく、社会心理学的な「ものの見方」の理解をうることにある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、それを受講条件とはしない。その他の受講上の注意項はとくにない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

評価は、試験の成績によってのみおこなう。試験は、講義の目標の到達度をみるためであり、できるだけ客観的な基準によることにしたい。

講義スケジュール

内容	キーワード
社会心理学への案内	テキスト第1章
社会的欲求	テキスト第2章
社会的態度の概念	テキスト第2章
社会的態度の変化	テキスト第2章
対人行動と対人関係形成	テキスト第3章
集団の形成	テキスト第4章
集団移行と集団の発達	テキスト第5章
集団の構造化	テキスト第5章
集団における社会的影響	テキスト第6章
集団のリーダーシップ	テキスト第7章
リーダーシップの効果性	テキスト第7章
集団の意志決定	テキスト第8章
集団間関係	テキスト第9章
集合行動・集合現象と社会的相互作用	テキスト第10章
定期試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会心理学	森田浩平 / 晃洋書房 / 4771007438

図書館に所在。生協にて入手可能。

参考書

重要な参考書や参考文献については授業の途次、提示することにした。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 未来

講義内容・テーマ

テーマ:SPSSの利用を通じてデータ分析の基礎を身につける

今日の社会調査では大量のデータを収集する。社会調査で得られるデータはどれ一つとっても人間生活における社会的現実であり、ひとつひとつのデータがどのような社会的な意味をもつのかを検証することが、今日の社会問題の特徴を明らかにする上で重要な作業となる。この実習では、統計解析ソフトSPSSの利用方法を学ぶことで、大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータひとつひとつの相関や散らばりなどの社会的な意味を探究する力を身につけることを目的としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ウィンドウズの基本操作を身につけていることが、受講のための条件となる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	80%	毎回SPSSで作成した課題の提出を求める
その他	20%	出席点

SPSSを使った作業が多いので、毎回出席のこと。やむをえない事情で欠席する場合は、各自参考書などを使って自習したうえで、次回の授業に臨むこと。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イントロダクション:社会調査と統計解析

SPSSの入力方法

度数分布表の作成

グラフと図の作成

基礎統計量を求める(記述統計)

基本操作の復習編

探索的分析とは

2群の平均値の差を検定する(t検定)

質的な変数の関連を調べる(クロス集計表)(2乗検定)

全体的な「差」を検定する(分散分析)

量的な変数の関連を調べる(散布図を描く)(相関係数)

多変量解析(1)重回帰分析

多変量解析(2)判別分析

多変量解析(3)因子分析の初歩

テキスト

使用しない。授業時のプリントを配布する

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『SPSSでやさしく学ぶ統計解析[第2版]』	室淳子・石村貞夫/東京図書/
『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析[第2版]』	室淳子・石村貞夫/東京図書/
『改訂版 社会調査の基礎』(放送大学教材)	岩永雅也/放送大学教育振興会/
『あなたもできる データの処理と解析』	岩淵千明編/福村出版/

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中川 輝彦

講義内容・テーマ

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していただきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
レポート	30 %	

期末試験70%、レポートないし提出物30%。試験は暗記を求めるものではなく、理解を問うものを予定します。特に、問題に対して平易な言葉で答えることができるかどうか、を問います。したがって、「ジャゴン」を説明なしに並べている答案は評価しません(「努力点」もありません)。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会学と社会調査：社会調査とは・社会調査の歴史	(社会調査)
社会調査の種類と特徴：調査票法・観察法・自由面接法	(調査票法、観察法、自由面接法)
社会調査の手順：社会調査の一般的手順・調査の倫理・問題意識と仮説構築	(倫理、仮説)
社会調査と理論：記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	(記述、説明、理論、命題、概念)
測定の基礎：変数の測定・信頼性と妥当性	(変数、信頼性、妥当性)
標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	(サンプリング)
標本調査の考え方：サンプリングの方法(2) 無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	(無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法)
標本調査と標本誤差：標本誤差と非標本誤差・推定の精度	(標本誤差、非標本誤差、推定)
調査票の作成：項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	(調査票、ワーディング)
コーディング：データの整理とチェック・エディティング・コーディング	(エディティング、コーディング)
調査票の集計：データの記述：データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	(基礎統計量)
データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラポレーション	(クロス表、エラポレーション)
データの分析(2) 結果の公表 2変数の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	(相関係数、疑似相関)
まとめ	

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 藤島 寛

講義内容・テーマ

テーマ 動機づけ (motivation) の基礎と他者・集団・文化から生じる認知的動機の理解
 動機づけの基礎について概括した後、本講義では特に社会的動機に関わる認知、意思決定、態度変容、臨床をとりあげ、動機づけにおける社会的、文化的側面を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学に関わる基本的な知識については、各自、自主的に勉強することを望む。
 講義にできる限り出席して、講義時の話題と参考資料からテーマについて深く考えることを期待する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	講義中に取り上げた心理学のトピックスを基に、自分の言葉でレポートを書くこと。

* 試験に代わるレポートとして実施。URLのコピーが半分を超えるレポートは単位を認めない。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
動機づけ1 一次的動機づけ	生きるために
動機づけ2 人間的動機づけ	動物と人間との違い
動機づけ3 達成動機と親和動機	powerとlove
動機づけ4 向社会的行動	社会へのまなざし
動機づけと自己との関係1 自尊心	私を支えるもの
動機づけと自己との関係2 自己意識と他者意識	自己と他者との関係
動機づけと自己との関係3 信頼	あなたは人を信用していますか
動機づけと自己との関係4 公共心とただ乗り	ゴミ問題の心理学
社会臨床心理学1 社会臨床心理学の概念	心の病 (illness)
社会臨床心理学2 うつと帰属	帰属
社会臨床心理学3 うつと認知	ベックの認知療法
社会臨床心理学4 自己愛	暴力による支配
社会臨床心理学5 結婚と少子化	進化心理学とライフサイクル
あらためて人間的動機について考える	精神的健康とは何か

テキスト

特に使用しない。

参考書

講義内容に応じて、参考文献は適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

WWWページに掲載されている情報、及び内容は表層的であることが多く、そこから考察することにはなかなか結びつかないと考えます。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 大井 達雄

講義内容・テーマ

この講義では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学び、調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的な基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行ってみる。練習用のデータとして、受講生の友人・知人を対象に実施する簡単なアンケート調査の結果などを利用することもある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科1回生以上

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

定期試験を実施します。また出席をほぼ毎回とります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
授業計画説明	統計的データ分析の考え方
標本と母集団	標本抽出法
標本データの記述(1)	統計変量、度数分布表、ヒストグラム
標本データの記述(2)	代表値、散布度
データの分布	理論分布、正規分布、t分布、二項分布
標本分布(1)	母数、統計量、標本分布、大数の法則、中心極限定理
標本分布(2)	標本平均の標本分布、標本比率の標本分布、小標本
母数の推定(1)	点推定、区間推定、母平均の区間推定
母数の推定(2)	母比率の区間推定
統計的仮説検定(1)	仮説検定の考え方
統計的仮説検定(2)	母平均の差の検定、母比率の差の検定
統計的仮説検定(3)	独立性の検定、適合度検定
2変量間の関係(1)	相関関係
2変量間の関係(2)	回帰分析

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新・涙なしの統計学	D.ロントリー著 加納悟訳 / 新世社 / 4-88384-035-2

その他、プリントを配布します。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
初等統計学	P.G.ホーエル著 浅井晃他訳 / 培風館 /
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編 / 東京大学出版会 /
初等統計解析	佐和隆光著 / 新曜社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業には電卓(の計算のできるもの)を持参のこと。
遅刻・欠席をすると以降の講義が理解困難になるので、各人注意すること。

社会のひずみ N
社会病理学 N

10647

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

本講では、多々ある社会問題をオムニバス形式で取り上げる。その中で、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深めることを目的とする。パート1では、主に差別問題を取り上げながら、それを生み出す社会的背景と、克服する際に持ち出される心をめぐる諸言説を検討する。社会と個人のひずみが重なり合う中で現代の差別がなされていることを示す。パート2では、主に現代社会に生きる私たちが、感情労働を行い、自分らしい「心」を求めてしまう心性を、社会背景を踏まえながら検討する。その中で、社会や個人のひずみを正そうとする知によって社会統制がなされていることを示す。パート3では、主にNPO・ボランティア活動を取り上げながら、その中で一見すると「正しい」と見なされがちな他者への支援を再検討する。これらを通して、社会のひずみを正す他者との共生を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会問題だけでなく、個人の「心」の問題や、他者の支援・介助にも関心を持つ受講生の履修を期待する。専門科目「社会病理学」、「社会福祉論」等への橋渡しとなる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	

定期試験に代わるレポートとする。内容としては、授業の理解のみではなく受講者自身の日常生活との接点を生かした記述を求める。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。

Part1:現代「社会」のひずみ・「日本」という境界とは？：沖縄における基地問題をめぐって

生まれた所が持つ意味：部落差別と人種差別

「普通」と「異常」の境界とは？：障害者差別をめぐって

「家族」を背負うこと：トラウマと現在

Part2:現代社会の「個人」のひずみ・なぜ「家族」に問題を求めるのか？：アダルト・チルドレンという生き方

「心」を操作する私たち：感情管理に見る心のひずみ

「笑顔」・「優しさ」を商品にすること：感情労働と感情知の生産

「優しさ」に疲れる時：ケアと感情労働

「心」への囚われ / 「心」への解放：「本当の」自分を巡るゲーム

Part3:共生への実践・「支え合う」社会が来ているのか？：ボランティア活動と「親切」を巡る言説

「助け合う」ことの難しさ：被害者化過程での家族・友人・社会

笑顔にはかなわない：自立生活運動での「優しさ」の罫

「愛情」の落とし穴：愛情という名の支配

まとめ：他者を「支える」こととは何か？

テキスト

特に指定しない。レジュメ、資料(映像資料も含む)を適宜配布する。

参考書

各回ごとのテーマに即して紹介するが、各パートでの纏まった考察として、栗原彬編『講座差別の社会学1～4』弘文堂

拙著『心の時代と自己』勁草書房

三井さよ『ケアの社会学』勁草書房

安積遊歩他『生の技法』藤原書店

を挙げておく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会発展論 S
産業発達史 S

20101

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 伊藤 正純

講義内容・テーマ

経済発展論は、国の経済的進歩について考察するものである。だが、何をもって経済的進歩とみるか、何が経済的進歩を牽引しているか、見方は様々である。本講義では、資本主義発展の歴史的軌跡が登場した、その時々的重要な経済思想を語るかたちで、現代資本主義に至る経済発展を考えてみた。なお、発展途上国の経済発展論については語らない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
スミスの進歩史観とリストの保護貿易主義	
マルクスの唯物史観	
ソ連型社会主義はなぜ失敗したのか。ロストウの「離陸」論。	
修正資本主義論争。ドイツ社会民主党の路線対立。	
修正資本主義論。ケインズの階級論・有効需要論。	
株式会社論(1)。経営者支配論。パーリー、ミーンズ。	
株式会社論(2)。機関投資家。カルプレイス。	
戦後福祉国家の出現。国民総力戦がもたらした逆説。ペバリッジ。	
フォーディズムの好循環。高度成長。レギュレーション理論。シュンペーター。	
ホスト・フォーディズム。低成長期の資本主義。レギュレーション理論。	
福祉国家の諸類型。エスピン・アンデルセン。	
未来社会論。マルクスの個体的所有論。	
まとめと補足(1)	
まとめと補足(2)	

テキスト

なし

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代市民社会の旋回	平田清明他編著 / 昭和堂 / 3033-098710-3474
復権する市民社会論	八木紀一郎他編著 / 日本評論社 / 4-535-55142-1
危機 - 資本主義	ボワイエ、山田鋭夫編集 / 藤原書店 / 4-938661-69-1

その他の参考書は、その都度、指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

時々感想文を書いてもらう。感想に基づいて必要な軌道修正をしながら、講義を進めたい。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

定期試験を実施する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。	
Part1: 「社会」病理学とは何か: 社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか? : アノミーという社会心理	
「博愛」をどの範囲まで持てるのか? : 都市化と社会的連帯の崩壊	
「平等」であることはどこまで正しいのか? : 「成功神話」の落とし穴	
「勤勉」であるだけで良いのだろうか? : 下位文化の光と影	
Part2: 現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか? 文化的学習理論による「仲間」作り	
最近の少年は「キレやすい」のか? : 少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	
少年犯罪は「凶悪化」しているのか? : 社会問題の構成主義	
地域や家族による支援はどこまで有効なのか: 他者との繋がり紐帯理論	
「引きこもり」は何故起きるのか? : 私事化する社会での青年意識	
Part3: 現代社会の病理の諸相: 社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと: 劇場化する社会	
なぜ「家族」に問題を求めるのか? : トラウマとアディクション	
「語ること」でラクになる? : ナラティブ・アプローチという相互行為	
病理の過剰 / 病理の過剰: 医療化の進展と社会病理	
まとめ: 「心」の病理と「社会」の病理	

テキスト

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術現場実習 SA
社会福祉援助技術現場実習 SG

20130

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 中川 勝雄

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

実習記録によって評価する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

配属された実習先で現場実習を実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

実習記録によって評価する。

講義スケジュール内 容キーワード総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。
-----テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術実習指導 SA
 社会福祉援助技術実習指導 SA

12201

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

この科目は、3年次の現場実習を中心とした実習指導（2年次後期）、実習指導、人間福祉演習（3年次通年）という一連の実習関連科目の一つである。実習指導では実習学習の基礎を学び、現場を知る機会のもと現場実習に出るための各自の課題意識を明確にすることを目標とする。最終的にはその課題意識による現場実習の配属先を決定する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士課程の必修科目。現場実習に出るための必須要件となる科目である。現場をさらに詳しく知るための独習を期待する。なお、配属先決定のための個別ヒヤリングを実施するので呼び出しに応じること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

*日常点評価

評価は配属先への決定を持って行う。学生でありつつ新人職員として働くという科目の性質から、出席やレポート提出、書類提出を厳しく評価する。

欠席一回1点、遅刻0.5点、提出遅れ0.5点、督促後の遅れ1点、提出なし2点、以上の方法で5点以上は機械的に不合格。評価は合格と不合格であるが、実習の課題意識レポートで配属先決定の優先度を定める。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

オリエンテーション

社会福祉施設・機関の概要

現場を知る

現場を知る

現場を知る

現場を知る

実習のイメージをつくる

実習のイメージをつくる

実習先の決め方

実習先の決め方(書類の提出予定)

前年度の実習報告会

実習先決定の相談・ヒヤリング

実習先決定の相談・ヒヤリング

介護技術の入門

テキスト

テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SA
 社会福祉援助技術実習指導 SA

12390

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SB
 社会福祉援助技術実習指導 SB

12391

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SC
 社会福祉援助技術実習指導 SC

12392

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 土屋 健弘

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価
 毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SD
社会福祉援助技術実習指導 SD

12393

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SE
社会福祉援助技術実習指導 SE

12394

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 池添 素

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SF
社会福祉援助技術実習指導 SF

12400

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山田 尋志

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SG
 社会福祉援助技術実習指導 SG

12402

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

*日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SH
 社会福祉援助技術実習指導 SH

12404

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 十河 美子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SI
 社会福祉援助技術実習指導 SI

12406

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松井 信也

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SJ
 社会福祉援助技術実習指導 SJ

12408

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 谷 勇男

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SA
 社会福祉援助技術実習指導 SA

12418

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SB
 社会福祉援助技術実習指導 SB

12419

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 井上 公子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SC
社会福祉援助技術実習指導 SC

12420

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 土屋 健弘

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SD
 社会福祉援助技術実習指導 SD

12421

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SE
 社会福祉援助技術実習指導 SE

12422

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 池添 素

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SF
 社会福祉援助技術実習指導 SF

12428

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山田 尋志

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SG
 社会福祉援助技術実習指導 SG

12430

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SH
 社会福祉援助技術実習指導 SH

12432

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 十河 美子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SI
社会福祉援助技術実習指導 SI

12434

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松井 信也

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SJ
 社会福祉援助技術実習指導 SJ

12436

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 谷 勇男

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S
社会福祉援助技術論 SG

10267

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

社会福祉活動(ソーシャルワーク)の総括原理を以下の内容で講義する。今日的貧困、今日的生活問題の事実と、それに対応する社会福祉活動の具体的姿と課題を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の対象である生活問題の出現経路を学び、公的社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)との必要性を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の概要・体系と社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)の関係を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)が必要となる問題状況の類型と活動の展開、関連する方法・技法の基本的な知識と社会福祉援助活動の共通課題を学ぶ。ここでは、社会福祉制度と社会福祉活動が必要となる状況とそのため活動の姿を出来る限りリアルに理解することである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施 * 日常点評価
定期試験または最終講義日試験とする。日常的に提出物を求めることがある。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

社会福祉活動を考える視点(1) 事例による生活問題と社会福祉活動の理解

社会福祉活動を考える視点(2) 事例による生活問題と社会福祉活動の理解

事例から考える生活問題

事例考える社会福祉活動

社会福祉活動の理論(1)ソーシャル・ケースワーク

社会福祉活動の理論(2)ソーシャル・グループワーク

社会福祉活動の理論(3)コミュニティーワーク

ソーシャルワークにおけるジェネリックとスペシフィック

ソーシャルワークの統合化論と共通基盤

エコロジカルアプローチ

社会福祉制度と社会福祉活動の場

社会福祉活動を必要とする問題状況と援助の展開

社会福祉活動の統合化とチームアプローチ

「社会福祉援助技術」と社会福祉労働

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会福祉援助技術論争(上)	北島英治他 / ミネルヴァ書房2002年 /

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会福祉援助技術論	/ 中央法規 /
社会福祉方法原論	植田章 / 規文化社1998年 /
社会福祉原論	/ 高菅出版2002年 /

その他授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S
社会福祉援助技術論 SG

11388

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

本講義では、社会福祉実践(ソーシャルワーク)の基礎を習得することを目的とする。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方(価値・倫理)や視点(モデル)、実践に必要な専門知識(理論)、専門技術についてである。ソーシャルワークは、個人、家族、小集団、地域、計画、調査、組織、運営管理とさまざまなレベルで展開されている。本講義では、ソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、小集団への支援、すなわちマイクロレベルでの実践に焦点をあてる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義対象は、社会福祉士課程に登録した学生である。講義の合間に演習活動を行うほか、随時、学習課題を課す。したがって受講生は、講義を聴くだけでなく、積極的に授業時間内外の課題に取り組むことが求められる。毎回の講義は、テキストの指定ページや配布文献を読んだことを前提として進めるため予習が必要である。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	レポート・ミニクイズ

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ソーシャルワークの概要	
ソーシャルワークの視点と目標	
ソーシャルワーカーがもつ価値と倫理	
ソーシャルワークの構成	
ソーシャルワークの分野	
ソーシャルワーカーの役割	
ソーシャルワークの実践過程 : 問題発見、アセスメント	
ソーシャルワークの実践過程 : 契約、計画、実行	
ソーシャルワークの実践過程 : モニタリング、評価	
ソーシャルワークの理論とモデル	
面接技法	
グループダイナミクス	
記録、スーパービジョン	
自己覚知	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ソーシャルワーク実践の基礎理論	北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編 / 有斐閣 /

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S
社会福祉援助技術論 SG

10359

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

本講義では、前期セメスター社会福祉援助技術論?の中から、対人的社会福祉活動の中で、ソーシャル・ケース・ワーク及びソーシャル・グループ・ワークの基礎を取得することを目的とする。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方(価値・倫理)や視点(モデル)、実践に必要な関連領域の知識(理論)社会資源の理解と専門技法についてなどである。ソーシャルワークは個人、家族、小集団、地域、計画、調査、組織、管理運営とさまざまなレベルで展開されている。本講義では、ソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、小集団への支援、すなわちマイクロレベルでの実践に焦点をあてる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	講義の理解を測定する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ソーシャルワークの成立と概要	
米国における社会福祉活動の発展	
ソーシャルワークの視点と目標およびソーシャルワーカーの役割	
ソーシャルワークの構成	
ソーシャルワーカーの倫理	
ソーシャルワーカーが活用する資源・ネットワーク	
ソーシャル・ケース・ワークの実践過程1:問題発見、インタビュー、アセスメント	
ソーシャル・ケース・ワークの実践過程2:援助関係の形成、計画、実行	
ソーシャル・ケース・ワークの実践過程3:モニタリング、再評価	
面接技法	
ソーシャル・グループ・ワークの理論	
ソーシャル・グループ・ワークの方法	
記録、スーパービジョン	
自己覚知 自己を見つめること	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会福祉方法原論	植田章他 / 法規文化社1998年 /

社会福祉援助事例を手がかりに、社会福祉課題と社会福祉活動の必要性を考える。随時講義の感想や小レポートの提出を求める。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S
社会福祉援助技術論 SG

11464

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

本講義は、社会福祉援助技術論Ⅲの続編で、社会福祉実践(ソーシャルワーク)の基礎を習得することを目的とする。本講義ではミクロレベルでの実践(個人、家族、小集団への支援)のあり方とその重要性を踏まえ、調査、地域、計画、組織、運営管理に関わるメゾおよびマクロレベルでのソーシャルワーク実践を取り上げる。問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選び、活用する力をつけたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術論Ⅲの講義内容を習得していることが必要である。Ⅲの授業と同様に、受講生には講義を聴くだけでなく、積極的な態度で授業時間内外の課題に取り組むことを期待する。また、毎回の講義は、テキストの指定ページや配布文献を読んだことを前提として進めるため予習が必要である。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
日常点(小テスト)	40 %	課題レポート・ミニクイズ

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ミクロレベルでのソーシャルワーク(社会福祉援助技術論Ⅲ)の振り返り	
ソーシャルワークにおける調査の必要性	
福祉情報の収集と活用	
福祉情報の収集と活用	
地域援助	
地域援助	
ソーシャルワークにおける計画の意義	
計画策定の方法とプロセス	
組織とソーシャルワーク	
さまざまな組織におけるソーシャルワーク	
社会福祉運営管理	
社会福祉運営管理	
利用者保護とアドボカシー	
情報交換タイム(レポートの振り返りと共有)	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	ソーシャルワーク実践とシステム	黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編 / 有斐閣 /

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉概論 S
 社会福祉論 S
 社会福祉原論 SG
 社会福祉論 S

11172

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

社会福祉サービスは、今日では私たちが地域で生活していく中で必要不可欠な社会サービスとなっている。しかし、必ずしもそのことが市民の常識とはなっていない。講義では、社会の変化の中で社会福祉サービスが占める位置とその意義を具体的な事例を通して確認する作業を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	毎回の講義の終わりに講義内容の理解を問う。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

こんなときあなたはどうしますか？義務教育で学ぶ社会福祉

痴ほう症(認知症)による障害とケアの意義

高齢者虐待を生み出す背景

社会福祉における利用者負担

障害者自立支援法が示したもの

障害者の自立と家族の生活問題

障害者作業がなう多面的な機能

ホームヘルパーは何をヘルプするのか

児童虐待から透けて見える社会問題の重層性

保育所・児童相談所は生活の何を支えるのか

現代の貧困と格差はどのように生み出されるのか

家族形態と地域社会関係の変化の下での市場と福祉サービス

社会福祉サービスの場の構造転換と専門性

社会福祉をとらえるマクロな眼とミクロな眼

テキスト

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

参考書

『福祉のひろば』総合社会福祉研究所、『形成期の痴呆老人ケア』石倉康次編著 北大路書房、『転換期の社会福祉事業と経営』石倉、玉置編 かもがわ出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省：<http://www.mhlw.go.jp/index.html> 呆け老人をかかえる家族の会：<http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm> 日本障害者センター：<http://shogaisha.jp/> 総合社会福祉研究所：<http://www.jfast1.net/~sosyaken/> 保育研究所：<http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html> 全国老人福祉問題研究会：<http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/> 全国障害者問題研究会：<http://www.nginet.or.jp/> 全国児童養護問題研究会：<http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山田 耕造

講義内容・テーマ

テーマ:戦後社会福祉法制の歴史と現行社会福祉法制

講義の内容:戦後の社会福祉法制の歴史を概観した後、現行の各社会福祉関係法の概説を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

社会福祉の法と体系

戦後社会福祉法制の展開

社会福祉法

社会福祉法

児童福祉法

児童福祉法

母子及び寡婦福祉法

身体障害者福祉法

知的障害者福祉法

精神保健福祉法

老人福祉法

老人保険法

介護保険法

生活保護法

テキスト

ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法2005」(必ず2005年版を持参すること)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

批判理論における「理性による自然支配」テーゼを文化社会的な視点から多面的に検討していく。われわれは、日常生活のなかであまりにも自明なものとして「食べる」「におう」「見る」「読む」「聞く」「感じる」などの身体的行動を繰り返している。また同時にこのような身体的経験を、個人の感覚・感情・好みに左右される最も私的なものと考えている。それに対して社会学は、日常生活にあふれる、一見主観的で個人的な感性的経験を社会や歴史のなかで抑圧的あるいは拘束的に形成されてきたものとして捉える。本講義では、このような「個人」の身体的経験とそれを「社会」にまとめあげるメディアの効果を考察することによって、近代社会のしくみやその変容過程について明らかにしていく。またそれらの考察をふまえ、ポスト近代社会にふさわしい倫理のあり方について、受講生とともに考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	講義内容に関する論述を中心とした問題

講義終了後に簡単なコミュニケーションペーパーを作成してもらう。講義期間中にレポートを課すことがある(加点の場合あり)。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

視覚的近代の成立(身体社会学のために)

嗅覚の社会史 (嗅覚とアローマ)

嗅覚の社会史 (公衆衛生と視覚・嗅覚の交差)

食の歴史社会学 (食・このおぞましくも魅惑的なもの)

食の歴史社会学 (テーブルマナーとガストロノミー)

食の歴史社会学 (見えないコルセット = 体重計)

食の歴史社会学 (見えない体重計と魂のコルセット)

ファッションの文化社会学 (ファッションと記号を求めるまなざし)

ファッションの文化社会学 (ドレスとスーツの誕生)

文字と声の知識社会学 (声の文化と文字の文化)

文字と声の知識社会学 (書物の出現と文字の想像力)

読書の社会史 (宗教改革とナショナリズム)

読書の社会史 (スキャンダルのまなざしと聖性剥奪)

講義まとめ

テキスト

レジュメを配布し、それに基づいて講義する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
フランクフルト学派の展開: 20世紀思想の断層	徳永恂 / 新曜社 /
エーリッヒ・フロム: 希望なき時代の希望	出口剛司 / 新曜社 /

講義のなかで適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

文化とはあまりにも「あたりまえ」すぎて、ふだんは意識しないために、かえって目に見えにくくなるものです。この講義では、自己、家族など日常的な事柄を出発点に社会学的な分析を加えることによって、今まで「あたりまえ」と思っていたことの背後にある文化のあり方を再発見していくことを目標とします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常的な事例をあげながら授業をすすめていく予定です。自分の経験をふりかえりながら、受講してほしいと思います。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	
日常点(小テスト)	20 %	授業内で小レポート

* 試験に代わるレポートとして実施 レポート試験で評価します。日常点として授業内で小レポートを提出してもらった場合があります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
自己論-1近代社会と個人	フロム 自由からの逃走
自己論-2近代的自己からポストモダンの自己へ	リースマン 内部指向型 他人指向型
自己論-3いかに生きるべきか? 人生目標の変遷	立身出世主義 個性主義
自己論-4個性的な人生目標の問題点	個性尊重の教育
自己論-5フリーターという生き方	若年層の雇用環境 失業 フリーター
家族-1「家族」とは?	近代家族
家族-2近代家族のゆらぎ 「男性稼ぎ主型」家族のリスク	性別役割分業 日本型福祉社会
家族-3近代家族のゆらぎ 近代家族を支える「愛情」の意味変容	愛情 ジェンダー
家族-4家族の個人化	ベック
現代文化-1規範の弱体化と意味喪失	規範 価値相対主義
現代文化-2宗教の存在意義	世俗化 神義論
現代文化-3都市文化	セネット 公共空間
現代文化-4メディアと公的空間	ハーバーマス
授業の総まとめ	

テキスト

レジュメを使用。

参考書

参考文献は授業で紹介していきます。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会保障論 S
 社会保障論 S
 社会保障論 SG

12653

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

「社会保障の生成と発展」

現在、私たちの生活にとって社会保障は、必要不可欠な生活条件となっているが、その生成・発展の歴史を辿ることによって、社会保障の本質・機能・理念について学びたい。また、21紀における福祉国家再生のための「社会保障のあり方」を考察したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回「質問・感想アンケート」をとり、次週の講義冒頭10分程度で質問に答える。講義への「参加」を重視するので、テキスト等は事前に読んでおき、積極的に議論に参加すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	55 %	定期試験は、100%から出席点45%を差し引いたものとする。
その他	45 %	出席を45%(3%×15回)

出席を重視します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会保障の理念の変遷とその意義	ニュージーランドおよびアメリカの「社会保障法」。
社会保障の理念の変遷とその意義	イギリス、ベヴァリッジ・レポート。
社会保障のあゆみとダイナミクス・イギリスにおける社会保障の歴史	社会保障のダイナミクス。
社会保障のあゆみとダイナミクス・ドイツにおける社会保障の歴史的特質	社会保障のダイナミクス。
社会保障の基本原則と限界・社会保障の対象・財源	社会保険か租税か。
社会保障の基本原則と限界・社会保障の資本主義的限界	限界の克服。
公的年金制度の成立の歴史	年金成立と戦費。
年金制度改革の新提案	現在の年金改革の内容。
保健・医療の社会的責任と課題・医療制度改革の流れ	医療制度の歴史。
保健・医療の社会的責任と課題・地域共同体の力で健康を維持する	医療制度の将来。
社会福祉制度体系の成立と現段階	社会福祉はなぜ必要とされたか。
社会福祉サービスの将来像	将来像の中身。
社会保障の一元化と将来像・「国民保険」構想の中身	政府内閣府案の中身。
社会保障の一元化と将来像・新しい社会保障の提案	芝田試案の提案。

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	社会保障の基本原則と将来像	芝田英昭 / 法律文化社 / ISBN4-589--02724-0

講義は、テキストにしたがって進めるので必ず毎回持参すること。

参考書	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	ニュージーランド福祉国家の再設計	芝田英昭・福地潮人監訳 / 法律文化社 / ISBN4-589-02786-0
	これからの社会保障	芝田英昭 / かもがわ出版 / ISBN4-87699-481-1
	福祉国家崩壊から再生への道	芝田英昭 / あけび書房 /
	社会保障第二版	坂寄俊雄 / 岩波書店 /

参考文献は、なるべく読んでおくことを希望します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.mhlw.go.jp>(厚生労働省)

その他

毎回、講義への感想・質問等をコミュニケーション・ペーパーに書いていただき、次回の講義の最初10分程度でそれに答えます。また、このペーパーをもって出席確認をいたします。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 春吉

講義内容・テーマ

私たちの人間社会には、多くの倫理的な問題が埋め込まれている。マクロなレベルでは近代社会の基本骨格を構成する自由、平等、友愛、所有といった社会的な倫理基準がある。これらの諸基準は、近代社会そのものの矛盾や現代社会のあらたな展開のなかでさまざまな問い直しを受けている。また、ミクロな日常的な行為のなかにも意図と結果の相違や自由と公正をめぐる問題が待ちかまえている。本講義では、出来るだけ社会学的な行為論や近代以降の社会の構造的な理解と重ね合わせながら、身近な事例をテーマに関連させながら私たちの生活と社会における基本的な倫理問題を考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、各テーマに関連して、受講者の声を反映した応答形式の授業を行う。その点では、受講者には、議論に参加するという積極的な姿勢を求めたい。授業では、基本的に毎回コミュニケーションペーパーを提出してもらい、これを授業内容に反映させる。また、これを出席票としても利用する予定である。受講に際して、特に倫理学についての予備知識は必要ないが、倫理的問題について真剣に考える姿勢と意欲が求められる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	課題は、講義内容に関連するものを適当な時期に指示する。
日常点(小テスト)	40 %	毎回のコミュニケーションペーパーを出席状況のチェックとして利用するとともに、受講態度の積極性をはかる資料とする。

* 試験に代わるレポートとして実施

できるだけ、簡単な授業の感想や意見などをコミュニケーションペーパーとして提出してもらい、往復的な授業進行を行う。それとは別に、試験に代わる最終レポートを課す。最終レポートでは、講義で紹介した文献を中心に必ず1冊は読書を条件に課すので、普段から関心をもった参考文献についてはこれを読むようにすることを勧める。そうすれば、講義の理解にも役立ち、レポート課題にも余裕を持って臨めるだろう。成績評価は、授業時のコミュニケーションペーパーを参考しつつ、出席状況を勘案し、最終レポートによって総合的に判断する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会倫理とはなにか、どのように倫理問題と社会科学(社会学)がかかわっているのかを考える。そのために、はじめに社会的行為と倫理問題発生構造を簡単に概説し、本講義のねらいと進め方について説明する。	行為、世界の共有、責任、社会学と倫理学
うその社会倫理学(その1)問題提起、うそはなくすることができるか?	うそ
うその社会倫理学(その2);うその定義、悪いうそとは?	善悪の基準
うその社会倫理学(その3);うその定義と認識論、行為論および倫理的再考察	行為の事実と意図
歴史と倫理(その1);問題提起、行為と因果関係と責任	行為の因果性、結果と責任
歴史と倫理(その2);歴史認識の構造、事実認識と価値判断、解釈的知識の役割	事実認識と価値判断、解釈知識
歴史と倫理(その3);行為連関の複雑性、予期せざる行為、赦しと約束(アーレント)	赦しと約束
パターナリズムと行為のパラドクス	パターナリズム、「善意」の問題性
自由主義思想とは何か;自由主義思想史にみる自由とその条件	自由、市民権、社会権
自由主義とその問題性1;二つの自由(I. パーリン)にひそむ問題性	積極的自由、消極的自由
自由主義とその問題性2;所有、自由と平等(リバタリアニズムとその問題性)	自由、所有、権利、平等、連帯
正義論とその意味(正義とはなにか、現代正義論の展開、ロールズ、アマルティア・セン)	正義と格差原理、潜在能力論
正義論とその限界	論証的基礎づけの限界
公共圏と開かれた社会、民主主義の徹底	公共圏、討議民主主義、社会的連帯と開かれた社会

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中にレジメプリントを配布する。プリントは出席者にのみ配布する。

参考書は講義で取り上げる。

参考書

詳しくは、授業時に指示する。

歴史と倫理については、高橋哲也『歴史／修正主義』岩波書店、

嘘をめぐる日常倫理については亀山純生『うその倫理学』大月書店、

行為と倫理については、黒田巨『行為と規範』勁草書房

自由については、バーリン『自由論』みすず書房、吉崎祥司『リベラリズム』青木書店

正義論については、井上達夫『共生の作法』創文社、ロールズ『公正としての正義』木鐸社、同『正義論』紀伊国屋書店

公共性論については、ハンナ・アーレント『人間の条件』みすず書房、ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社、

斎藤純一『公共性』岩波書店は基本文献。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会と福祉 N
社会福祉論 N

12065

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

情報化がわれわれの社会を急速に変えつつあるように、福祉の領域における情報化も、福祉のあり方に大きな影響を及ぼしており、新たな社会福祉の展開を支える基盤として重要な役割を担いつつある。とりわけ、介護保険制度導入後における福祉・介護分野のIT化・情報化の進展は著しいものがある。この講義では、今後の福祉のあり方を、情報化という切り口を通して考えていくことにしたい。また、福祉と介護をめぐる多様で激しい動きに対処するため、関連情報の入手と活用についても学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
その他	30 %	出席状況等を評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション	
社会福祉とは何か	
社会福祉は今	
福祉の情報源(1)	
福祉の情報源(2)	
福祉情報の使い方(1)	
福祉情報の使い方(2)	
福祉情報の使い方(3)	
現代社会における情報とコンピュータ	
福祉と情報	
福祉情報化	
新しい福祉と情報化の課題(1)	
新しい福祉と情報化の課題(2)	
試験(試験期間中)	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 坂井田 美代子

講義内容・テーマ

私たちは日々コミュニケーションを重ねることで、人間関係を深め、広げ豊かに創りだしている。また、コミュニケーションを通して、様々な刺激を受け人間として発達をしてゆく。そのことは情報を共有することなくしては成り立たない。聴覚に障害を持つ人たちは、この情報を共有することから遮断されることが多い、さらに聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁を作られやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けてしまう。情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般に関わる、このことの解決なしには聴覚障害者の暮らしは発展しない。よって本講義では、聴覚障害・手話の成立発展・聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題等を中心に学ぶこととする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、聴覚障害者のコミュニケーション環境を中心に展開する。ビデオ教材・ゲスト講師による当事者の体験、自分の生活圏における聴覚障害者のバリアフリー調査等を取り入れた講義を展開する。また「自分にとってコミュニケーションとはなにか」具体的な課題として実感的に学ぶ姿勢を大切にすることを望む。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60%	聴覚障害者のコミュニケーション環境に関して、実態や課題を把握できているか、またそれらに関する自分の意見が述べられているか。
日常点(小テスト)	40%	調査レポートについては、実態を把握できたか、小レポートについては話し手の意図が把握でき、自分の意見が述べられているか。

*試験に代わるレポートとして実施 *日常点評価 最終試験レポート60%・日常点では調査レポート・小レポート・コミュニケーションレポートによる出席状況等40%を考慮し評価をする。

講義スケジュール

内容	キーワード
本講義のねらいと講義概要について知る。聴くこと・聞こえること・立っていられることなど、耳が私たちの発達にどのような役割を持っているのかについて考える。	聴覚障害とコミュニケーション・耳の役割
聴覚生理についてその概要を知り、障害の部位やその特性、リハビリについて学ぶ。また、聴覚の検査や障害等級の算出やレベル等について学ぶ。	コミュニケーションの決定に重要な障害の種類とその特性
考えることから、伝達する手段等であることばの役割、又ことばの発達の道筋を学び聴覚障害と言語習得と発達過程について考える。	コミュニケーション手段の決定に重要な失聴年齢とことばの発達
ゲスト講師(障害の受容と手話について、当事者の体験から学ぶ)	当事者の立場から障害をどう受け止めているのか、又私たちが考えなければならないこと
情報伝達、情報の共有そして共感を通して豊かに育つ人との関わりと人的発達を促すコミュニケーションの意味と役割について学ぶ	コミュニケーションの役割とコミュニケーション障害
ことばは集団の中で生まれ、集団の中で育つ、言語としての手話はどのような環境の中で生まれ発展してきたのか、手話の成立と発展、聴覚障害者と手話の関わりについて学ぶ。	話し言葉の手話の成立と発展・創造
コミュニケーション成立の条件、集団・場・手段がどのように創られてきたのか、コミュニケーション手段は単一ではない、聴覚障害者のコミュニケーション手段とその特徴や実態について学ぶ。	聴覚障害者とコミュニケーション手段
「原爆は聞こえなかった」のビデオから、家族・近隣・友人など私的な、また行政等の公的な情報やコミュニケーションから閉ざされた実態とそれらが生活に人生にどのような影響を及ぼしているかを考える。	聴覚障害者を取り巻くコミュニケーションの実態
福祉の制度は聴覚障害者の悔しい体験をバネに、たゆまない運動で価値とつきた歴史でもある、聴覚障害者を取りまく社会環境をろう運動の歴史から学ぶ。	ろう運動の歴史と福祉制度
同上福祉の制度は聴覚障害者の悔しい体験をバネに、たゆまない運動で価値とつきた歴史でもある、聴覚障害者を取りまく社会環境をろう運動の歴史から学ぶ。	ろう運動の歴史と福祉制度
調査・課題レポートの提出「生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」を調査し課題や展望について考える。	身近な聴覚障害者のバリアフリーについて考える
聴覚障害者のコミュニケーション保障の歴史、どのように変遷してきたのか、その原動力になった事件等をまなぶ、現在の状況と課題と展望をテーマごとに学ぶ「労働」	聴覚障害者と労働

聴覚障害者のコミュニケーション保障の歴史、どのように変遷してきたのか、その原動力になった事件等をまなぶ、現在の状況と課題と展望をテーマごとに学ぶ「労働」「教育・参政権他」

聴覚障害者と教育・参政権

聴覚障害者のコミュニケーション保障の歴史、どのように変遷してきたのか、その原動力になった事件等をまなぶ、現在の状況と課題と展望をテーマごとに学ぶ「労働」「福祉制度」

聴覚障害者と福祉制度

聴覚障害者である当事者が望んでいること、又制度や社会資源、人的環境等の現状を知り、聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備と展望について考える。

聴覚障害者とコミュニケーション環境の整備

テキスト

講義の進行にあわせ提示する。

参考書

講義の進行にあわせて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.jfd.or.jp> 他、講義時に紹介する。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 水谷 裕

講義内容・テーマ

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」
 障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害者スポーツ」等のビデオ画像を通して、障害のある人の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考える力を育てたいと考えています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	1問 筆答とします。

最終講義試験を重視します。特に言葉の言回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題されたことについて論点が押さえられているかどうかを問います。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ビデオ	障害のある人とスポーツに関する知識
講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ビデオ	人数・傾向、戦後の歴史等
講義「障害について」、ビデオ	原因・症状等
講義「障害を考える」、ビデオ	意味・とらえ方等
講義「障害の受傷時期による相違」、ビデオ	葛藤・受容・心理等
講義「障害のある人との関わるための留意点」、ビデオ	言葉づかい・態度・考え方等
講義「障害のある人とスポーツ」、ビデオ	スポーツ観・残存能力・訓練との相違等
講義「障害のある人に何故スポーツ?」、ビデオ	運動は動物存在の基礎条件等
講義「障害者スポーツの歴史と組織」、ビデオ	時代的背景、施設・団体等
講義「障害のある人のスポーツ権」、ビデオ	背景にある<みんなのスポーツ運動>等
講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ビデオ	身体的・精神的等
講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ビデオ	阻害要因・視点等
講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ビデオ	人間的平等・発達保障等、指導者・環境・現状把握等
最終講義試験	

テキスト

- *特に決まったテキストは使用しません。
- *適時、コピー等を配布します。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
障害者スポーツ	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集 / 医学書院 /
障害者とスポーツ	芝田徳造 / 文理閣 /
身体障害者のスポーツ指導の手引き	日本障害者スポーツ協会編集 / 株式会社ぎょうせい /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

- *日本障害者スポーツ協会WWWページ
- *京都障害者スポーツ振興会WWWページ
- *京都市詞障害者スポーツセンターWWWページ
- *その他、障害者スポーツ関係WWWページ多数あり

その他

- *脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用し、京都市障害者スポーツセンター勤務しています。
- *授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

障害者福祉論 S
 障害者福祉論 S
 障害者福祉論 SG

11833

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

障害者福祉の現代的課題は「同一年齢の他の国民と同等な生活を権利として保障する」というノーマライゼーション理念を具体化していくことにある。この点から授業では、歴史的な到達点としての現代の障害者問題と課題を主にとりあげる。さらに現代の制度の転換点についても言及したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害者問題の入門書の事前学習を期待したい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	基礎知識と論述
レポート	10 %	途中で障害観に関するレポートあり

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
授業の進め方	
現代の障害者観の課題	
現行法制の障害定義	
障害概念の検討	
障害者人口の動態・実態	
(予定)中間レポート・障害観	
市民制社会以前の障害者問題	
近代の障害者問題	
現代の障害者問題	
国際的な障害者権利保障	
ノーマライゼーションからインクルージョンへ	
措置制度から利用契約制度へ	
支援費制度から障害者福祉サービス法(仮称)へ	
新たな障害者制度の問題と課題	

テキスト

とくになし

参考書

峰島「転換期の障害者福祉」「支援費制度活用のすべて」「障害者福祉制度改革 何が問題か」全障研出版部

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

障害者団体のホームページなど

その他

とくになし

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

主な内容:

- 1) 気候変動と消費者, 環境保全とグリーン・コンシューマー,
- 2) 食品の安全性と消費者

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
その他	100 %	最終講義試験

最終講義日試験による評価する。

講義スケジュール

内容	キーワード
気候変動と消費者(1) なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か	
気候変動と消費者(2)、気候変動の影響、日本地域における影響と消費者	heatwaves, 洪水予測、海面上昇、thresholds
気候変動と消費者(3)、the risk of overshooting 2 degree C, emission pathway,	climate sensibility, 2度上昇の確率、温室効果ガス濃度安定化
気候変動と消費者(4)、emission pathwayまとめ、削減開始遅れの影響、heat waveへの対策、heat-health-watch	2度回避の削減量、削減率、削減開始遅れの影響
気候変動と消費者(5)、消費者部門における温室効果ガス排出の実態、排出削減対策	先進国の責任、京都議定書、イギリスの気候変動プログラム
気候変動と消費者、まとめ	
環境保全と消費者(1) 消費生活における環境負荷の実態	ライフサイクルエネルギー、家庭部門のエネルギー消費
環境保全と消費者(2) 環境配慮製品、環境ラベル制度、EU Eco Label	ブルーエンジェル、EUエコラベル、エコリーフ、環境配慮設計、ライフサイクルアセスメント
食品安全政策(1) 食料自給率と気候変動、輸入食品への依存と食品安全	食料輸入の現状、自給率低下の意味、米収穫量への気候変動の予測、フードマイレージ
食品安全政策(2) 食品トレーサビリティと安全性確保	トレーサビリティ・システム、BSE、GMO、EUにおけるトレーサビリティと食品安全政策
食品安全政策(3) 農産物認証システム	(有機農産物表示、生産履歴認証システム、food assurance scheme)
食品安全政策(4) 遺伝子組み換え食品と安全性、環境影響	安全の定義、表示制度、EUにおけるGMOトレーサビリティ
まとめ	
最終講義試験	

テキスト参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
消費者問題 (第8、9章)	呉世煌、西村多嘉子編/慶応義塾大学出版会/
環境にやさしいライフスタイル	和田安彦、中野加都子、山本良一/技報堂出版/
Global warming, a very short introduction	Mark Maslin / Oxford /
遺伝子組み換え作物と環境への危機	ジェーン・リスラー、マーガレット・メロン/合同出版/

授業中に資料を配布する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業中に指示する。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

気候変動と消費者、
環境マーケティングとグリーンコンシューマー、
食品安全と農産物マーケティング

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	最終講義試験

最終講義日試験によって評価します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
気候変動と消費者(1)、なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か	
気候変動と消費者(2)、気候変動の影響、日本地域における影響と消費者	
気候変動と消費者(3)、the risk of overshooting 2 degree C, emission pathway,	
気候変動と消費者(4)、emission pathwayまとめ、削減開始遅れの影響、heat waveへの対策、heat-health-watch	
気候変動と消費者(5)、消費者部門における温室効果ガス排出の実態、排出削減対策	
まとめ	
環境マーケティング(1) 環境配慮製品	
環境マーケティング(2) 環境ラベルと環境配慮製品、環境マーケティング	
環境マーケティング(3) 新しい環境ビジネス	
食品安全とマーケティング(1) 農産物トレーサビリティをめぐるマーケティング	
食品安全とマーケティング(2) オーガニック食品とマーケティング	有機農産物表示、有機農産物ビジネス
食品安全とマーケティング(3) 農産物認証ビジネス、food assurance scheme	生産履歴認証システム、food assurance scheme,
まとめ	
最終消費試験	

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

情報化社会とは、上から政策的に導入されたり、ビジネスチャンスの到来といった経済的な効果が期待されたりするだけでなく、人々の社会文化的な営みによってもまた展開されるものです。この講義ではテレビ、パソコン、ケータイなど日常的なメディア使用に焦点を当てながら、情報メディアを使用する人間の経験的な側面を中心に情報化社会について考察していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

自らのメディア経験をふりかえりながら、情報化社会を解釈したり、検証したりする視点(=分析視覚)を学んでほしいと思います。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	
日常点(小テスト)	20 %	

*試験に代わるレポートとして実施 レポート試験で評価します。日常点として授業内で小レポートを提出してもらった場合があります。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

メディアの歴史

マスコミ論-1ラジオの動員力:効果研究のはじまり

マスコミ論-2強力効果説と限定効果説

マスコミ論-3テレビと新効果論

ビデオで実習:テレビ報道について考える

メディアと「現実」

マスコミ論の特徴と限界

電子メディアと空間の変容

情報化と監視社会

ケータイと都市空間

電子ネットワークと新しい政治

メディアと公的空間

情報化社会とは一体どんな社会なのか?

授業の総まとめ

テキスト

レジュメを使用。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『「情報社会」を読む』	フランク・ウェブスター / 青土社 /
『メディア文化の社会学』	加藤春明 / 福村出版 /
『情報化の中の<私>』	守弘仁志、岩佐淳一他 / 福村出版 /

参考文献は授業で毎回紹介していきます

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

インターネットを始めとする情報インフラの整備が進展し、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革が生じている。経済活動においては電子商取引の普及が進み、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造も変わりつつある。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態を理解しつつ、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

通信ネットワークやセキュリティについて、入門レベルでの技術的内容も取り扱う。企業の情報ネットワーク利用にかかわる新聞の経済記事も注意して読むようにしてみよう。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	セメスター末、筆記試験
日常点 (小テスト)	20 %	課題提出を2回予定

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション 情報ネットワーク化と経済活動	情報経済
電子商取引 (EC, Electronic Commerce) とは何か	電子商取引
企業・消費者間 (BtoC) のEC(1)	BtoC
企業・消費者間 (BtoC) のEC(2)	ビジネス・モデル
企業間 (BtoB) のEC(1)	BtoB
企業間 (BtoB) のEC(2)	EDI
ECの技術的基盤(1)	情報処理システム
ECの技術的基盤(2)	通信ネットワーク
ECの技術的基盤(3)	インターネット
ECの技術的基盤(4)	セキュリティ、暗号化と認証
電子決済システム	電子マネー
ユビキタスネットワーク	ユビキタス、IDタグ
ECと消費者保護、個人情報保護	消費者保護、プライバシー
デジタルエコノミーと経済法則の変化	経済性、収穫逦減

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業中に配布するプリント・資料を用いて講義する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
エレクトロニック・コマース入門	井上英也 / 日本経済新聞社 / 4532107571
IT経済入門	篠崎彰彦 / 日本経済新聞社 / 4532109426
インターネット入門	尾家・後藤・小西・西尾 / 尾家・後藤・小西・西尾 / 4000110519
IT革命を読み解く	岩村充 / 技術評論社 / 4774113204

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

電子商取引推進協議会 <http://www.ecom.or.jp/>
 日本通信販売協会 <http://www.jadma.org/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らベース配分を考え、制作していく必要がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	総合評価

* 日常点評価 作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

オリエンテーション、Windowsおさらい。

ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。

情報収集と整理。計画書提出。

計画書修正と情報収集。

HTMLの基本とWeb Page作成方法。

Web Page作成。

Web Page作成。

中間チェックと修正。

Web Page作成。

Web Page作成。

アップ・ロードと公開、修正。

プレゼンテーション。

プレゼンテーション。

プレゼンテーションとまとめ、運営方法。

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。また、講義スケジュール及び内容は、受講者数や、受講者の習熟度により調整を行う。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らベース配分を考え、制作していく必要がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	総合評価

*日常点評価

作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
オリエンテーション、Windowsおさらい。	
ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。	
情報収集と整理。計画書提出。	
計画書修正と情報収集	
HTMLの基本とWeb Page作成方法。	
Web Page作成。	
Web Page作成。	
中間チェックと修正。	
Web Page作成。	
Web Page作成。	
アップ・ロードと公開、修正。	
プレゼンテーション。	
プレゼンテーション。	
プレゼンテーションとまとめ、運営方法	

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。また、講義スケジュール及び内容は、受講者数や、受講者の習熟度により調整を行う。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らベース配分を考え、制作していく必要がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	総合評価

*日常点評価 作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

オリエンテーション、Windowsおさらい。

ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。

情報収集と整理。計画書提出。

計画書修正と情報収集。

HTMLの基本とWeb Page作成方法

Web Page作成。

Web Page作成。

中間チェックと修正。

Web Page作成。

Web Page作成。

アップ・ロードと公開、修正。

プレゼンテーション。

プレゼンテーション。

プレゼンテーションとまとめ、運営方法。

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。また、講義スケジュール及び内容は、受講者数や、受講者の習熟度により調整を行う。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らベース配分を考え、制作していく必要がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	総合評価。

* 日常点評価 作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
オリエンテーション、Windowsおさらい。	
ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。	
情報収集と整理。計画書提出。	
計画書修正と情報収集。	
HTMLの基本とWeb Page作成方法。	
Web Page作成。	
Web Page作成。	
中間チェックと修正。	
Web Page作成。	
Web Page作成。	
アップ・ロードと公開、修正。	
プレゼンテーション。	
プレゼンテーション。	
プレゼンテーションとまとめ、運営方法。	

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。また、講義スケジュール及び内容は、受講者数や、受講者の習熟度により調整を行う。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

この講義ではC言語によるプログラミングの基礎を実習を通して学ぶ、C言語はオペレーティングシステムUNIX、さまざまなソフトウェアを記述している言語である。また、通産省が行っている情報処理技術者試験で採用されているプログラム言語でもある。C言語を学ぶことにより、コンピュータのしくみや活用法をより深く理解することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。
 なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。
 1. タッチタイピングができること
 2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
 3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	90 %	
その他	10 %	授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する。

日常点90%の内訳は、毎時の課題提出60%、中間テスト15%、最終課題15%である。課題提出による評価に重きを置くので、毎週の予習復習など、自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 コンピュータスキルなどの基本知識を確認する

 コンピュータのしくみとプログラム言語

 ソースファイル作成とコンパイル

 C言語の基本ルール

 計算して表示する

 変数を利用する

 中間テスト

 プログラムの流れを変える 条件分岐

 プログラムの流れを変える 反復

 配列を利用する

 最終課題を解く

 前回の継続

 前回の継続

 プログラム発表会

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Cの絵本	アंक / 翔泳社 / 4798101036

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
パソコンプログラミング入門以前	伊藤華子 / 毎日コミュニケーションズ / 4839907234
C言語プログラミングレッスン入門編改訂第2版	結城浩 / ソフトバンク / 4797307579
プログラミング言語C	B.W.カーニハン / D.M.リッチー著 / 共立出版 / 4320026926

必要に応じて講義中に随時紹介もする。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義用のWebサイト <http://www.ritsumeit.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

アプリケーション・ソフトの受動的な使用にとどまらず、簡単なアプリケーション・ソフトの作成、すなわちプログラミングを通し、アプリケーション・ソフトの基本的な仕組み、思想を学び、ITの積極的活用を探る。言語には、分かりやすく、広く使われている、Visual Basicを用いる。本講座では、Visual Basic .NETを用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

* 試験に代わるレポートとして実施 講義中に作成したプログラム及び、最終レポート、平常点、出席点の総合評価とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
オリエンテーション、Windowsおさらい。	
Visual Basicの基礎知識。	
プログラミング方法と、プロパティ、イベント。	
画像の扱い方。	
おさらいと発展演習。	
移動アニメーション、メソッド、タイマー。	
入れ替えアニメーション、タイマーとタイミング。	
おさらいと発展演習。	
四則演算、「+」。	
アルゴリズムの重要性、素数発生。	
高速化と発想、配列。	
おさらい。	
レポート作成。	
レポート作成。	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『Visual Basic.NET まなぶ・おしえるプログラミング(まなぶ編)』	上出 浩 / 西日本法規出版 / 4-434-04018-9

このテキストに従い、講義を進めていく。

参考書

必要に応じ講義中紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じ講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。また、講義スケジュール及び内容は、受講者数や、受講者の習熟度により調整を行う。

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
 担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探索する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

履修にあたって、社会統計学の履修を前提とするが、意欲のある者ならば参加して欲しい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。
 なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める
日常点(小テスト)	60 %	課題は毎回の講義で出題する
その他	10 %	授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する

筆記試験は行わないが、毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イントロダクション：社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎

記述統計量、計量モデルの概観

量的変数の関連：相関係数

質的変数の関連：クロス表分析、カイ二乗検定

質的変数の関連：エラボレーション 第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた

2群の差の検定：t検定

多変量解析：分散分析

多変量解析：因果分析(1) 回帰分析

多変量解析：因果分析(2) 重回帰分析、パス解析

多変量解析：因子分析(1) 因子分析とは、因子数、回転

多変量解析：因子分析(2) 因子スコア

社会調査データを用いた分析(1)分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成

社会調査データを用いた分析(2) 調査データの解析とレポートの作成

社会調査データを用いた分析(3) 解析結果のプレゼンテーション方法

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	室淳子、石村貞夫 / 東京図書 / 4489006373

テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
統計でウソをつく法 数式を使わない統計学入門	ダレル・ハフ / 講談社ブルーバックス / 4061177206
データ分析はじめての一步	清水誠 / 講談社ブルーバックス / 4062571455

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義用のWebサイト <http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

情報処理 SH
情報処理 SH

12735

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

なお、Webサイト作成には特定のソフトは使わない。Webページを記述する言語HTML(Hyper Text Markup Language)の習得から始め、HTMLタグを直接使用してサイトを記述できるようになることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。

自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。

なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	10 %	インターネット上の様々な問題についての考察
日常点(小テスト)	80 %	Webサイト構築と課題提出
その他	10 %	授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、筆記試験は行わない。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

コンピュータリテラシーについての知識確認

Webサイトを評価する

Webページ制作のプロセスを知る

各自のWebページサイトの企画を立てる

HTML入門 基本ルール

HTML入門 基本的なHTMLタグ

スタイルシート入門

個人Webサイト制作開始

前回の継続

前回の継続

前回の継続

前回の継続

前回の継続

相互批評会

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新インターネット講座	有賀妙子・吉田智子 / 北大路書房 / 76282416X

必要に応じて、授業中にプリントも配布する。

参考書

講義中に随時紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義用のWebサイト <http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

なお、Webサイト作成には特定のソフトは使わない。Webページを記述する言語HTML(Hyper Text Markup Language)の習得から始め、HTMLタグを直接使用してサイトを記述できるようになることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。

自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。

なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	10 %	インターネット上の様々な問題についての考察
日常点(小テスト)	80 %	Webサイト構築と課題提出
その他	10 %	授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、筆記試験は行わない。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

コンピュータリテラシーについての知識確認

Webサイトを評価する

Webページ制作のプロセスを知る

各自のWebページサイトの企画を立てる

HTML入門 基本ルール

HTML入門 基本的なHTMLタグ

スタイルシート入門

個人Webサイト制作開始

前回の継続

前回の継続

前回の継続

前回の継続

前回の継続

相互批評会

テキスト書 名

新インターネット講座

著者 / 出版社 / ISBNコード

有賀 妙子 / 吉田 智子 / 北大路書房 / 76282416X

必要に応じて、授業中にプリントも配布する。

参考書

講義中に随時紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 大石 泰彦

講義内容・テーマ

本年度は、情報法(情報流通の自由と規制にかかわる法制度)のうち、マス・メディア法制を中心とする「情報公法」について講義する。受講者が、マス・メディアがひきおこすさまざまな事件について、単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に分析・批判できるようになることがこの講義の目標である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「情報公法」は、ジャーナリスト、各種公務員をはじめとする公共的な職業を目指す者にとって必須であるのみならず、いわゆる「メディア・リテラシー」を身につけたいと考える者にとっても必要な知識である。新聞(一般紙)を継続的に(毎日)まんべんなく読み、テレビ・ニュースを継続的に見るなど、「社会人」になるための地道な努力を怠らない学生の受講を期待する。

評価方法・基準

受講者数にもよるが、集中講義であることを考慮して、出席状況や受講態度に相当の比重をおく方式で評価する。

講義スケジュール内 容キーワード

ガイダンス

取材・報道の自由・総論(その1)

取材・報道の自由・総論(その2)

取材・報道の自由と国家秘密(その1)

取材・報道の自由と国家秘密(その2)

取材・報道の自由を裏打ちするもの(その1)

取材・報道の自由を裏打ちするもの(その2)

名誉毀損(その1)

名誉毀損(その2)

プライバシー侵害(その1)

プライバシー侵害(その2)

情報化社会とは何か

情報公開・個人情報保護(その1)

情報公開・個人情報保護(その2)

まとめ・小テスト

テキスト書 名著者 / 出版社 / ISBNコード

メディアの法と倫理

大石泰彦 / 嵯峨野書院 / 4-7823-0395-5

参考書

テキスト16ページA欄に掲げる諸文献参照。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

人格の発達についての基礎的な解説と21世紀の担い手に求められるものは何かという観点から人格発達のための課題を論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

随時小テストを実施する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

試験を行うほか小テスト結果を加味する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

1.現代社会における人格発達の課題

1.1「人格を考える」 1.2人格をめぐる今日的課題 1.3人格発達の「危機」の背景

1.3.1高度成長期がもたらしたもの(1) 1.3.2高度成長期がもたらしたもの(2)

2.21世紀の担い手のために

2.1現代社会における自立を考える

2.1.1「自立の時代」と自立をめぐる二つの潮流 「自立の時代」「義務としての自立」と「権利としての自立」

2.1.2新しい自立論とその主張 「依存的自立」「全人格的自立」= 経済的自立、生活技術的自立、精神的自立 目標概念としての自立

2.1.3自立 「自律」=自己コントロール 自己教育力

2.2自己教育力とその形成(その1)

2.2.1自己意識・自己認識・自覚 2.2.2もうひとりの自分との葛藤 2.2.3自己肯定の定義

2.3自己教育力とその形成(その2)

2.3.1目標・希望・展望 2.3.2信頼・共感・連帯

2.4人格と集団

2.4.1人格形成における集団の意味 2.4.2集団の発展と人格発達

テキスト

特に設けない

参考書

加藤直樹「障害者の自立と発達保障」全国障害者問題研究会出版部1997

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 榊原 達哉

講義内容・テーマ

本講義は、身体が西欧の思想の中でいかに考察されてきたかを考古学的に考察することを目的とする。一般に理性中心主義としての西欧哲学史のなかで身体は不確実な存在としてつねに貶められていたが、哲学史における身体の考察の変遷を、いわば考古学的手法を使って、理性の哲学史の裏面史として、いかに身体の哲学史が存在したかということを考察したい。本講義は、身体の考古学の試みであると同時に、「身体とは何か」、「身体は何をなにするのか」を問う身体の哲学の復権の試みである。哲学の基本的な理解を受講者に促すために、各時代の時代背景と哲学的世界観を語りながら、精神と身体との関係に焦点を絞って語ることを予定している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

哲学に対する受講生の予備知識を前提とせず、講義を進めていく。受講生の哲学の知識は一切問題にならない。哲学に興味のある受講者の出席を願う。ただし、講義では受講者が哲学を主専攻としないことに配慮して、できる限り平易な語り方をするように留意する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

学期末に定期試験を行う。定期試験(8割)、平常点(2割)とによって成績を評価する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
総論 身体の考古学 西欧哲学史における身体の位置、あるいは精神と身体。身体(Leib)とは何か、身体とは何をなしているか。	
身体の考古学(1)古代ギリシア 前ソクラテスの哲学とソクラテス 物活論とアテナイ期の哲学、プラト哲学へのプロローグ	
身体の考古学(2)古代ギリシア プラトン アイデアの思想、プシュケー(靈魂)とゾーマ(肉体)	
身体の考古学(3)ヘレニズム アリストテレス デュナミス(可能態)とエネルゲイア(現実態)の思想、「魂について」	
身体の考古学(4)ヘレニズム ストア派とエピクロス派 ビュシス(自然)とともに生きること、魂の練成	
身体の考古学(5)キリスト教における受肉の思想 中世哲学	
身体の考古学(6)近代への移行期 汎神論 - 神的秩序の現世への受肉 = 具体化 あるいはカントローヴィッチの王権論	
身体の考古学(7)近代哲学 デカルト 心身合一と心身分離の思想	
身体の考古学(8)近代哲学 イギリス経験論とコンディヤックの思想 魂の受動性と能動性の問題	
身体の考古学(9)近代哲学 メーヌ・ド・ピランとカント 身体はいかにして能動的であるか。	
身体の考古学(10)現象学 現象学 身体の現象学I フッサール 身体(Leib)の思想	
身体の考古学(11)現象学 身体の現象学II サルトルとメルロ＝ポンティ(1) 身体は観念に還元できるか	
身体の考古学(12)現象学 身体の現象学III メルロ＝ポンティ(2) 肉の思想	
総括	

テキスト

テキストは特に指定しない。が、参考文献にかんしては、そのつど講義のなかで紹介してゆく。

参考書

レジュメ、プリントを配布する。テキスト以外の参考書にかんしては、それぞれ講義の際に述べる。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

身体コミュニケーション論 N
身体表現論 N

10650

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 牧田 佳子

講義内容・テーマ

身体動作をコミュニケーションの媒体として取り扱う分野について、特にノンバーバルコミュニケーション、身体表現、舞踊といった場において、実際に起こっている動き、リズム、関係性に着目したコミュニケーションの見方を紹介する。研究や文献からの講義とともに、ビデオ資料の鑑賞や受講者自身が実際にコミュニケーションを体験する課題などを通して、「身体」でも理解を深めてほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義内容の理解だけでなく、表現やコミュニケーションについての実習も取り入れるので、課題や実習への積極的な参加が望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	課題や内容の理解、発表
日常点 (小テスト)	50 %	自分の体験に結びつける意欲と授業内容の理解

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
コミュニケーション概論	
ノンバーバルコミュニケーション	空間性
ノンバーバルコミュニケーション	関係性
ノンバーバルコミュニケーション	動作分析
ノンバーバルコミュニケーション	動作分析
ノンバーバルコミュニケーション実習	
身体表現、舞踊について	身体論 身体表現論
身体表現、舞踊について	舞踊の起源
身体表現、舞踊について	日本の舞踊
身体表現、舞踊について	世界の舞踊
身体表現、舞踊について	教育における舞踊 舞踊の教育
レポートガイダンス、課題実習	
レポート発表	
レポート発表	

テキスト参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
舞踊学講義	舞踊教育研究会編 / 大修館書店 / 4469261971
文化を超えて (Beyond Culture)	E.T. Hall / TBSブリタニカ / 4484921359
Beyond Words	C-L. Moore, K. Yamamoto / Gordon & Breach Science Pub / 2881242510

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

身体表現論 S
身体表現論 S

12701

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

我々の身体は、しぐさや身振りなどによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの主要な部分をなし、独自の様式を形成している。この講義では、1,日本のみならず世界のさまざまな国々にみられる非言語コミュニケーションの諸相を鳥瞰しつつ、民族的・文化的特性を明らかにし、2,それが一定の表現様式を有した舞踊について、日本始め世界の舞踊と社会文化とのかかわりを検討したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、テキストを使用して行い、適宜視聴覚教材も用意する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	中間レポート(20%)、出席状況(10%)

* 定期試験として実施

評価は、期末テスト(70パーセント)、中間レポート(20パーセント)、出席状況(10パーセント)などを考慮して総合的に行う。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

身体表現の概念

身体表現の分類と役割

身体表現に関する研究史

しぐさの国際比較

しぐさの国際比較

中間まとめとレポート提出

様式化された身体表現 = 舞踏の誕生と研究史

無文字社会 (特にアフリカ) における舞踏

日本における舞踏

日本における舞踏

ヨーロッパにおける舞踏

ヨーロッパにおける舞踏

アメリカにおける舞踏

総まとめ

テキスト

舞踊教育研究会編『舞踊学講義』大修館書店、東京 1991年 ISBN4-469-26197-1

参考書

マジヨリー・F.ヴァーガス著 石丸正訳 1987『非言語コミュニケーション』新潮社

野村雅一著 昭和58年『しぐさの世界－身体表現の民族学』日本放送出版協会 など

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

心理学 S
心理学 S
心理学 SG

14781

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 滝野 功

講義内容・テーマ

心理学があつかう広大な分野や活動領域における様々な現象、出来事、事例などに接してそれらに対するさまざまな見方を味わいながら、こころの世界に向かっての窓をできるだけ多く開けたい。

また自分の集団との関わり方、物事やコミュニケーションに対するアプローチと関わり方をさまざまに試みながら、1)心理(学)的なセンスを育て、2)自分の内に宿る可能性を探り、3)(物事)や(事柄)そして(関わり)について吟味・検討する力を養う糸口を見つきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業—実は「授業」とは別な名前を募集中—では、自分が関与した限りにおいて学ぶところがあるもので、できるだけ楽をして単位取得のみを望む学生には向いていない。

基本的には毎回参加して、あったことやしたことなどを振り返る作業を通して、心理学の面白さを身につけてもらいたいと考えているので、就職活動や部活などで、しばしば遅刻や欠席などがあり得る学生は原則的に履修できない。必ず第1回目から出席のこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	25 %	
レポート	25 %	
日常点(小テスト)	50 %	
その他	50 %	

上に挙げた数字は現在対象者がわからない時点で期待しているおよその考えにすぎず、実際の履修者・参加者が決まったところで別なやり方を呈示することになると思う。

基本的には、授業に対する係わり方(質疑応答・グループ討議など)と毎回の自主的な振り返りや「反想記録」さらに個人や小集団での研究と発表などによって評価したいと考えてはいる。しかし、望むところは、評価方法について学生と話し合うことだ。「評価」そのものについて考えることが、実は心理学の重要な課題にもなるからである。できれば、学生の「評価準備委員会」なるものをつくり、なんらかの評価作業に参加させたいとも考えている。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	キーワード:有用性と剝奪
心理学とはなにか? その幻想と現実	ソクラテス、妊娠と出産
自由と不自由:自由とは何か? 自由になるためには何が必要か? 主体性と関わり	
学びと心理的センス:どのような感じ方、関わり方、考え方が心を豊かに伸ばして行くか?	
個性と性格:自分のパーソナリティはどのように気づくことができるか?それを育てたり、	
無気力と勉強嫌い:それらはどのように育ってしまうか? 知的好奇心を復活させるには?	
自立と依存:「大人」となるということはどういうことか? 自分は何だけ大人になっているか? そもそも	
自我と発達:自我の働きにはどういふことがあるか? それらはどのように発達するか?	
食べる・飲む・吸うこと:その生理と心理と病理について各自自分の日々の生活の観察から考えてみよう。今	
愛と憎しみ:親密さと愛情と性愛とはどのように関連しているか? それらはどのように変化したり、発達した	
ウソと騙し:人はなぜ騙されるのか? 偽物はどのように見抜くことができるか?	
宗教と神秘主義:日本人にとって宗教とは何か? 宗教を求める気持ちと軽蔑する気持ちはどこから来るのか?	

失うことと死ぬこと：人は喪失にどのような対応をするのか？

喪失体験が人を成長させるため条件は何か？

振り返り、吟味検討・フィードバック・反省と反想

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
事例で学ぶ心理学	足立・塩見編集 / 勁草書房 /

「授業」と「自分」の内と外とで語られたり生じたりすることこそが、解読すべきものが織り込まれている原典(text)である。しかし、もちろん同じに解読のためには参考文献ばかりか、適宜、新聞や雑誌の記事、そしてできれば映画やドキュメンタリー・フィルム等を紹介する予定。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
愛するということ	E.フロム / 紀伊国屋書店 /
少年期不在	竹内常一 / 青木書店 /
さようなら学校化社会	上野千鶴子 / 太郎次郎社 /
「勉縮」の勤め	松山幸雄 / 朝日文庫 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適当なものがあれば「授業」のなかで示唆する予定だが、同時に、関連していて興味深いものがあれば、学生からの提供も大いに歓迎したい。

その他

この講義または授業でやること起き上がってくることは、多くの人にはこれまで受けてきた「授業」とは、大きく違ったものになり、違った展開になるかもしれない。この時、自分のなかに生じる驚きや当惑、感動や違和感を心理学を学ぶ上の第一素材として大切に扱ってほしい。それらがどこからくるのかを考えてほしい。それらを吟味検討できる力こそを、仲間と共に育ててほしいと願っている。

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	目黒 朋				

講義内容・テーマ

本講義では、初歩的な入門書を用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、心理検査の意義、心理検査における数量的データのとらえかた、処理の仕方を具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の代表的なものを取り上げ、それぞれの意味と具体的な手法を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学についての基本的な知識を得ていることが望ましい(自学でも可)。できるだけ具体的な例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視する。データ処理の基礎を学習する際、平方根(ルート)を求められる電卓を用意すること。いわゆる「心理ゲーム」的なものは取り上げない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	
日常点(小テスト)	10 %	中間的に時間内レポートを実施し、講義内容の理解度を問う
その他	30 %	毎回のコメントカードの提出状況及び記述内容に見られる理解度や積極性について評価

*試験に代わるレポートとして実施 *日常点評価 レポート+平常点(小レポート+コメントカードの提出・講義への参加)講義内容を理解した上で自分自身の考え方を考察してもらいたい

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
心理検査の種類と歴史	
心理検査におけるデータ	標準偏差 / ルート機能のついた電卓
心理検査におけるデータ	相関係数 / ルート機能のついた電卓
心理検査におけるデータ	回帰分析 / ルート機能のついた電卓
心理検査の信頼性と妥当性	信頼性係数
心理検査の実際 - 知能検査法	知能検査の開発と発展の歴史
心理検査の実際 - 知能検査法	ウェクスラー式知能検査
心理検査の実際 - 発達検査	発達検査と発達診断
心理検査の実際 - 発達検査	新版K式発達検査
心理検査の実際 - 発達検査	発達検査と発達相談
心理検査の実際 - 性格検査	作業検査法
心理検査の実際 - 性格検査	質問紙検査法
心理検査の実際 - 性格検査	投影法
まとめ - 心理検査の活用と検査者の倫理	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
心理検査法入門－正確な診断と評価のために－	渡部洋 / 福村出版 /
渡部 洋 編著『心理検査法入門 正確な診断と評価のために』福村出版 生協書籍部ほか一般書店にても入手可	

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
心理検査の実際	水田善次郎 編 / ナカニシヤ出版 /
心理測定法への招待 測定から見た心理学入門	市川伸一 編著 / サイエンス社 /

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ****その他**

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松木 繁

講義内容・テーマ

現代社会に生きる人間にとっての心理臨床の果たす役割とその意義とは一体どのようなものであるうか。個人臨床的視点による役割だけでなく、個人と社会との関係性の中でその役割を考える必要がある。本講義では今年度も幾つかの社会問題を提示し、その中で心理臨床の果たす役割について具体的に考えていきたい。特に、今年度は人権に関わる社会問題と心理臨床という視点で問題を掘り下げていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理臨床を個人臨床の世界から社会的な視点へと総合的に捉えていきたいが、そのためには臨床心理学の基礎知識は前もって十分に理解できていることが望ましい。同時に心理臨床から得られた臨床の知恵を社会に還元していく意気込みを持つことのできる意欲的な学生の受講を望む。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	講義で取り上げる各問題に関して、心理臨床の視点から十分な理解が得られているかを試験で判断する。
日常点(小テスト)	20 %	各課題の終了時点でミニレポートの提出または小テストを実施する。
その他	10 %	講義中の発言や授業態度なども評価の対象とする。

* 定期試験として実施

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
現代社会と心理臨床 - 心理臨床の視点と社会的視点	
心理臨床の視点から捉えた社会問題の実態 - さまざまな調査結果を通して概観する	
今どきの子ども・若者像と心理臨床 - 少年犯罪の事例を通して心理臨床的視点を学ぶ...今どきの子ども達の心の実態と少年犯罪	
少年犯罪の事例を通して心理臨床的視点を学ぶ - ネット社会と少年犯罪	
少年犯罪防止への心理臨床的取り組み(社会的取り組みとの比較検討を通して)	
今どきの子ども・若者像と心理臨床 - 不登校問題と心理臨床...心理臨床の視点から見た不登校問題	
不登校問題と心理臨床 - 不登校問題解決のための心理臨床的取り組み1(個別カウンセリング)	
不登校問題と心理臨床 - 不登校問題解決のための心理臨床的取り組み2(学校コミュニティとネットワーク作り)	
現代社会における精神病理と心理臨床 - 自傷行為(自殺を含む)の急増の背景	
現代社会における精神病理と心理臨床 - 解離性障害の急増の社会的意味	
ストレス社会を健やかに生きるために - ストレスマネジメントの実際1	
ストレス社会を健やかに生きるために - ストレスマネジメントの実際2	
現代社会における心理臨床の果たす役割とその意義	
まとめ - 今後の課題と展望	

テキスト

特に指定はしない。講義中に適宜、レジュメを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
教師とスクールカウンセラーでつくるストレスマネジメント教育	松木繁, 宮脇寛, 高田みぎわ編著 / あいり出版 / 4-87984-903-0

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2~8

担当教員 真下 厚

講義内容・テーマ

日本神話の比較

日本の古代神話を古代中国・朝鮮の神話や琉球王朝神話、現在も声によって生成・伝承される神話と比較することによって、古代の神話の発生・伝承や機能について迫ろうとする。それを通して神話を伝承し神々への信仰を保持する社会を知り、我々が生きる現代社会を相対化するものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に必要なし。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール内 容キーワード

神話とは何か

神話の分類

日本古代神話と中国古代神話

日本古代神話と朝鮮古代神話

日本古代神話と朝鮮古代神話

日本古代神話と朝鮮古代神話

近世琉球の王朝神話

声の神話と社会

声の神話の形態

声の神話と祭祀

声の神話の伝承

声の神話の体験

声の神話の発生

声の神話の変容

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

プリントを適宜配布する。

参考書書 名

声の神話 奄美・沖縄の島じまから

著者 / 出版社 / ISBNコード

真下 厚 / 瑞木書房 / 4-87449-041-7

その他の参考文献は講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

スポーツの構造と規範 スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それが“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から成り立つのか、変化は何故起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツは一つのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつものなのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	75 %	グローバルの中で揺れるスポーツ規範の付いての論理性
レポート	10 %	スポーツ規範に関する今日の問題
日常点(小テスト)	15 %	明示的ルールについての基礎知識

* 定期試験として実施

定期試験による。スポーツルールは明示性と暗示性からなるが、前者については基本概念を理解すること、後者については現実との関わりで多面的にかつ深く洞察することが重要である。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
(序)スポーツ・ルールの意味:(1)時事問題からルールを探る	
(2)ルールの意味空間と技の構成	Wrestling/角力/相撲
() 2つのルール:(1)慣習からの明文化(2)ルールの性質	明示性と暗示性
() 明示的ルール (1)明示的ルールの原則	5つの原則
() (2)明示的ルールの性格と役割 (3)明示的ルールの構成	不変性と可変性
() (4)ルールの変化と原則	変化の8要因
小テスト:第 1章明示的ルールに関する基礎知識	
() ルールの暗示性とスポーツ規範 (1)ルールを支えるモラル	モラルとしてのアマチュアリズム
(2)スポーツマンの行動綱領 (3)スポーツマンシップとフェアプレイ	競うことの正義
(4)日本のスポーツ精神と武士道の倫理 (5)「フェアプレイ宣言」	闘い方の美学
() 現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題:(1)ドーピング問題の社会的基盤	優勝劣敗主義のなかのスポーツ競技
(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル 注)ドーピングについてのレポート	生命の自己決定と普遍的人間性変
() スポーツの競争と交流 (1)競争の序列と結果主義ー我々はプロ野球に何を期待したのか	ビジネスの中の結果主義、スポーツの競争の人間性
(2)スポーツの価値と観賞 (3)虚構の中の真実	結果から過程へ

テキスト

テキストは使用せず、章毎にレジュメを教室で配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
スポーツの自由と現代 下巻	草深直臣他編著 / 青木 /
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄 / 有斐閣 /

明示的ルールについては、耳学問ではなく、ルールブックや組織規則を実際に当たること。暗示的ルールについては自分で考え尽くすこと。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スポーツ文化論の受講が望ましく、基本概念を的確に把握した上で、現実の問題を分析する必要がある。また、スポーツ関連の専門科目との関係をきちんと踏まえること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 谷口 雅子

講義内容・テーマ

現在のジェンダー論では、性差に関する本質主義的な考えを退け、身体的な性差と言われているものそれ自体も構築されたものであるという議論がなされている。ところが一方で、たとえばスポーツ場面において、そのような理念的な正当性よりも身体の感覚に依存する選択がなされている現状がある。本講義では、スポーツにおけるジェンダーに関して、このような理念と感覚のズレが生じている要因と今後の展望について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	期末試験は理解を問うため、すべて持ち込み可能。
日常点 (小テスト)	30 %	出席状況と、不定期的に行う講義についての感想・疑問点の提出状況を、平常点に加味する場合がある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
イントロダクション	
規範としてのジェンダーという考え方	
ジェンダー研究の流れ	
規範としてのジェンダーと身体のかかわりについて	
ジェンダーと権力	
スポーツと身体	
スポーツとジェンダー	
近代スポーツの移入期におけるジェンダー	
1960年代以降のスポーツとジェンダー	
学校スポーツとジェンダー	
遊びとしてのスポーツとジェンダー	
競技スポーツとジェンダー	
メディアスポーツとジェンダー	
ジェンダー論の新たな可能性とスポーツ	
定期試験	

テキスト

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
スポーツ文化を学ぶ人のために	井上俊・亀山佳明編 / 世界思想社 /
<身体>は何を語るのか	見田宗介・内田隆三・市野川容孝編 / 新世社 /
女であることの希望	吉澤夏子 / 勁草書房 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スポーツ産業論 S
 スポーツ産業論 S

12805

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 海老島 均

講義内容・テーマ

市場主義者のイデオロギーであるグローバリゼーションという世界観に席捲されているスポーツの世界では、ビッグマネーの力で上方統合され、ローカルな組織の経済的統制力が骨抜きにされてしまっている。そこで敢えて「地域社会」というキーワードでスポーツ産業論を論じることは意義があるとの判断から本講義を構成した。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国内外のスポーツが抱える問題について、広く問題意識を強く持っていて欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	中間と最終の2回レポートを課す。中間レポートでフィードバックを与え、どれだけそこから改善できたかがポイントとなる。
日常点(小テスト)	50 %	授業にどれだけ積極的に参加できたかを、意見の発表や出席力

日常点とレポートから総合的に評価する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション - スポーツ産業論の視点	
スポーツイベントと地域社会	
スポーツイベントと地域社会	
総合型地域スポーツクラブとスポーツNPO	
国内のスポーツクラブと地域社会の連携に関する実例	
国内のスポーツクラブと地域社会の連携に関する実例	
中間レポート及び前半のまとめ	
諸外国における地域社会とスポーツ (イギリス)	
諸外国における地域社会とスポーツ (ドイツ)	
諸外国における地域社会とスポーツ (アイルランド)	
グローバリゼーションとスポーツ産業	
グローバリゼーションとスポーツ産業	
スポーツ産業と自然環境	
スポーツファンの文化とメディア	

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書

佐伯年詩雄著「現代企業スポーツ論」不昧堂出版(2004)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業で紹介する

その他

スポーツ社会学 S
 スポーツ社会学 S

14748

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

本講義では、これまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的領域、課題について紹介し、あわせて今日のスポーツの問題をスポーツ社会学ではどのように捉えているのかを説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

しばしば誤解されるが、スポーツ社会学は、「社会学」の視角でスポーツを考察するものであり、単なるスポーツの社会評論とは異なる。それゆえベースとして社会学の一般的知識が要求されるので、本講義とあわせて他の講義などを通して現代社会学の諸理論についても学ぶよう心がけて欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

理解度を確認するため、数回授業時に小レポートを書くことを予定している。この小レポートと、定期試験により評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

スポーツ社会学とはー歴史と研究状況

スポーツの社会化

スポーツ・バーナウトの構造

スポーツ組織と役割

組織構造とパフォーマンス

スポーツ集団の凝集性

「日本的」スポーツ組織の構造

スポーツ社会学の代表的理論(1)ーブルデューとフランススポーツ社会学

スポーツ社会学の代表的理論(2)ーカルチュラルスタディズと英国スポーツ研究

スポーツ社会学の代表的理論(3)ーエアラス学派のスポーツ研究

スポーツ社会学の代表的理論(4)ーグローバルスポーツの研究

日本社会の変化とスポーツ(1)スポーツの産業化と「状況の反転」

日本社会の変化とスポーツ(2)ナショナリズムとメガイイベント

日本社会の変化とスポーツ(3)サポーターというアクターの持つ意味

テキスト

特に使わない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
近代ヨーロッパの探求 8 . スポーツ	有賀郁敏他著 / ミネルヴァ書房 /
スポーツ・レジャー社会学	D.ジェリー、清野他編 / 道和書院 /
スポーツと文明化	エアラス、ダニング / 法政大学出版会 /

その他授業中適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

日本スポーツ社会学会ホームページ (<http://jsss.jp/>)

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

スポーツおよび文化一般における身体、イベント、組織などの在り方を客観的に見ることで、私たちは生活の成り立ちや社会システムの問題等を透かしてみることができるとある。さらに、それらの文化が表象するものの分析を通して、それが社会を支配する道具となっていることや、また逆に支配に抵抗する連帯を生み出すものとなっているなど、大きな社会的意味を持っていることを知ることができる。ここでは表象文化としてスポーツを捉えていくことから、人間、社会、コミュニケーションの問題について考えていくことにしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義はスポーツ文化を、そのもの切り離して扱うのではなく、文化を取り巻く社会状況と関連づけながら捉える、そのための手法を学ぶことを目的とし、最終的には個々の受講者が学んだ手法のもとで分析できるようになりたいと思っている。そのため、能動的に受講する態度が求められる。尚、受講者数が少ない場合、授業をの進め方を「対話方式」、「ディスカッション形式」に変える場合がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

*この授業では、受講生による数回の報告レポートおよび最終レポートの提出を義務付ける。アクティブに授業にとりくむことを求めたい。したがって評価は、この授業期間中のレポートと最終提出レポートによるものとする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

1. スポーツと表象: 概説的説明

事例分析1: メガイベントとナショナリズム

事例分析2: ポスターにみられるジェンダー

事例分析3: 作られた国民

2. 映像の中のスポーツの分析

事例分析1: 受講者による提示

事例分析2: 受講者による提示

3. グローバリゼーションとナショナリズム

グローバル化の諸相

変化するナショナリズム

高度競技力の意味づけの変化

ディスカッション: ナショナリズムとスポーツの関係は変わったか

4. レポート作成に向けて(1)

レポート作成に向けて(2)

テキスト

特に使用しない。レジュメなどの資料を配付する予定である。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会)

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

『スポーツの構造と概念』2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」である。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツの概念を歴史的にたどりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構(Institution)の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」を事前に履修しておくことが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	スポーツ概念把握の基礎知識とアプローチの方法を問う。

* 定期試験として実施 評価は定期試験によって行う。基本的概念的な理解と理論展開過程の特徴の理解を重視する。レポートを課すが、評価の対象にはしない。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
序章(1)体験としてのスポーツと意識・感覚言語とスポーツ用語	体験からの脱却
序章(2)グローバル化とスポーツ。世界文化としてのスポーツ	グローバル・ボーダレス
章 スポーツ概念の変遷 (1)スポーツの語源	Despotare,disport
(2)英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	Sport, 体育
(3)スポーツ概念の特徴:行為本性説と目的価値的規定。(4)スポーツの外延と内包	スポーツの実体と価値志向
章 スポーツ機構説の土台 (1)競技志向とプレイへの注目	コンペ、プレイ
(2)ホイジンガ「ホモ・ルーデンス」、(3)カイヨワ「2極4領域」説	ホモ・ルーデンス、アゴーン
章 スポーツ機構説の確立 (1)ロイのカイヨワ批判 (2)スポーツの多層的把握	J. Loy, 多層的把握
(3)機構化の指標 (4)社会機構としてのスポーツ (5)社会状況としてのスポーツ	機構化
章 スポーツ機構説の展開:(1)佐伯「スポーツ体系説」	スポーツの外延性
(2)多々納「スポーツ・シンボル」説	スポーツ・シンボルと志向性
章 スポーツの構造的把握にむけて (1)プレイ論の主観主義	主観主義と競争の否定
(2)草深「2層3領域」説の提示	運動様式と規則、スポーツ組織と機構
(3)スポーツ構造における機構の主導性 (4)競技と交流	競技の評価と多様性

テキスト

特別なテキストは使用しない。適宜教室でのみ、レジュメを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高広他 / 青木書店 /
スポーツの概念	体育原理分科会編 / 不昧堂 /
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編 / 世界思想社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

一般教育科目「スポーツの歴史と発展」「スポーツと現代社会」を受講していることが望ましい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか、スポーツ番組がどのように構成されているのか、視聴者や読者がどのような状況に置かれているのかといった問題を、スポーツ文化それ自体の特性(メディア性)をふまえて考察していく。また、スポーツの意味や価値が自明のものではなく、様々な力関係もとで、一定の仕掛けを経て創り出されていること、「メディアスポーツ」が政治・経済や権力と深く結びついたものであることを主要なテーマとして追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講を考える際に、本講義が、メディアの制作現場のハウ・トゥものや単なる現場の現状分析でないことに注意してもらいたい。
他学部受講を考えている学生は、本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり、単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。他学部受講生の合格率は低い。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	備考欄参照
日常点(小テスト)	20 %	備考欄参照

数度にわたって授業内レポートあるいは小テストを予告なしで課す予定である。定期試験のみで合格ラインの60点以上を取る受講生が例年少数である状況からして、20%分の日常点を稼ぐことなしの合格は難しいと理解してもらおう必要があるだろう。日頃から授業に出席して勉強してもらいたい。

講義スケジュール内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

スポーツとメディアに関する研究 領域と課題

テレビにおける映像変形の原理

スポーツ番組のプロデュース その一例

「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」

「メディアスポーツ」の構造 その生産・流通・消費の過程

中間まとめ

「プレビュー番組」の構造と役割

メディアがつくる物語 その提示と修正について

「メディアイベント論」とスポーツ

高校野球の発展と新聞の社会面の役割

武道の普及とメディアの役割

「文化装置」としての国民体育大会

メディアによる分節・接合

まとめ:作り手の意図と読み手の多様性

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要により授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 西田 心平

講義内容・テーマ

目的:勤労者生活をとりまく諸条件を明らかにし、自分の将来は自分で切開くのだという姿勢をつちかう契機にさせていただくこと。勤労者の生活は労使関係を機軸として展開される。しかし今日、労使関係は激しく流動化しつつある。社会階層論をふくめ、人間らしく生きるための諸条件を「冷徹な目」で把握できる視角を身につける。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

予備知識は不要。人間らしく、自信をもって生きる。この一見簡単に見える営みが、実は厳しく困難にみちたものという実感をもてればよい。上手にノートをとると理解が深まる。毎回出席されることが前提。但し、講義進度には変更がありえるので了解してほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	講義内容の理解を試すための論述問題
日常点 (小テスト)	20 %	講義内容の進度に合わせた簡単なレポート

評価の方法は、受講者数の大小により変更があり得る。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

生活構造の基礎理論

生活構造の基礎理論

生活構造の基礎理論

近代日本の生活変動

近代日本の生活変動

中間まとめ

グローバル化の理論的射程

グローバル化の理論的射程

今日の大都市周縁グループの生活

今日の大都市周縁グループの生活

今日の大都市周縁グループの生活

現代日本の生活構造への視点

現代日本の生活構造への視点

全体のまとめ/内容全体の整理と質疑等

テキスト

使用しない。必要に応じて、資料とデータを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『日本都市の生活変動』	中川清 / 勁草書房 /

随時、講義の中でその他の文献も紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

講義内容の進捗や順序は、みなさんとのレポート等を通じたコミュニケーションなどによって若干の変更があり得る。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

国産野菜が輸入物に押されて苦闘しているなかで、近年京都の伝統野菜 (= 京野菜) が消費者の注目を集め、京都の料亭・レストランでも食材として扱う店が増えている。東京では京都府がアンテナショップを開設し、各デパートにも常設売り場が設けられて、広範囲の普及を図っている。

本講では京野菜の歴史をふり返るとともに、生産・流通・消費の現状を受講生皆で手分けして調べ、野菜の地産地消、食文化の今後の発展方向を検討してみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

京都の伝統野菜の歴史、生産・流通・消費の現状に関する資料、事情通の知り合いがあれば、予備知識を蓄えておいてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	0 %	講義に関連するテーマを選んでまとめる。
日常点 (小テスト)	0 %	調査活動への取り組みなどの評価、中間提出物への評価

詳細については授業中に紹介する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

古都の食文化と京野菜の歴史

近年の京野菜への関心の高まりの背景

注目されている京野菜の種類

各々の京野菜の生産農家と栽培の苦心 九条ねぎ 万願寺とうがらし

同 賀茂なす 聖護院だいこん

同 壬生菜 京たけのこ

京野菜の流通の展開 錦市場で見る デパートでは

同 中央卸売市場では 東京のアンテナショップでは

料亭への普及状況

レストランへの普及状況

一般家庭への普及状況

京都府・京都市の京野菜普及行政

今後の政策的課題を検討する

農産物の地産地消の発展、食文化の改革にどう結びつけるか

テキスト

文献を講読する方式は取らないが、必ず下記の参考文献は買うなり、図書館で借りるなりして読んでおいてほしい。

参考書

林義雄『京の野菜記』、同『京の野菜 味と育ち』(いずれもナカニシヤ刊)、
その他の参考文献は追って紹介するか、コピーを配布する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

皆で手分けして調査し、その結果を発表し合って講義を進めていくので、出席を心がけてほしい。欠席が続く受講生はやめてもらう。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。

生活福祉論 S
都市生活特論 S

14507

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

本講義では「社会で暮らす生活者の視点から」、社会福祉というものをみていく。近年、社会福祉の専門化が叫ばれるなかで、逆に個別のサービス提供ばかりが強調される傾向にある。しかしサービス利用者にとって、そのサービスは「人生の一部」に過ぎない。彼らは基本的に、家族・地域・労働・社会階層等に規定される「生活者」である。こうした視点から、社会福祉学を学んでいく。講義では毎回ビデオを使用し、1-2度ゲストスピーカーを招く予定である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必ずガイダンスに出席し、納得した上で受講登録してください。講義は社会福祉学の基本的内容を含んでおり、授業の難易度が「易し過ぎる」と感じる受講者がいるかもしれない。また下記の行為を行う受講生は成績評価にすぐ反映させる。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用等、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	25 %	
レポート	25 %	中間レポート(必須)
日常点(小テスト)	50 %	出席及び授業への参加度、発言の積極性など

少人数の授業なので、グループワークなども行う。その際の積極性なども成績評価に反映させる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ガイダンス	
社会福祉の概要: 私的領域と公的領域	
〃	
福祉問題の発見: 生活場面から	
〃	
ゲストスピーカーの講演(定住外国人支援の現場から)	
福祉のニード: ライフサイクルにおいて	
〃	
福祉の供給主体の多元化: ガバメントからガバナンスへ	
〃	
ゲストスピーカーの講演(障害者支援の現場から)	
福祉と市場経済	
〃	
テスト	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	ウェルビーイングタウン 社会福祉入門	岩田正美ほか編 / 有斐閣 /

本テキストに沿って授業を行うので、受講登録するかどうかを決める際の参考にして欲しい。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

こじんまりと楽しく授業を行いたいと思います。熱心な受講者が報われるような授業ができればと思います。

生活文化論 S
生活文化論 S

14648

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

人はみな人間的、文化的に生きていきたいのです。そのためには何をどう考え、どう行動したらよいのか、本講は主として近代以降の人間の生き方と、それが生活文化に与えた影響を究明しながら、人びとの暮らしに豊かな生活文化を根づかせようとするものです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施
試験を行います。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
なぜ生活文化論なのか - 概説	
時代と人間と生活 - 明治の志と勤勉	
時代と人間と生活 - 15年戦争と若者の運命	
時代と人間と生活 - 高度成長と家族の変容	
文化人 とは誰をいうのか - 誰もが文化人となるために	
趣味人 とは誰をいうのか - 趣味の抹殺と生活の彩り	
趣味力の発見 - 余暇と人生	
「レジャー白書」と日本人の余暇 - 遊びとは何か	
道楽 観の再検討 - 「道楽」をどう復権させるか	
夫婦同伴文化と別文化 - 生み出すべき二つの文化への視座	
草の根文化と一輪文化 - 文化の力と人間の暮らし	
崩壊する平等神話 - 生活文化の先行き	
働き甲斐と生き甲斐 - 何のために生きるのか	
自分づくり・自分おこし・自分いかし - 悔いのない人生のために	
定期試験実施	

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

精神医学は人間の精神現象とその障害を理解し、対処するための知識や方法を研究する学問領域である。福祉活動においては、精神障害を持つ人およびその人と関わりのある人々と接することが主要な業務の一つであることから、それを専門とするものにとっては、その知識を身につけることは重要である。本講では、社会福祉の領域で業務を行う専門家に必要とされる精神医学の基礎知識を詳しく論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

臨床的知識の習得を目指す者は、精神医学 Sと併せて受講することが望ましい。精神保健福祉士国家試験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神医学 Sと併せて履修すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
(第2回～第3回) 1. 精神医学の概念 1) 精神とは 2) 精神医学の定義とその歴史	
(第4回～第5回) 2. 脳と神経の生理と構造	
(第6回～第9回) 3. 精神医学の診断法 1) 診断の手順と方法 2) 身体検査と心理検査 3) 構造化面接と操作的診断基準	
(第10回～第12回) 3. 精神症状論	
(第13回～第14回) 4. 代表的な精神障害 1) 統合失調症およびその関連疾患	
まとめ・補足	

テキスト

改訂 精神保健福祉養成講座セミナー/第1巻 精神医学 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 へるす出版

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

精神医学は人間の精神現象とその障害を理解し、対処するための知識や方法を研究する学問領域である。福祉活動においては、精神障害を持つ人およびその人と関わりのある人々と接することが主要な業務の一つであることから、それを専門とするものにとっては、その知識を身につけることは重要である。本講では、社会福祉の領域で業務を行う専門家に必要とされる精神医学の基礎知識を詳しく論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

臨床的知識の習得を目指す者は、精神医学 Sと同程度の基本的知識を前提として受講することが望ましい。精神保健福祉士国家試験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神医学 Sと併せて履修すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合評価

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
(第1回～第10回) 1. 代表的な精神障害 1) 症状性および器質性精神障害 2) 精神作用物質による精神障害 3) 気分障害 4) 神経性障害およびストレス関連障害	
5) 成人の人格障害 6) 精神遅滞 7) 心理的発達の障害 8) 児童期および青年期の精神障害 9) 神経系の疾患	
(第11回～第13回) 2. 精神医学的治療法 1) 身体的治療法 2) 精神療法 3) 環境・社会療法 4) 精神科リハビリテーション	
3. 病院精神医学および地域精神医療 1) 病院精神医療 2) 精神科救急 3) 地域精神医療	
試験予定	

テキスト

改訂 精神保健福祉養成講座セミナー/第1巻 精神医学 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 へるす出版

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 村本 邦子

講義内容・テーマ

フロイトによる精神分析の基礎を学び、人間理解を深めるとともに、精神分析が、私たちの文化や社会に与えてきた影響を考察することを目的とする。講義では、フロイトの生きた時代的背景について学んだ後、フロイトの主要論文と概念を取り上げ、解説していく。途中、精神分析を扱った映画なども参照する。最後に、批判を含め、フロイト以降の精神分析の発展を概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

とくになし

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	ノート、教科書類持ち込み可
レポート	30 %	講義の最初と最後にA4・1枚程度のレポートを課す。テーマは授業中に指示する
日常点(小テスト)	10 %	授業の途中で数回のミニレポートを課す

講義スケジュール

内容	キーワード
イントロダクション	
フロイトの生い立ちと時代背景	無意識の発見、19世紀ウィーン
精神分析と映画	
『ヒステリー入門』	心的外傷、解離、カタルシス
精神分析の確立：誘惑理論からエディプス・コンプレックスへ	誘惑理論、エディプス・コンプレックス
『夢判断』	夢、願望充足、圧縮、移動、二次加工、象徴
精神分析と映画	
『日常生活の精神病理』	度忘れ、言い違い、し損ない、思い違い、迷信
神経症総論(『精神分析入門』から)	症状、抑圧、抵抗、転移、リビドー、ナルシズム
精神分析と映画	
精神分析の修正・展開(『続精神分析入門』から)	自我、超自我、エス、死の欲動
フロイトの死と世界観(『モーセと一神教』から)	世界観
精神分析と映画	
フロイト以降、まとめ	
試験	

テキスト	書名	著者/出版社/ISBNコード
	『援助者のためのフロイト入門』	村本邦子/三学出版/

参考書

基本的にはフロイト全集(人文書院/教文社)。それ以外は、随時、授業で指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

この科目を終了した学生は、次のことができることが期待されている。

- 1.精神保健の概念を説明するとともに、その概念を用いて現実の課題を分析・討論・報告することができる。
- 2.ライフステージごとにおける精神保健の特徴をふまえて、現実的課題を分析・討論・報告することができる。
- 3.精神障害、痴呆性疾患、アルコール関連問題、薬物乱用など、主要な精神保健上の課題を説明できるとともに、それらに対する対策について、討論・報告することができる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目は、精神保健福祉士受験資格取得を含めて、将来に精神保健福祉領域で働くことを考えている人を主な受講対象と想定し、精神保健に関する専門的知識を築く基礎を学ぶ。精神疾患についての詳細な講義はできないので、受講者は事前に「精神医学」の内容を習得していること、あるいは講義にあわせて学習することが望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	期末に提出
日常点(小テスト)	20 %	レビューテスト、ミニレポート
その他	40 %	最終講義日試験

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
精神保健総論1 精神保健とは	精神保健, 公衆衛生, 心の健康, 事例性
精神保健総論2 予防戦略 / 心の健康づくり / 精神障害・疾患の原因論・リスク要因	予防の3段階, 予防戦略, 心の健康づくり, 病因論, 生物・心理・社会モデル
精神保健総論3精神疾患の疫学 / 精神疾患の分類と主な精神疾患について / 精神障害の課題の大きさ	疾患分類, 罹患率, 有病率, 疾病負担,
(review test or short essay)生涯発達の視点/乳幼児期・学童期における精神保健	ライフ・ステージ, ライフ・サイクル, 乳幼児, アタッチメント, エリクソン・モデル
思春期・青年期における精神保健/思春期の精神保健対策	思春期, 青年期, 自己同一性, ひきこもり, 思春期精神保健対策, マタニティ・ブルー
成人期における精神保健/職場における精神保健	職場, 人生の四季, パーン・アウト, 自殺, うつ, 成人期の危機, 中年期の課題
老年期における精神保健 5-8回復習	加齢, 痴呆症
(review test or short essay)日本の精神保健医療の略史	精神保健福祉政策, スティグマ, 医療化
精神保健福祉政策の展開	施設主義, 地域ケア, 脱施設化, 精神保健法, 精神保健福祉法
地域精神保健対策 うつ病と自殺を中心に	自殺の予防戦略, うつの予防戦略
アルコール関連問題と薬物乱用対策	依存症, アルコール依存, 薬物依存
痴呆疾患対策/緩和ケアにおける精神保健	痴呆, 物忘れ, 緩和ケア, アクティビティ
総括	
最終講義日試験	

テキスト

精神保健福祉士養成講座編集委員会編『精神保健福祉士養成講座 2 精神保健学』中央法規出版

参考書

< 別のテキストの書籍 >

- ・鹿島晴雄編著(2000) 精神保健入門。東京:八千代出版。
- ・精神保健福祉士養成セミナー編集会編(2001) 精神保健学(改訂版)。東京:へるす出版。
- ・鈴木英鷹(2001) 精神保健学。大阪:清風堂書店出版部。
- ・厚生白書 平成9年版 第3章 現代社会と「心の健康」
<http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/mhw/book/hpaz199701/body.html>
- ・社会保障審議会障害者部会精神障害分会報告書「今後の精神保健医療福祉施策について」
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/12/s1219-7.html>

・World Health Organization (2001) World Health Report 2001. Geneva: WHO.
<http://www.who.int/whr2001/2001/>.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

有用なインターネット・リソース

・厚生労働省<http://www.mhlw.go.jp/>

・全国精神障害者家族会連合会 <http://www.zenkaren.or.jp/>

・パレアモア広島 [<http://ww1.enjoy.ne.jp/~mh-hiroshima/index.htm>]

・精神保健福祉・精神障害者福祉に関するWWW(高知女子大学住友雄資さんの個人ページ) <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>

・国立療養所菊池病院臨床研究部原井宏明さんのWWW <http://homepage1.nifty.com/hharai/>

・国立社会保障人口問題研究所・少子化統計情報 <http://www1.ipss.go.jp/tohkei/index-tj.htm>

・メルクマニュアル医学情報(家庭版)<http://mmh.banyu.co.jp/> および、専門家向けの第17版

<http://merckmanual.banyu.co.jp/>。定評ある教科書および市民向け解説書のオンライン版。知りたい疾患を検索するか、索引から調べることができる。

・日本精神神経学会 <http://www.jspn.or.jp/11sitsu.html> 統合失調症についての説明および名称改訂の経緯が記載されている。

・メンタルヘルス・アイ(全国精神障害者社会復帰促進センター公式サイト)

<http://www.mental.ne.jp/> 統合失調症(精神分裂病)、うつ病についてのQ&A形式での解説がある。

・日本精神科病院協会 <http://www.nisseikyo.or.jp/>

メンタルヘルス情報として、ラジオたんぱで放送された内容が掲載されている。かなりさまざまな事項が掲載されている。

・US Center of Disease Control and Prevention (CDC) Mental Health Work Group <http://www.cdc.gov/mentalhealth/>

・National Mental Health Association(US) <http://www.nmha.org/>

・National Institute of Mental Health for England <http://www.doh.gov.uk/mentalhealthpromotion/>

その他

新聞やTVなどにより、精神保健・医療・福祉で実際に議論になっていることに注意しておいてほしい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

・精神保健学ISで学んだ内容をふまえ、この科目を終了した学生は、次のことができることが期待されている。

- 1.精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえて、それぞれの場面における精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。
- 2.精神保健活動に関連する諸理論を踏まえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。
- 3.日本の精神保健医療政策について、その概要を述べ、根拠をあげながら議論することができる。
- 4.日本の精神保健医療について、国際的な動向や他の国の状況と比較しながら、課題を検討することができる。

・授業では議論のポイントを論じるが、しばしば学生は指定する文献を読んで出席することを求められる。グループワークや討論、ミニレポート、レビューテストを必要に応じて行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、精神保健学 Sの続編であり、本講義の受講にあたっては、精神保健学ISの履修を終えていることを前提とする。少なくとも、主な精神障害の特徴を理解するとともに、予防戦略、健康づくりの理論、精神疾患の要因モデルなどを理解していることが必要である。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	期末に提出
日常点(小テスト)	20 %	レビューテスト、ミニレポート
その他	40 %	最終講義日試験

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
はじめに 精神保健活動の場	精神保健活動の場, 精神保健, 健康づくり, 精神保健活動の関係者
地域における精神保健1	地域, 精神保健福祉法, 精神保健福祉センター, 保健所, 市町村保健センター, 当事者団体, 政策形成, ネットワーク, 積極的・支持的・総合的精神保健福祉
地域における精神保健2	社会保障審議会, 厚生労働省, 障害者プラン, 精神保健福祉改革, 精神保健法, 精神衛生法, 戦後改革, 措置・医療保護・同意入院, 地域保健法, 精神医療審査会, 地方精神保健福祉審議会
精神保健における家族	家族, 家族システム, 円環モデル, 家族ストレス, ABC-Xモデル, ジェット・コースター・モデル, 家族周期, 家族療法, 家族会
精神保健医療福祉政策の展開	国際比較, 精神病床数のトレンド, アサイラム, 精神保健法(英), CMHTs, AOS
世界の精神保健1 - 比較精神保健医療政策	精神疾患及び知的障害に関する教書, 地域精神保健センター法, ホームレス, マネージド・ケア, PACT, ファウンテン・ハウス・モデル
世界の精神保健2 - 比較精神保健医療政策	未定
復習テスト・中間総括	
職場における精神保健1	職場の精神保健, 職場の特殊性, 職業性ストレスのモデル, 「心の不健康」の発生モデル
職場における精神保健2	労働衛生, 心の健康づくり対策, 4つのケア, 労働災害, 従業員援助プログラム
学校における精神保健1	学校精神保健, 養護教諭, 学校保健法, 学校保健行政, スクールカウンセラー, 組織としての学校
学校における精神保健2	不登校, 登校拒否, ストレスマネジメント
総括	
期末試験	

テキスト

精神保健福祉士養成講座編集委員会編(2003) 精神保健学。東京:中央法規出版。

参考書

鹿島晴雄編著(2000) 精神保健入門。東京：八千代出版。
精神保健福祉士養成セミナー編集会編『精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学』(第2版)。東京：へるす出版。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

- ・厚生労働省<http://www.mhlw.go.jp/>
- ・全国精神障害者家族会連合会(ぜんかれん) <http://www.zenkaren.or.jp/>
- ・こころのボイスマガジン「きっと元気に」<http://medical.radionikkei.jp/kitto/index.html>
- ・統合失調症情報サイト運営委員会 統合失調症情報サイトとうしつ探検隊
<http://www.toushitsu-tankentai.jp/index.phtml>
- ・バレアモア広島 [<http://ww1.enjoy.ne.jp/~mh-hiroshima/index.htm>]
- ・精神保健福祉・精神障害者福祉に関するWWW(高知女子大学住友雄資さんの個人ページ) <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>
- ・国立療養所菊池病院臨床研究部原井宏明さんのWWW <http://homepage1.nifty.com/hharai/>
- ・国立社会保障人口問題研究所・少子化統計情報 <http://www1.ipss.go.jp/tohkei/index-tj.htm>
- ・メルクマニュアル医学情報(家庭版)<http://mmh.banyu.co.jp/> および、専門家向けの第17版
<http://merckmanual.banyu.co.jp/>。定評ある教科書および市民向け解説書のオンライン版。知りたい疾患を検索するか、索引から調べることができる。
- ・日本精神神経学会 <http://www.jspn.or.jp/11sitsu.html> 統合失調症についての説明および名称改訂の経緯が記載されている。
- ・メンタルヘルス・アイ(全国精神障害者社会復帰促進センター公式サイト)
<http://www.mental.ne.jp/> 統合失調症(精神分裂病)、うつ病についてのQ&A形式での解説がある。
- ・日本精神科病院協会 <http://www.nisseikyo.or.jp/> メンタルヘルス情報として、ラジオたんぱで放送された内容が掲載されている。かなりさまざまな事項が掲載されている。
- ・US Center of Disease Control and Prevention (CDC) Mental Health Work Group <http://www.cdc.gov/mentalhealth/>
- ・National Institute of Mental Health (USA) <http://www.nimh.nih.gov/>

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

精神保健福祉援助実習と運動しながら、精神保健福祉士としての専門性(価値・倫理、知識、技術)を培うことを目的とする。現場実習の事前準備および事後学習と絡めながら、専門職として求められる職業倫理や生態学的視点、アセスメント、計画の策定、介入、評価、報告といった一連の実践のあり方や方法を習得することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神保健福祉援助実習を同時に履修することが必須。本クラス内で話し合われた個人情報について受講生は守秘義務がある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	演習活動への参加・クラス内外での課題への取り組み

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

グループ:アイスブレイク

KJ法:ソーシャルワークとは

ゲーム:自己覚知

事例検討

事例検討

アセスメント

目標設定

介入

計画

計画の実施

ロールプレイ:面接

グループ:記録

SST

まとめ

グループのウォーミングアップ

スーパービジョン

スーパービジョン

ピア・スーパービジョン

ピア・スーパービジョン

ピア・スーパービジョン

ピア・スーパービジョン

グループ活動

グループ活動

ケースメソッド:困難場面

ケースメソッド:困難場面

ケースメソッド:困難場面

評価

今後の課題

まとめ

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 知名 純子

講義内容・テーマ

精神障害者を中心とした援助技法の基礎について学び、また演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動の「目的」と「価値」について総合的に理解する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

どなたの受講も大歓迎ですが、精神障害及び精神疾患については学んでおられることを前提に講義致しますのでご了承ください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	期末に課題を提示します。
日常点(小テスト)	30 %	授業の各回ごとにグループワークを行うか、もしくは感想を書いてもらいます。
その他	30 %	出席、授業態度など

* 日常点評価

出席状況(15%), 授業態度(15%), 小レポート(30%), 期末レポート(40%)により総合評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
オリエンテーション	交流分析、アサーショントレーニング
精神障害者を対象としたケースワークとは	面接の意味と目的
精神障害者を対象としたケースワークとは	面接技法と演習
精神障害者を対象としたケースワークとは	記録の内容と演習
精神障害者を対象としたケースワークの実際	援助過程
精神障害者を対象としたケースワークの実際	援助計画
精神障害者を対象としたケースワークにおける具体的事例検討	事例に基づくケアマネジメント計画
精神障害者を対象としたグループワークとは	「グループワークはなぜ必要か」 グループワークを体験することで、目的と意味を理解する。
精神障害者を対象としたグループワークの実際	精神科デイケアについて
精神障害者を対象としたグループワークの目的	さまざまなレベルの目的、事前評価
精神障害者を対象としたグループワークの準備	メンバーの選択、メンバーの準備、ワーカーの準備、グループの大きさ
精神障害者を対象としたグループワークの始めかた	メンバーへの不安の対処、プログラム活動、望ましい規範の形成
精神障害者を対象としたグループワークの発展段階	グループの構造、グループへの介入、グループの葛藤
精神障害者を対象としたグループワークの評価と終結	評価の重要性、評定尺度表、終結の重要性、メンバーによる評価、喪失感への対処

テキスト

特に指定しない。

参考書

授業で紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>

日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 知名 純子

講義内容・テーマ

精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

どなたの受講も大歓迎ですが、精神障害や精神疾患について、及び個別援助技術・集団援助技術の基礎については、すでに学んでおられることを前提に講義致しますのでご了承ください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	
日常点 (小テスト)	30 %	
その他	30 %	出席状況、授業態度

* 日常点評価

出席状況(15%), 授業態度(15%), 小レポート(30%), 期末レポート(40%)により総合評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総合的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
オリエンテーション	理論の性格・・・時代に応じた概念の変化
間接援助技術の内容と機能	地域援助技術、ソーシャルワーク・リサーチ
間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング、関連する技術
関連専門援助技術について	心理療法、家族療法、面接技法、SST
地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
これからの地域福祉	ボランティア・セルフヘルプグループへの支援
エコロジカル・ソーシャルワーク	適応、ストレス、コーピング、内的資源と外的資源、ハビタット
1) コミュニティ・ディベロップメント	イネープリング、セツルメントとパターンリズム、ラジカル・ワーカー
2) ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
3) プランニング	新しいプランニング理論
4) プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
5) コミュニティ・リエゾン	ボランティアリズム、当事者参加促進策
コミュニティワークの将来	理論のまとめ、社会変革の理想
見学実習(授業期間中に最低1ヵ所の見学実習を体験してもらいます)	地域の中の施設見学

テキスト

特に指定しない。

参考書

(社)全国精神障害者社会復帰施設協会編「精神障害者の生活支援の理念と方法」、中央法規
 久保統章編著「精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド」、日本評論社
 授業の中で紹介していきます。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>
 日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 石神 文子

講義内容・テーマ

精神障害者の社会的な生活の実態を認識し、精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系と、精神保健福祉士の具体的業務について理解する。

(内容)

- 1 精神保健福祉援助活動の意義
- 2 精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則
- 3 精神保健福祉援助技術の体系と展開の実際
- 4 精神保健福祉援助活動の課題と展望

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積極的な討論、情報の収集

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	精神障害者の処遇の歴史と現在の社会生活の実態を認識し、福祉的支援の在り方を考える。
その他	40 %	

講義スケジュール内 容キーワード

精神保健福祉援助活動の形成の歴史－イギリス

精神保健福祉援助活動の形成の歴史－アメリカ

精神保健福祉援助活動の形成の歴史－我が国

精神保健福祉援助活動の内容と機能－意義

精神保健福祉援助活動の内容と機能－定義・概念

精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則－目的と価値

精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則－原則

精神保健福祉士の専門性

精神保健福祉援助活動の体系と展開－定義と概念

精神保健福祉援助活動の体系と展開－内容と機能

精神保健福祉援助活動の体系と展開－展開

精神保健福祉援助技術の体系－体系

精神保健福祉援助技術の体系－実際

精神保健福祉援助活動の課題と展望

事例検討

その他

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

講義、当事者との討論、視聴覚教材によるものなどで授業する。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石神 文子

講義内容・テーマ

精神障害者の社会的な生活の実態を認識し、精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系と、精神保健福祉士の具体的業務について理解する。

(内容)

- 1 精神保健福祉援助活動の意義
- 2 精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則
- 3 精神保健福祉援助技術の体系と展開の実際
- 4 精神保健福祉援助活動の課題と展望

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積極的な討論、情報の収集

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	精神障害者の処遇の歴史と現在の社会生活の実態を認識し、福祉的支援の在り方を考える。
その他	40 %	

講義スケジュール内 容キーワード

精神保健福祉援助活動の形成の歴史－イギリス

精神保健福祉援助活動の形成の歴史－アメリカ

精神保健福祉援助活動の形成の歴史－我が国

精神保健福祉援助活動の内容と機能－意義

精神保健福祉援助活動の内容と機能－定義・概念

精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則－目的と価値

精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則－原則

精神保健福祉士の専門性

精神保健福祉援助技術の体系と展開－定義と概念

精神保健福祉援助技術の体系と展開－内容と機能

精神保健福祉援助技術の体系と展開－展開

精神保健福祉援助技術の体系－体系

精神保健福祉援助技術の体系－実際

精神保健福祉援助活動の課題と展望

事例検討

その他

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

講義、当事者との討論、視聴覚教材によるものなどで授業する。

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

精神医療・精神保健福祉の現場での実習をとおして、精神保健福祉士としての専門性(価値・倫理、知識、技術)を培うことを目的とする。現場での学びをより実り多いものにするため、前期は、現場実習にむけての準備として事前学習、実習計画作成、および自己覚知に取り組む。後期は、実習を振り返り、体験を共有しながら、さらに専門性向上を目指して事後学習を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講条件は、精神保健福祉士課程に登録し、2003年度冬の実習先選定のための個人ヒアリングを受けていること。事前学習・現場実習・事後学習のいずれにおいても、受講生の主体的な取り組みが必要不可欠である。なお、本クラス内で話し合われた個人情報について受講生は守秘義務があることを忘れてはならない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	事前学習レポート、実習計画、実習報告
日常点(小テスト)	35 %	演習活動への参加、課題への取り組みなど
その他	35 %	現場実習での取り組み

講義スケジュール**内 容****キーワード**

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

 実習の目的・意義、事前準備について

精神障害、精神障害者と社会、精神保健福祉士の働き(グループ演習)

精神障害、精神障害者と社会、精神保健福祉士の働き(グループ演習)

事例検討

事例検討

事前学習結果についての発表

事前学習結果についての発表

事前学習結果についての発表

実習計画書

実習計画書

コミュニケーション・面接技法

記録の書き方

様々な場面での対応

実習直前ガイダンス

実習の振り返り(スーパービジョン)

実習の振り返り(スーパービジョン)

実習の振り返り(スーパービジョン)

実習報告(個人)・グループ演習

実習報告(個人)・グループ演習

実習報告(個人)・グループ演習

実習報告(個人)・グループ演習

全体報告会の準備

全体報告会の準備

共通課題についてのグループ演習

共通課題についてのグループ演習

共通課題についてのグループ演習

共通課題についてのグループ演習

今後の課題

まとめ

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

この講義では、精神保健福祉を理解する上で必要な精神保健福祉問題につき理解することに主な目標とする。精神障害(者)の生活の歴史と精神衛生から精神保健さらに精神保健福祉への政策・実践思想を学習するなかで、精神障害者の全社会的な社会参加の為に医療・保健・福祉政策や実践がどう構築されていくべきかを学んで欲しい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1.講義時に配布した資料を欠席により受け取れなかった時は、自己の責任でコピーを行なうこと。2.精神保健および精神障害者の福祉に関する法律(2000年施行)をなんらかの方法で入手すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
その他	10 %	日常の質問に関する意見主張を点数に加える

* 定期試験として実施 定期試験。出席に関しては、受講生の主体性に委ねる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
障害者福祉の基本的理念の展開と精神病患者および精神障害者 1	隔離 私宅監置
障害者福祉の基本的理念の展開と精神病患者および精神障害者 2	障害者 病者 疾病と障害の共存
戦後の精神病患者の生活実態と医療・福祉の歴史 医療	バスターナリズム 人権
戦後の精神病患者の生活実態と医療・福祉の歴史 福祉・地域実践	リハビリテーション
戦後の精神病患者の生活実態と医療・福祉の歴史 保健	予防
精神障害者と地域社会 とりわけ偏見、スティグマ、差別との関わりで	
精神障害者福祉の基本施策 精神保健医療福祉の改革ビジョンを中心に	脱施設化
精神障害者福祉の基本施策 精神保健医療福祉の改革ビジョンを中心に	地域支援体系
精神障害者福祉の基本施策 精神保健医療福祉の改革ビジョンを中心に	地域医療体制
精神障害者福祉の基本施策 グランドデザインと地域生活	グランドデザインとその問題
精神保健福祉法の概要	
いま、地域生活の主人公として	ひきこもり 自助
いま、地域生活の主人公として	精神障害 共同作業所 就労

テキスト

特に定めない。適宜講義資料を配布する。参考書にあげた著作を学習参照文献とする。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
講座発達障害 障害者福祉学	秦安雄・鈴木勉・峰島厚編 / 全障研出版部 /
精神障害者の地域生活支援ー統合的モデルとコミュニティソーシャルワーク	田中英樹著 / 中央法規 /
まちづくりの中の精神保健福祉	岡村正幸著 / 高菅出版 /
精神障害者の医療と人権	秋元波留夫 / ぶどう社 /
分裂病は治るか	林宗義 / 弘文堂 /

「我が国の精神保健福祉」

「精神障害をもつ人が地域くらすために」山本耕平 かもがわ書店

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

この講義では、精神病患者および精神障害者の人権を擁護する働き手となって行く際に必要な理論をとりあげる。なかでも、精神病発症時の医療への導入、入院時の人権保障さらに「生き、働き、集う」生活と地域の創造、本人と家族の関わりをどう考えるかにつき講義を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. 最終講義日もしくは統一補講日に当事者参加の講義を実施するため、必ず参加すること。
2. 欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	講義参加者のみが記述できるレポートして実施する
日常点 (小テスト)	20 %	平常講義時のディスカッションへの参加を評価に加える
* 試験に代わるレポートとして実施 * 日常点評価 集団議論への参加状況とレポートを総合的に判断する。		

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
権利擁護の担い手としてのPSW	PSWの倫理と実践
権利擁護の担い手としてのPSW	PSW実践の目的
権利擁護の担い手としてのPSW	PSW実践の価値
受療への導入およびアクセスについて	法23条の問題性について
受療への導入およびアクセスについて	法34条移送と医療導入支援
受療への導入およびアクセスについて	危機理論と危機介入
入院と人権、入院加療中のいくつかの事件と人権	カプラン ドナ・C・アギュラ
入院と人権、入院加療中のいくつかの事件と人権	宇都宮病院事件と国際評価
入院と人権、入院加療中のいくつかの事件と人権	大和川病院事件 以降の事件
地域ケアとPSW 増え続ける共同作業所	なかま パートナー 共生
地域ケアとPSW 精神障害者の地域生活と偏見	スティグマ コンフリクト
地域ケアとPSW 青年期精神障害と支援	境界例 ひきこもり 居場所
地域ケアとPSW 地域災害と回復支援	自然災害
地域ケアとPSW 地域災害と回復支援	事件や事故被害
当事者からの発言	当事者参加授業

テキスト

特に定めないが、適宜講義資料を配布する。適宜参照文献を紹介する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
精神障害患者の人権 - 国際法律家委員会レポート - 季刊Review	国立法律家委員会編 / 明石書店 / 精神障害者社会復帰促進センター / /
社会的ひきこもりへの援助	倉本英彦編著 / ほんの森出版 /
助走、ひきこもりから	山本耕平編著 / クリエイトかもがわ /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

精神保健福祉の分野で、精神病患者および精神障害者や精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する働き手となる際に必要な障害者観や実践観を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. 講義は、事例検討により進めるため積極的に論議に参加すること。
2. 最終講義日もしくは統一補講日に当事者参加の講義を行なうため、必ず参加すること。
3. 欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	事例検討レポート
日常点 (小テスト)	50 %	事例検討への参加意欲や発言を評価として重視

* 試験に代わるレポートとして実施 * 日常点評価 集団議論への参加状況とレポートを総合的に判断する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
PSWとPSW実践 概論	生活みつめるPSW
PSWは、当事者の権利を護るためにどうすべきか 権利擁護者として	権利擁護 権利
パートナーとしてのPSW 実践の価値	なかまという当事者観
受療への導入およびアクセスについて	法23条の問題性 23条と人権侵害
受療への導入およびアクセスについて	法34条移送と医療 地域支援 回復 家族支援 救急
受療への導入およびアクセスについて	危機理論と危機 危機の種類 予防
入院と人権、入院加療中のいくつかの事件と人権	地域PSW 病院PSW 連携
入院と人権、入院加療中のいくつかの事件と人権	精神医療審査会の機能
地域ケアとPSW 増え続ける共同作業所	共同作業所 理念 目的
地域ケアとPSW 精神障害者の地域生活と偏見	アンティスティグマ
地域ケアとPSW 青年期精神障害と支援	ひきこもり 境界例 回復 居場所
地域ケアとPSW 地域災害と回復支援	自然災害 ケア 危機時 継続
地域ケアとPSW 地域災害と回復支援	事件・事故 グリーフワーク 生活支援 回復
当事者からの発言	当事者参加授業

テキスト

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
精神障害者の人権 - 国際法律家委員会レポート -	国立法律家委員会編 / 明石書店 /
季刊 Review	精神障害者社会復帰促進センター / /
社会的ひきこもりへの援助	倉本英彦編著 / ほんの森出版 /
助走、ひきこもりから	山本耕平編著 / クリエイトかもがわ /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

精神障害者のためのリハビリテーションについて、その基礎と臨床を学ぶ。本講では、精神科リハビリテーションの概念と構成について説明する。関連する精神医学や障害学の基本的知識を整理しながら、精神障害者のリハビリテーションについて解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神科リハビリテーション学 Sと併せて履修することが必要である。さらに、実践的な基礎知識の習得を目指す者は、精神科リハビリテーション Sと併せて受講することが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
(第2回～第6回) 1. 精神医学と障害学の基礎 1) 精神障害の分類 2) 統合失調症の症状と障害	
(第7回～第11回) 2. 精神科リハビリテーションの概念	
1) リハビリテーションの概念と歴史 2) リハビリテーションの理念 3) 精神科リハビリテーションの概念	
4) 精神科リハビリテーションの理念と意義 5) 精神科リハビリテーションの基本原則 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義 5) 精神科リハビリテーションの基本原則 6) わが国および諸外国の精神科リハ	
(第12回～14回) 3. 精神科リハビリテーションの構成 (その1) 1) 精神科リハビリテーションの対象 2) 精神科リハビリテーションにおける	
まとめ・補足	
定期試験	

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー/第3巻 精神科リハビリテーション学. 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

精神障害者のためのリハビリテーションについて、その基礎と臨床を学ぶ。本講では、精神科リハビリテーションの概念と構成について説明する。関連する精神医学や障害学の基本的知識を整理しながら、精神障害者のリハビリテーションについて解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神科リハビリテーション学 Sと併せて履修することが必要である。さらに、実践的な基礎知識の習得を目指す者は、精神科リハビリテーション Sと併せて受講することが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
総合的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
(第2回～第4回) 1. 精神科リハビリテーションの構成 (2) 1) 精神科リハビリテーションに関わる専門職 2) 精神科リハビリテーションの施設	
(第5回～第10回) 2. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術 1) リハビリテーション計画 2) アプローチの方法 3) リハビリテーション技法	
(第11回～第12回) 3. 精神科リハビリテーションにおける連携と統合 1) 地域リハビリテーション 2) 職業リハビリテーション	
(第13回～第14回) 4. 精神科リハビリテーションの関連領域 1) 精神科救急医療、身体合併症医療などとの関連 2) ライフサイクルと精神科リハビリテーション精神科 3) 精神保健福祉施策	
試験(予定)	

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー/第3巻 精神科リハビリテーション学. 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版.

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 久津内 一雄

講義内容・テーマ

映像文化論のテーマ

映画が持っているエンターテインメント性と芸術性とは原理的に二律背反的なものか？

映画史的に見ていくと、映画はエンターテインメントか芸術かという点を中心に議論されてきた。ヌーヴェル・ヴァーグの作家主義論やタルコフスキーのショット論などはその中心的な論点である。では、何故、映画はエンターテインメントか芸術かという点を軸に議論されてきたのか？

グリフィスから50～60年代にかけてのヌーヴェル・ヴァーグ運動を経て、80年代のニュー・ジャーマン・シネマを中心とした、20世紀最後の映画復興期から現在までを概観すると、グリフィスの本質あるいは彼のハリウッドでの運命とは、どんなことを意味しているか？また、その意味の普遍性とは何か？

世界の映画史において、黄金期と呼ばれている時代には、実に多くの観客が映画館に足を運んだ。例えば、日本映画の黄金期、五十年代にも、多くの日本人が、溝口健二、小津安二郎、成瀬巳喜男、五所平之助、木下恵介、黒澤明などの巨匠の映画を見に映画館に足を運んだ。では、観客は何を求めて映画館に足を運んだのか？

「映画の多様化」、「映画の無国籍化」、「映画のボーダレス化」が言われ出したのは、70年代から80年代にかけてであるが、この時代、映画にどんな変化が起こったか？また、観客の質に関わってどんな変化が起こったか？

映画は、誕生からわずか60年でそのピークを迎え、その後一気に凋落することを余儀なくされるわけだが、映画に未来があるとすればどんな未来がありうるか？

映画を各国映画史としてだけで捉えるとなかなか展望が見えてこない。しかし映画をまず共時態として捉え、その共時性を通時態(共時態と共時態との間のドラスティックな変化)の軸に変換して眺めるとまんざら捨てたものではないのではないか、という感想を抱ける。なぜなら、映画史をショット論と作家主義論を基軸にして眺めるといことは、映画を通時態として眺めることに繋がるからである。映画をショット論と作家主義論を基軸にして、通時的に眺めると、リュミエール兄弟(19世紀末) グリフィス(10年代) エイゼンシュテイン(20年代) ネオ・レアルモ(第二次大戦後の40～50年代) 日本映画黄金期(50年代) ニューヴェル・ヴァーグ(50～60年代) アメリカン・ニュー・シネマ(60～70年代) ニュー・ジャーマン・シネマなどの80年代ヨーロッパ映画復興期 現在 未来と、映画のある共時的構造が、別の共時的構造にドラスティックに変化する時の変化の在り方が見えてくるのではないか？なぜなら、映像文化とは、最も越境しやすく、最も変換しやすい文化だからだ。

以上のようなテーマを中心に、映像文化のありようについて理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義で取り扱う20作品程度の中から3作品を選んで上映し、鑑賞する。上映映画は受講生のリクエストによって決定する。03年度の上映映画は 小津安二郎「東京物語」 ジョゼッパ・トルナトーレ「ニューシネマ・パラダイス」 ヴィム・ヴェンダース「パリ、テキサス」であった。また、04年度の上映作品は 溝口健二「雨月物語」 ホ・ジ「八月のクリスマス」 ヴィクトル・エリセ「エル・スール」であった。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	
定期試験として実施。論述問題1問。		

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義	
映像芸術論の観点(1)	
映像芸術論の観点(2)	
モンタージュ論の観点	
作家主義論の観点	
ショット論の観点	
アメリカ映画黄金期	
日本映画黄金期	
フランスヌーヴェル・ヴァーグ	
80年代から現在までの映画史(1)	
80年代から現在までの映画史(2)	
映画鑑賞	
映画鑑賞	
映画鑑賞	
まとめ 映画史の構造論的・通時的把握	

定期試験

テキスト

講義時レジュメ配布。

参考書

参考文献一覧(総論部分のみ紹介)

映画論講座1～4	山田和夫監修	合同出版	1977年
映画芸術への招待	杉山平一	講談社	1987年
映像のポエジア	アンドレイ・タルコフスキー	キネマ旬報社	1988年
映画理論集成	岩本憲児編	フィルムアート社	1987年
映画の教科書	ジェイムズ・モナコ	フィルムアート社	1989年
モニタージュ探究	谷川義雄	風濤社	1985年
映画の言語	ロッド・ホイタカー	法政大学出版局	1983年
映画と現実	ロイ・アーメス	法政大学出版局	1985年
映画の記号論	Yu.M. ロトマン	平凡社	1987年
映像学原論	植条則夫編	ミネルヴァ書房	1990年
映画	エドガール・モラン	法政大学出版局	1983年
映画における記号と意味	ピーター・ウォーレン	フィルムアート社	1986年
映画芸術の社会学	G.A.ヒュアコ	有斐閣	1987年
季刊リュミエール6(グリフィス特集)		筑摩書房	1986年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 鶴田 尚美

講義内容・テーマ

この授業では、生と死に関する倫理的問題をとりあげ、生命倫理学の基礎知識と、批判的かつ論理的な思考方法を身につけることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	85 %	論述式
日常点(小テスト)	15 %	1-2回の中間レポートを課す

試験の結果を重視するが、中間レポートを平常点に含め、総合的に評価する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
第一章 死後の誕生	
第二章 どのようにして死は再定義されたか	
第三章 シャン博士のジレンマ	
第四章 トニー・ブラントと人命の神聖性	
第五章 不確実な始まり	
第六章 生命の質にもとづく判断をください	
第七章 死を依頼する	
第八章 「種の不連続性」という考えを越えて	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
生と死の倫理 伝統的倫理の崩壊	ピーター・シンガー(櫻則章 訳) / 昭和堂 / 4-8122-9715-x

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
実践の倫理	ピーター・シンガー / 昭和堂 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 文 楚雄

講義内容・テーマ

この授業は、激動する世界国々の現代社会や文化などについて学習する。今年も引き続いて中国のことを取り上げる。長い不況に苦しんでいる日本と対照的に、隣の中国は十数年連続してすさまじい経済成長を成し遂げている。日本との関係も、近年の対中貿易を見ても、中国への観光や留学やビジネスの人数を見ても、中国との交流はますます発展して行きます。一方、政治的にはときどき摩擦も生じています。授業では、中国の経済成長ぶりやそれに伴う新しい社会変化・新しい文化現象などについて、ビデオを使いながら紹介していく。また、日本との関係も時折触れていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義しながらビデオを見ていく。ディスカッションも交えたいので、大いに質問なり興味関心領域なりの発言をしていただきたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	期末の試験に代わるレポートを課す
日常点 (小テスト)	40 %	出席など

期末の試験に代わるレポートを提出しなければならない。
 期末のレポートや出席などの平常点を総合して判断する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
北京オリンピック	
北京のまちづくり	
中国の映画	
新婚姻法と一人っ子政策	
中国の観光	
日本と中国との関係	
中国の音楽	
南水北調	
中国の八大料理	
中国と台湾の関係	
西部大開発と貧富の中国	
鄧小平と中国	
中国の社会保障政策	
中国のIT社会	

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
「中国の社会構造」	中野謙二 / 大修館書店 /
「変貌する中国を読み解く新語辞典」	莫邦富 / 草思社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 太田 美帆

講義内容・テーマ

各国で様々な方法で行われている福祉のあり方を学び、それらを体系的に理解することを目指します。福祉とは、一人一人が生きて行く上で経験する問題(就労、育児・介護、加齢等に伴う問題)を、一個人を超えた制度(家族、企業、公的機関、NPO等)によって解決しようとする試みであると、この講義では考えます。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのかという社会的背景に注意を向けて下さい。そしてそのような方法をとることによって、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。講義は産業先進諸国の福祉を主な対象とし、可能な限り具体的事例を交えて進めます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講のためにあらかじめ必要とされる知識・スキルは、特にありません。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	講義の内容が理解されているかを考査する。
日常点(小テスト)	40 %	小テストおよび講義への参加態度により判断する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
概論：福祉国家比較のための視点	「福祉とは？ 福祉レジームの三類型」
就労と家庭生活に関する三類型(1)：実態	「生活時間、所得、給付」
就労と家庭生活に関する三類型(2)：労働をめぐる諸要因の変遷	「経済状況、世論、就労状況、政策支援」
就労と家庭生活に関する三類型(3)：育児支援	「育児理念、法制度、保育サービス」
就労と家庭生活に関する三類型(4)：高齢者福祉	「高齢者の社会的位置づけ、法制度、介護サービス」
福祉レジーム	「自由主義的福祉レジーム、社会民主主義的福祉レジーム、保守主義的福祉レジーム」
福祉国家と雇用政策に関する各国比較	「労働市場政策、年金」
ボランティアと福祉に関する各国比較	「非営利組織、福祉多元主義」
スウェーデンの福祉(1)：1990年代以降の都市部での新動向	「経済危機、利用者民主主義、民営化」
スウェーデンの福祉(2)：1980年代以降の過疎地域での新動向	「分権、民営化、社会的企業」
スウェーデンの福祉(3)：新たな社会的状況への適応	「貧困、ニーズの多様化」
変化し続ける先進諸国の福祉	「グローバル化、産業構造、人口構造」
アジア的福祉の特色	「経済成長、開発、国家官僚制」
まとめ	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
福祉資本主義の三つの世界：比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン / ミネルヴァ書房 / 4-623-03323-6
ポスト工業経済の社会的基礎：市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン / 桜井書店 / 4-921190-00-3
比較福祉国家論：ゆらぎとオルタナティブ	岡沢憲英・宮本太郎編 / 法律文化社 / 4589019973

その他、講義中に必要に応じて指定します。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
転換期の福祉国家：グローバル経済下の適応戦略	G.エスピン-アンデルセン編 / 早稲田大学出版部 / 4-657-03922-9

その他、講義中に必要に応じて紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ**

講義中に必要に応じて紹介します。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 神谷 雅子、西垣 吉春

講義内容・テーマ

華やかに見える映画産業界ですが、その実像を、しっかりとらえることとは、コンテンツの王様として改めて注目を集めている映画の未来にとって大切なことだと考えています。この授業では、日本の映画興行の歴史を振り返りつつ、映画産業の実像を検証していきます。映画都市・京都の成り立ち、その未来像も一緒に考えます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生は、月に1作品以上、映画館(あるいは、ホールなどでの上映会)で映画(日本映画を希望)を見てほしい。また、7月、10月には以学館1号ホールで、阪本順治監督、中江裕司監督をゲストに上映会を企画しているので、この企画には参加して欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
映画産業の現状 日本の映画産業の現状を日本映画製作者連盟などのデータをもとに全体像を捉える。	
映画産業の成り立ち 1895年12月 フランス・パリのグランカフェでのシネマトグラフの上映会が、映画の誕生とされる。シネマトグラフは、リュミエール兄弟の発明だが、京都出身の稲畑勝太郎によって、京都に	
映画産業の構造 映画の製作、配給、興行の仕組み、流れを理解してもらう。	
日本映画の状況 日本の映画製作がどのような状況になっているのか。映画産業の構造との関係で検証していく。	
ハリウッド映画の戦略 ハリウッド映画がなぜ世界中でみられているのか。その戦略、狙いを検証する。	
映画産業の未来とその可能性 デジタルコンテンツとして改めて注目を集めている映画。私たちが外国映画を見て、その国への理解と憧れをかきたてられたように、日本映画も、海外では日本理解のツールのひとつとして	
以上の内容で総括的導入講義を含めて15回の講義を実施	

テキスト

とくになし

参考書

「京都の映画80年の歩み」(1980年京都新聞社刊)「日本映画を読む」(1984年ダゲレオ出版)「シネマがやってきた！日本映画事始め」(1995年小学館)朝日選書「イエロー・フェイス～ハリウッド映画にみるアジア人の肖像」(1993年朝日新聞社)「戦争広告代理店～情報操作とボスニア紛争」(2003 講談社)など。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

goo映画 <http://movie.goo.ne.jp/> all cinema online <http://www.allcinema.net>
 キネマ旬報データベース <http://walkerplus.com/movie/kinejun/>
 ミニパラ(全国のミニシアターのportalサイト) <http://www.minipara.com/>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

歌舞伎は、伝統芸能であると同時に、現在も「商業」演劇として興行が成り立っています。江戸時代の初期に成立し、時代ごとにさまざまな演目、俳優、演技、演出、舞台機構を生み出してきたのです。また、近世年間には文楽や能楽から、近代以降は新派や新劇からも養分を吸収し、芸能として発展を遂げてきました。本講義では歌舞伎を多角的に取り上げ、エンターテインメントであると同時にドラマとして尽きない魅力を持つ、日本の近世演劇の本質に迫ります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

伝統演劇、古典芸能に興味のある学生はもちろん、現代演劇に関心を持つ学生にも、日本の伝統演劇に関する基本的知識を身につけてほしいと思っています。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	授業内容全体の理解度を持ち込み不可の筆記試験で問います。
日常点 (小テスト)	30 %	授業中に3回ミニレポートを書いて提出してもらいます。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

ガイダンス 伝統芸能の概念と歌舞伎の位置

歌舞伎誕生

元禄歌舞伎と女形芸

劇場の整備と舞台機構の進歩

名門の形成と演技・演出

演目の分類と役柄の分化

文楽との交流と上方歌舞伎

能楽の摂取と歌舞伎舞踊

作品鑑賞 (ビデオ鑑賞)

南座と京都の顔見世

化政年間の歌舞伎と怪談物

幕末・明治初期の歌舞伎と演劇改良

明治後期・大正の歌舞伎

現代の歌舞伎・質疑応答

定期試験

テキスト

参考書

『芝居絵に見る江戸・明治の歌舞伎』早稲田大学演劇博物館編 小学館

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
 担当教員 是枝 裕和

講義内容・テーマ

映像をどのように読み解いていくのか？ということについて考えたい。主にはドキュメンタリー映画及び自作のテレビドキュメンタリーや劇映画を題材にしつつ、映像の背後で、又は、フレームの外で、どのような演出が行われているのか？そのことを考えられる想像力を鍛えるのが、今講義の主な目的である。まず映像を観る眼を養う。それが作る行為の柱になる。制作者養成講座ではないが、講義の出口はそこにつながっていくことと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

沢山、本を読んでもらうことになりまますから、読書量に自信のない方は履修しないで下さい。

【事務室からの注意事項】

- 1) 本講義は、予備登録の上、受講者を決定します。予備登録の方法は掲示にて確認し、指定された期日以内に手続きを行うこと。
- 2) 講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。本講義の受講を希望する者は、次時限(金曜日5限)もあけておくこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
第1回 総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
第2回～第15回は以下のテーマに基づいて講義する。講義中に作品の上映も行う。	
ただし、日々起きる映像を巡る事件や事象によって講義内容及び上映作品は大幅に変更される可能性があるので御了解いただきたい。	
1. ドキュメンタリーは「事実」「真実」なのか？ 上映「もう一つの教育」(是枝裕和)	
2. 作品上映「辺田部落」(小川紳介)「不知火海」(土本典昭)	
3. プロパガンダか祝祭か？ 上映「しかし・福祉切り捨ての時代に」(是枝裕和)	
4. 作品研究「人間蒸発」(今村昌平)	
5. 1968年 テレビが死んだ日 上映「日の丸」「あなたは・・・」(萩本晴彦)	
6. 取材することの暴力性「アンダーグラウンド」(村上春樹)をめぐって	
7. 作品上映「A」「A2」(森 達也)	
8. 森達也さん(未定)をゲストに招いて	
9. ケーススタディ「記憶が失われた時」(是枝裕和)	
10. 良いナレーションとは？ (ある映像に受講生自身がナレーションやテロップを加え、どのような言葉が映像を豊かにするか実践的に学ぶ)	
11. 作品上映(作品未定)	
12. ゲストを招いて	
13. 今、映像メディアに何ができるのか？ 上映「忘れられた皇軍」(大島渚)	
14. カメラはなぜ揺れるのか？映像のリアリティについて	

テキスト

テキストは講義中に適宜指示します。

参考書

講義中に指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中に指示します。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追いかけているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。今年度は、「双方向授業」「国際報道の視点」「映像制作技術を駆使した番組づくり」を三つの柱に据え、展開します。また、本講座はNHK京都局の企画にもとづいて、「キャンパスプラザ京都」において行われます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学部生は「専門特殊講義 SA」、他学部生・他大学生は「大学コンソーシアム京都」科目として受講します。授業は前期土曜日に実施されます。以下の「講義スケジュール」で提示の内容等は、変更・交替が生じる場合があります。確定版の「講義スケジュール」は、第1回目の授業時に提示します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	日常点評価(講義時に提出するレポート等により評価を行う。)

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

4月9日(土)今井義典/NHK解説委員長【テーマ】グローバル時代のメディアとジャーナリスト

4月16日(土)田附英樹/スペシャル番組センターチーフディレクター【テーマ】「NHKスペシャル 地球大進化」最新映像で地球を描く

4月23日(土)龍正二/京都局制作チーフディレクター 渡辺圭/大阪局文化部制作デスク【テーマ】双方向授業のために 企画とイメージの具体化 「番組提案票」の作成についてお知らせ

5月7日(土)中谷日出/NHK解説委員【テーマ】プレゼンテーション術・自己アピール

5月14日(土)国井雅比古/アナウンス室エクゼクティブアナウンサー【テーマ】プロジェクトX その生き方から見えたもの 「番組提案票」提出締め切り

5月21日(土)海老原史/京都局ニュースデスク【テーマ】鳥インフルエンザ、台風23号 緊急報道最前線

5月28日(土)光井正人/京都局放送局長【テーマ】地上デジタル時代の地域放送 「番組提案票」選考結果発表

6月4日(土)榎健一郎/事業局チーフディレクター【テーマ】大型展覧会はこうして作る

6月11日(土)渡辺圭・岩崎真也/大阪局文化部制作デスク【双方向授業】プレゼンテーション(3・4限連続) 「番組提案票」優秀作品プレゼンテーション

6月18日(土)富永慎一/放送総局アニメーション室チーフプロデューサー【テーマ】テレビアニメの制作現場～「雪の女王」～

6月25日(土)河邑厚徳/放送80周年事務局エクゼクティブプロデューサー【テーマ】ブロードキャスティングサービス・放送の80年

7月2日(土)国谷裕子/NHKキャスター【テーマ】「クローズアップ現代」の見つめた時代

7月9日(土)龍正二/京都局制作チーフディレクター 渡辺圭/大阪局文化部制作デスク【テーマ】双方向授業 制作番組発表

7月16日(土)橋本元一/NHK会長【テーマ】技術革新と放送の未来

テキスト

指定しません。

参考書

指定しない。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

NHK <http://www.nhk.or.jp> NHK京都局 <http://www.nhk.or.jp/kyoto/>

その他

キャンパスプラザ京都にて授業を行います。1ないし2回は授業時間を延長して行う場合があります。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 斎藤 喬

講義内容・テーマ

テーマ:21世紀の世界とジャーナリズム

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じて中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、読売テレビと読売新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義時間:前期水曜5限(16:20~17:50)

受講者:産業社会学部2回生以上

他学部学生は3回生以上(他学部受講扱い)

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

講義スケジュールについては、変更される場合があります。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

成績の評価:毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答を日常点として評価します。

また2,000字程度の「試験に代わるレポート」を出題する予定です。

講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
4/13 第01回 国家の危機管理とジャーナリズム 老川 祥一・読売新聞大阪本社副社長	
4/20 第02回 テレビの現在と未来 土井 共成・読売テレビ会長兼社長	
4/27 第03回 インド沖大津波にみる国際協力 織田 肇彦・読売新聞大阪本社論説委員長	
5/11 第04回 テレビジャーナリズムの現場から 岩田 公雄・読売テレビ東京報道部長兼解説委員	
5/18 第05回 新聞と文化事業 白石 喜和・読売新聞大阪本社事業局長	
5/25 第06回 言論の自由のために知っておくべきこと 辛坊 治郎・読売テレビ解説委員	
6/01 第07回 事件多発時代 谷 高志・読売新聞大阪本社社会部長	
6/08 第08回 デジタル時代のコンテンツ 村上 博保・読売テレビ編成局長	
6/15 第09回 新感染症時代 吉島 一彦・読売新聞大阪本社編集局総務	
6/22 第10回 ドキュメンタリーの目線 石黒 新・読売テレビアナウンス部長	
6/29 第11回 ジャーナリズムと社論 朝倉 敏夫・読売新聞東京本社論説委員長	
7/06 第12回 記者レポート論 森岡 啓人・読売テレビ報道局長	
7/13 第13回 報道といのち～戦後60年 河内 鏡太郎・読売新聞大阪本社編集局長	
7/20 第14回 テレビ報道の現状と課題 春川 正明・読売テレビ報道部長	

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 斎藤 喬

講義内容・テーマ

テーマ: 読売マスコミ講座2～ジャーナリズムの現場から～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々から、各分野にそくした現状等を講義します。

講義スケジュールについては、変更される場合があります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義時間: 後期水曜5限(16:20～17:50)

受講者: 産業社会学部2回生以上

他学部学生は3回生以上(他学部受講扱い)

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

成績の評価: 毎授業終了時提出してもらふアンケート用紙への回答を日常点として評価します。

また2,000字程度の「試験に代わるレポート」を出題する予定です。

講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
09/28 第01回 テレビのデジタル化と情報伝達 脇浜 紀子・読売テレビアナウンサー	
10/05 第02回 新聞づくりの現場 西田 裕美・読売新聞大阪本社編成部主任	
10/12 第03回 報道TVカメラマンが見たこと 千原 徹・読売テレビ報道カメラマン	
10/19 第04回 事件報道の現場 松尾 徳彦・読売新聞大阪本社社会部次長	
10/26 第05回 最近上海事情 大泉 純子・読売テレビ前上海特派員	
11/02 第06回 最新ファッション事情 山口 景子・読売新聞大阪本社生活情報部記者	
11/09 第07回 ローカルワイドニュースの実態 相島 良樹・読売テレビプロデューサー	
11/16 第08回 近づく東南海・南海地震～M8に備える 川西 勝・読売新聞大阪本社科学部記者	
11/23 第09回 犯罪被害者 堀川 雅子・読売テレビ報道部記者	
11/30 第10回 関西経済活性化のために 向野 晋・読売新聞大阪本社経済部記者	
12/07 第11回 平成言葉事情 道浦 俊彦・読売テレビアナウンサー	
12/14 第12回 プロ野球「改革元年」 田村 建・読売新聞大阪本社運動部主任	
12/21 第13回 「ズームイン」という情報番組 近藤 五郎・読売テレビプロデューサー	
01/11 第14回 キャンペーン報道～「安心のまちづくり」など 川島 紳明・読売新聞大阪本社社会部次長	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

わが国の音楽文化は着実な広がりを見せている。レコード産業の長期低迷というハンディを抱えながら、コンテンツをパッケージとしてだけでなく、新しいメディアの登場に合わせて種々の使い回しが研究され具体化されている。本講座においては、日ごろの琴線に触れる音楽を創造しプロモートするために情熱を注ぐ現場の方々の貴重な話しを聴講しつつ、クリエイティブの本質を学ぶ。音楽著作権の内容に加え、音楽文化全般についての知識を得たい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

音楽を含むメディア全般に関心のある人、好奇心旺盛な人、柔軟な思考方法を持っている人、持ちたいと思っている人などの受講を望む。各回完結で外部講師の講義が中心となるので毎回の出席を受講条件の大きなポイントとする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	「中間レポート」および「最終レポート」を実施する。
		「出席点」、「中間レポート」および「最終レポート」を各1/3の割合とし、総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
4/16 開講オリエンテーション	
4/23 須藤 晃氏 (音楽プロデューサー、カレントファクトリー代表)	
5/07 若松 修氏 (日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合専務理事)	
5/14 矢島 靖夫氏 (日本レコード商組合連合会理事長)	
5/21 酒井 政利氏 (音楽プロデューサー、(株)酒井プロデュースオフィス代表取締役)	
5/28 富沢 一誠氏 (音楽評論家)	
6/04 中間レポート	
6/11 反畑 誠一氏 (音楽評論家、反畑誠一事務所代表)	
6/18 丸山 茂雄氏 (音楽プロデューサー、(株)ソニー・コンピュータエンタテインメント取締役)	
6/25 半田 正夫氏 (青山学院大学名誉教授)	
7/02 もず 唱平氏 (作詞家、110番舎音楽出版代表)	
7/09 北田 暢也氏 ((社)日本音楽著作権協会 企画部長)	
7/16 最終レポート	

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

各講師の講義テーマは開講オリエンテーション時にお伝えします。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 崎山 治男

講義内容・テーマ

音楽産業や音楽文化の内容に加え、テレビ・出版等のメディア関係より毎回講師を迎え講義を進めていく。各産業企業それぞれの世界でいま活躍されている方々、これまでに豊富な経験をお持ちの方々の、up-to-date で trendyな 話の中から「創造」に関する喜怒哀楽をも学ぶ講座としたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

音楽に関心のある人はもちろんのこと、メディア全般に関心のある人、好奇心旺盛な人、柔軟な思考方法を持っている人、持ちたいと思っている人などの受講を望む。各回完結で外部講師の講義が中心となるので、毎回の出席を受講条件の大きなポイントとする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	「中間レポート」および「最終レポート」を実施する

「出席点」、「中間レポート」および「最終レポート」を各1/3の割合とし、総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

10/01 開講オリエンテーション

10/08 太田 輝仁 氏(コンピュータソフトウェア著作権協会専務) テーマ:コンテンツビジネスと著作権

10/15 山本 幸治 氏(全国コンサートツアー事業者協会常務理事・事務局長) テーマ:コンサートビジネスの歴史と現状

10/22 岡本 薫 氏(文部科学省スポーツ・青少年局 企画・体育課長、元文化庁著作権課長) テーマ:「著作権ビジネス」とは何か? - コンテンツ・ビジネス、権利ビジネス、リスク・ビジネス -

10/29 中井 秀範 氏((株)キャスト代表取締役、吉本興業東京本部デジタルコンテンツ企画開発部長) テーマ:吉本興業におけるブロードバンドコンテンツ戦略

11/05 五味 俊和 氏(社団法人日本書籍出版協会相談役) テーマ:活字文化の振興と出版界の現況

11/12 中間レポート

11/19 植山 周一郎 氏(植山事務所代表取締役社長、ヴァージングループ顧問、サッチャー元英国首相顧問) テーマ:「個人ブランディングがビジネスモライフスタイルも充実させる!」

11/26 鈴木 典之 氏(放送評論家) テーマ:テレビのなにが「文化」か、どこが「公共性」か～番組批評の現場から～

12/03 宮川 鑛一 氏(テレビ東京経営戦略室参与、元テレビ東京常務・編成局長) テーマ:メディアは事実・真実を伝えているか - メディア教育(メディアリテラシー)の重要性 -

12/10 くらた まなぶ 氏(アソビとまなぶ代表取締役、元リクルート社編集長) テーマ:カラダ発想術 「不のつく日本語」をもとめて

12/17 山本 裕治 氏((株)第一興商常務取締役) テーマ:カラオケの功罪

1/07 木津川 計 氏(立命館大学産業社会学部教授) テーマ:文化のかつてない世代間ギャップはなぜ起こったのか - 演劇・笑い・音楽の場合 -

1/14 最終レポート

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

京都市役所における地方自治行政の実務の最前線を学生に紹介する。
 今年度は、少子高齢化の急速な進展や環境問題の深刻化、犯罪の増加、右肩上がりの成長社会の終焉、それに伴う国・地方の財政危機など、激動と不安の時代の中で、困難な時代を乗り越え、新しい地域主権の時代を切り開くための、京都市における都市戦略について、現場で陣頭指揮をとっている各局課長たちが、リレー講義を行う。
 この授業は、京都市と大学がコラボレートしたモデル事業である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

立命館大学産業社会学部 = 専門科目
 立命館大学他学部・他大学 = (財)大学コンソーシアム京都単位互換コーディネート科目
 一般社会人等 = 京都市シティーカレッジ科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

オリエンテーション (立命館大学 産業社会学部 山本隆教授)

「新京都市都市経営戦略 市政改革」(京都市 総務局 総務部 行政改革課長 林建志氏)

「国家戦略としての京都創生 歴史都市・京都創生策」(京都市 総合企画局 政策推進室 政策企画課長 鈴木知史氏)

「京都市財政 財政健全化」(京都市 理財局 財務部 主計課長 高城順一氏)

「市民参加の推進」(京都市 総合企画局 プロジェクト推進室 担当課長 江川博氏)

「地球温暖化防止対策」(京都市 環境局 環境政策部 地球環境政策課長 岡田憲和氏)

ミニシンポジウム (立命館大学 産業社会学部 山本隆教授)

「産業振興 5000万人観光都市・京都」(京都市 産業観光局 商工部 経済企画課長 糟谷範子氏)

「子育て支援」(京都市 保健福祉局 子育て支援部 児童家庭課 担当課長 荒木輝子氏)

「都市景観 まちづくり」((財)京都市景観・まちづくりセンター事務局 次長 奥美里氏)

「公営企業における経営健全化策」(京都市 交通局 企画総務部 総務課長 真下清氏)

「安心安全のまちづくり 消費者保護」(京都市 文化市民局 市民生活部 市民総合相談課長 奥村崇氏)

シンポジウム(京都市副市長 星川 茂一氏)

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

京都市役所のゲストスピーカーや講義の順番等は変更になる場合があります。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 神保 哲生

講義内容・テーマ

専門特殊講義 IV SAと専門特殊講義 SBIは、別名ビデオジャーナリズム1と2です。このクラスではビデオジャーナリズムの理論と実技を学びます。前期の1ではまずビデオジャーナリズムの基礎となる取材、記事の執筆、インタビューなどをカメラを使わずに体験します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃から新聞やテレビを自分が書き手(作り手)になったつもりで、注意深く読む(見る)ようにしてください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	作成したレポートの完成度、習熟度
日常点(小テスト)	20 %	クラスでのディベートへの参加度

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ビデオジャーナリズムとは	
ビデオジャーナリズムの理論	
ビデオジャーナリズムの理論	
ビデオジャーナリズムの文法	
ビデオジャーナリズムの文法	
記事を書いてみる	
記事を書いてみる	
取材を試してみる	
取材を試してみる	
インタビュー	
インタビュー	
インタビュー記事の発表と論評	
インタビュー記事の発表と論評	
総括講義	

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
ビデオジャーナリストの挑戦	神保哲生/ほんの木/4938568608

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
ビル・コヴァッチジャーナリズムの原則	ビル・コヴァッチほか/日本経済評論社/4818814474

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

民主主義の成熟度を示すバロメーターとして、海外のメディアがどのように発展してきたのか(あるいは妨げられているのか)いくつかの事例を交えて紹介する。

日本のメディアの報道内容から、海外の情報やニュースが如何に取捨選択され伝えられているのか、反対に諸外国のメディアが日本のどのような出来事に興味を示し、どのように伝えているのかを分析する。

さらに、日本の記者クラブ制度など、日本の常識と国際標準(インターナショナル・スタンダード)のギャップの深刻さを理解するとともに、文化摩擦が生じるメカニズムや、それを克服するための報道やメディア表現における国際感覚とは何かを探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞を最低1紙購読すること。

Gサーチ・Lexis Nexisなど日本や米国の新聞記事の検索ができることが望ましい。

講義を主体とするが、小グループによる発表を1～2回実施する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	40 %	日本メディアの国際化の遅れ、外国メディアの報道ぶりの特徴を分析し説明できる。
レポート	30 %	授業中に設定するテーマについて分析・論評を求める。
日常点(小テスト)	30 %	指定する社会現象や問題について日本と外国の記事の比較を行い、小グループにて発表を求める。
その他	0 %	意味のある質問やコメント発言は積極的に評価する。

講義スケジュール

内 容

キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

国際化、国際感覚、表現・取材の自由についての国際標準

日本の国際・海外報道の現状(1)情報ソース・取材態勢など

日本の国際・海外報道の現状(2)ニュース選択の基準

日本社会のメディア環境の後進性

海外のメディアの現状(1)「取材の自由」は守られているか

海外のメディアの現状(2)ライフスタイルとメディア

海外のメディアの現状(3)テレビ先進国アメリカの現状

日本は海外でどのように報道されているか(1)事例研究

日本は海外でどのように報道されているか(2)事例研究

日本は海外でどのように報道されているか(3)事例研究

メディア教育とは

メディアを育てる社会環境 - NGOの試み

補足の議論・総括 - 再び国際感覚について考える

テスト

テキスト

特に指定しませんが、リーディング・アサインメントを授業の最初の日に指定します。

参考書

授業の最初の日に指定します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

「良い記事」「良い紙面」について新聞メディアの日々の取り組みを同時進行的に紹介・解析していくを通じ、全国紙・地方紙の紙面を、バランスのとれた視点からより深く理解し、公正な批判のできる読解力を養うことがねらい。内外大ニュース報道、事件記事など新聞社内外での論議を、できるだけタイムリーかつ具体的に紹介するが、それにとどまらず受け手(読者)の立場からどのような工夫・改善が望まれるかについて提起する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日々の新聞を良く読んで授業にのぞんで下さい。数回おきに講義を少し早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などはできるだけ次週以降に答えます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	
日常点(小テスト)	40 %	

期末に試験に代わる課題レポートを課します。課題は講義を毎回聴いて、問題意識を持って関連学習や調査研究をすれば答えられる内容とします。ミニレポートも出席点評価を加味して4割のウエートを置きます。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
新聞の違い(特に社説)について	
イラク問題・自衛隊派遣をめぐる報道について	
イラク問題・自衛隊派遣をめぐる報道について	
その他、政治・国際問題報道について	
事件報道(人権報道や、紙面上の匿名・実名問題も含む)	
事件報道(人権報道や、紙面上の匿名・実名問題も含む)	
ヒューマン記事について	
スポーツ報道について	
スポーツ報道について	
歌壇・俳壇面について	
「声欄」(投稿面)の改革をめぐる論争	
全国紙・地方紙のすぐれた試み紹介	
全国紙・地方紙のすぐれた試み紹介	
新聞紙面改革の行方	

テキスト

テキストはありません。資料は原則として毎回用意します。

参考書

必要なものは授業の中で紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

日本新聞協会プレスネット <http://www.pressnet.or.jp/> 週1回更新の「紙面展望」。加盟新聞社の社説の論調を紹介

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 神保 哲生

講義内容・テーマ

専門特殊講義 IV SAと専門特殊講義 SBは、別名ビデオジャーナリズム1と2です。このクラスではビデオジャーナリズムの理論と実技を学びます。後期の2ではまず前期に学んだジャーナリズムの基礎をもとに、実際にカメラや編集機を使ってビデオジャーナリズムを経験します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃から新聞やテレビのニュースを書き手(作り手)になったつもりで注意深く読む(見る)ようにして下さい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	作成する映像レポートの完成度、習熟度
日常点(小テスト)	20 %	クラス内でのディベートへの参加度

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリズムの文法、実技	
ビデオジャーナリストの編集、実技	
ビデオジャーナリストの編集、実技	
ビデオジャーナリストの編集、実技	
ビデオジャーナリストの編集、実技	
ビデオジャーナリストの編集、実技	
総括講義	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	ビデオジャーナリストの挑戦	神保哲生 / ほんの木 / 4938568608

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

専門特殊講義 SA
人間福祉特論 SA

12724

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 岩下 恭士

講義内容・テーマ

近年、バリアフリーに代わる新たな概念として「ユニバーサルデザイン」、「インクルーシブデザイン」、「デザイン・フォー・オール」が注目されている。これらはいずれも「専用」としての製品開発やサービスを目指すバリアフリーを超えて、障害や年齢、性別や国籍にかかわらず、すべての人が利用できる製品・サービスの開発、すべての人が参加できる社会の実現を目指す考え方である。

講義では、特にITの目覚ましい進展によるユビキタス社会の到来をにらみつつ、(電子化された)情報を活用した、誰もが参加できる福祉社会のあり方を模索する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

インターネットやコンピューター技術に関する情報処理系の科目、経済学、社会学、政治学、英語

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
その他	50 %	

レポートは必ずメールかFDなど電子テキストで提出すること。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション：バリアフリーとユニバーサルデザイン、関連用語	
障害者と情報バリア：点字の発明	
各国の法規制の動向	
ITと情報アクセシビリティ1	
ITと情報アクセシビリティ2	
ITと情報アクセシビリティ3	
ユニバーサルデザインとユビキタス1	
ユニバーサルデザインとユビキタス2	
ユニバーサルデザインとユビキタス3	
ユニバーサルサービス	
電子メディアとUD1	
電子メディアとUD2	
社会参加を支えるUD	
まとめ	

テキスト

ユニバーサロン (<http://www.mainichi.co.jp/universalon/>)

参考書

「ウェブアクセシビリティ」(マイケル・パチェロ著、アスキー)、「ネットは新聞を殺すのか」(青木日照、湯川鶴章著、NTT出版)、「JIS X 8341(高齢者・障害者等配慮設計指針)」(日本工業規格)、「相互扶助論」(ビョートル・クロボトキン著、同時代社)、「信頼 社会的な複雑性縮減のメカニズム」(ニクラス・ルーマン著、勁草書房)、「共生生命体の30億年」(リン・マーギユリス著、草思社)、「デザインの未来:環境・製品・情報のユニバーサルデザイン」(古瀬敏編著、都市文化社)、季刊誌「Web Site Design」(廃刊、技術評論社)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

W3C: <http://www.w3.org/>

日立のユニバーサルデザイン <http://www.hitachi.co.jp/universaldesign/>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

社会の大きな変化と多メディア化の進展ではっきりしてきた「活字離れに苦闘する新聞業界」「スリムに変容する新聞企業」「多角化する新聞メディアグループ」「過去にとらわれない企業間協力・提携を模索する新聞メディアグループ各社」をテーマに、現状を立体的に読み解いていく中で、これからのジャーナリズム企業の行方を探る。「情報の質と多様性と深み」を生命線としている新聞界が、厳しい変化の時代に耐え抜いていくために何が求められるか、を常に問題意識において講義をする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などはできるだけ次週以降答えます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	
日常点 (小テスト)	40 %	

*試験に代わるレポートとして実施 *日常点評価

レポートには6割、出席チェックを兼ねたミニレポートに4割のウエートを置いて評価します。レポートでは理解度と内容の説得力も重視します。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

日本と世界の新聞メディアグループの現状

日本と世界の新聞メディアグループの現状

部数競争・広告シェア争いの現状と行方

部数競争・広告シェア争いの現状と行方

新たな紙媒体やフリーペーパーの挑戦

活字離れの現状と読者率向上への取り組み

活字離れの現状と読者率向上への取り組み

新聞社の電子事業

電子新聞の可能性

新聞社の電波事業と放送業界との関係

新聞経営の合理化にかかわる諸問題

インターネット時代の取材・編集

2006年の新聞界展望

これまでの授業の中で触れていなかった質問への一括回答など

テキスト

ありません

参考書

必要があれば初回の講義の中で紹介

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

初回の講義の中で紹介

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 藤腹 明子

講義内容・テーマ

私たちは一生の間に必ず人の死を看取り、そしていつの日にか、自身もまた誰かに看取られることになります。よりよい看取りを実践し、また自分らしい最期を迎えるためにもっとも大切なことは、一人ひとりが生死観を育んでいくことだと考えます。本講義では、生死観を育むことの意義がわかるとともに、看取り(ターミナルケア)を実践するうえで必要と思われる基本的知識、技術についての理解を深めることを目指しています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目では、点数で評価することよりも、授業に参加されるお一人お一人が、自身の生死の問題にきちんと対峙し、考えてくださることを大切にしたいと思います。夏期集中講義ですが、休まないで受講してくださることを希望いたします。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	レポートテーマに対する自身の考えがきちんと述べられているか。
日常点(小テスト)	20 %	授業で求められる課題を提出しているか。
その他	20 %	出席率

* レポートの基本的な書き方、マナーを身につけた上で、レポートを書いてください。 * 遅刻や欠席をしないように努力してください。

講義スケジュール

内 容	キーワード
ターミナルケアに関する基本的理念・用語の解説	ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア、ピハラケア
看取りの心得と作法17カ条	17カ条の項目解説
ターミナルケアと生死観	生死観、死生観、いのち観、生死観と宗教、デスエデュケーション
死に向かう人と家族のニーズと配慮の視点	基本的欲求に伴うニーズ、身体的側面のニーズ、内的側面のニーズ、社会的側面のニーズ、生活面のニーズ
病名・病状・予後の説明	病名告知、がん告知、インフォームドコンセント、病名告知の現状・問題
ターミナルケアと生命倫理	生命倫理、安楽死、尊厳死、セデーション
望ましい臨終・死、望ましくない臨終・死	よき死、望ましい臨終・死、望ましくない臨終・死
ターミナルケアとQOL	QOL、SOL、リビングウィル
ターミナルケアにおけるスピリチュアルケア	スピリット、スピリチュアリティ、スピリチュアルニード、スピリチュアルペイン、スピリチュアルケア
ターミナルケアの基本姿勢	感性、知性、理性、霊性、セーバー、ウバスターナ
ターミナルケアと評価	ターミナルケアと評価、末期患者のQOLと評価、評価の実際
危篤・臨終・死後処置時の心得と作法	危篤、臨終、命終、死後の処置
看取られるための心得と作法	死に場所、死ぬ時、死に方、死の作法
人が死んでから墓に入るまで	一般的な葬儀の段取り、葬儀の手続き、葬儀の経費、グリーフワーク
がん患者さんからのメッセージ(ゲストの講義、ゲストと受講生とのディスカッション)	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
看取りの心得と作法17カ条	藤腹明子 / 青海社 / 4-902249-10-3

テキストはできるだけ購入してください。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
系統看護学講座別巻10 ターミナルケア	柏木哲夫・藤腹明子編集 / 医学書院 / 4-260-35503-1
臨終行儀 -日本のターミナルケアの原点-	神居文彰・田宮仁・長谷川匡俊・藤腹明子 / 北辰堂 / 4-89287-091-9
仏教と看護 -傍らに立つ-	藤腹明子 / 三輪書店 / 4-89590-125-4

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

大衆表現論 S
大衆芸能論 S

12781

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

地上はあらゆる<表現>のつぼです。私たちは何事かを表現し、受け手の反応を待っています。芸能もまた表現形式の一つです。時代により、ジャンルにより、その表現内容は異なります。この「大衆表現論」は、もっぱら大衆芸能を見据え、その表現の種々相を探ります。また、それ以外の文化の諸相をも探りながら広く大衆文化の特質と問題点を明らかにします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	

*試験に代わるレポートとして実施
レポートです。(聴講していなければ書けません。)

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1、大衆表現の位相 前期概要	
2、都市の表現 猥雑都市か含羞都市か	
3、笑い時代 笑いのうねりの起こるとき	
4、漫才と松竹新喜劇の表現 平和主義の再評価	
5、落語の表現 何を笑うのか	
6、歌の表現 歌はどう変わってきたのか	
7、歌の表現 男と女の歌われ方	
8、ことばの表現 化粧することば	
9、ことばの表現 揺れる日本語	
11、詩歌の表現 何を擁護するのか	
語りの表現－美しい日本語のために	
12、愛の表現 慕情とは何か	
13、愛の表現 水上勉と「真さん」	
優しさの表現－国民的人気としての優しさ	

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

大衆文化論 N
大衆芸能論 N

10615

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

知識的教養人のハイグレードな文化とは別に、大衆文化は広く大衆に受け入れられる通俗文化を指すのです。その大衆文化が持っている健康な民衆精神、ヒューマンで在野的な精神の健在を評価しつつ、猥雑と退廃に陥りやすい傾向を見据え、あるべき大衆文化像を具体的に探るのが本講の目的です。とくに本年度は大衆文化の諸相と時代との関連をさぐります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	

*試験に代わるレポートとして実施
レポートを開講中2回提出していただきます。
その2点を評価します。
1回目課題「男と女はどう歌われているか」
2回目課題「優しさをいまどこに発見しますか」
提出日は教室で知らせます。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

なぜ「大衆文化と時代」なのか 大衆文化論概説

笑い時代 笑いのうねりの起るとき

歌と時代 男女の歌われ方

歌と時代 歌はどう変わってきたか

歌とことば ご当地ソングと地方文化

川柳と時代 サラリーマン川柳の照準

語りと文化 日本語ブームと語り

優しさは国民的人気たり得るか アニメ、漫画、演芸の場合

優しさは国民的人気たり得るか 映画、喜劇の場合

余暇と遊びー「レジャー白書」を読む

趣味と時代 「趣味力」の発見

道楽と時代 人間らしさを求めて

若者文化と時代 文化の潮をみちびくもの

文化の都市へ 夫婦同伴文化のすすめ

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

折にふれ紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返しているのか、参加者とともに考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	マークシートにて実施予定(ただし、受講人数による)
レポート	50 %	4回ほどレポートを課す

* 日常点評価 試験結果と授業中に何回か作成してもらったレポートを総合して評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総合的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
映画「12人の怒れる男達」視聴	小レポート 映画分析
多文化共生問題へのアプローチ	TST実施、共生概念、エスニシティとは
ネーションとは何か？	TST分析結果、想像の共同体
文化摩擦の事例研究：「イスラムのヴェール事件」	
国民国家とは何か？ その1	リヴァイアサンの登場
国民国家とは何か？ その2	社会契約の論理
多文化主義のジレンマ	多文化主義とは
差別問題へのアプローチ	小レポート 「青い目 茶色い目」
文化的再生産の理論	ブルデュー
日本におけるエスニシティ問題	新屋英子「身世打鈴」
日本におけるエスニシティ問題	在日コリアン問題
日本におけずエスニシティ問題	小レポート 中国帰国者問題
在日外国人の政治参加問題	課題レポート 川崎市外国人市民代表者会議
多文化共生に向けた胎動：NPOの役割	ビデオ「多民族社会の風」

テキスト

使用しない。

参考書

参考文献は、授業中に提示していくが、とりあえず、以下の2冊を挙げておく。
石井・山内編『日本人と多文化主義』山川出版、1999年
田村太郎著『多民族共生社会ニッポンとボランティア活動』明石書店、2000年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

人びとは自文化の枠組みに沿って物事の処理方法を自然に身につけ、無意識のうちに自文化のモードにしたがって時間、空間の概念を培っている。同時に、人びとは母語として身につけた特定言語において、その言語固有のコミュニケーションスタイルや非言語コミュニケーションスタイルが当然のモードであると暗黙のうちに認識し、さりとして疑問に思わない。しかし、異文化と実際に接触する過程において、当然のモードとして身につけた内容がさまざまなかたちでアレルギー反応を起こすのを経験してはじめて『はてな?』と、自問自答を試みる。このような問題意識に立ち、映像文化やスポーツ文化などを通し、エドワード・T・ホールによる文化コンテクスト論を軸に韓国、中国、台湾、ドイツ、アメリカとの比較文化分析を試みる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第1回目の授業で、「受講生データ」に記入し、提出すること。「文化比較のペーパー課題」を提出したけれども、口頭報告しない受講生は30%減となる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	40 %	
レポート	30 %	うち15%は口頭発表
日常点(小テスト)	30 %	

* 定期試験として実施

* 日常点評価

1. 文化のコンテクスト論、時間と空間に関する概念構造までの範囲で中間テスト(30%)
2. 比較文化の分析に関するペーパー(30%) 締切日以降は受け付けない。
3. 期末試験40%

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、受講生データの記入	
モノクロニック・ポリクロニックの時間概念	
高コンテクスト・低コンテクスト文化の概念	
高コンテクスト・低コンテクスト文化の概念(つづき)	
空間概念の文化的差異	
時間概念の文化的差異	
中間テスト	
ドイツからみた日本文化の七不思議	
日本からみたドイツ文化の七不思議	
韓国と日本の文化比較	
中国と日本の文化比較	
台湾と日本の文化比較	
アメリカと日本の文化比較「文化比較のペーパー課題」の提出日	
ペーパー課題の口頭発表	
定期試験	

テキスト

1. エドワード・T・ホール他『かくれた差異』(メディアハウス出版会, 1986年). 生協書籍部に販売
2. 奥川櫻豊彦『文化のコンテクスト』『立命館産業社会論集』1994年(30巻3号). 希望者のみに教室にてプリント配布

参考書

尾関周二他編著『国際化時代に生きる日本人』(青木書店,1992年).
若林正丈『台湾の台湾語人・中国語人・日本語人』(朝日選書,1997年).
関川夏央『ソウルの練習問題』(新潮文庫,1989年)
直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』(大修館書店,1980年)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 高橋 伸一

講義内容・テーマ

講義の獲得目標は、受講生が地域社会についての確に理解し、地域社会の問題点や課題を解決しうる素養を習得する、ことにおく。授業の展開は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、現代の地域社会の特質や問題点について、情報化、グローバル化の視点から整理する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

地域社会を的確に理解するためには、グローバルな視野からローカルな事象に関心を示す必要がある。生活の個別化がすすむなかで、「住みよい地域とは何か」を身近なくらしから問いかけてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	20 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
地域社会とは何か	
都市と農村	
コミュニティ	
地域社会の変化と問題	
地域と産業	
地域と住民	
地域と行政	
情報社会と地域 その1	
情報社会と地域 その2	
グローバル化と地域 その1	
グローバル化と地域 その2	
地域の再構築の諸課題	
地域社会研究の動向 その1	
地域社会研究の動向 その2	

テキスト

テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代日本の地域社会	布施鉄治他編 / 青木書店 /
共生社会の文化戦略	庄司興吉編著 / 梓出版 /
地域社会学の現在	鈴木広監修 / ミネルヴァ書房 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして2000年6月に成立した社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、具体的な地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義とし、ゲストスピーカーも数回程度予定している。毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	40 %	定期試験に代わるレポートを課する
レポート	30 %	中間に小レポートを課する
日常点(小テスト)	30 %	講義終了後のコミュニケーションペーパーで意見聴取する

* 試験に代わるレポートとして実施 * 日常点評価ノ平常点(コミュニケーションペーパー、出席等)30%、小レポート30%、試験に替わるレポート40%、によって評価する。コミュニケーションペーパーを毎回の講義で活用していくので、積極的な発言・参加を求めたい。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション - 地域福祉論スケッチ -	地域福祉 ボランティア 地域 家族
地域福祉プログラムの臨床研究 - 在宅介護と地域福祉 -	高齢者 介護 家族 施設 専門職
地域福祉プログラムの臨床研究 - 在宅介護と地域福祉2 -	高齢者 介護 施設 専門職
地域福祉プログラムの臨床研究 - 障害児放課後ケアと地域福祉 -	障害児 放課後保障 ボランティア
地域福祉プログラムの臨床研究 - 障害児放課後ケアと地域福祉2 -	障害児 放課後保障 ボランティア
地域福祉プログラムの臨床研究 - 子育て支援と地域福祉 -	子育て支援 子育てサークル 当事者
地域福祉プログラムの臨床研究 - 子育て支援と地域福祉2 -	子育て支援 子育てサークル 当事者
地域福祉プログラムの臨床研究 - ボランティアとコミュニティ -	ボランティア コミュニティ 社会資源
地域福祉プログラムの臨床研究 - ボランティアとコミュニティ2 -	ボランティア コミュニティ 社会資源
地域福祉の方法 - コミュニティワーク -	ソーシャルワーク コミュニティワーク 間接援助技術
地域福祉の方法 - コミュニティワーク2 -	ソーシャルワーク コミュニティワーク 間接援助技術
地域福祉の機関と担い手 - 社会福祉協議会 -	社会福祉協議会 民生委員 ボランティア
地域福祉の機関と担い手 - 社会福祉施設 -	社会福祉施設 施設の社会化 脱施設化
まとめ - 地域福祉とは何か -	地域福祉 分野別福祉 住民主体 関係性 当事者性 社会運動

テキスト

特に指定はないが、その都度適宜紹介する。また、社会福祉士受験を予定しているものは該当テキスト自学自習すること。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
子育てサークル共同のチカラ	津止正敏他 / 文理閣 /
働きざかり 男が介護するとき	津止正敏他 / 文理閣 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
 担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

健康は誰もが関心のあることであり、人生の重要な資源である。この講義では、地域社会で暮らす人々 子どもも大人も、若者も高齢者も、男性も女性もすべて含んだすべての人々を視野にいれて、その人びとの健康を保持・増進するための理論と実践の基本的事項を受講者に提供したい。

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

- 1.健康、予防戦略、疾病モデル、優先順位づけ、などをふまえて、住民の健康に関して検討し、対策を議論できること、
- 2.日本の地域保健の組織、医療制度の現状をふまえて、住民の健康への関わり方について検討できること。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に必要としないが、積極的に問題を考えることを期待しています。また、本授業では総論を理解して、各人が健康課題に取り組み考えることが求められるので、予防や健康づくりを考えたい課題を具体的に想定して授業を受けることが望ましい。

- 1)授業はパワーポイント・プレゼンテーションを基本としてすすめる。原則としてスライドは授業の数日前にオンラインで提供されるので、授業で参照したい学生はそれぞれ印刷すること。原則として教室での配布物は、著作権の都合で印刷媒体で配布する必要があるものに限られる。
- 2)インターネット上の文書などを学習教材として用いるので、WWWの閲覧法を習得していること、またWWW閲覧のための環境を準備していることを前提とする。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	期末に提出
日常点 (小テスト)	20 %	レビューテスト、ミニレポート
その他	40 %	最終講義日試験

講義スケジュール

内 容	キーワード
総合的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
はじめに 地域保健へのいざない	地域、人口、健康、公衆衛生、地域保健、健康づくり
各論1 子どもの健康と事故予防	死亡統計、乳児死亡、事故評価
各論2 喫煙	保健行動、喫煙、喫煙対策、分煙
各論3 精神保健	精神保健、疾病負担、精神保健の難しさ
学習課題の確認 健康のとらえ方	健康の定義、積極的健康観、動的な健康観、健康の次元
疫学入門	疫学、死亡率、罹患率、有病率
健康のリスクと予防戦略 1	地域保健アセスメント、リスク評価
健康のリスクと予防戦略 2	予防の3段階、人口戦略、高リスク戦略
健康づくり論	オタワ宣言
地域保健の組織	世界保健機関、行政、NPO、住民組織
医療制度	医療財政制度、医療保険、保健計画、医療計画
レポート作成ワークショップ	
特論	
期末試験	

テキスト

教科書としては、鈴木亮亮・久道茂(2005)シンプル衛生・公衆衛生学2004をすすめる。
 その他、授業で紹介していく。

参考書

松田亮三他『健康づくりと支援環境』法律文化社。
 『国民衛生の動向』(最新版)厚生統計協会。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

(行政)

厚生労働省(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

健康日本21 <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>

(研究機関)

国立健康・栄養研究所(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

国立保健医療科学院(<http://www.niph.go.jp/>)

電子図書館からは、『保健医療科学』(かつての『公衆衛生研究』)が読める

<http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm>

厚生労働科学研究のデータベースもある

<http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm>

(ポータルサイト)

健康ネット <http://www.health-net.or.jp/> (健康に関連したNGO)

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 山本 忠

講義内容・テーマ

社会の高齢化が進展するなかで、社会保障の役割が増大し、国民の期待も大きくなってきている。その一方で、社会保障制度は、本格的な高齢社会にももちこたえられるように80年代以降、大きな制度改革が繰り返されてきている。この講義では、日本の社会保障制度について、その法的根拠・目的・機能などの総論部分と所得保障・医療保障の分野を中心に、「人権としての社会保障」という観点から、現在の法制度の状況とその法的課題について具体的に検討していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞などで社会保障・社会福祉にかかわる出来事に目を通し、問題意識をもって講義に出席するようにしてください。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
講義規模によっては小テストをおこなったり、出席をとり、平常点として加味するようにしたいと思っています。

講義スケジュール

テキスト

レジュメ・資料を適宜配布します。

参考書

『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房、誠信書房などから発行されている）
『社会保障法判例百選（第3版）』（有斐閣）、2000年
佐藤進・児島美都子編『私たちの社会福祉法』法律文化社、2001年
その他講義の中で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~yamamoto/>

その他

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	3~8
担当教員	安倉 良二				

講義内容・テーマ

テーマ:「都市の生活と産業をめぐる地理学的研究のトピック」

都市地理学は、地理学の中でもきわめて日常生活との関わりが強いテーマである。本講義では、都市で展開される生活ならびに産業に関する研究トピックについて、近年の内外における実証研究例の紹介をまじえながら解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

所属ゼミの分野を問わず、都市地理学・経済地理学に関心ある学生の受講を歓迎する。取り上げる内容は比較的多いので継続的な出席が求められる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	試験は語句説明と授業で取り上げたテーマに関する詳細な論述を基本とする。

講義スケジュール

内容	キーワード
ガイダンス・都市地理学の研究領域 都市内部構造モデルの国際比較	授業の導入として、都市地理学の多様なテーマを紹介する 現代都市を理解するための手がかりとなる古典的モデルの再検討。
都市化 - 農村地域から都市地域への変容 - 大都市圏とは？(1) - 基本概念 -	景観面からみた都市空間の変容とその要因を考察する。 大都市圏の概念を日本と欧米で比較検討する。
大都市圏とは？(2) - 流動データから構造変容を読む -	前回学んだ基本的概念について、『国勢調査報告』や『パーソナルトリップ調査』などを利用した実際の研究事例の紹介を通じて理解を深める。
大都市圏とは？(3) - 郊外住民の就業・生活と時間地理学 -	時間地理学の紹介をしながら、郊外住民の暮らしをミクロな視点から読む。
都市居住(1) - 宅地開発の特徴 - 都市居住(2) - 居住地選択と「住宅双六」 -	住宅団地・ミニ開発など宅地開発の空間的特性を論じる。 居住地選択に関わる人々の意思決定とその制約条件を考える。
都市居住(3) - 大都市における人口の都心回帰 -	大都市都心で近年みられるマンション立地がもたらす地域的インパクトを取り上げる。
インナーシティの再生とジェントリフィケーション 都市群システム・都市の階層性	古い倉庫街や工場跡地の更新による都市空間の変容をみる。 都市群システムおよび都市の階層性について捉える。
情報化の進展とオフィスの立地変容	IT社会が進む中、オフィスの基本的性格を再考しながら、その新たな立地動向を紹介する。
商業(1) - 中心市街地の衰退と再生 - 商業(2) - 郊外型大型店の立地とその地域的インパクト -	地方都市を中心に、「まちづくり」の観点から中心市街地のあり方を検討する。 前回講義をふまえ、郊外型大型店が商業活動に果たす役割の大きさを指摘しながら、出店の背後にある法制度や都市計画の問題も併せて考察する。

テキスト

特定のテキストは利用しない。下記の参考書あるいは学会誌(地理学のほか、都市計画学など隣接分野も含む)に掲載された論文・単行本を中心にテーマに即して紹介し、解説付きのレジュメにして各回の授業で配布する。なお、テーマによっては担当者が撮影したフィールドの写真や図表をパワーポイントで提示しながら授業を進める場合もある。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代都市地理学	北川建次編 / 古今書院(2004) / 4-7722-3044-0
現代都市地域論	林 上 / 原書房(2003) / 4-562-09077-4
都市経済地理学	林 上 / 原書房(2002) / 4-562-09049-9
20世紀の日本の都市地理学	阿部和俊 / 古今書院(2003) / 4-7722-6013-7
図説・大都市圏	富田和暁・藤井正編 / 古今書院(2001) / 4-7722-4027-6

上に示した参考書は、近年発行された日本の都市地理学全般を扱った入門書・総説の一部である。もちろん、これ以外にも各分野にテーマを絞った専門書は数多くあるので、講義の中で随時紹介したい。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3~8
 担当教員 徳安 浩明

講義内容・テーマ

テーマ:「山地集落の歴史地理学的アプローチ」

日本列島の約7割が山地であるにもかかわらず、山地集落の研究は遅れてきた。しかし、「水田中心史観」の見直しが求められている中で、山地集落に対する歴史地理学的アプローチの意義は高まっている。そこで、近世村落像・百姓像に関する隣接分野の研究動向を確認したうえで、山地集落の歴史地理学的アプローチを試みる。具体的には、近世以降の山地資源に依拠した生業(砂鉄製錬業のタタラ製鉄や、木地屋による木器の生産、焼畑、マガギによる狩猟・採集ほか)とそれらの生業が営まれてきた日本の集落について検討していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

近世史料(読み下し文)を読むこともある(経験なしでも構わない)。写真や地図を多数提示し、地形図への図作業を行うこともある(色インピツを準備しておくこと)。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席状況を重視(ほぼ毎回課題を提出していただく)し、日常点評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
山地集落の歴史地理学的アプローチの課題と意義	
近世村落像・百姓像に関する近世史・民俗学・歴史人口学からの再考(水田中心史観の見直し)	
タタラ製鉄による鉄生産の概要	
鉄穴流し(砂鉄採取法)とその諸問題	
鉄穴流しと濁水紛争(鉱害問題)	
鉄山労働者の社会的性格とその見直し	
鉄山の集落構成と農林業集落への再編成 上高原村遠藤の事例	
鉄山経営者による耕地開発と集落形成 大山南麓宮市原の事例	
タタラ製鉄と稼業地域との関係	
木地屋による木器の生産と木地屋起源集落	
焼畑農業と焼畑村 上信越秋山郷の事例	
九州椎葉の事例	
マガギによる狩猟と採集	
現代山村の現状と課題。まとめ。最終講義日試験。	

テキスト

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
日本の山村	藤田佳久 / 地人書房 /
たたら吹製鉄の技術と構造の考古学的研究	河瀬正利 / 溪水社 /
越後三面山人記	田口洋美 / 農山漁村文化協会 /
日本近世・近代の畑作地域史研究	溝口常俊 / 名古屋大学出版 /
中・近世山村の景観と構造	米家泰作 / 校倉書房 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	2以上
担当教員	村上 弘				

講義内容・テーマ

地方自治体(地方政府)の政治と行政は、市民生活のあらゆる場面と関係し、地方分権改革のなかでいっそう注目されている。この科目は、日本の自治体と中央政府のさまざまな関係、および自治体内部で首長、議会、住民等がつくりだす政策過程を対象とし、制度とともに現実の動向や課題を政治学の視点から説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

資料プリントは出席者にのみ配布する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
1～3回 1、地方自治の歴史 ・戦後日本での発展	
4～6回 2、地方自治の機能と単位 ・地方自治の効果と問題点・地方自治の単位、市町村合併	
7～10回 3、中央地方関係 ・行政的關係・政治的關係・地方分権改革	
11～15回 4、地方政府 ・二元代表制・首長とその選挙・議会とその選挙・市民参加	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
地方自治法概説	宇賀 克也 / 有斐閣、2004 /
新・地方自治法	兼子仁 / 岩波新書、1999 /
地方自治の法としくみ	原田尚彦 / 学陽書房、2003 /
日本の地方自治と都市政策	村上弘 / 法律文化社、2003 /
日本の地方自治	阿部齊・天川晃・澤井勝 / 放送大学教育振興会、2002 /

< 準テキスト >

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
地方自治法の解説	妹尾 克敏 / 一橋出版、2004 /
自治体の構想・全5巻	松下圭一・西尾勝・新藤宗幸編 / 岩波書店、2002 /
住民主体の行政システム	伊藤祐一郎編 / ぎょうせい、2002 /
住民投票	今井一 / 岩波新書、2000 /
自治体破産 再生の鍵は何か	白川一郎 / 日本放送出版協会、2004 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

日本人の生活様式がすっかり洋風化されるに及んで、日本の伝統芸能も遠くなりました。食わず嫌いも生み出されました。この国のゆたかな伝統芸能を理解することは、日本人として必須の教養を高めることでもあります。折に触れ、ビデオやテープを用い、実演も交えた興味深い内容です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	

*試験に代わるレポートとして実施
 レポートです。(聴講していないと書けません。)

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
明治新派論－女の描かれ方と時代	
歌舞伎の魅力－「勸進帳」と荒事(ビデオ)	
歌舞伎の作られ方－「おさん茂兵衛」の境涯	
歌舞伎の醍醐味－「三人吉三郭初買」と「仮名手本中心蔵」の鑑賞(ビデオ)	
日本人の美意識－粋(いき)の構造	
文楽の魅力－歴史と構造(ビデオ)	
文楽の魅力－「艶容女舞衣」酒屋の段の鑑賞(ビデオ)	
狂言の魅力－歴史と特質「棒縛」の鑑賞(ビデオ)	
能の魅力－歴史と「船弁慶」の鑑賞	
日本人の身体表現－舞踊と舞踏の違い	
日本舞踊－西川右蝶・右菜さんの解説と実演	
伝統音楽(地歌)－安田知博さんの解説と実演	
伝統と現代－なぜ伝統を受け継ぐのか	
伝統芸能への接近回路－伝統芸能は難しくない	

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

折にふれ紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語文法の基礎知識がある方が望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

A.Bauerämper (Hg.), Die Praxis der Zivilgesellschaft, Frankfurt/Main 2003.
その必要部分の資料を配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業の進捗等については、授業の際に相談したい。

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

特殊講義(各部門共通) RA

12332

人文科学総合講座特殊講義 LB

専門特殊講義 SG

日本外交論 J

国際公共政策特殊講義 PB

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 大平 和之

講義内容・テーマ

『日本外交論』

本講義の目指すものは、日本外交の実態を外務省の現役の方々に講義に来ていただき、現在の外交問題を論じてもらうことにより、各地域における外交や、国連外交など国際機関を通じた諸問題や協力の実態に理解を深めることである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国際関係学部全コース共通の特殊講義として開講する。コースの固有専門科目である。法学部学生にとっては、日本外交論として開講する。文学部学生は人文科学総合講座特殊講義として開講する。(ただし国際Pの学生は特殊講義)こうした日本外交を担う人々の生の声を聞ける機会はありません。外交問題に興味がある学生はこうした機会を見逃さぬ受講登録することを奨める。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 課題レポートの提出と日常点の総合評価とする

講義スケジュール内 容キーワード

夏季集中講義で行なう。日時・内容は、現在外務省と調整中である。決定次第、発表予定。(昨年度は、9月13日から9月17日に開催された。)

テキスト

特になし。適時講師作成の資料を配布予定。

参考書

外務省「外交青書」各年版、外務省のホームページから入手可能です。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

外務省<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>>

その他

時間割は、外務省講師の都合により変則的になる可能性があるので注意すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 今村 雅夫

講義内容・テーマ

「社会福祉・公的扶助の制度『改革』と自治体福祉職場の福祉労働を考える」

今、わが国においては、社会保障の一体見直しが叫ばれ、その流れの中で、介護保険制度の予防重視への転換、障害者保健福祉の「グランドデザイン」など、社会福祉『改革』が新たな局面を迎えつつある。また、生活保護(=公的扶助)の制度と運用も大きく見直されようとしており、それらが直接または間接にからみ合って進行している。一方、社会福祉基礎構造『改革』と自治体リストラによって、福祉事務所など自治体の福祉職場ではこの間、住民の生活問題を受け止め、それを解決するための相談機能が奪われ、福祉労働の視点を欠いた管理的事務労働への仕事の変質が進行している。この状況をあらためて歴史的な視点でとらえ直し、本来、自治体の福祉職場が果たすべき役割と福祉労働の意義について考えます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点(小テスト)	30 %	

全講義終了後、試験に代わるレポートを実施します。

最終評価については、このレポートに重点をおきますが、出席状況及び授業の中で提出を求める感想文の内容等についても日常点として加味します。

その場合比重としては、おおむね試験に代わるレポートを70%、日常点を30%程度とします。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

- 1 自己紹介とオリエンテーション
- 2 社会福祉・社会保障の制度体系と福祉事務所(市町村)
- 3 社会福祉・公的扶助政策の歴史的経過と福祉事務所(市町村)
 - (1)公的扶助(生活保護)をめぐる
 - (2)いわゆる「福祉五法」をめぐる
 - (3)自主的研究運動、労働運動とのかかわり
- 4 介護保険制度の導入・見直しの流れと自治体福祉職場
- 5 支援費制度から「グランドデザイン」への流れと自治体福祉職場
- 6 生活保護制度改正の動向と今後の展望
- 7 あらためて社会福祉の公的責任と福祉労働の再生を考える
- 8 まとめ

最初の授業で、講師の自己紹介と授業全体のオリエンテーションをおこない、その後は、おおむね以上の各項目に沿って講義をすすめます。

テキスト

特に定めず、レジュメと資料を配布する予定です。

参考書

- 「公的扶助の展開」旬報社(大友信勝著)
 「自治体は高齢者福祉にどう責任を持つのか」萌文社(石川満ほか著)
 「生活保護50年の奇跡」みずのわ出版(刊行委員会編)
 「これが生活保護だ 福祉最前線からの報告」高菅出版(尾藤廣喜ほか編著)
 「どうする・生活保護『改正』 今、現場から」みずのわ出版
 (全国公的扶助研究会・季刊『公的扶助研究』編集委員会編)
 (、 、 については、講師(今村)も分担執筆者の1人です。)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 中嶋 陽子

講義内容・テーマ

最近、市民が社会的活動に関わる度合いが顕著になっている。その主な活躍の場が、いわば、広義の非営利組織である。内外の事例を参考に、非営利組織の未来、市民のあり方を考察し、自分自身の経験も照合してみよう。その際、次の3点に留意したい。1) ボランティアやその活動は、NPOの重要な構成部分であるが、そのものではない。専門スタッフの役割や組織の客観的な全体像に留意する。2) 経済活動に深く関与するNPOでは、その特徴は何か。3) 市民運動的なルーツにこだわるNPOやNGOの場合、どんな社会的価値が重んじられ、その歴史的な背景は何か。なお、可能な場合、ゲストスピーカーや現場訪問を取り入れたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会問題全般への関心を深める。情報収集を重視するよりも、むしろ、自分のこだわりたい点を見つける。とくにNPOの多様性と日本の社会システムの行方とを重ねて考察してみる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	90 %	試験に代わるレポートを1本課す。
その他	10 %	プレゼンや自主報告、自主レポートにつき、上限10点として、レポート評価に加点する。

* 試験に代わるレポートとして実施

試験に代わるレポート一本に教室での姿勢が加味される。C - 授業概要が理解できているが、基本的な点での誤解が散見され、コメントが感想文レベルのもの。B 基本的な点での誤解が少なく、コメント部分が感想以上の説得力を持って書いているもの。その上で、授業への積極的参加、報告などを加点対象とし、総合的に優れたものをA、秀逸なものをA+とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
非営利組織を促進する客観的要因	第2回) 非営利組織の定義
「テクニカルターム」の数々、非営利組織の種類や構成	3) 市場の失敗
経済学のツールを使ってわかること	4) 消費者余剰
ボランティア・寄付・財団	5) 動員、企業・コミュニティ財団
非営利組織の事例分析(A) 協同組合の実績	6) ミッション・協同組合原則
(B) 協同組合と市民事業	7,8) 組合員活動、アンペイドワーク
(C) 個人またはグループの自主報告(推薦テーマ: 大学生協)	
(D) 社会的マイノリティー: アメリカのホームレス支援NPO	9) エージェンシー
(E) 社会的マイノリティー: 日本のホームレス支援	10) パートナーシップ(事例)
市民活動団体への訪問調査(相手先との調整次第)	11) 行政とボランティア団体
分析から抽出されること 公的セクター・市民セクター	12) 地域開発
分析から抽出されること コミュニティビジネスと生活者	13) 市民事業、社会的企業
ゲストスピーカー招聘(相手先との調整次第)	14) ボランティア、専門性
なぜ、NPOか(補足説明、Q&Aなど) *注 授業の様子によって、内容の圧縮や拡充はありうる。	

テキスト

なし。適宜プリント配布するが、自分の授業ノートをつくる。

参考書

河口弘雄「NPOの実践経営学」同友館、2001年。
佐藤慶幸「NPOと市民社会」有斐閣、2002年。
野口道彦他「共生社会の創造とNPO」明石書店、2003年。その他、随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

京都市市民活動総合センター <http://shimisen.hitomachi-kyoto.jp>
大阪ボランティア協会 <http://cw1.zaq.ne.jp/osakavol/>
<http://www.kyoto-poverty.org/> に連動するパソコンムービー。

その他

特になし

特殊講義 N

20122

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

現代の社会問題について経済、産業の観点から読み解く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法は、定期試験、小テスト、平常点の総合評価とする。
(詳細については授業中に紹介する)

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

テキストとして牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版を指定する。
これとともに随時資料を配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

近代的・現代的な「個人」とはいかなる存在かを考察する。「個人」という観念はキリスト教の影響下にある近代西欧諸国において芽生え、後に日本に移植されたが、第一にその生成過程を検証することで、「個人」の自由・権利が決してア prioriに付与されたものでないことを明らかにしたい。そのうえで、第二に「個人」の自由・権利が称揚される現代社会において、「個人」が何を獲得し何を喪失してきたのか「個人」にまつわる光と影を、「社会」と「個人」の関係性から解き明かしていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基礎知識をもとに講義を進めていく。
 学生諸君は、既に「個人」の自由・権利を自明視する現代社会において生活してきているが故に講義の内容に当初戸惑うこともあるかもしれない。しかし講義の継続的な出席によってその戸惑いは解決できるものと信じる。各々が新たなパースペクティブを獲得し、思考を深めていくための材料を提供するつもりなので、積極的に講義に参加して欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	20 %	

講義スケジュール

内 容

キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

自由 それは心理学的問題なのか？

自由 それは心理学的問題なのか？

プロテスタンティズムの倫理

プロテスタンティズムの倫理

資本主義の発展

「個人」の自由と権利

個人主義の最大化

「私らしさ」の追及

ビデオ鑑賞

自由と権利の戦い

自由と権利の戦い

ナルシズムと自閉

ナルシズムと自閉

まとめ

テキスト

講義の進捗状況に応じてレジュメを配布する。

参考書

M.ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房、E.フロム『自由からの逃走』東京創元社、R.N.ベラー『心の習慣』みすず書房、小沢牧子『「心の専門家」はいらない』洋泉社

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
 担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

テーマ:現代日本の生活と理論

講義内容:戦後50余年の国民生活をトータルに概観することによって、歴史をトータルに見ることの大事さについて講じ、現在国民生活にどんな課題が提起されているかを具体的に考えることによって、社会的現実に対する社会学的見方を養う。次に、生活の変化に対してこれまでの社会学や他の諸科学がどのように対応してきたかを検討し、社会的現実と理論との結びつきについて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	学んだことと自分の考え方
その他	20 %	講義の理解度と自分の所見

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
日本の生活を考える	生活の多面性
近世末期と日本人の生活	社会と生活
近代日本社会と国民生活	「家」制度
戦後日本社会の変化と国民生活	戦後改革
高度経済成長期と生活の変化	生活問題
転換期と国民生活の課題	生活の社会化
生活研究の課題と研究	課題と方法
生活研究の史的展開(1)	貧困研究
生活研究の史的展開(2)	理論的焦点
生活研究の視角について	活動と条件
「全体としての生活」把握の理論について	多様な生活論
生活理論の構築に向けて	生活構造論
生活理論から社会学理論へ	社会学理論
補足的追加	

テキスト

飯田哲也『現代日本生活論』学文社 1999年

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 澤井 勝

講義内容・テーマ

コミュニティと参加

市場化テストや指定管理者制度の導入など行政活動の市場化が進む一方で、行政への市民参加が新しい局面を迎えつつある。本来の主権者である市民が、どのように行政活動に参加していくか。それは新しいコミュニティをつくり、まちづくりを主体的に担っていくことでもある。それはボランティアという形もあれば、行政との協働を担うNPO活動を担うことでもある。多様な市民参加の現在を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
1、情報社会と討議民主主義。	代表制と直接性
2、市民社会はどこにあるか。	コーヒーハウスとパブ
3、市民参加ということ。	パーティシペーション
4、参加の諸形態(1)	ボランティア
5、参加の諸形態(2)	市民意識調査
6、地域社会とコミュニティ	コミュニティ
7、アソシエーションと地域社会	アソシエーション
8、現代日本の参加(事例研究1)	パブリックコメント
9、現代日本の参加(事例研究)	公募市民
10、福祉における参加(1)	住民投票
11、福祉における参加(2)	自立と自律
12、参加と討議と。ワークショップ方式。	政策評価指標
13、コミュニティの再生の論理。	リーダーを創る
14、政策評価と市民参加。	協働ということ
15、情報公開と参加。	情報公開を使う

テキスト

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『市民の政治学』	篠原一 / 岩波新書 /
『コーヒーが廻り 世界史が廻る』	白井隆一郎 / 中公新書 /
『市域福祉計画』	武川正吾 / /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.zaiseijoho.com>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	試験に代わるレポートのみで採点する。

* 試験に代わるレポートとして実施

フィールドワーク(取材)に基づいたレポート(文章ではなくイラストで)を提出していただきます。

レポートの採点にあたっては、 具体性(30点)、 緻密性(30点)、 表現力(30点)、 加算点(10点)という点数配分を行います。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

歴史都市の「超再生」

モザイク模様の都市計画

歴史的町並みの保全と再生の具体策

町衆企業とコミュニティ

被差別部落を発信源とした市民事業

被差別部落を発信源とした市民事業

リサーチ・デイ(フィールドワークの時間に供する)

ニューヨーク最前線 - 都市再生とNPO -

ニューヨーク最前線 - コモングラウンドの挑戦 -

都市の危機管理 - 9・11テロとグラウンドゼロ -

都市の危機管理 - 阪神大震災と復興都市計画 -

戦争と都市空間 - ベルリンの取り組み - 第

戦争と都市空間 - バグダッドの教訓 -

レポート課題に関する説明、質疑応答

テキスト

特に指定しません。授業中にプリント等を配る場合があります。

参考書

授業中に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 西田 心平

講義内容・テーマ

都市問題、犯罪、災害、セキュリティ、公害、環境問題等、とりわけ近年においてアメニティ(快適な生活環境)に関心が向けられる社会的背景がある。本講義では、「都市」と「生活環境」そして「アメニティ」を基軸として、現代の社会生活における課題を具体的に考察していくことを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義では、まず「アメニティ」が問われる社会的・理論的背景について学習する。その上で、各受講者からそれぞれの関心事を提起してもらい、文献調査、現場調査、そしてクラスでのプレゼンテーション等を行ってもらう。こうした作業を通じて身近な社会生活の課題について知識を広げ、理解を深めていく予定である。そのため単なる講義形式ではなく、ゼミ形式に近くなるのではないかと今のところ考えている。この点を理解の上で登録してほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	プレゼンテーション等の積極度で判断する予定
日常点(小テスト)	30 %	全体的な出席率等で判断する予定

定期試験は行わない。レポートと日常点の割合や評価対象については、受講者の規模等に応じて若干の変更の可能性あり。その際は講義の中で、受講者と相談のうえ再設定したい。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

アメニティの理論的背景

アメニティの理論的背景

アメニティ研究の事例紹介

アメニティ研究の事例紹介

文献・フィールドワークの方法論

文献・フィールドワークの方法論

中間まとめ

フィールドワークの実施・報告

フィールドワークの実施・報告

フィールドワークの実施・報告

フィールドワークの実施・報告

以降は受講者から出された問題提起にしたがって講義を展開し、社会生活の課題について考察していく。

テキスト

なし(資料は適宜配布)

参考書

講義中に紹介

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

古代から未来までの時間軸で都市の歴史の変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテキストを解読する能力を養うことを目的としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教室で、時空を超えた世界旅行を楽しみましょう。映像をたくさん観ます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	試験に代わるレポートのみで採点する。

* 試験に代わるレポートとして実施

フィールドワーク(取材)に基づいたレポート(文章ではなくイラストで)を提出していただきます。

レポートの採点にあたっては、 具体性(30点)、 緻密性(30点)、 表現力(30点)、 加算点(10点)という点数配分を行います。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
京都 - 歴史都市の光と影 - 以下、すべて講義と映像ですが、内容・順序は変更する場合があります。	
京都 - 近代都市と伝統文化 -	
京都 - 水上都市として京都 -	
ニューヨーク - マンハッタンの歴史 -	
ニューヨーク - 文化の最前線 -	
ベルリンの歴史と地域開発	
リサーチ・デイ(京都を舞台としたフィールドワークの時間に供する)	
歴史都市・フィレンツェ	
水上都市・ベネチア	
古代ローマ	
インドネシア・ジョグジャカルタ	
バグダッド	
北京の都市構造と地域開発	
オスマンのパリ大改造	

テキスト

特に指定しません。授業中にプリント等を配る場合があります。

参考書

授業中に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

日常性の社会学 S
社会病理学 S

14521

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 宝月 誠

講義内容・テーマ

日常性の特徴は秩序と自明性にある。講義ではこの秩序と自明性を維持する社会のメカニズムについて論じる。秩序のゆらぎは特に問題状況の告発や逸脱を契機に顕在化するが、問題状況や逸脱がどのような社会状況の下で生じ、それに対するコントロールがいかんかに展開していくのかを具体的な事例を取り上げながら考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業では主に社会学的な視点から話をするが、社会学に限らず人間の社会生活の成り立ちについての幅広い関心を有しておられる方の参加を期待したい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	授業の理解度によって評価する
レポート	40 %	特定のテーマについて各自の見解を論じてもらう

試験のみならずレポートの評価も重視したい。ユニークな内容のレポートは歓迎。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
日常世界の構成	
秩序と自明性についての諸理論	
逸脱を取り上げる意義	
逸脱論の系譜	
逸脱とはなにか	
逸脱の定義	
人はなぜ逸脱するのか	
逸脱化のプロセス	
逸脱の事例	
コントロール論の系譜	
コントロールの諸相	
コントロールの影響	
コントロールの事例	
講義の総括と討議	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	『逸脱とコントロールの社会学』	宝月 誠 / 有斐閣 / 4 - 641 - 12227 - x

テキストに沿って講義は進めるので、テキストを持参することが望ましい。

参考書	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	『社会生活のコントロール』	宝月 誠 / 恒星社厚生閣 / 4-7699-0882-2 c3036

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 福井 純子

講義内容・テーマ

この講義では開国から日清戦争まで、すなわち19世紀後半の日本政治史を、世界資本主義の動向や東アジアの政治状況を視野に入れながら概観しようと思う。そこで注目するのは、政治権力の移行、諸政治勢力の対抗関係、政治主体としての国民の形成である。この19世紀後半は、あらたなメディアが登場する時期でもある。ニューメディアが日本の政治とどのように関わったのか、という点についても触れたい。受講生は、今日の政治との関連や比較など、各人の視点から主体的にとらえてほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校で日本近代史を勉強していない受講生もいるだろうが、図書館には多数の関連図書やVTRが所蔵されている。これらを活用し、積極的に講義に参加してほしい。講義の内容から、自らの興味や関心を伸ばしてくれると嬉しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

出席はとらない。試験の成績だけで評価する。

講義スケジュール

内容	キーワード
講義を始めるにあたって	
開国とその衝撃(1)	世界資本主義
開国とその衝撃(2)	世界資本主義
王政復古から廃藩置県へ(1)	「公議」の変容
王政復古から廃藩置県へ(2)	「公議」の変容
岩倉使節団と明治6年政変(1)	文明開化
岩倉使節団と明治6年政変(2)	文明開化
土族反乱と西南戦争(1)	征韓論
土族反乱と西南戦争(2)	征韓論
自由民権運動とその転換(1)	言論
自由民権運動とその転換(2)	言論
憲法発布と帝国議会の開設(1)	天皇主権
憲法発布と帝国議会の開設(2)	天皇主権
日清戦争と台湾統治(1)	文明と野蛮
日清戦争と台湾統治(2)	文明と野蛮

テキスト

テキストは使用しない。毎回、レジユムを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
はじめて学ぶ日本近代史	大日方純夫 / 大月書店 /
人物で読む近現代史	歴史教育者協議会編 / 青木書店 /
国際政治下の近代日本	宮地正人 / 山川出版社 /

参考書はいずれも図書館に所蔵している。このほかにも講義の中で随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

乳幼児心理学 S
認知発達論 S

12817

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 清水 民子

講義内容・テーマ

テーマ「乳幼児発達への見取り図」

内容: 出生から就学まで(0～6歳)とその前後を含む時期の発達について、主として発達心理学的研究方法とその知見にもとづいて概説する。具体的な時期区分としては胎生期、乳児期、幼児期、児童(学童)期の呼称を用い、それぞれの時期の発達の特徴を述べる。ひきつづき、運動機能、認知機能と操作、感情と社会性、人格発達と生活様式など、領域別の発達について述べる。さまざまな方法による研究資料にふれ、乳幼児期への関心を喚起したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	95 %	試験問題で提示した資料にもとづいて分析・考察する力を問う。
その他	5 %	講義中、講義後の質問など、積極的アピール。

* 定期試験として実施。筆記試験。記述式。持ち込みなし。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
乳幼児の発達の概略と生涯発達における位置	発達の時期区分、年齢
胎生期の発達	胎生期の時期区分、先天異常
新生児期の発達	胎内から胎外へ、新生児の能力、初期育児
乳児期前期の発達	姿勢、把握、微笑、生活リズム
乳児期後期の発達	座位、匍匐、対象操作、愛着、離乳
幼児期前期の発達	歩行、道具操作、言語、日課、身辺自立
幼児期後期の発達	運動の随意性、造形表現、役割遊び、集団生活
運動機能の発達と動きの遊び	発達における運動機能、動きと表現、運動的遊び
手操作の発達と対象活動	手操作の巧緻性、対象構成、描画、造形
言語コミュニケーションと表現の発達	発声、記号化、語彙、文型、思考、言葉遊び
感情と社会性の発達	感情の分化、愛着研究の手法、対人行動
対人関係の発達と集団生活	遊びの類型論、遊び研究
乳幼児の人格形成と生活様式	乳幼児の人格のとらえ方、依存から自立へ、個性
乳幼児発達の研究方法	資料収集、資料分析、研究の視点

テキスト

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会 / 有斐閣 / 4-641-07634-0
教育の段階	M.ドベス / 岩波書店 / 4-00-000383-6
乳幼児の心理	麻生 武 / サイエンス社 /
乳幼児の心理学	内田 伸子 他 / 有斐閣 / 4-641-08602-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 団 士郎

講義内容・テーマ

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手…」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。また一方で、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにすることはありません。ここにはコミュニケーションの「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好な対人コミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達的手段技術)の両者がうまく備わってこそです。受講者にとって、大学の講義では馴染みの少ない実習形式で、この課題に挑戦してもらいます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は実習を中心におこないます。教室では毎回エクササイズを体験して貰います。そのため、出席は必須、遅刻も実習の流れの妨げになるので厳禁です。毎回ミニレポートの提出を課します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	25 %	三分の二以上の出席実績がない場合、提出する必要ありません。
日常点(小テスト)	75 %	授業の終盤15分は、毎回ミニレポートの記入提出

講義スケジュール

内 容 キーワード

イントロダクション 15回の進め方のオリエンテーション

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)

まとめ

テキスト

使用しません。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ヒトクセある心理臨床家の作り方	団士郎 / 金剛出版 /
不登校の解法—家族のシステムとは何か—	団士郎 / 文春新書 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

10回以上出席できそうにない者は登録しないでください。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。自分のコミュニケーション能力に自信を持っている人は、受講する意味がないと思います。

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 井上 公子

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

別途指示する

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
 担当教員 土屋 健弘

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
 担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 池添 素

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 山田 尋志

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 十河 美子

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 時間割等参照
担当教員 松井 信也

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 時間割等参照

担当教員 谷 勇男

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

内 容

キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 斎藤 正一

講義内容・テーマ

テーマ～誰もが生活できる人づくり・街づくり・環境づくり

障害を持つ・身体が不自由になる事は如何なるものかを医学的にも精神的にも肉体的にもあらゆる角度から知る。誰しものが障害者になる可能性を秘めています。それが自分自身なのか身近な人なのか…。出産・高齢は多くの人々が経験すること。人よりも身体が不自由になったとき誰しものが気づく事があります。そのとき街は、人々は、環境は、どのような顔をして皆さんの前に現れるのでしょうか。講師は日々現場で障害者と共に悪戦苦闘している理学療法士です。また講師自身視力障害を持っています。私がこれまで知り得た知識・経験を現場の生の声として皆さんに届けたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害者・身体の不自由な方の深層心理、障害者福祉や本当に住みやすい街づくり環境づくりはどうするのか等興味をお持ちの方。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	講義の中から最低限基本的な事を出題します。
レポート	0 %	予定なし。
日常点 (小テスト)	40 %	毎回講義の感想を簡単に書いてもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。またその感想から加点します。

* 定期試験として実施

講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。

基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ不合格になることはないと思います。

ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
講義導入 リハビリテーションとは	
人間の身体の仕組み 運動器から	
疾患の基礎医学	
疾患の基礎医学	
疾患の基礎医学	
精神機能について	
介助方法の実際	
障害体験	
機能回復訓練	
福祉用具・機器の選定	
住環境改善	
都市環境改善	
症例検討	
障害者の限界!?	

テキスト

(配布資料)

講義の際に毎回配布いたします。

私の講義は配布資料の内容よりも沢山お話をしますのできっちり出席してメモして下さい。

またバックナンバーの配布資料は、持てる範囲で講義開催以降の講義時に持参します。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
目で見えるリハビリテーションの実際	上田 敏 / 東京大学出版 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm> <車椅子で回れる京都観光ガイド>
<http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm> <ひとにやさしい建築・住宅推進協議会>
<http://www.kansaifukushi.net/> <関西福祉ネット>
<http://ruazealand.com/html/index.html> <ルアジーランド流山>
<http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm> <福祉制度:障害者制度集>
<http://www.hcr.or.jp/> <国際福祉機器展>
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html> <国際生活機能分類>
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpta/menu.htm> <日本理学療法士協会>
<http://www.jaot.or.jp/> <日本作業療法士協会>
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm <学校施設バリアフリー化推進指針>
http://www.jsad.or.jp/2004athen/athen_top.htm <日本障害者スポーツ協会>
<http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm> <身体障害者障害程度等級表>
<http://akatan.cool.ne.jp/index.html> <赤の他人のホントのわたし>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鷲見 長久

講義内容・テーマ

従来の医学一般 に相当する医学一般の継続講義である。教科書後半の精神保健以降を講義する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積極的に学びたい者のみの出席を求む。私語・居眠りをする者は退席していただく。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	50 %	

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

レポートと、定期試験(筆記試験)の成績を総合的に評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1. 精神保健(第1～3週) 1)精神障害 2)精神保健	
2. 医学的リハビリテーション(第4～5週) 1)医学的リハビリテーションの概要 2)リハビリテーション担当専門職種とその構造	
3. 公衆衛生の現状(第6～7週) 1)衛生公衆衛生学と衛生行政 2)人口統計 3)傷病及び受療の状況 4)医療供給システム	
4. 保健医療対策の現状(第8～11週) 1)健康づくり対策 2)地域保険対策 3)感染症対策 4)結核対策 5)精神保健福祉対策 6)難病対策 7)臓器移植体制等 8)痴呆性高齢者対策	
5. 医事法制の概要(第12～13週) 1)医事法規の意義と分類 2)医療関係者に関する法の基本的構造 3)医師法、歯科医師法 4)保健婦助産婦看護婦法 5)医療法	
6. まとめ・補足(第14～15週)	

テキスト

新版・社会福祉士養成講座13「医学一般」 福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版2001

参考書

「国民衛生の動向」厚生指針(臨時増刊) 2001年、財団法人厚生統計協会

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 宝月 誠

講義内容・テーマ

人間が生み出した文化は多様であるがその中から講義では、特に<食べ物>や<食べる行為>を取り上げる。<食べる>という一見日常的な行為がいかに社会的に意味づけられたものであり、また制度的に拘束され、ハビトゥスとなっているのかを明らかにする。同時に、近年、注目を集めている「食の安全」をめぐる議論も取り上げたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

食べ物に関心を有しておられる諸君ならどなたでも歓迎するが、ある程度ブルデュ - などの文化理論にも目を通していただきたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	講義の理解度を評価する
レポート	50 %	特定テーマについてレポートお提出しもらう

テストだけでなくレポートの内容も重視したい。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

食べることと文化

食べることについての理論的視点

食べ物と家族

食べ物と健康

食べ物の好きと嫌い

食べ物についての禁欲主義と消費主義

戦後日本社会の食の世界

食と食産業

マクドナルド化

食の安全性

安全性をめぐる食産業のスキャンダル

食の安全性と制度的対応

食の安全のための主体的運動

総括と討議

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『食べることの社会学』	デボラ・ラプトン / 新曜社 / 4-7885-0664-5

値段は若干高めだが、テキストを持参することが望ましい。

参考書

テキスト以外の参考書は授業の中で指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

人間論 S
人間論 S

12718

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

物語のなかの「社会と人間」の問題について講義します。だれもが一度は読んだり聞いたりしたことのある「民話」や「小説」の物語世界に耳を傾けながら「社会とアイデンティティ」の問題について論じます。伝統社会に生きる「あかずきんちゃん」、イギリスの初期産業社会に生きる「ロビンソン・クルーソー」、変貌する大都会ペテルブルグの町に生きる「アルカジー青年」など、できるだけ物語の主人公に身を寄せて「社会を生きる人間」の問題、「つくりつつ、つられる」社会と人間の弁証法の問題について考えたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目の受講にさいして、1回生の講義科目「人間と文化」を履修しておくのがよいと思います。また2回生後期科目「文化理論」もあわせて履修することを薦めます。そのほか基礎社会学や文化人類学、精神分析などの基礎的知識を学習することもよいでしょう。講義レジュメを毎週準備しますが、ノートを取る習慣を身につけましょう。学修の成果をチェックする目的で、2回ほどレポートの提出を求めます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	授業全体の理解度や基礎概念の学習度などを主に考査する
レポート	20 %	授業で学んだ「社会とアイデンティティ」問題を各自が創造的に再構築する作業として位置づける

レポートを書くことは問題を整理し、理解を早めるばかりでなく、自分の新しい考え方に気づく自己発見の場となります。必ずレポートを書くようにしましょう。

講義スケジュール

内容	キーワード
「総括的導入講義」 社会とアイデンティティ問題を「物語」によって語るわけ	アウグスチヌス『告白』、ルソー『告白』、自己論、ポスト・モダンという時代！？ わたくし語りの歴史
「わたくし」という現象 宮沢賢治の詩を読む：「自分をさがす」とはどのようなことを考えてみる	「わたくし」という現象、一人称単数で語る、現実は多元的である、現象学的社会学
「あかずきんちゃん」にみるアイデンティティと社会：民話の世界から「むら社会」(伝統的共同社会)に生き	あかずきんちゃん、共同体、口承、構造優位、むらともし、民話
「恩」の構造：日本のプレモダンの共同社会を生きる「伝統的パースナリティ」の特徴を「恩を返すはなし」(「契約における非契約的要素の問題」、「読み直す」ということ
グリム童話「蛙の王様」と「鶴の恩返し」- 物語にみるヨーロッパの「プレモダン」と日本の「プレモダン」の	グリム童話、日本昔話、内発・能動と外発・受動、象徴動物 蛙と鶴・亀
『ロビンソン・クルーソー』におけるアイデンティティと社会 社会科学者や社会学者によるこの物語の読み方	一人称単数「わたし」の視点、構造の視点、理解社会学の行為の視点、経済的カテゴリー、理念型
夏目漱石の『ロビンソン・クルーソー』論-イギリス留学を体験した漱石の目から見た18世紀のイギリス社会	ロビンソン型人間類型と漱石型人間類型、内発・能動、外発・受動 漱石のイギリス体験
「わたくし語り」とドストエフスキー：小説『未成年』をよむ ドストエフスキーの物語世界を「わたくし」語	「盤根錯節」問題、ドストエフスキーの創作ノ、地下室の主人公、自然的態度の現象学
「わたくし語り」とドストエフスキー(続き)：「わたくし語り」のコンポジション：伝達・表現・叙述の3つ	直接世界、他者のあらわれ、私の身体のあらわれ、私の
「わたくし語り」とドストエフスキー(続き)：今ここへ「内向する」語りと今ここを「超える」語り	意味連関のモザイク模様、類型化される意味世界、類型化される時間、類型化される空間、類型化される人格
「わたくし語り」とドストエフスキー(結び)：「わたし語り」というテーマによって「物語」のなにがどのよう	われわれ関係、汝が関係した私、語る私、「内世界的間主観性」、ポストモダンの自己アイデンティティ問題
「からだ・こころ・他者」について 「社会とアイデンティティの問題」をめぐる若干の基本カテゴリーについて	肖像画を描く画家の目、文学者の目としての「異化」の方法、日常生活のリズムをとめる、サルトル
サルトルの「からだ・こころ・他者」を読み直す-『存在と無』から4つの位相論	状況の中のからだ、役割演技、キャフェイのボーイ、眼差しの地獄、サディズムとマゾヒズム
自己論への道程 ヤヌスの課題を背負って：物語論にみられる「社会とアイデンティティ」問題の三つの視座	社会科学・社会学・文学の間、現場に居合わせる、社会構造と個人、ドロシー・エメット

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤 嘉一 / 晃洋書房 / 4-7710-1525-2

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『未成年』	ドストエフスキー / /

『春と修羅』	宮沢賢治 / /
『ロビンソン・クルーソー』	ダニエル・デフォー / /
『ドストエフスキーの詩学』	ミハイル・バフチン / /
『社会的世界の意味構成』	アルフレッド・シュッツ / /

テキスト『物語のなかの社会とアイデンティティ』には引用・参考文献が掲載してあるので、詳しくはそれをご覧下さい。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	堀 孝弘				

講義内容・テーマ

ITネットワークではなく、市民活動(特に環境活動)における人づくり、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例を紹介する。原則については、学校社会だけでなく社会に出てもおおいに役立つ内容である。また、人と人をつなぎ議論を深めるうえで、情報のもつ意味は大きく、講師自らの活動経験も含めて、国内外の環境活動の最新事例を講義の随所で紹介し、受講者の視野を広げ市民のもつ力を実感させる。受講者参加ワークも実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得よう咀嚼・理解しているか
日常点(小テスト)	40 %	授業への参加度と理解。各回提出の「授業感想」により判断する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
本講義の目的、持続可能な社会づくりに必要な市民・市民団体間のネットワーク、市民・事業者・行政のパートナーシップ	市民力、市民のもつ大きな力
市民・事業者・行政のパートナーシップが必要となった背景	パートナーシップの重要性
NGOの活動構築 課題設定、目標の立て方、ミッションと目標の違い	問題対処型活動から課題解決型活動へ
ネットワーク形成の留意点 ネットワークはなぜ組むのか	大同と小異、活動の一致点の見つけ方
人を育て活かす技術 NGOのリーダーに求められるもの	人づくり 閉じた質問を開いた質問に
人と人をつなぐ情報1 ごみ・リサイクル1 出口対策から入り口の取り組みへ	情報は議論と活動の質を高める
「情報」2 ごみ・リサイクル2 海外先進事例、日本との比較	グリーンコンシューマーの考え方
「情報」3 自然のネットワーク1 日本の自然の豊かさ現状	日本の自然保護でよくある勘違い
「情報」4 自然のネットワーク2 自然を残し、つなぎ、復元する	自然と人の共生
「情報」5 エネルギーの明るい未来1 効率の向上、新工ネ、電力自由化	反原発から脱原発へ
「情報」6 エネルギーの明るい未来2 個人・地域でできること	面倒でなく豊かさ損なわない省エネ
「情報」7 日本の子どもたちの現状	「小さな消費者」あつかいされる日本の子どもたち
「情報」8 国内外の環境教育の事例紹介・比較	子どもを市民としてあつかう社会もある
私たちにできること 人と人のネットワークの重要性	自身にできることの自覚・確信
期末試験	

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講師堀が事務局長を務める「NGO法人環境市民」は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年グリーン購入大賞・環境大臣賞受賞、京都新聞2005年元旦社説でも紹介された等)。ホームページの閲覧をすすめる。 <http://www.kankyoshimin.org>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

本講では農山漁村・農林漁業・農漁民と都市住民にとっての環境・食料・保養との関わりを多面的に考察し、前者が後者のために果たしてきた役割を改めて考えてみたい。そして前者の保全・再生のために後者がなすべきこと、なしうること、すでになしつつあることを明らかにして、日本における「都市と農村」の今日的な関係を展望したい。

一昨年半年間探訪してきたスペイン・イギリスを始めとするヨーロッパ各国の農家民宿と田園観光地に見られるグリーン・ツーリズムの現状も可能な限り紹介したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員と受講生との自由で対等な関係をめざしたい。開講当初に期末レポートの出題と成績評価の基準案の提案をする。また下記の「授業の流れ」に示すように、ビデオや特別講義に関する感想・批判のアンケートの提出を求めるので、出席を心がけてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	原則として
日常点(小テスト)	30 %	原則として

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義概要に関連したテーマの中から自由に選択する期末レポートを主要対象、5回ほどの各種アンケートを副次的な対象とし、その基準は上記のように開講当初に提案し、受講生の合議で決めたい。開講近くなったの合議による決定は以前から実施していたが、受講生の希望を入れて今年度は開講当初に行うことにする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
第2講 ビデオ上映「段々畑の歳月 - 太田部耕地の40年」、感想・質問アンケート	開講に当って - 教員と学生の対等な関係、学生の自由な批判と討論をいかに実現するか
第3講 ビデオ・アンケートへの回答 / 過疎問題を考える視角	
第4講 過疎対策 = 山村振興策の基本	
第5講 森林と木の文化 / 北山林業・磨き丸太生産の歴史と現状	
第6講 旧来の農家の半自給的な生活様式と個別複合経営の崩壊がもたらしたもの	
第7講 ビデオ上映(番組未定)、感想・質問アンケート	
第8講 ビデオ・アンケートへの回答 / 産直のあり方を考える	
第9講 現場の農民による特別講義(予定)	
第10講 食料農産物と肥料になる廃棄物の交換 - 都市と農村の根源的關係	
第11講 コメ文化と水田の多面的機能	
第12講 ビデオ上映「襟裳岬に春を呼べ - 砂漠を緑に 北の家族の半世紀」アンケート	
第13講 ビデオ・アンケートへの回答 / 各地の漁民と市民・子供たちによる森づくり	
第14講 西欧と対比しての日本型グリーン・ツーリズムの方向性と課題	
第15講 講義内容・講義方法に関する感想・批判アンケート	

テキスト

特になし。必要な資料はその都度コピーを配布する。

参考書

参考文献の検索法をガイドする。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業に出ることも有意義だろうが、自分のオリジナルな問題意識を磨く旅を重ねてほしい。それこそが自由選択テーマでの優れたレポートを書くことを可能にするはずだ。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 山田 重樹

講義内容・テーマ

テーマ 行為と自我

G.H.Meadの理論を中心に自我論を検討する。S.Freudとの対比を通して、日常的な人間関係に基点を置いたパーソナリティ形成のあり方を考察してゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学だけでなく、社会学や哲学にも言及してゆすが、幅広く柔軟に対応してゆく学習態度を望んでいる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
イントロダクション-「こころ」の追求	
第1章 「知覚」と「本能」-その1	ゲシュタルト
-その2	情況
-その3	無意識
-その4	自我構造
-その5	共同幻想
第2章 「行為」と「自我」-その1	思考と行為
-その2	プロセス
-その3	「I」と「Me」
-その4	パースペクティブ
-その5	シンボル
第3章 「情況」と「パーソナリティ」-その1	演技
-その2	生活世界
-その3	アイデンティティ
定期試験	

テキスト

適当なテキストがないので、重要度の高い参考文献を適宜授業で紹介する。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
精神分析入門	フロイト / 角川文庫 /
精神・自我・社会	ミード / 青木書店 /
ものぐさ精神分析	岸田秀 / 中公文庫 / 4-12-200936-7

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

発達障害論 S
身体発達論 S

14602

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの課題と関わらせて考えていきたい。

また、人間発達の過程において発達の質的転換期(例えば、「階層-段階」理論など)との関わりで発達障害をとらえることの意味についても論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1)講義の性質上、VTRなど視聴覚教材を利用して授業をすすめる。
- (2)授業中に資料を毎回配布する

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	50 %	中間レポートの提出

* 定期試験として実施
成績の評価は、授業の中間レポートと定期試験による。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1. 発達障害とは(1) - 基礎的用語の説明 - 発達障害とは(2) - 歴史・現状 -	発達、障害、発達障害など 障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法
2. 人間発達と発達障害(1) - 系統発生と人間発達 - 人間発達と発達障害(2) - 個体発生と人間発達 -	系統発生と障害の発生 個体発生と障害の発生
3. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(1) - 胎生期(その1) - 発達の「階層 - 段階」と発達障害(2) - 胎生期(その2) - 発達の「階層 - 段階」と発達障害(3) - 周生期 - 発達の「階層 - 段階」と発達障害(4) - 新生児期 - 発達の「階層 - 段階」と発達障害(5) - 乳児期前半 -	卵体期、胎芽期、遺伝病、染色体異常 胎児期、脳の発達、先天異常 未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数 原始反射、親と子の絆 運動発達、笑顔の獲得
発達の「階層 - 段階」と発達障害(6) - 乳児期後半 - 発達の「階層 - 段階」と発達障害(7) - 幼児期 -	移動、コミュニケーション、SAM 歩行、言語の獲得、道具の操作
4. 広汎性発達障害をめぐって(1) - 自閉症(その1) - 広汎性発達障害をめぐって(2) - 自閉症(その2) - 広汎性発達障害をめぐって(3) - アスペルガー症候群 -	自閉症、早期発見、教育的対応 思春期、社会参加 アスペルガー症候群、自閉症スペクトラム

テキスト

第1回目の授業で指示したもの、および授業中の配布資料。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
子どもの発達と診断(第1巻～第5巻)	田中昌人・田中杉恵 / 大月書店 /
子どもの障害と医療	尾崎望・出島直編 / 全国障害者問題研究会出版部 /
障害を知る本(シリーズ)	稲沢潤子・オノピン監修 / 大月書店 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	荒木 穂積				

講義内容・テーマ

発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立たしめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとどめて、人生のそれぞれの時期にどのような人間の自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本講では、特に乳幼児や障害者(児)、高齢者、青少年、女性などいわゆる「社会的弱者」とよばれている人たちの発達の可能性とその人間発達上の諸問題を取り上げることによって、発達を成り立たせているものや発達を疎外しているものについての理解を考察していく。また、近年話題となっている、人間の安全保障など類似の概念との異同についてもその歴史的背景や社会的条件にも視野を広げて考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1)授業中に資料を毎回配布する。
- (2)授業中、スライド・VTR等の視聴覚教材を使用する。
- (3)ゲストスピーカーによる講義をおこなう予定である。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	50 %	中間レポートの提出を求める

* 定期試験として実施

成績の評価は、授業の中間で提出を求めるレポート(必ず提出のこと)と定期試験による。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
第1章 発達保障とは何か(1) - 発達保障の理念	歴史的 성격、構成要素、3つの系
発達保障とは何か(2) - パラダイム転換	この子らを世の光に、階層段階 - 理論、糸賀一雄、田中昌人
第2章 人権と発達保障の歴史(1) - 第3世代の人権	自由権(第1世代)、社会権(第2世代Z)、平和権・環境権・健康権・発達権(第3世代の人権)
人権と発達保障の歴史(2) - 国連の役割の変化 -	人権と国際年、宣言から行動計画の策定へ
第3章 障害者の権利と発達保障(1) - 戦争と障害者 -	国際障害者年、障害発生の最大原因、アジア太平洋障害者の10年
障害者の権利と発達保障(2) - 重症心身障害者と発達保障 -	重症心身障害者、夜明け前の子どもたち、自立(self-reliance)
障害者の権利と発達保障(3) - ノーマライゼーションと発達保障 -	バンク=ミッケルセン、ノーマライゼーション、権利の平等
障害者の権利と発達保障(4) - 誕生しつつある「障害者の権利条約」	障害者の権利条約、国連経済社会開発委員会
第4章 子どもの権利と発達保障(1) - 「子どもの世紀」 -	エレン・ケイ、小児科学の誕生と発展
子どもの権利と発達保障(2) - 保護から権利へ -	ヤヌシュ・コルチャック、ホロコースト、子どもの権利宣言
子どもの権利と発達保障(3) - 「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ -	子どもの権利条約、
第5章 人間の安全保障と発達保障(1) - 人間の安全保障委員会の活動 -	アマルティア・セン、緒方貞子、紛争、貧困、虐待、飢餓
人間の安全保障と発達保障(2) - 人間開発指標 -	ユニセフ、世界子ども白書、国連開発計画、人間開発報告書
人間の安全保障と発達保障(3) - 21世紀を発達保障の世紀に -	発達保障、安全・安心な社会、新しい不平等

テキスト

特に定めないが、ユニセフ編「世界子供白書」各年度版、日本ユニセフ協会、日本子どもを守る会編「子ども白書」各年版、草土文化、国連開発計画「人間開発報告書」各年版、古今書院、厚生労働白書、障害者白書、高齢者白書、文部科学白書、青少年白書など各年度の白書、報告書を参照のこと。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
この子らを世の光に 近江学園二十年の願い -	糸賀一雄 / NHK出版 /

障害のある人びとと創る人間教育	田中昌人 / 大月書店 /
発達保障の探求	田中昌人・清水寛 / 全国障害者問題研究会出版部 /
安全保障の今日的課題	人間の安全保障委員会 / 朝日新聞社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

UNDP: <http://www.undp.org/>
UNICEF: <http://www.unicef.org/>
国連広報センター: <http://www.unic.or.jp/>
日本ユニセフ協会: <http://www.unicef.or.jp/>
全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>
文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>
厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

デジタル化の到来によって、多メディア・多チャンネル化は現実となり、インタ・ネットなどによる市民の発信機会は増えている。アメリカでは一般市民が、1000以上のテレビチャンネルをもっているし、ヨーロッパやアジアでも市民がメディアに参加することは常識である。しかし日本ではマス・メディアへのアクセス権は保障されていない。市民社会での相互理解、自己決定、合意形成などの基本的システムとして、どのようにメディアへのアクセス権、言論の公共圏を形成してゆけるのか、アクセス権の生成、世界の現状から日本での今後の課題を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は主にマス・メディアへのアクセスの理論、自ら表現する思想や実践を学ぶものであることから、日頃から「市民とメディアの関係」に積極的に興味をもち、メディアに働きかける習慣を持つようにすると、実践的な理解が深まる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点(小テスト)	30 %	

* 定期試験として実施 時に応じて実施する小テストおよび期末テストによる。受講生自身のメディアへの積極的なアクセス実践や、具体的な事例の研究・調査の発表やレポートなども高く評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

- (1)なぜパブリック・アクセスか
- (2)パブリック・フォーラムの成立と変質
- (3)誤報・不公平への反論・名誉回復
- (4)人権侵害と名誉回復
- (5)メディア規制のルールと現状
- (6)アクセス権の拡大
- (7)アメリカ/カナダのパブリック・アクセス制度
- (8)アメリカのパブリック・アクセス 背景と課題
- (9)ヨーロッパのオープン・チャンネル1
- (10)ヨーロッパのオープン・チャンネル2
- (11)日本のパブリック・アクセスの成立
- (12)パブリック・アクセスの現場から
- (13)さまざまなパブリック・アクセス番組
- (14)パブリック・アクセスの課題と政策

テキスト

津田正夫・平塚千尋編『パブリック・アクセスを学ぶ人のために』世界思想社 生協扱い

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
パブリック・アクセス	津田正夫・平塚千尋編 / リベルタ出版 /
メディア・アクセスとNPO	津田正夫 / リベルタ出版 /
アクセス権とは何か	堀部政男 / 岩波書店 /
ジャーナリズムの思想	原寿雄 / 岩波書店 /
新版・地域メディア	竹内郁郎・田村紀雄 / 日本評論社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://access.tcp.jp/>

<http://www.tunagu.gr.jp/c-media-net/>
<http://www.medekiku.jp/gwtv/kanagawa.shtml>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

なじみの無いテーマだが、平たく言えば、日本の場合、法制度の変化にもかかわらず、女性と男性の家庭や企業・地域でのありようは、あまり変化していない。他方、北欧等では、この20 - 30年の間に、女性と男性の関係は劇的に変化している。すなわち日本と北欧とでは、ジェンダーによる社会の編成という点では共通するとしても、その編成はどれほど個人にとって拘束的であるか緩やかであるかは大いに違いがあるといっている。女性と男性とが、どのように経済・社会・文化のなかに配置されているか、女性と男性との関係性が、どう国家秩序化しているのか、それぞれの国による違いがあるのではないか。この点を、比較ジェンダー論として考えてみたい。グローバルなジェンダー編成
 各国固有のジェンダー編成の相違がある。ジェンダー概念の確認をした上で、ジェンダー編成のあり方の差異ととして国家システムの差異をとらえていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必須要件ではないが、ジェンダー論、家族論関連講義を受講していることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

* 日常点評価
 最終講義日試験を中心とするが、小レポートを課すことがある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
授業計画 以下の4テーマをとりあげる。(詳細については講義で説明する)	
ジェンダー概念の意義 ・ジェンダーとは ・ジェンダー編成あるいはジェンダー秩序	
ジェンダー編成と福祉国家比較 ・エスピン・アンデルセンの比較福祉国家論とジェンダー・フェミニストからの批判と反批判(セインスベリーなど)	
グローバルゼーションとジェンダー ・マリア・ミースの所論を中心に	
AAIA諸国におけるジェンダー編成 ・近年のアジア、ラテンアメリカを対象としたジェンダー研究の動向	

テキスト

テキストは使用しない。レジュメを毎回配布する。

参考書

宮本太郎・岡沢憲英編『比較福祉国家論』法律文化社
 マリア・ミース他著、古田睦他訳『世界システムと女性』藤原書店
 ヴェロニカ・ピーチ著、高島・安川訳『現代フェミニズムと労働ー女性労働と差別ー』中央大学出版会
 柴山・藤井・渡辺編著『各国企業の働く女性たち』ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.gender.go.jp>

その他

比較宗教論 S
比較宗教論 S

12723

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 永都 軍三

講義内容・テーマ

テーマ:キリスト教が伝わる以前のギリシア人の死生観・来世観。
古代ギリシアのいわゆる多神教世界において、死や死者がどのように見られたか、死者がどのように取扱われたか、また死後の世界がどのように考えられたかというようなことを、ギリシアの叙事詩・悲劇・喜劇などの古典文献や最新の考古学的知見を援用しながら、究明していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

原則として毎回出席をとり、期間中少なくとも3回小テストをおこなう。3分の2以上の出席と小テストを2回以上受けていること、この2つが日常点評価を得る最低条件である。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	講義内容をどれだけ正確に理解しているか。
日常点 (小テスト)	50 %	出席状況、学習の熱意、小テスト。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ホメロス、ヘシオドスが語る神々の系譜	
オリュンポスの神々(1)	
オリュンポスの神々(2)	
地下世界の神々(1)	ハデス
地下世界の神々(2)	ヘルメス
ギリシア人は死をどう見たか	
ギリシア人は死者をどのように見たか	
葬儀(1)	プロテシス
葬儀(2)	エクボラ
葬儀(3)	タブー
来世観(1)	ハデスの国
来世観(2)	エーリュシオン
宗教否定論	
まとめ:ギリシア人の死生観	

テキスト

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
The Greek Way of Death	Robert Garland / Cornell Univ. Press /

上に掲げた参考書は、今その邦訳を準備中です。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

比較スポーツ論 S
比較スポーツ論 S

14488

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

『スポーツに込められた社会の思い＝いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』
様々な国で様々な展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的基礎とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

時宜の問題を題材にして講義形式で比較検討して行く。比較の基準となるスポーツ論理が必要であるから、他のスポーツ関係の科目を出来るだけ多く履修していることが望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	

評価は、基本的にレポート成績によっておこなう予定である。スポーツとは何かについての自分なりのとらえ方が明確になっていることが重要である。

(評価方法・割合) レポート 100%

(備考) 可能ならば、コミュニケーションペーパーや小テスト等の内容もプラス として加味する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

(序) 巨大化と商業化 - 近代オリンピックのスポーツ問題

(序) 比較スポーツの視点

(スポーツの母国) 1 民衆スポーツの生成と展開

(スポーツの母国) 2 騎士道的行為と近代スポーツ

(スポーツの母国) 3 アマチュアリズムの極端

(スポーツの母国) まとめ

(スポーツの王国) 1 母国スポーツの継承と展開

(スポーツの王国) 2 経済発展と独自スポーツの創生

(スポーツの王国) 3 スポーツの王国化への背景

(スポーツの王国) まとめ

(日本的スポーツ) 1 武術の発生と武道への転換

(日本的スポーツ) 2 武道国際化への課題

(日本的スポーツ) 3 西欧近代スポーツの日本的受容

(日本的スポーツ) まとめ

テキスト

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとなるようなものは使用しない。

参考書

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとするには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点を抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方 = "新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りしておくこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する
レポート	20 %	講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す
日常点 (小テスト)	10 %	出席点を加味する

* 定期試験として実施 成績評価 = 単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
以下の概要で講義を行なう予定である。 比較政治学の方法、第1回：歴史 アリストテレス、モンテスキュー、アロン	比較政治学
第2回：比較政治学の現代的アプローチ 歴史と構造	現代の比較政治学の方法と課題
第3回：比較の指標	比較政治の指標
各国政治の制度的特質と現状 憲法、中央・地方自治、改革の現状 第4回：アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質	連邦主義と立憲主義
第5回：アメリカ合衆国の政治 大統領制	現代アメリカ合衆国の政治
第6回：カナダ政治の歴史と特質	カナダ政治
第7回：イギリスの建国と歴史	イギリス政治
第8回：イギリスの政治 議院内閣制	議院内閣制
第9回：フランス建国の歴史	フランス政治
第10回：フランスの政治 半大統領制	半大統領制
第11回：ドイツ建国の歴史	ドイツ
第12回：ドイツ政治の歴史と特質	ドイツ政治
第13回：イタリア政治の歴史と特質	イタリア政治
第14回：ヨーロッパ小国の政治	スイス、ベルギー、オランダ
まとめ、第15回：新しい政治の在り方を求めて 日本 の課題	日本政治の課題

テキスト 書名 『新版 比較政治制度論』 著者 / 出版社 / ISBNコード 田口富久治・中谷義和編 / 法律文化社、1999年。 /

参考書

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業の際に紹介する。

その他

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそのの侵害であるので、厳禁する。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小林 康正

講義内容・テーマ

「文化」とは、ひとつの概念、つまりモノの見方に過ぎない。その効用は、我々の日常の自明性を剥奪することにある。それは「異文化」を自らの可能性として引き受けることでもある。比較文化という手法に意味が生じるのは、日常の自明性と不知の異形性を一挙に観照しようとする態度においてしかありえない。本講義では、こうした観点から、人間に対する認識のなどを取り上げる。(日本の近世から近代に至る人相・観相・骨相・家相・易・九星術、とくに「姓名判断」や「手相」を中心にした占いの諸実践やそれらに対する社会の取り扱いをみることで、日本社会における「人間」、あるいは、「人格」「運命」「性格」などの概念の系譜を辿ること) これが本講義の目的である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

遅刻厳禁。授業開始15分後の入室と途中退室の禁止。私語・メール厳禁。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

* 定期試験として実施

* 日常点評価

講義には実験的方法を用いるので、その経験が重要である。したがって、授業への出席は重視する。また、講義時に提出してもらう批評感想を評価の対象とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
講義への招待 比較文化の可能性と意義	
問題系としての人間 そこに「人間」はいたのか	
人的属性指標という概念について	
日本近世における占いの概観	
日本近代における占いの概観	
日本近世における名前の吉凶 - 「韻鏡」と「反切」-	
日本近世における名前の吉凶 - 「名乗」の庶民化 -	
名前の御一新 - 「国民改姓」と市民社会の誕生 -	
国家と名前 - 「家名」としての姓	
「姓名学」の誕生 - 立身出世の社会史	
「姓名学」の誕生 - 政治テクノロジーとしての姓名	
「姓名学」の誕生 - 「家庭」とメディア社会の登場	
「姓名学」の誕生 - 「活字」の呪力	
現代の名前 - 「個性」という信仰	講義の進行予定は、上記のようであるが、ビデオ教材等を利用することも考えているので、変更がありえる。了承をお願いしたい。
定期試験実施	

テキスト

講義時に適宜指示する。

参考書

講義時に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義時に紹介する。

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

本実習は、社会福祉援助技術現場実習のアドバンスト科目であり、社会福祉実践あるいは研究のためのより高度な知識と技法の習得をめざす。本実習は資格取得の対象科目ではなく、純粋に専門性向上のためのものである。したがって、実習先は社会福祉実践が行われている組織全般であり、社会福祉実習指定施設に限定されない。そのため、実習先は社会福祉法人からNPOまで多様である。また、実習期間、時期、内容などは、受講生、担当教員、実習組織の三者で協議しながら決める。実習施設・機関の開拓・調整にあたっては、受講生の積極的な参加を条件とする。授業では、受講生の主体的な取り組みを重視しつつ、実習前の準備と実習後のフォローアップを行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術現場実習を履修済みの4回生であること。明確な実習目的をもち、実習先の選定・確保についても主体的に取り組む姿勢と意欲を持っていること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	期末にレポートを提出し、教員がチェックする
日常点(小テスト)	30 %	受講生が主体的に実習を行っているかを教員がチェックする
その他	30 %	実習先が受講生に対する評価を行う

上記のレポート、日常点、その他を総合的に評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
実習の目的・意義の確認	
実習の事前学習	
実習計画作成	
現場実習	
個別およびグループスーパービジョン	
実習の報告	
実習の事後学習	
評価	

テキスト

講義中に指示する。

参考書

講義中に指示する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

社会福祉について学び研究していく上で、情報の収集や組織化、活用は、きわめて重要な作業である。この講義では、福祉・介護問題などに関する新聞記事や雑誌記事、図書、資料などの情報収集と組織化を、インターネットやデータベース、身近なツールを利用し、グループ作業として行うことで、その方法と技術、問題点や課題などについて学び、作成した情報をもとに発表を行うことで分析とレポートについても学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

パソコン室を使用し、演習形式で進める。受講にあたっては、「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ、表計算ソフトの操作など、基礎的なパソコン操作を行えることが望ましい。また受講生は、個人あるいはグループによる企画、データの収集と処理、分析、ディスカッション、発表などに積極的に参加することを求められる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	20 %	レポートやコメントに対する評価
その他	30 %	出席、参加意欲等を評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イントロダクション

課題の提起とグループ編成

企画:グループによる話し合い

発表:企画に関するレポート

講義+作業:情報収集(1)

講義+作業:情報収集(2)

講義+作業:情報の組織化(1)

講義+作業:情報の組織化(2)

発表:経過及び状況レポート

講義+作業:情報の組織化(3)

講義+作業:情報の分析(1)

講義+作業:情報の分析(2)

講義+作業:最終レポートの取りまとめ

発表:経過と成果に関するレポート

テキスト参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
インター完全活用編 大学生のためのレポート・論文術	小笠原 喜康 / 講談社現代新書 / 4-06-149677-8

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 鉄川 重利

講義内容・テーマ

時代の大きな転換点のただなかで、複雑・多様化する福祉問題のニーズへの支援をめざし、対人援助実践の基本的な視点と援助者としての素養などを、問い高めるための基礎的な学習に取り組む。また将来福祉現場等での対人援助実践に生かす技術以前の豊かな感性と人格形成などが重要な要件となるが、そのための体験学習的な取り組みやケース検討・グループ討議などを実施したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

将来、福祉現場などで対人援助の業務に携わる専門家志望の学生を対象とする授業であるが、そうでなくても学生自身の自己形成と自らの内面や生活を問い直し、生活の質を高め、自己実現をめざすことにつながることも可能な授業である。いずれにしてもこの入門ゼミとしての授業を通じて、本格的な専門教科ゼミや福祉実習等に連動すべく、目的意識をもって主体的に受講することが望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	自分自身を知り、問いながら、豊かな感性と人間性を育てるための動機づけにつながるようにする。
日常点(小テスト)	40 %	出席日数。出来るだけ継続的な授業参加を期待し、特に、体験学習セッションの出席にはウエイトを置いている。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

第2回 はじめのセッション・自己紹介および授業計画とその動機づけ

第3回 生涯発達における危機と課題(幼児児童から思春期・青年期・中年・高齢者の発達と自己実現)

第4回 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術 (ケースワーク的アプローチ)

第5回 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術 (心理学的アプローチ)

第6回～第8回 ケース検討～不登校・児童虐待・家庭内暴力・高齢者問題など

第9回～第14回 体験学習(ブラインドウォーク・応答構成トレーニング・心理テスト体験・コラージュ作品づくり・ビデオ学習・カメラ写真体験など)

第15回 おわりのセッション(最終授業としてのまとめと討議)

テキスト

テキストとしては特定せず担当者の作成するレジュメを使用する(当日配付および前もって配付するもの)。

参考書

特定しないが授業の過程で必要に応じて紹介したい。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

講義スケジュールはあくまでも授業の概括的計画であり、各授業は場合によっては次回に延長されたり、逆に短縮される場合もある。また、順番が入れ替わったりグループ討議・体験学習的なものやビデオ学習等も取り入れたい。なお、課外授業として希望者があれば自由参加の施設見学会(乳児院・児童養護施設・特別養護老人ホームなど)なども計画したい(学生の自主的な申し込みがあれば夏休み～9月ごろ実施)。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

本講義は「実践的なフィールドワークの方法論」を可能な限り、専門的に習得することを目的とする。これを達成することで、受講生は2回生後期以降の専門演習での学習(卒業論文執筆含む)、社会福祉の実習(レポート執筆含む)を円滑に行うことが可能となる。講義では教科書の内容について順次、受講者から報告してもらおうと共にディスカッションを行う(時には講義の司会も受講生自身に行ってもらおう)。また受講者は学習内容を基礎として、実際にフィールドワークを行い、レポートを提出してもらおうことになる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・講義は受講生が主体的に学ぶことが求められるやや高度な内容です。ですからガイダンスに出席した上で、納得した上で受講して下さい。
 ・下記の行為をする受講生は「F」評価としています。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	各自、フィールドワークを行い、提出する
日常点(小テスト)	40 %	出席および授業の理解力、表現力、発言の積極性
その他	20 %	

熱心な受講者にはA、A+の評価をしている。A以上が全体の6割程度。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
講義内容の説明	
方法編 対象(者)との出会い、方法の模索	
方法編 人間関係の構築としてのフィールドワーク	
方法編 問題構造化作業としてのフィールドワーク	
技法編 フィールドノートの作成	
技法編 ヒアリング	
技法編 エスノグラフィーを実際に作成する	
受講者によるエスノグラフィーの個別発表	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる	佐藤郁哉 / 新曜社 /

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

こじんまりと楽しく、授業を運営していきましょう。また授業運営に積極的に関わってください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

この科目は、社会福祉の現場から学ぶ入門科目に該当する。社会福祉を学ぶ意欲・課題意識形成の源泉になるものは、当事者や家族、現場職員などが現実と格闘している姿やそこに込められている思いへの共感にある。社会福祉施設で働く職員の姿や思いを、観察し聞き取り、現場から学ぶ手法を体験的に学習し、それとおして専門学習への出発点となる課題意識をはかる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少人数のグループを編成し、自主的な集団学習の形態をとる。なお社会福祉施設の現場に入るが、職員の仕事をとした観察とし、参加する実習とはしない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	0 %	80-90% グループごとの事前学習、報告書(各自の感想含む)
その他	0 %	10-20% 出席回数

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
-------------------------------	--

授業の進め方	
--------	--

職員の仕事の観察(ビデオ)	
---------------	--

グループ編成、事前学習	
-------------	--

事前学習	
------	--

事前学習	
------	--

事前学習の発表、レポート提出	
----------------	--

見学・聴取依頼書の作成	
-------------	--

折衝、見学、聴取(1回目)	
---------------	--

折衝、見学、聴取	
----------	--

報告、補足聴取の課題整理	
--------------	--

見学、聴取(2回目)	
------------	--

見学・聴取	
-------	--

報告書作成	
-------	--

報告書作成	
-------	--

テキスト

とくになし

参考書

とくになし

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

該当する施設の協会など

その他

とくになし

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 義忠 房之

講義内容・テーマ

ノーマライゼーション社会の実現が求められている今日、障害の重度・重複化、多様化が進行する中で、これまでのような縦割りの対応ではなく、保健・医療・福祉・労働・教育が連携して、障害児者一人ひとりのニーズに基づき、乳幼児期から老いていくまでの一貫した総合的な支援体制整備が求められている。そこで本講は、福祉の「基礎構造改革」や教育の「特別支援教育への移行」等転換期にある障害児者問題について、教育や福祉・医療・労働等の実態を現場訪問や調査等を通じて概括的に整理・理解し、各自が今後の学究課題を明確にする機会としたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

各自がそれぞれの課題意識に基づいてテーマを設定し、現場訪問や調査を基に論究し、発表しあう形で授業を展開したい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

最終講義日に小テストを行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
講義ガイダンス	
障害児と保護者・家族の願い	
障害児者の地域生活支援の実際	
進路指導と進路実態	
福祉現場の実践事例	
特殊教育から特別支援教育への移行	
現場訪問・実態調査等各自の課題追求	
現場訪問・実態調査等各自の課題追求	
現場訪問・実態調査等各自の課題追求	
現場訪問・実態調査等各自の課題追求	
発表・交流	
発表・交流	
発表・交流	
講義まとめ	

テキスト

授業者による手作り資料を用意する。

参考書

各自の課題に応じて紹介したい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義の中で適宜指示する。

その他

特になし

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 福住 節子

講義内容・テーマ

この授業では、人間福祉に関わる専門的分野の学習の一端として、社会福祉の「これまでの経過」と「これからの方向」を、「<公>と<私=民間>の関連性」という視点で捉え、その具体的あり方としての「援助関係」や「ネットワーク」の実際にも触れて、今後の課題を考えることを目標としたい。具体的には、次の3つの内容での構成を予定している。文献学習(主に歴史的展開) 調査・聞き取り(「ネットワーク」等の実際を知る) まとめの作業(課題を各自の「今後の関心分野」と関連させて展望し、報告してまとめる)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

2回生後期からの、専門ゼミや社会福祉実習先の選定に向けて、今日の社会状況や社会福祉の現状を、現象のみではなく構造的に捉えられるような機会として、文献学習やリサーチ・討論等での探究に取り組みたいので、それぞれの課題を持ちながら(あるいは模索しながら)積極的な姿勢で臨んでもらいたい。上記の内容での授業なので、出席は重視する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	小論文・レポート・グループ活動・出席等

指定課題による小論文(「文献学習内容のもの」と「リサーチ活動後のまとめ」)の2本で、前期の半ばと後期終了時に提出を求める)・適宜(授業後)の小レポート・グループでの活動・討論・発表等により、総合的に評価する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
オリエンテーション(授業のすすめ方・文献提示・今後の予定等)	
文献学習(1)の (主に社会福祉の歴史的内容)	
文献学習(1)の (主に社会福祉の歴史的内容)	
文献学習(2)の (「公」と「私=民間」に関する内容)	
文献学習(2)の (「公」と「私=民間」に関する内容)	
ゲストスピーカー(予定)	
資料学習 ネットワークの現状を知る学習	
資料学習 ネットワークの現状を知る学習	
資料学習 ネットワークの現状を知る学習	
「ネットワーク活動」への聞き取り・調査	
グループ報告	
グループ報告	
グループ報告	
まとめ	

テキスト

指定せず、授業時に適宜指示する。

参考書

授業時に、適宜提示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

表現の自由論 S
 言語表現論 S

14578

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

新聞・電波を中心としたマスメディアで様々に論議されている「表現の自由」に関わる諸問題を手掛かりに、現代におけるあるべき表現方法を考える。「表現の自由」は人類が近代社会で闘いの中から獲得した権利として民主主義社会の基本的な理念になっているものの、高度情報化社会の今、多様な公益からの挑戦を受けつつある。行使・発信する側が、異見への思いやりを忘れずに、取材・表現・伝達に関わるモラルとマナーを誠実に尊重して実践することが、将来的に「表現の自由」を守り育てていく道であることを、具体的に話

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などは出来るだけ次週以降に答えます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	
日常点 (小テスト)	40 %	

*試験に代わるレポートとして実施 *日常点評価 ミニレポートも4割のウエートを置きます。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

「表現の自由」の歴史と現在の状況までを概説

公権力と「表現の自由」の対立を具体例で紹介

公権力と「表現の自由」の対立を具体例で紹介

日本社会の中の「表現の自由」にかかわる事例

日本社会の中の「表現の自由」にかかわる事例

「表現の自由」とプライバシー問題

「表現の自由」とプライバシー問題

メディア企業と「表現の自由」

メディア企業と「表現の自由」

写真・画像と「表現の自由」

インターネット社会と「表現の自由」

広告と「表現の自由」

「表現の自由」への法規制問題

授業の中で触れられなかった質問への回答など

テキスト

できるだけ毎回、講師が資料・レジユメをコピーして持参

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『表現の自由』を求めて アメリカにおける権利獲得の軌跡	奥平康弘著 / 1999年、岩波書店 /
現代メディアと法	田島泰彦ほか編 / 1998年、三省堂 /
言論の不自由	朝日新聞社会部編 / 1998年、径書房 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 松田 弘

講義内容・テーマ

フィランソロピー論とは「企業等の慈善活動やボランティア活動」から今は「企業等の社会貢献責任論」のことで、会社人間OBで現在「淡海フィランソロピーネット」の代表発起人が語る「異説・企業等の社会貢献責任論」。学説や論文的「フィランソロピー論」は語りません。これからの就活をはじめの諸君やフィランソロピー論を研究する諸君に格好な講義です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初回講義(ガイダンス)に必ず出席のこと。受講上の注意・講義の進め方・成績評価などを説明する。欠席すると不利になる。遅刻や私語には厳しく対処します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	講義内容の理解度
日常点(小テスト)	30 %	宿題と講義に主体的に参加する態度
その他	40 %	出席点

評価は出席点、講義参加点(宿題提出・講義での発表)、最終レポート点の総合評価となるが、それぞれの評価点の配分は受講学生の人数と、ガイダンス時に受講学生の入札結果を参考にして決定する。ただし、講義に三分の二以上出席しない学生は単位認定をしない。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

フィランソロピーの実例を学ぶ

フィランソロピーの歴史と人々

社会貢献事例の調査と検索

実態統計と意向調査から課題を探る

社会福祉とフィランソロピー

フィランソロピーからCSRへ

人権問題からフィランソロピーを検証

NPOとフィランソロピー

大学と地域社会貢献

環境問題からCSR

CSRとSRI

資本市場からCSRを考察する

企業評価諸説を総合的に考察

講義の総括と質疑応答

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
CSR入門	岡本享二 / 日本経済新聞社 / 4-532-11040-8

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
CSR 企業価値をどう高めるか	高巖 + 日経CSRプロジェクト / 日本経済新聞社 / 4-532-31181-0

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.nikkei.co.jp/csr>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

Course description

現在、社会福祉は主に市町村の事務となっている。国と地方の関係としては、国は全国的な視点から市町村に社会福祉の取り組みを奨励し、市町村はこれを受けて住民のニーズに直接的に対応する。ただし、市町村の自主性は不可欠ではあるものの、ナショナルミニマム(国の最低基準)という観点からは地域格差の拡大は望ましくない。このような国と地方の関係を基点にして、福祉国家、地方自治体、民間福祉、現場のソーシャルワーカーの役割と社会資源の内容を述べる。また、社会福祉士試験に対応するように留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction

ローカルガバナンスという言葉に注目して欲しい。その意義は、地域住民全体が公共のあり方に取り組み、現代の政治行政の改善を図ろうというところにある。地方自治体の責任が問われる中で、中央-地方関係の再検討と地方政府の再定義、住民やNPOなどの活動の円滑化(シティズンエンパワメント)、それらとの連携(公私のパートナーシップ)などがローカルガバナンスの実現に重要な対策事項として注目されている。新たな公共性の構築という課題に関心を寄せて欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	論述試験
レポート	50 %	市町村の福祉行財政に関する調査レポート(2回)

* 定期試験として実施する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会福祉行政とは何か	アカウンタビリティ、自治、生活保障
欧米の福祉行政の歩み	救貧法、福祉国家、ニューパブリックマネジメント
日本の社会福祉行政の歩み	集権行政、措置制度、基礎構造改革、三位一体改革
わが国の社会福祉における国と地方の関係	管理された分権、計画行政の本格化、税源移譲
イギリスの社会福祉における国と地方の関係	分権化、ターゲット、競争的資金
スウェーデンの社会福祉における国と地方の関係	分権社会、コモン主体の福祉、地方所得税
介護保険と市町村	介護給付費(の急増)、保険者、要介護認定、介護計画、介護保険事業特別会計、財政安定化基金
障害者福祉と市町村	支援費制度、障害者計画
保育所保育と市町村	待機児童、子育て支援
地域福祉計画と社会福祉協議会	公助・共助・協助・自助、福祉ミックス
欧米のNPO	ミッション、市民社会、福祉ミックス
日本のNPO	同上
社会福祉の公私間関係	補完、代替、アドボカシー、革新
ローカルガバナンス	民主主義、市民社会、公共性、自治、イニシャティブ

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
福祉行財政論 -国と地方からみた福祉の制度・政策-	山本 隆 / 中央法規 /

特になし

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
イギリスの福祉行財政 - 政府間関係の視点 -	山本 隆 / 法律文化社 /

特になし

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省および総務省のホームページ

その他

特になし

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

- 1・福祉事業とは何か。福祉施設・福祉事業は誰のため、何のために存在するか
- 2・社会福祉基礎構造改革のもとで、福祉事業が産業化され民間営利企業の参入が著しい。その中において、真に国民の期待に応え、公的責任のもとでの福祉施設、事業の運営と経営のあり方を考える。そして21世紀の社会福祉の方向性を見出すことを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義を聴いて、自分で考える力をもつことが大切なので出席を重視している。欠席のないように努めること。事前学習としては、社会保障や社会福祉にかかる制度概要は事前に学習しておくこと。又、社会福祉法は、事前に必読のこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	
日常点 (小テスト)	20 %	
その他	50 %	

* 試験に代わるレポートとして実施 出席状況で50%、日常点で20%、試験に代わるレポートで30%の評価を基本とする。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
福祉経営論を学ぶ視点	福祉とは何か。経営とは何か。
社会福祉の歴史と福祉理念。援助実践の到達や課題	救貧救護から福祉の一般化、普遍化
老人福祉の施策と理念を理解する	権利としての老人福祉法
社会福祉法と社会福祉法人の運営と特徴	社会福祉法と社会福祉事業
社会福祉法人の設立と運営	社会福祉法人の定款
社会福祉法人の設立要件と指導監査	基本財産、事前規制と事後規制
福祉事業にかかる財源	措置制度と措置費
措置費の仕組みと算定	基本額と加算、措置費の財源構成
公費財源から保険制度へ移行してからの経営の実情	介護保険制度、経営原則
福祉経営における収入	出来高払い
民間営利企業の参入による福祉現場の実態	規制緩和、営利目的、不正受給
福祉経営における支出 = 労働者をとりまく各種制度と人件費を巡って	労働基準法、就業規則等
福祉労働の専門性と身分、給与の保障	福祉労働
社会福祉法人のアイデンティティを守り発展させるために	社会福祉法人のアイデンティティとは

テキスト

毎回、レジュメ・資料を用意する

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究会 / かがわ出版 / 4-87699-731-4
転換期の社会福祉事業と経営	石倉康次他 / かがわ出版 / 4-87699-651-2
社会福祉辞典	同編集委員会 / 大月書店 / 4-272-36040-X

授業の中で連絡する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 今井 久人

講義内容・テーマ

テーマ「福祉産業論」

福祉産業論と一口に言っても、自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常生活部面で多く見られるところである。さらに少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後の成長が見込まれることから既存の産業の参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性と市民生活にどう寄与するかを見る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的な社会福祉概論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを踏まえ、日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	講義を通しての理解度と全体的な視点を問う
日常点(小テスト)	40 %	中間に小レポートの提出を求め、理解の深さを確認する
その他	10 %	日常の積極的な発言を期待する

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、広がりを見るため、中間期に課題を与えて小レポートを提出してもらう。また、全体のまとめとしての期末レポートの提出を求める。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
福祉産業とは何か(概論)	
医療産業の市場	病院、医院の経営
福祉産業の市場	介護ビジネス
健康産業の市場	健康増進ビジネス
医薬品市場、その現状と今後の展望	薬価の仕組み、流通
医療機器市場、その現状と今後の展望	医療機器と医療廃棄物
医療情報システム市場、その現状と今後の展望(中間レポート)	医療情報、電子カルテ
介護保険関連市場(1)、その現状と今後の展望	在宅介護サービス
介護保険関連市場(2)、その現状と今後の展望	施設介護サービス
福祉用具市場、その現状と今後の展望	紙おむつ、介護機器
高齢者住宅市場、その現状と今後の展望	有料老人ホーム、グループホーム
医療情報誌、および人材派遣市場	ベビーシッター
保育ビジネス	少子化、保育園
総括(まとめ)	

テキスト

比較的新たな分野であり、テキストは指定しない。その都度、関係した雑誌などの資料を配布または紹介する。

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
「日本を元気にする健康サービス産業」 日経ヘルスケア21	島田晴雄/東洋経済新報社/ /日経BP社/

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省、経済産業省等のHP

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。福祉施設や居宅サービス事業所において、パソコンや情報システム、情報ネットワークの利用がごく当たり前となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁(バリア)に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT(Information and Communications Technology: 情報通信技術)を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術(Assistive Technology)の発達と普及も著しい。

社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、より積極的な取り組みを求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかを、実態を踏まえながらあきらかにするとともに、当事者でもある私たち1人ひとりが、どのように受け止め取り組むべきかを考えていくことにしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

パソコン室を使用し、パワーポイントによるプレゼンテーションを主体とした講義である。Web検索や閲覧などを行う時もあるので、各自ID等を確認しておくこと。受講にあたっては、「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を行えることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
その他	20 %	出席状況等

講義スケジュール

内 容	キーワード
総合的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション - 福祉情報論がめざすもの -	
インターネットと福祉情報(1) - 福祉の情報資源を使いこなす part1 -	
インターネットと福祉情報(2) - 福祉の情報資源を使いこなす part2 -	
福祉と情報(1) - なぜ、情報を提供するのか -	
福祉と情報(2) - 福祉が変わる、情報が変わる -	
福祉情報をどう使うのか(1) - 探す・評価する・選択する -	
福祉情報をどう使うのか(2) - 福祉のための情報システムと情報機器 -	
福祉情報をどう使うのか(3) - 共有する・発信する・結びつける -	
福祉情報とは何か(1) - 情報は便利なのか? -	
福祉情報とは何か(2) - 福祉情報の体系と構造 -	
福祉情報化とは - 誰のための情報化なのか -	
福祉情報化の課題と展望(1) - 様々な課題 -	
福祉情報化の課題と展望(2) - 新しい福祉への戦略 -	
試験(試験期間中)	

テキスト

講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』(生田正幸著・ミネルヴァ書房)に記載されているので必要に応じて購入すること。(ISBN4-623-03054-7)

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会福祉情報論へのアプローチ	生田正幸 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03054-7

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

WAM NET (<http://www.wam.go.jp/>)
厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/>)
その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 村上 真

講義内容・テーマ

現代において政府の活動は私たちの生活の隅々にまで大きな影響を及ぼしている。社会福祉の分野においても例外ではない。民間営利・民間非営利部門など政府以外にも重要な担い手が存在するが、それらの活動も政府の決定する政策の枠組みから自由であることは難しく、また様々な社会福祉をめぐる理念・理想も政府の政策において考慮されなければその実現が困難であろう。この講義では、社会福祉をめぐる諸問題を、特に政府とその政策過程に焦点を当て検討していくこととする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	本講義のテーマに沿った理解ができていくか否かを重視する。
日常点 (小テスト)	10 %	テーマに関する意見・疑問点等について授業中にペーパーを提出してもらうことがある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
福祉政策の特質	政策、社会福祉
福祉と政府(1)	福祉国家
福祉と政府(2)	政治、行政
福祉と政府(3)	責任、統制
福祉政策と市場経済	公共財
政策過程(1)	形成、決定
政策過程(2)	実施、評価
政策過程(3)	制度改革
福祉行政の資源	行政資源
改革をめぐる：国家と行政官僚制(1)	行政官僚制
改革をめぐる：国家と行政官僚制(2)	同上
改革をめぐる：民間営利部門	市場
改革をめぐる：民間非営利部門	NPO・NGO
残された問題	

テキスト

特になし。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
図説日本の社会福祉	真田・宮田・加藤・河合編 / 法律文化社 / 4-589-02710-0
ホンブク行政学(改訂版)	今村・武藤・真山・武智著 / 北樹出版 / 4-89384-709-0

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 澤井 勝

講義内容・テーマ

福祉は投資である(岡本祐三)。このことは、直接に福祉事業の経済効果を言う場合もある。このような観点から介護保険制度を検討する。介護保険は単年度で6兆円の財政規模となっているが、今後とも拡大していくと見込まれている。この介護保険制度によって開拓された民間セクターの事業展開の状況を把握する。また、福祉に力を入れている北海道の伊達市や広島県御調町など、福祉立市を図る自治体もいくつかある。ここでは、特に雇用の面から地域経済への波及効果が注目されている。これらの事例を考究するとともに、NPOなどによるボランティア・セクターの活動状況も、経済の観点から見ていくこととする。事例研究を中心として、「福祉と経済」の分類学を考えることとしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞の記事検索や専門雑誌情報へのアクセス、ホームページ検索による関連情報の収集に熟達すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	記述式で考え方を聞く。
日常点(小テスト)	30 %	情報収集とその報告。

受講者の集まり具合を見て、KJ法などによる帰納法による分析を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

福祉という領域について。

介護保険制度とその改正方向。

介護保険制度とその改正方向(その2)。

支援費制度と当事者主権。

保育所はどれほど必要か。

在宅育児への支援システム。

指定管理者制度と福祉。

ビデオ1、御調町の地域包括ケアシステム。

公立病院の財政問題。

ビデオ2、富山市のこのゆびとーまれ。

福祉NPOとコミュニティ・ファンド。

生協の福祉基金。グリーンコープの場合。

福祉と経済、まとめ。

試験。

テキスト**参考書**

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
福祉は投資である	岡本祐三 / 日本評論社 /
当事者主権	上野千鶴子、中西正司 / 岩波書店 /
現代の地方財政第3版	和田八束ほか / 有斐閣 /

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ****その他**

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 太谷 亜由美

講義内容・テーマ

本講義ではヨーロッパの福祉の発達を中心に、福祉の発達を考察する。そこで、いかにして一般の人々の貧困の救済が国の責任となっていくかを辿るが、その過程はどれほど厳しいものであったかに気が付かれるだろう。時代の変化と共に変貌してきた福祉は、現在ではなくてはならないものではあるが、一方では経済の停滞と共に後退を余儀なくされている。福祉の歴史を単なる「過去の出来事」として捉えるのではなく、人々の大きな要求のうねりが生み出してきた足跡として辿りたい。そしてまた、福祉は現在の我々の要求によりその形をいかようにも変えるものであるということを感じ取って頂きたい。同時に人が社会で生きていく上で、社会保障や社会福祉がどれ程重要なものであるか実感して頂きたい。講義では福祉の発達と国・経済のかかわりに注目しながら進めていきたい。また、本年度は参考となる簡単な画像なども用意致しますので、視覚的にも印象づけて頂きたいと思致します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に要求するものはないが、ヨーロッパの歴史の知識は多いに役に立つ事と思致します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	論述試験による解答。問題に示されるとおりの論点を十分踏まえて解答すること。

出欠を兼ねたリアクションペーパーを数回実施します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ヨーロッパにおける中世紀までの貧困の救済	各回とも講義冒頭で示す。
イギリス救貧法の生成過程 1	
イギリス救貧法の生成過程 2	
イギリス救貧法の成立 1	
スチュワート王朝期における救貧法の変容	
市民革命期・産業革命期の福祉 - 貧民の有利な雇用論	
市民革命期・産業革命期の福祉 - 救貧法の人道化	
自由放任主義と新救貧法の成立	
新救貧法の意義	
19世紀末の民間における福祉の実践	
19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開 1	
19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開 2	
大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成 1	
大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成 2	

テキスト

使用しない。

参考書

高島進氏著、「社会福祉の歴史」、ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし

その他

毎回講義内容のレジュメを配布します。必ずこれを受け取るように注意してください。私語など講義の邪魔となる行為は厳禁です。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 石坂 好樹

講義内容・テーマ

福祉ニーズを抱える者に対する直接援助の実践家庭や技術について、臨床事例をもとに理解を深める。本講では、児童福祉と老人福祉の両領域に限定して、直接援助活動のうち、心理的危機を抱える者に対する心理的支援技法について論じる。それぞれの領域でしばしば遭遇する臨床事例に即して、心理的支援技法の適応、援助の実際方法、援助効果の発現機序などに関する説明を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	
筆記試験による評価		

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

(第2回～第4回) 1) 児童福祉における相談援助活動の実施 (1) 児童期・青年期の心理的発達 (2) 児童期・青年期に見られる心の病とその治療

第5回 2) 児童期・青年期の子どもと家族 (1) 家族内の関係と家族の機能 (2) 相談援助活動における家族の調整

(第6回～第7回) 3) 児童期、青年期の子どもに対する (1) 不登校とその援助 (2) その他の事例

(第8回～第10回) 2. 老人福祉における相談援助活動の実際 (1) 老年期の心理的活動の特性 (1) 老年期の心理社会的特性 (2) 老年期に見られる心の病

(第11回～第15回) 2) 老人の心の危機と心理的支援 (1) うつ状態とそのケア (2) 幻覚妄想状態とそのケア (3) 痴呆のケアの原則 (4) 高齢者の自殺

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 石倉 康次

講義内容・テーマ

社会福祉領域の仕事には多様な分野がある。社会福祉施設、福祉事務所、児童相談所、医療機関、社会福祉協議会などの場所で、保育や養護を必要とする児童、障害をもった人、介護を要する高齢者、経済生活で困窮状態にある人、地域社会の一般住民などを対象に、相談・面談をし、生活や日課の活動の支援する一方、地域ネットワークづくりも行う。また事業の運営と経営に関わる業務もある。講義では、福祉労働の外見的なレベルから出発し類型的な特質や共通の原則を探し当てる試みを協働で行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

福祉の仕事の対象となる人にまず関心をもってほしい。社会学、経済学の知識があることがのぞましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	毎回の講義の終わりに講義内容の理解を問う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

社会福祉をめぐる三つの誤解：社会福祉の理念と現実

保育所で求められる子どもと親をみる眼

乳児院の仕事の奥行き

子どもの発達と親の生活支援

障害者作業所職員はスーパーマンか

精神に障害をもつ人の生活支援

障害者の発達と親の生活支援

ホームヘルパーの仕事は家事労働の代行か

痴ほうの障害をもつ人はどんな支援を求めているか

高齢者本人と家族の生活支援

高齢者施設での分業と協業体制と事業経営

「当事者主権論」と「福祉経営論」をどうみるか

「社会福祉の三元構造論」と福祉労働・福祉事業経営・公的責任

協動的・研究的・変革的性格をもつ福祉労働

テキスト

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

参考書

『福祉のひろば』総合社会福祉研究所、『形成期の痴呆老人ケア』石倉康次編著 北大路書房、『社会福祉労働の専門性と現実』植田・垣内・加藤編 かがわ出版 『転換期の社会福祉事業と経営』石倉、玉置編 かがわ出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省：<http://www.mhlw.go.jp/index.html> 呆け老人をかかえる家族の会：<http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm> 日本障害者センター：<http://shogaisha.jp/> 総合社会福祉研究所：<http://www.jfast1.net/~sosyaken/> 保育研究所：<http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html> 全国老人福祉問題研究会：<http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/> 全国障害者問題研究会：<http://www.nginet.or.jp/> 全国児童養護問題研究会：<http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

テーマ:「ミシェル・フーコーの『権力』概念の特質～司牧者権力」

本講義では、様々な学問分野に多大な影響を与え続けている、フランスの哲学者でありかつ歴史学者であるミシェル・フーコー(1926-1984)が提示した「権力」の特質を、社会学的な観点を踏まえつつ、考察していく。そこで、彼が提示した最も重要な「生-権力」の原理でありかつ由来である「司牧者権力pouvoir pastoral」、つまりキリスト教文献に見出される「羊飼いの羊」に対する「権力」について書かれた彼のテキストを読むことを通じて、彼の「権力」概念の特質を明らかにしていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. フランス語初級文法の知識をもっている学生が望ましい。
2. 毎回、予習を必要とする。
3. 辞書を頻繁に使用するので仏和辞書を必携。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	1. 翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。 2. 出席。

出席を含めた平常点。レポートを求める場合がある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1. 講義の目的。講義の進め方。2. テキストについての説明。3. 社会学の中心的主題について。	社会統合。個人の産出。
第3回以降:基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。	司牧者権力。個別化する権力。アスケーシス。自己放棄。

テキスト

Michel Foucault, << "Omnes et singulatim": vers une critique de la raison politique >>, le debat, numero41, Paris, Gallimard, 1986を使用する予定であるが、変更する場合もある。またこれ以外のテキストも使用する。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

参考書

フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。

1. 中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
2. フレデリック・グロ(露崎俊和訳)『ミシェル・フーコー』白水社(文庫クセジュ)、1998年。
3. 桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社、1996年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

テーマ:「ミシェル・フーコーの『生存の技法』概念について」

本講義では、様々な学問分野に多大な影響を与え続けている、フランスの哲学者でありかつ歴史学者であるミシェル・フーコー(1926-1984)が提示した「生存の技法arts de l'existence」概念を、社会学的な観点から踏まえつつ、考察していく。「生存の技法」とは、彼が現代との関わりにおいて古代ギリシャ・ローマの文献のなかに見出した「自己の自己との関係」の実践(自己が自己に対して関わっていく実践)、すなわち「自己の実践」による倫理-政治的「主体」形成の実践を指し、この実践について書かれたテキストを読むことを通して、「社会と個」のあり方について考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. フランス語初級文法の知識をもっている学生が望ましい。
2. 毎回、予習を必要とする。
3. 辞書を頻繁に使用するので仏和辞書を必携。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	1. 翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。 2. 出席。

出席を含めた平常点。レポートを求める場合がある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1. 講義の目的、講義の進め方。2. テキストについての説明。3. 社会学の中心的主題について。	社会統合。個人の産出。
第3回以降:基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。	生存の技法(自己の実践)。自己統御。倫理-政治的「主体」形成。欲望・快楽。自由。

テキスト

Michel Foucault, Histoire de la sexualité 2: L'usage des plaisirs, Paris, Gallimard, 1984を使用する予定であるが、変更する可能性がある。複数のテキストを使用する予定。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

参考書

フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。

1. 中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
2. フレデリック・グロ(露崎俊和訳)『ミシェル・フーコー』白水社(文庫クセジュ)、1998年。
3. 桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社、1996年。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 金武 創

講義内容・テーマ

文化経済学の基礎的理解 これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を捉えなおし、これからの企業やNPO、政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、可能な限り、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、できるだけふれていきたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

受講人数によって、定期試験でなく、レポートに変更するかもしれない。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
社会関係資本としてのパブリックアート アーティストの個人的公共事業	公共財
温泉観光における非対称情報 白骨温泉問題は氷山の一角か	消費者主権
規模の経済からみた総合型地域スポーツクラブ	NPO
ライブ市場とメディア市場 Jリーグの文化経済学1	産業構造 / ネットワーク
未来の顧客と選手を育てる育成普及部門 Jリーグの文化経済学2	次世代への文化継承
ヘリテージ・ツーリズム1 ブランドとしての文化遺産	京都 / 観光
ヘリテージ・ツーリズム2 負の文化遺産	歴史 / 記憶 / 観光
ブレイクしないJ-POP1 寡占市場とカリスマ型アーティスト	再創主義
ブレイクしないJ-POP2 プラットフォームの技術革新	デジタル情報
チャリティ型ギャンブルとしてのioto 文化支援のために公営賭博をしよう	消費 / 投資 / 寄付
地域文化としての地酒 我々は今最高の酒を飲んでいる	技術革新 / トラスト / 租税
出版産業と公立図書館1 無料貸本屋批判	市場規制 / NPO
出版産業と公立図書館2 「税金を使う」から「税金をつくる」図書館へ	著作権
予備日	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
文化経済論	金武創 / 阪本崇 / ミネルヴァ書房 /

テキストは2005年5月に出版予定

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
担当教員 橋 健一

講義内容・テーマ

「個」から「世界」へ - 文化人類学的アプローチ -

こんにち、世界の至るところで「個の過剰」や「意味の問題」が起きているといわれる。日本でも「私の肥大化」や「自分探し」などの言葉が溢れ、それに反発するように「個」や「私」よりも地域や共同体、あるいは国家を重要視して生きるべきだという議論が見受けられる。本講義では、そのような「個の過剰」や「意味の問題」が起きる背景について考察し、さらにそうした問題を乗り越えていくための道筋を文化人類学的な立場から探っていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会や文化の分析が中心なので、抽象的な議論が多くなる。異文化の紹介が目的ではないので、その点を理解の上受講して欲しい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	講義でおこなう議論に対する理解を問う。

定期試験の前提として数回レポートの提出を求める予定。受講時に確認のこと。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	別途揭示等を参照のこと
講義の目的	個人、意味の問題
理論的立場1	構造主義
理論的立場2	隠喩と換喩
意味を与えるもの	神話
意味を与えるもの	儀礼
意味を与えるもの	身体加工
意味を与えるもの	交換
意味を与えるもの	貨幣、資本
意味を奪うもの	ファッション
意味を奪うもの	国民国家
意味を奪うもの	国民国家
意味を奪うもの	複製
「個」から「世界」へ	世界
「個」から「世界」へ	世界

テキスト

なし

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
同時代世界の人類学	マルク・オジェ著 / 藤原書店 /
レヴィ=ストロース入門	小田亮著 / ちくま新書 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

文化理論 S
文化論 S
文化論 S

14644

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

「文化」とはなにか、はっきりした定義を最初に与えることはむづかしい、「文化」について「ひとはどのように語る」か、これを調べることから始めよう。文化の対象「そのもの」よりも、対象についての「語り方」に注目するのである。小説家が「語る」作品、文化人類学者が「報告する」、調査報告書、精神分析家が「分析する」モノグラフ、「異文化」の翻訳等のなかにある「文化」について考察し、学習するのである。「生活の形式」としての文化について学ぶのである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特別の準備をしなくても講義がたのしめるように講義の担当者は色々工夫します。しかし受講者は「筆記用具やノート」を必ず持参して受講してください。出来れば小さな世界地図の携帯をすすめます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテストします
レポート	20 %	講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします

* 定期試験として実施

講義スケジュール

内容	キーワード
「総括的導入講義」	
文化の定義：文化についての見方・語り方 想像力としての文化 インタビューとしての文化 生活を見直す文	大江健三郎、ルース・ベネデクト、ジャン・ポール・サルトル、想像力の問題
文化の採集：民話はどこにいきている：民話の採集の1事例バリ島の「闘鶏王のはなし」	採集、地方(じかた)の知、日本の昔話、閑敬吾、クリフォード・ギアーツ
文化の解釈(1)文化を語る複数の視座、異文化・自文化のクロスロード	文化の観察・解釈、文化を観察する(研究者)、文化を生活する(生活者=行為者)、複眼の目、文化研究の4
文化の解釈(2) Saying something of something アリストテレス)：闘鶏はバリ島人にとって1種の「詩学」	ソシユール、見えるもの/見えないもの 意味するもの/意味されるもの 社会の力学と社会の意味論 文化の解
文化の機能(1)プロニスロー・マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者たち』を読む	孤立した事実、有機的全体という仮説、機能主義の人類学、クラ、クラの呪術、装置としての文化
文化の機能(2)：マリノフスキーの文化理論が「機能主義」と呼ばれるわけ	民族学的事実としてのクラ、ムワリ(白い目の腕輪)とソウラヴァ(赤い貝の首飾り)、ヴァイグワ交換の制度
文化の構造(1)レヴィ=ストロース『悲しき熱帯』を読む：顔面塗飾について「人間であるためには絵を描い	カデョボ族の女の絵画芸術、顔面・身体塗飾、ポロロ族のケジャラ村の平面図、ポロロ族の神話、構造主義
文化の構造(2)土井健郎『「甘え」の構造』を読む：文化人類学的「関心」から 異文化の「解釈」、機能	自明性の喪失、カルチャーショック、ベネデクトがよくわかる、「甘え」の発見、「ことば」の解釈を矢面に、
文化の構造(3)：土井健郎『「甘え」の構造』を読む(つづき) 日本文化にどのようにむきあうのか、文化	甘えの社会関係、間柄の「同心円」的パースペクティヴ、義理と人情、他人と遠慮、うちとそと、同一化と摂取
文化の構造(4)：九鬼周造『「いき」の構造』を読む「構造」とはなにか、土井と九鬼の「構造」論の類似	「いき」の構造、「いき」の意味的構造(内包と外延)、媚態・意気地・諦め、言語と民族、事象の世界と意味
文化の構造(5)：翻訳という文化問題 大江健三郎の実験「ここに魂というものがあって、それが肉体ともど	「取りかえっ子 チェンジリング」、外国語と日本語の比較対照
文化の構造(6)土井健郎『漱石の心的世界』を読む 精神分析医が読解する漱石の「こころ」の構造を例にあ	「恩に着る」「つまり世の中が悪いのだ」「なぜ嫉妬なさるんです」「世の仲にかたづくなんて殆どありゃしな
文化理論の基礎付け(1) 文化と言語：文化の問題を「生の形式」としての言語から考える	文化としての言語、生活、意識哲学、言語哲学、文化装置としての言語、非言語的行為、言語的行為、言語ゲーム、「文法規則」
文化理論の基礎付け(2) これまで論じてきた文化の「定義」、「採集」、「観察」、「解釈」、「機能」、「構造」等の基礎概念や理論のおさらい	ヴァイトゲンシュタイン、シュツ、言語、行為、意味、生の形式、生の内容、各私的体験、間主観的経験

テキスト

テキストは特別に指定しません。講義の中で指示します。参考書の欄および「その他」をお読みください。

参考書

以下の文献を読むことを薦めます。土居健郎『「甘え」の構造』ルース・ベネデクト『菊と刀』マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』レ

ヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』現象学に関する入門書、ソシュールに関する入門書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

「文化」理解には、映画や絵画や音楽などに親しむことも大事ですし、とりわけ文学作品に親しむことも大事です。本講義ではたとえば大江健三郎や夏目漱石、ドストエフスキーなどの作品などを読むことを薦めます。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文章能力プレイズメントテスト」実施し、結果により「内容把握力養成重視クラス」、「文章構成力養成重視クラス」、「文章表現力養成重視クラス」のクラスに分かれて授業をおこなう。（「文章能力プレイズメントテスト」は前期定期試験期間中に実施予定。1回生は全員受験すること。）

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)により総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
「文章能力プレイズメントテスト」実施	
(1)「文章能力プレイズメントテスト」の結果と解説 / (2)レポート・小論文における文章作成の意味について / (3)レポート・小論文における文章作成方法	
(1)事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いについて / (2)文章の部分が持つ役割をとらえる	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その1)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その2)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その3)	
レポート・小論文の構成について(引用、注、参考文献の書き方、データの見せ方、効果的なグラフの見せ方を学ぶ)	
文章作成のための材料収集技法(ブレイン・ストーミングの方法)	
主題と材料収集の関係について	
構想を立てることの有用性	
執筆・推敲のための基礎知識	
実践的な文書作成方法	
通信文についての基礎知識(敬語表現・ビジネス文書作成・手紙の形式)	
「文章能力達成度評価テスト」実施	
(1)「文章能力達成度評価テスト」の解答と解説 / (2)授業全体のまとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	/ /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
理科系の作文技術	木下 是雄 / 中公新書 / ISBN 4121006240
日本語文章能力検定 準2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-054-8
日本語文章能力検定 2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-053-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文章能力プレイズメントテスト」実施し、結果により「内容把握力養成重視クラス」、「文章構成力養成重視クラス」、「文章表現力養成重視クラス」のクラスに分かれて授業をおこなう。（「文章能力プレイズメントテスト」は前期定期試験期間中に実施予定。1回生は全員受験すること。）

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)により総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
文章能力プレイズメントテスト」実施	
1)「文章能力プレイズメントテスト」の結果と解説 / (2)レポート・小論文における文章作成の意味について / (3)レポート・小論文における文章作成方法	
(1)事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いについて / (2)文章の部分が持つ役割をとらえる	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その1)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その2)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その3)	
レポート・小論文の構成について(引用、注、参考文献の書き方、データの見せ方、効果的なグラフの見せ方を学ぶ)	
文章作成のための材料収集技法(ブレイン・ストーミングの方法)	
主題と材料収集の関係について	
構想を立てることの有用性	
執筆・推敲のための基礎知識	
実践的な文書作成方法	
通信文についての基礎知識(敬語表現・ビジネス文書作成・手紙の形式)	
「文章能力達成度評価テスト」実施	
(1)「文章能力達成度評価テスト」の解答と解説 / (2)授業全体のまとめ	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	/ /

参考書	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	理科系の作文技術	木下 是雄 / 中公新書 / ISBN 4121006240
	日本語文章能力検定 準2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-054-8
	日本語文章能力検定 2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-053-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文章能力プレイズメントテスト」実施し、結果により「内容把握力養成重視クラス」、「文章構成力養成重視クラス」、「文章表現力養成重視クラス」のクラスに分かれて授業をおこなう。（「文章能力プレイズメントテスト」は前期定期試験期間中に実施予定。1回生は全員受験すること。）

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)により総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
「文章能力プレイズメントテスト」実施	
(1)「文章能力プレイズメントテスト」の結果と解説 / (2)レポート・小論文における文章作成の意味について / (3)レポート・小論文における文章作成方法	
(1)事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いについて / (2)文章の部分が持つ役割をとらえる	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その1)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その2)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その3)	
レポート・小論文の構成について(引用、注、参考文献の書き方、データの見せ方、効果的なグラフの見せ方を学ぶ)	
文章作成のための材料収集技法(ブレイン・ストーミングの方法)	
主題と材料収集の関係について	
構想を立てることの有用性	
執筆・推敲のための基礎知識	
実践的な文書作成方法	
通信文についての基礎知識(敬語表現・ビジネス文書作成・手紙の形式)	
「文章能力達成度評価テスト」実施	
(1)「文章能力達成度評価テスト」の解答と解説 / (2)授業全体のまとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	/ /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
理科系の作文技術	木下 是雄 / 中公新書 / ISBN 4121006240
日本語文章能力検定 準2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-054-8
日本語文章能力検定 2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-053-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文章能力プレイズメントテスト」実施し、結果により「内容把握力養成重視クラス」、「文章構成力養成重視クラス」、「文章表現力養成重視クラス」のクラスに分かれて授業をおこなう。（「文章能力プレイズメントテスト」は前期定期試験期間中に実施予定。1回生は全員受験すること。）

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)により総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
「文章能力プレイズメントテスト」実施	
(1)「文章能力プレイズメントテスト」の結果と解説 / (2)レポート・小論文における文章作成の意味について / (3)レポート・小論文における文章作成方法	
(1)事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いについて / (2)文章の部分が持つ役割をとらえる	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その1)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その2)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その3)	
レポート・小論文の構成について(引用、注、参考文献の書き方、データの見せ方、効果的なグラフの見せ方を学ぶ)	
文章作成のための材料収集技法(ブレイン・ストーミングの方法)	
主題と材料収集の関係について	
構想を立てることの有用性	
執筆・推敲のための基礎知識	
実践的な文書作成方法	
通信文についての基礎知識(敬語表現・ビジネス文書作成・手紙の形式)	
「文章能力達成度評価テスト」実施	
(1)「文章能力達成度評価テスト」の解答と解説 / (2)授業全体のまとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	/ /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
理科系の作文技術	木下 是雄 / 中公新書 / ISBN 4121006240
日本語文章能力検定 準2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-054-8
日本語文章能力検定 2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-053-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文章能力プレイズメントテスト」実施し、結果により「内容把握力養成重視クラス」、「文章構成力養成重視クラス」、「文章表現力養成重視クラス」のクラスに分かれて授業をおこなう。（「文章能力プレイズメントテスト」は前期定期試験期間中に実施予定。1回生は全員受験すること。）

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)により総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
「文章能力プレイズメントテスト」実施	
(1)「文章能力プレイズメントテスト」の結果と解説 / (2)レポート・小論文における文章作成の意味について / (3)レポート・小論文における文章作成方法	
(1)事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いについて / (2)文章の部分が持つ役割をとらえる	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その1)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その2)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その3)	
レポート・小論文の構成について(引用、注、参考文献の書き方、データの見せ方、効果的なグラフの見せ方を学ぶ)	
文章作成のための材料収集技法(ブレイン・ストーミングの方法)	
主題と材料収集の関係について	
構想を立てることの有用性	
執筆・推敲のための基礎知識	
実践的な文書作成方法	
通信文についての基礎知識(敬語表現・ビジネス文書作成・手紙の形式)	
「文章能力達成度評価テスト」実施	
(1)「文章能力達成度評価テスト」の解答と解説 / (2)授業全体のまとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	/ /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
理科系の作文技術	木下 是雄 / 中公新書 / ISBN 4121006240
日本語文章能力検定 準2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-054-8
日本語文章能力検定 2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-053-X

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文章能力プレイズメントテスト」実施し、結果により「内容把握力養成重視クラス」、「文章構成力養成重視クラス」、「文章表現力養成重視クラス」のクラスに分かれて授業をおこなう。（「文章能力プレイズメントテスト」は前期定期試験期間中に実施予定。1回生は全員受験すること。）

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)により総合的に評価を行う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
「文章能力プレイズメントテスト」実施	
(1)「文章能力プレイズメントテスト」の結果と解説 / (2)レポート・小論文における文章作成の意味について / (3)レポート・小論文における文章作成方法	
(1)事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いについて / (2)文章の部分が持つ役割をとらえる	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その1)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その2)	
(1)文章の部分の役割と全体の関係について / (2)わかりやすい文章を書くことの意義 / (3)文章の基本的な型について (その3)	
レポート・小論文の構成について(引用、注、参考文献の書き方、データの見せ方、効果的なグラフの見せ方を学ぶ)	
文章作成のための材料収集技法(ブレイン・ストーミングの方法)	
主題と材料収集の関係について	
構想を立てることの有用性	
執筆・推敲のための基礎知識	
実践的な文書作成方法	
通信文についての基礎知識(敬語表現・ビジネス文書作成・手紙の形式)	
「文章能力達成度評価テスト」実施	
(1)「文章能力達成度評価テスト」の解答と解説 / (2)授業全体のまとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	/ /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
理科系の作文技術	木下 是雄 / 中公新書 / ISBN 4121006240
日本語文章能力検定 2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-053-X
日本語文章能力検定 準2級 徹底解明	日本語文章能力検定協会編 / ISBN4-87116-054-8

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他

放送メディア論 S
電波メディア論 S
電波メディア論 G

12766

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

特にテレビ放送が開始されてこの半世紀余りの、ラジオ・テレビ放送の社会的な位置づけの変遷や放送ビジネスの発展、それに伴って生じた問題点などについて理解を深める。
さらに番組の制作、取材の現場の実際をふまえて、映像や音声を与えるインパクトとその影響力を利用しようとする政治家や制作者の「隠された意図」を発見できる洞察力を養う訓練をする。
マルチメディア化が進み情報が氾濫する現代社会におけるテレビやラジオの存在意義と、それらをうまく活用するためのアイデアを探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞を最低1紙定期的に購読していること(複数紙の比較が望ましい)
定期的に視聴しているテレビ(あるいはラジオ)の番組が最低2つあり、かつそれらに何故興味があるのか明快に説明できること
講義を基本とするが、小グループに分かれてブックリポートなどの発表を予定している。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	放送をとりまく問題や今後の課題などについて正確に説明できる能力を問う
レポート	30 %	授業で示す事例について分析・論評する課題を与える
日常点(小テスト)	20 %	小グループによる文献リポート、レジュメの提出
その他	0 %	意味のある質問やコメント発言は積極的に評価する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
テレビ・ラジオの言葉	
表現の自由とメディアの法的・社会的背景	
放送というビジネス / 公共放送とは?	
制作・取材の実際(1)放送までの流れ	
制作・取材の実際(2)さまざまな制約要因	
映像の決まりごと	
放送と政治(1)テレポリティクスと番記者制度	
放送と政治(2)メディア・コントロールの実情	
ニュースとニュースショー、ワイドショー	
放送をチェックする	
夢を与えるメディア? 世相を映す鏡?	
デジタル化の功罪	
補足の議論と総括 - 放送の未来	
テスト	

テキスト

特に設けませんが、リーディングアサインメントは授業の開始時に指示する。

参考書

授業の最初の日に指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業の最初の日に指示します。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 岡村 こず恵

講義内容・テーマ

今日では多様な分野の社会的課題の解決に向けて、市民活動への市民の主体的な参加の意義と重要性が認識されている。また今後、専門家とボランティアの協働は、自治の起点としてますます重要視されることが予想される。
 この講義の第一の目的は、多角的かつ総合的な視点で現代の社会的課題の解決を図ることが求められるNPO/NGO、行政機関、教育機関、メディア関連機関、一般企業等で将来活躍する人を対象に、さまざまなボランティア観が存在することを確認し、社会における市民活動の役割を解説していくことである。そのために多様な分野や目的のボランティア・市民活動を紹介しながら、現在我々が抱えている社会的課題に市民がどう関わってきたのか、あるいはどう関わっているのかを学ぶ。第二の目的は、市民主体の活動を実現させるための方向性を探り、その理念だけでなく実際の手法を身につけることである。そのため関連法や政策の理解はもちろん、具体的な課題について自ら考えることを通じて、リーダーとして活躍するのに不可欠である市民活動の意義や本質の理解を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義を中心とするが、受講生によるグループ討議やワークショップ形式などでもできるだけ盛り込み、参加型学習とする。主体的参加を望む。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	30 %	日常点(授業への積極的な参加)
その他	20 %	講義中に課す課題への取り組み

* 試験に代わるレポートとして実施。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ボランティア・市民活動の根幹の概念である「ボランタリズム」について解説。	ボランタリズム
ボランティア・市民活動の特徴を踏まえ、その本質を探る。 社会的制度の変遷や歴史的な出来事を追いながら、ボランティア・市民活動の展開を読む。	
ボランティア・市民活動とのかかわりの中で、NPO・NGOとは何かを考える。	NPO、NGO
特定非営利活動促進法(NPO法)をはじめとしたNPOの制度化について解説。	NPO法
市民活動団体の組織構造(1)	ボランティア活動と有償活動
市民活動団体の組織構造(2)	ボランティアマネジメント
ボランティアコーディネーションの基本的な考え方を学ぶ。	ボランティアコーディネーション
「人間観」や「自立観」を通じて、ボランティアコーディネーターの役割について考える。	
NPOと行政との役割の違いを学びながら、協働のあり方について考える。	パートナーシップ
特に企業において感心が高まっている社会的責任(CSR)論を中心に解説。	CSR
中間支援組織の考え方や役割を考える。	インターメディアリー
具体的な事例を通してボランティア・市民活動の社会的意義を考え、その可能性について考える。	
まとめ	

テキスト

『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』巡静一・早瀬昇編著、中央法規出版、4-8058-1529-9

参考書

『ボランティア - 参加する福祉』、大阪ボランティア協会編、ネルヴァ書房、4-623-01336-7

* その他、講義中にも紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

NPO・市民活動を支えるニュース&情報サイト「NPOWEB」 <http://www.npoweb.jp/>
「主に関西！ボランティア・市民活動情報ネット」 <http://cw1.zaq.ne.jp/osakavol/kvnet/index.html>

その他

この講義を履修することにより、身に付くポイント

- ・ボランティア・市民活動における多様な分野、種類の動向を把握し、社会における市民活動の役割を理解する。
- ・ボランティア活動の双方向性を理解し、ボランティアマネジメントの基本的な考え方を身に付ける。
- ・多様なボランティア観があることを理解した上で、自己のボランティア観の確立につなげる。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 桂 良太郎

講義内容・テーマ

ボランティア活動、NPO活動に関連したコンセプト(概念)をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかに今後の国際交流や国際協働において重要であるかについてさまざまな実践的事例を紹介し、学としての「ボランティア学」の再構築をめざしたい。NPO学会やボランティア学会の研究成果も交えながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察を深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	30 %	
その他	20 %	新聞等の記事提出

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ボランティア・NPO用語事典	岡本栄一編集代表 / 社会福祉法人大阪ボランティア協会 / 4-8058-2427-1

参考書

講義のなかで紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2~8

担当教員 三浦 俊介

講義内容・テーマ

我が国の文芸の流れには、古代より現代に至るまで、文字による記載の文芸と並行して、昔話や伝説・語り物などの多様な民間文芸の水脈があります。それらは長い年月、民間の様々な民俗文化と深く関わり合いながら、口承によって伝えられ育まれ、人々の精神生活を豊かにしてきました。一方、記載文芸とも常に密接な交渉を持ち、我が国の文芸を培う一翼を担ってきたと言えます。また、昔話・伝説・世間話などは現代人にとっても心を惹きつけられる多くの魅力に満ちています。

このような民間文芸(口承文芸)の諸相とその深層に迫り、民衆の間で傳承され育てられてきた文化の一面を探ります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に必要な知識や条件はありませんが、民俗学や、昔話・伝説などの口伝えの話、童話等に興味を持っていることが望ましいです。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	講義の内容をふまえたテーマによるもの。
その他	20 %	2~3回の講義に1度の割合で、講義についての感想や質問・予備知識等をアンケート形式で記入してもらう。その提出状況や記入内容を評価に加味する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
民間文芸とはどのようなものか(民間文芸の特質と種類)	アンケート実施
昔話その1(昔話の概要・分類について、本格昔話とはどのようなものか)	
昔話その2(本格昔話その1)	異界体験が幸福を呼ぶ本格昔話
昔話その3(本格昔話その2)	異界の者との結婚を語る本格昔話・アンケート実施
昔話その4(笑話について)	
昔話その5(動物昔話について)	アンケート実施
昔話その6(口承文芸としての昔話の特徴)	
昔話その7(昔話が語られつづけてきた理由)	昔話の魅力の深層・アンケート実施
世間話その1(世間話の概要、近代までの世間話)	
世間話その2(口承文芸としての世間話の特徴、現代の世間話)	現代伝説としての世間話
伝説その1(伝説の概要・分類、口承文芸としての伝説の特徴)	アンケート実施
伝説その2(具体的な伝説の諸相、伝説の傳承と伝播)	
語り物(語り物の概要、具体的な語り物の諸相)	
記載文芸と民間文芸の関わり・全体のまとめ	アンケート実施

テキスト

特に使用しません。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
日本の民話を学ぶ人のために	福田晃、他 / 世界思想社 / 4-7907-0839-X
昔話とは何か	小澤俊夫 / 福武書店 / 4-8288-3151-7
昔話伝説必携(別冊国文学NO.41)	/ 學燈社 /
民間説話 日本の傳承世界	福田晃、他 / 世界思想社 / 4-7907-0346-0
民話の世界(日本文学研究資料新集10)	飯島吉晴・編 / 有精堂 / 4-640-30959-7

参考書は講義の中でも折に触れ紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2~8

担当教員 福田 晃

講義内容・テーマ

<テーマ>民俗学とは何か

<講義内容>民俗学は、民間伝承(民俗)を通して、日本人固有の精神構造を究明しようとする学問である。本講では、その民俗学の考え方を具体的に紹介して、民俗学の意義を明らかにする。(随時、ビデオを使用する)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

民俗学関連の書物を読んでみる。また伝承のフィールドワークの体験を試みてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	フィールドワークの報告。民俗に関する考察をまとめる。
日常点(小テスト)	15 %	2~3回、質問、感想を書いてもらう。それも評価に加える。
その他	15 %	常時、出席が望ましい。これも評価に加える。

講義スケジュールテキスト

なし(参考書利用)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	宮下 晋吉				

講義内容・テーマ

「IT革命」「モバイル革命」が云々され、携帯電話やデジタルハイビジョン放送など技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、検討しつつ、中世のグーテンベルクの活版印刷術から今日のインターネットやモバイル、コピキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのか、を具体的に明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、および講義資料(図版、および文献資料)を配布する。ときには、ビデオ教材も用いる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	マクルーハンなどのメディア論、メディアとメディア技術、社会の関わりについて(30%)、各メディア技術が、いつ、誰によって、どのようにして発明され、いかなる意味をもつかについて(50%)
日常点(小テスト)	20 %	出席、もしくは小テスト、コミュニケーションペーパーによる

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
メディア・技術・社会 メディア技術史とは、S.ジョブズとパソコンの未来	メディアとは、メディア・メディア技術・社会三者の関係をめぐって、水越伸の『ソシオ・メディア論』、S.ジョブズ
グーテンベルクの銀河系(その1) マクルーハンのメディア論、「42行聖書」をみて考える	「42行聖書」とは、ドヒニー聖書とブルゴス聖書、マクルーハンと主要著作、そのメディア論の特徴
グーテンベルクの銀河系(その2) 「印刷革命」をめぐって、グーテンベルクと活版印刷術の発明	それ以前 紙、手写本、木版、グーテンベルクの生涯、「ヘルマスベルガー文書」と発明の経緯、活版印刷術とは、その社会的受容の速さとその意味
テレコミュニケーションの誕生 腕木式通信機から電信と海底ケーブル、電話の発明まで	フランス革命と「テレグラム」、C.シャップと腕木式通信機、電信、S.F.B.モールスとドットとダッシュの高速通信を可能とする自記印字式電信機、大西洋横断海底ケーブル、ベルトグレイによる電話の発明
テレコミュニケーションの発達 成立と無線電信技術の発明	19世紀における電磁気学の成立、ファラデーからマックスウェルまで、エーテルと電磁場、電磁波、H.ヘルツと電磁波の発見、無線電信の発明、O.ロッジとA.S.ポポフ、G.マルコーニ
複製技術と大衆社会(その1) 発明王エジソンをめぐって、フォノグラフからグラモフォンへ	複製技術とは(「アウラ」の消失)、フォノグラフ、T.A.エジソン、メンロパークからウエスト・オレンジ・ラボへ(「発明会社」)、E.ベルリナーとグラモフォン
複製技術と大衆社会(その2) 写真術の発明、フィルムとカメラの世界史、映画の発明まで	映像とは、近代写真術以前(カメラ・オブスキュラ等)、写真術の発明、J.N.ニエプス、L.J.M.タゲール、W.H.F.タルボット、フィルムとカメラの世界史、映画の発明、リュミエール兄弟
マス・メディアの生成 ラジオ・電子技術の発達と放送産業の成立	ラジオとは(「第三帝国の同調装置」!!)、ラジオ技術とは、真空管、R.A.フェッセンデン、L.D.フォレスト、二極管と三極管、定時放送の開始
マス・メディアの発展 テレビ技術の発達と放送産業の発展	テレビとは(「電子暖炉」!!)、前史(光電効果、ニブコー円板とブラウン管)、高柳健次郎ら機械式テレビ技術から電子式テレビ技術へ、W.K.ツウォリキン、アイコノスコープ(撮像管)発明
コンピュータの誕生 コンピュータの起源、ノイマン型コンピュータの誕生	計算の道具と機械、統計機とIBM、コンピュータへ(ENIACなど)、フォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
シリコンバレーの一粒の麦 電子部品の発達、トランジスタからIC、マイクロプロセッサまで	トランジスタの発明、シリコンバレーとは、アメリカ半導体の父R.ノイス、集積回路(IC)の発明、嶋正利とF.ファジン、マイクロプロセッサの発明
パーソナルメディア技術と社会 パソコンの発明、インターネットヒストリー	E.ロバーツ、ビル・ゲイツ、S.ジョブズ、パソコンの発明、V.ブッシュの構想、インターネットヒストリー、ARPAnet、TCP/IP、WWW、M.アンドリーセン
コピキタスとコピキタス社会、あるいはモバイル社会 コンピュータと人類の未来を考える	コピキタスとは、M.ワイザー、坂村健、組み込みコンピュータとトロン、ICタグ、RFID、電話からケータイへ、「スマートモブズ」が「ケータイを持ったサル」か
マクルーハン再論 メディア技術と社会	マクルーハン再論、マクルーハンのメディア論の起源、L.マンフォードの技術文明史観、マクルーハンのメディア論の特徴、四時代説、マクルーハンを超えて
定期試験	

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
メディア論 人間の拡張の諸相	M.マクルーハン/みすず書房/ISBN4-622-01897-7
グーテンベルクの銀河系 活字人間の形成	M.マクルーハン/みすず書房/ISBN4-622-01896-9
複製技術時代の芸術1)	W.ベンヤミン/晶文社/ISBN4-7949-1266-8
新版電気の技術史	山崎俊雄, 木本忠昭/オーム社/ISBN4-274-12914-4
目で見るとデジタル計算の道具史 そろばんからパソコンまで	キドウェル, セルージ/ジャストシステム/ISBN4-88309-096-5

註1)「アウラの消失」としての複製論が展開されている「写真小史」を含む

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
20世紀のメディア エレクトリックメディアの近代	水越伸編/ジャストシステム/ISBN4-88309-081-7
グーテンベルク聖書の行方	富田修二/図書出版社/ISBN4-8099-0504-7 C0090
起業家エジソン 知的財産・システム・市場開発	名和小太郎/朝日新聞社/ISBN4-02-259771-2
ヨーロッパの写真史	横江文憲/白水社/ISBN4-560-03868-6
電子立国日本の自叙伝1-7	相田洋/NHK出版/ISBN4-14-084007-2他

マクルーハンについては、その他に、M.マクルーハン他『メディアはメッセージである』(河出書房新社)、W.T.ゴードン『マクルーハン』ちくま学芸文庫などがあり、ユビキタスとインターネットを含むコンピュータ史全般については、『NHK人間講座』2004年2-3月期のテキスト、坂村健『ユビキタス社会』がやってきた 人とコンピュータの未来』が最もわかりやすい。まと

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

とくにフォノグラフやキネマトグラフの発明者である発明王エジソンに関して、350万のエジソン文書がハイパーテキストとして、誰でも利用できる : <http://edison.rutgers.edu/papers.htm>

その他

連絡などはできるだけ授業の時教室で、質問等大歓迎です。その日の授業終了後私のところにどんどん来てください。またコミュニケーションペーパーを活用してください。

メディア社会論 S
 情報社会論 S
 情報産業論 S

12698

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:「メディアとデモクラシー」。現代は、地球上のどのような地域間でもただちに双方向通信が可能な時代である。高速通信技術と多様なメディアの発達により、人びとの自由で平等なコミュニケーションを実現させる物質的条件は整ったといえる。しかし、巨大に成長したメディア産業と市民社会の間には、公正・正義をめぐる多くの問題点が指摘されている。この講義では、こうした社会の情報化とそこに内在する諸問題を解説し、その解決の方向を検討する。なお、この講義の前半は、メディア史のかたちで進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科・現代社会学系・社会形成プログラムのみ3回生配当。1回生配当・学部共通入門科目「現代とメディア」の受講を希望する。メディア論を語るには、現代の世界秩序、あるいは公正とか正義という社会的価値について、より深く思索する必要があり、そうした問題にも言及したいと思う。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	基本的に定期試験をもとに評価する。
日常点(小テスト)	20 %	4回ほど、質問紙による応答を実施

* 定期試験として実施・講義期間中に小レポート・質問紙の提出を求める。評価は、定期試験(70%)、諸提出物(30%)の比重でおこなう。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
メディアと社会 社会情報・記号・言語	言語
新聞・雑誌と国民統合	言論の自由
電信・電話、写真・映画	国民統合
ラジオの時代	言論統制
テレビの出現 国境を越える映像	文化の多様化
衛星通信の時代 インターネットと携帯電話	マルチメディア
巨大メディア企業の情報支配	情報の偏在
メディア産業と広告	市場とメディア
パブリック・リレーションの変容	PR、広報、IT
女性、子供とメディア	反倫理的番組と報道
政治とメディア	監視と評論
メディアと公共性 バトル・フィールドとしてのメディア	世論形成
地域社会とメディア	フリーペーパー、双方向通信
グローバル化時代のメディア	多文化的統合

テキスト

・テキストは指定しない。毎回、レジユメを配布する。

参考書

・各講義ごとに適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

・各講義ごとに適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

この百年は映像の創出と発展の世紀であった。「メディア制作研究」では、写真にはじまり記録映画、映像ジャーナリズムにいたるドキュメンタリー領域の映像の発達と作品を検討し、さらに実際に制作・上映する場合を想定し、ドキュメンタリー制作のポイントや具体的な問題点を考えてゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
(1) いま、なぜ、誰に伝えるのか ~イラク戦争の映像から~	
(2) ドキュメンタリーを見る ex『クローズアップ現代』	
(3) 写真と映像の時代がやってきた	
(4) モンタージュの成立	
(5) ドキュメンタリー映像を拓いた人たち	
(6) 社会的映像とフォトジャーナリズム ~戦争写真家ロバート・キャパ伝説~	
(7) 映像ジャーナリズムの成立 ~開拓者エド・マロー~	
(8) 企画とリサーチ ~「瀋陽駆け込み事件」と『ピョンヤンの再会』~	
(9) 番組のディレクション (現場から)	
(10) カメラをどこにおくか ~『中学校保健室』から~	
(11) インタビューの醍醐味1『徹子の部屋』	
(12) インタビューの醍醐味2『ジェームズ・リプトン』	
(13) 再現・演出はどこまで『はげわしと少女』など	
(14) 私的ドキュメンタリーの可能性	

テキスト

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
映像メディアと報道	今村庸一 / 丸善 /
テレビの自画像	桜井均 / 筑摩書房 /
ドキュメンタリー映画の原点	谷川義雄 / 風涛社 /
ニュースキャスター エド・マロー	田草川弘 / 中公新書 /
映像学原論	植条則夫編著 / ミネルヴァ書房 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 奥村 信幸

講義内容・テーマ

ジャーナリズムの基本を理解したうえで、映像を使用したニュースの制作過程を実際に体験し
ニュースの分析力を高めることを目標とする。

公共性のあるテーマ選び、サブスタンスのあるニュースとは何かを踏まえて、取材、インタビューの手法や構成の基本、編集や演出の技術を学びつつ、1分から2分程度のニュース・ストーリーを完成させ、その制作過程から現在のテレビ・ジャーナリズムの抱える問題とその解決法を探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

定員は30名とする。受講希望者が定員を上回る場合は作文による選考を行う(テーマは追って提示する)

原則としてセミナー形式で行う。テーマ別の発表、取材作品の報告と意見交換を行う。

ビデオカメラ・編集ソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

ニュース番組を定期的に1番組は視聴し、その内容が説明できるようにしておくこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	小グループごとに設定された発表テーマについてのさらに分析、論評を加えたものを提出する。
日常点(小テスト)	60 %	小グループによるビデオ制作の過程や考察の内容で評価する。
その他	0 %	意味のある質問やコメント発言は積極的に評価する。

講義スケジュール内 容キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

テレビで使うことば、映像と補完しあうことば

何がニュースか？サブスタンスとは？

映像の基本(1)理論

映像の基本(2)実習

インタビュー取材(1)理論と技法

インタビュー取材(2)構成と編集

インタビュー取材(3)実習と討論、評価

構成、演出、理解してもらう工夫(1)事例研究

構成、演出、理解してもらう工夫(2)事例研究

ニュースとニュースショー + 実習中間報告

テレビ先進国アメリカの現状 + 実習中間報告

マルチメディア・モバイル技術と映像メディア

作品発表とまとめの討論(1)

作品発表とまとめの討論(2)

テキスト

特に指定しないが、授業の最初の日にリーディング・アサインメントを指定する。

参考書

特に指定しないが、授業の最初の日に指定する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 神保 哲生

講義内容・テーマ

メディア制作研究 SCとII SCでは、テレビニュース制作の実際を学びます。ここでは一通りテレビ制作の基礎を習得した上で、受講者自らが映像レポートの企画から取材、撮影、制作、そして番組化に至るまで、テレビ制作の全工程を実際に行います。前期は主に撮影と編集の基礎を、後期には前期の応用を学んだ上で、最終的にはいくつかのグループに分かれた上で、グループ内で記者、ディレクター、キャスター、技術スタッフなどに役割を分担し番組を制作します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日ごろから何気なくみているテレビ番組を、自分が作り手のなったつもりで、より注意深く見ることが望まれます。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	制作した映像レポートの完成度、習熟度
日常点 (小テスト)	20 %	クラス内でのディベートへの参加度

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
カメラ操作	
取材のルール	
撮影の基礎	
表現意図	
ビデオジャーナリズム	
インタビュー	
取材	
紙編集 / 構成	
PC編集	
PC編集	
PC編集	
レポート発表	
レポート発表	
総括講義	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	ビデオジャーナリストの挑戦	神保哲生 / ほんの木 / 4938568608

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

メディア環境の急激なグローバル化、商業化の中で、テレビジャーナリズムも急速に変質してきた。ジャーナリズムの特権性や電波の独占的な免許は、その公正な情報伝達、環境監視機能や合意形成機能などの公共性に根拠をもつものであったが、近年こうした公共性は急速に崩れ、批判が強まりつつある。メディア制作研究 では、実際の事例を応用問題として、メディアにおける公共性とは何かをワークショップ形式を中心に学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
1、イントロダクション	(1)メディアの公共性とジャーナリズム
2、言論・表現の自由、知る権利、プライバシー	(2)君はダイアナを見たいか 市場とメディアの責任 (3)ロス疑惑事件をめぐって メディア・スクラム
3、災害報道のありかた	(4)外交官殺害写真の掲載をめぐって 権力の介入 (5)マスメディアのコミュニケーション・ギャップ (6)パブリック・ジャーナリズムの是非
4、青少年への影響	(7)メディアの暴力的な場面 (8)裸映像はどこまで規制すべきか
5、戦争報道をめぐって	(9)戦争とプロパガンダ ナチのメディア政策 (10)ベトナム戦争報道、湾岸戦争報道、イラク戦争報道 (11)残酷な映像のあつかい (12)権力のコントロールとのたたかい
6、ジャーナリズムの公共性	(13)ニュース番組におけるキャスター (14)各国の公共放送と日本の論点

テキスト

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄ほか / 世界思想社 /
戦争と放送	竹山昭子 / 社会思想社 /
日本のジャーナリズムとは何か	柴山哲也ほか / ミネルヴァ書房 /
テレビ・ジャーナリズムの現在	津田正夫ほか / 現代書館 /
神戸新聞の100日	神戸新聞社会部 / 神戸新聞社 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

テーマ:「現代広告計画論」

本講義では、企業およびその他組織が行う広告活動に則し、広告表現開発、媒体プラン等を作成できる知識の習得を目指す。企業のコミュニケーション活動に影響を及ぼす外部および内部的要因の分析から広告表現、媒体戦略、販売促進活動、イベントプランの立案まで幅広い内容をカバーし、グループ単位でトータル広告プランを立案しプレゼンテーションまで行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

理論的な説明後、グループでの作業が中心となる。最終のプレゼンテーションの他にも数回その回の内容についてプレゼンテーションを行い討議する。広告論を履修しておくことが望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	グループごとの広告プランの提出およびプレゼンテーションの内容で評価
日常点(小テスト)	20 %	授業中のプレゼンテーションや討議に参加したかなど、積極性について評価する。
その他	20 %	毎回出席を取り、出席の状況での評価も行う。

最終的なグループごとの広告プランの提出および日常での課題の取り組みで評価。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
広告活動に関わる内部・外部環境の分析	
広告を行なうブランドの分析、ポジショニング分析 / SWOT分析など	
ブランドを取り巻く課題の分析	
広告調査	
広告表現戦略析・クリエイティブブリーフの作成	
広告表現制作(TVストーリーボード等)	
媒体戦略立案	
販売促進戦略立案	
イベント・PR戦略立案	
広告予算の設定 / 広告スケジュールの立案	
トータル広告プランの整理	
プレゼンテーション	
プレゼンテーション	
全体的な講義の総括	

テキスト

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書

その都度、案内する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 神保 哲生

講義内容・テーマ

メディア制作研究は、テレビニュース制作の実際を学びます。ここでは一通りテレビ制作の基礎を習得した上で、受講者自らが映像リポートの企画から取材、撮影、制作、そして番組化に至るまで、テレビ制作の全工程を実際に行います。前期は主に撮影と編集の基礎を、後期には前期の応用を学んだ上で、最終的にはいくつかのグループに分かれた上で、グループ内で記者、ディレクター、キャスター、技術スタッフなどに役割を分担し番組を制作します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	作成する番組の完成度、習熟度
日常点 (小テスト)	20 %	クラス内のディベートへの参加度

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義	
---------	--

テレビニュース番組制作の基礎	
----------------	--

企画会議	
------	--

取材	
----	--

取材	
----	--

取材	
----	--

取材	
----	--

取材	
----	--

編集	
----	--

編集	
----	--

編集	
----	--

編集	
----	--

番組発表	
------	--

番組発表	
------	--

総括講義	
------	--

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ビデオジャーナリストの挑戦	神保哲生 / ほんの木 / 4938568608

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講義では、メディアに関連する調査について学習するが、メディア調査結果の読み方やそこに潜む政治性の発見、あるいは調査の方法論にも重点をおいてゆく。また、メディアが行っている調査を調査対象とすることで、調査する側とされる側の関係性や、メディアが調査した結果がメディアを通じて伝えられる意味を問い直してゆく。講義は大きく3つのパートに分かれている。パート1では、メディア調査の方法論を学ぶにあたって必要な理論の紹介、過去に行われたさまざまな調査事例を紹介する。パート2では、実際の調査に際しての技法として準備段階からメディア別の調査方法までをとりあげる。パート3では、世論調査や視聴率調査などメディアが行っている調査を分析し、読み解いてゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教科書は、特に指定しない。レジュメを使用し、適宜参考文献を紹介する。授業に遅刻する人が多いが、授業開始から30分でレジュメ等の配布を中止する。以後、一切配布しないので、遅刻しないように。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	出題のうち、1問は筆答とする。

定期試験を実施

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
メディア調査を学ぶとは何か	
メディア調査の方法論1(理論を学ぶ)	理論とマス・メディア
メディア調査の方法論2(量的調査)	数量を調査・分析
メディア調査の方法論3(質的調査)	内容を調査・分析
メディア調査の方法論4(その他)	フィールド、インタビューなど
メディア調査の技法1(準備編)	調査の前に必要な事柄
メディア調査の技法2(放送編)	放送メディアを調査
メディア調査の技法3(通信編)	通信メディアを調査
メディア調査の技法4(活字編)	活字メディアを調査
メディアの調査を調査する1(世論調査)	世論調査を読む
メディアの調査を調査する2(視聴率調査)	視聴率調査を読む
メディアの調査を調査する3(新聞独自の調査)	新聞調査を読む
メディアの調査を調査する4(その他)	その他の調査を読む
まとめ メディア調査から見えるもの	

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講義は、認知心理学的な内容ではない。日常生活に組み込まれたメディアは「マス・メディア」という単層ではなく、さまざまなメディアが重なり合った重層性をもっている。加えて、われわれは、日常生活におけるメディアの存在を自明なことと認知している。なぜそのメディアが存在するかという理由を考える機会は少ない。そこで、メディアの存在という自明性を問い直すことで、われわれがメディアを認知する際のダイナミクスを考察する。そのために、この講義では「マス・メディア」ではなく「ローカル・メディア」を扱う。普段意識されない「ローカル・メディア」を扱うことで、メディアの自明性を考察し、ひいては「マス・メディア」の存在も問い直すことができるからである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教科書は、特に指定しない。レジュメを使用し、適宜参考文献を紹介する。授業に遅刻する人が多いが、授業開始語30分でレジュメ等の配布を中止する。以後、一切配布しないので、遅刻しないように。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	出題のうち、1問は筆答とする。

* 定期試験として実施

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
イントロダクション メディアの存在と自明性	
災害とローカル・メディア NHKとコミュニティFM	災害と地域メディア
デジタルから個人まで ローカル放送	地方放送局
温泉地から放送の最先端へ ケーブルテレビ	デジタル放送とケーブルテレビ
離島から北海道まで ローカル新聞	地方新聞
個人通信から新聞まで ミニコミとフリー・ペーパー	活字メディア
最も小さな情報伝達手段 回覧板と掲示板	地域情報
ビデオカメラと表現の場 映像表現とカフェ放送	映像個人メディア
声が生み出す力 ミニFMとインターネット・ラジオ	音声個人メディア
メディアの作り方 NPOとローカル・メディア	メディア事業
個人が生み出すメディア 有線放送(共同聴取)	ローカル・メディア史
離島に残るローカルな個人放送局 親子ラジオ	沖縄のローカル・メディア史
もうひとつの放送と電話の歴史 有線放送電話	ローカル・ハイブリッド・メディア史
まとめ ローカル・メディアから見たメディアの存在	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄 / 世界思想社 /
地域文化の社会学	井上俊 / 世界思想社 /

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄編 / 世界思想社 /
地域文化の社会学	井上俊編 / 世界思想社 /

その他、授業中に随時提示する。

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ****その他**

メディア表現論 S
ルポルタージュ論 S

14750

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

本講義では、映像メディアの一つである映画をとりあげ、その発展の歴史に沿いながら、映画の表現様式と映画の表現が生成する社会的意味について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的には講義形式で行うが、随時テーマに関わる具体的な映画テキストを示しながら、授業を進める。映画が見られるという安易な考えで受講しても、楽しいばかりの作品ではないので、登録の際、よく検討してほしい。特に、他の受講生への迷惑もあり、遅刻については厳しく対処するので、30分を超えた遅刻の場合は入室を遠慮してほしい。私語など、受講態度のよくない者については学生番号と名前の提示を求め、評価に反映させる、あるいは悪質な場合は退室してもらい、今後の受講を認めない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	期末レポート(5000字)
日常点(小テスト)	30 %	授業中に数回の受講エッセイを課す

受講エッセイが半分以上提出されていない者は、期末レポートの提出の資格がないものとする。受講者の人数によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合は授業中に知らせる。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
映画の歴史とは？ シネマトグラフからサイレントへ	シネマトグラフ
映像の文法1 例)『サイコ』	映像・記号・言語
映像の文法2 例)『戦艦ポチョムキン』	モンタージュ
1920年代のフランス映画 例)『アンダルシアの犬』	第七芸術論
ドイツ表現主義 例)『カリガリ博士』『メトロポリス』	ウファ
プロパガンダと映画1 例)『民族の祭典』	レニ・リーフェンシュタール
プロパガンダと映画2 例)『汝の敵を知れ』	ハリウッドと戦争
プロパガンダと映画3 例)『戦ふ兵隊』	国策映画
イタリアのネオレアリズモ 例)『戦火のかなた』	ロッセリーニ
日本映画の1950年代 例)『東京物語』	小津・黒澤・溝口
フランスのヌーヴェル・ヴァーグ 例)『勝手にしやがれ』	カイエ・デュ・シネマ
アメリカン・ニューシネマ 例)『俺たちに明日はない』	プロダクション・コード
1980年代以降の中華電影 例)『紅いコーリャン』	香港・台湾・中国映画
1990年代以降のアジア映画 例)『八月のクリスマス』	韓国・イラン・インド映画

テキスト

特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『映画の教科書』	ジェームズ・モナコ / フィルムアート社 /
『映画映像史』	出口丈人 / 小学館 / 4093874859
『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』	増田幸子 / 大阪大学出版会 / 4872591771

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 小泉 秀昭

講義内容・テーマ

テーマ:「現代広告論」

本講義では、広告論での広告の基礎知識を前提として、広告の文化的側面、グローバルな視点での広告、また広告メディアなど幅広い内容をカバーする。文化的側面での解説では比較的数多くビデオテープを使用し、実際のTV広告等を鑑賞し、自分の目で広告の良さを判断することも学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ鑑賞後の各自での評価など、短い課題の提出を求める。基本的に広告論を履修していることが望まれる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	教科書およびノートなどの持込は不可
日常点 (小テスト)	30 %	不定期に授業内で課題を課し、各内容の理解度を判断する
その他	10 %	受講姿勢など

定期試験と授業内の課題等で総合的に判断する

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
江戸時代の広告	
明治・大正・昭和初期の広告	
1970年代以降の広告	
昭和・平成の秀作TVCMを分析する	
グローバル広告とは / カンヌ映画祭の受賞作品の解説	
広告業界のゲストスピーカーによる講義	
TV・ラジオ媒体について	
視聴率を考える	
新聞・雑誌媒体について	
広告効果測定に関する理論	
広告の制作現場とは	
広告の自主規制と法規制	
広告主と広告代理店の新しい関係 / 広告代理店の報酬制度	
講義の総括	

テキスト

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書

その都度、案内する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

メディアリテラシー論 S
 メディア・リテラシー論 S
 メディア・リテラシー論 G

12762

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

今日のメディア社会を主体的に生きるうえで不可欠な能力といえるメディア・リテラシーとその取り組みについて、理論に基づいて体系的に学ぶ。とくに本科目では、メディア・リテラシーの目標、基本概念、メディア研究モデル、学びの場のつくり方、などの基本的枠組みを自ら行うメディア分析を通して実践的に理解し、メディアの社会的文脈を批判的かつ主体的に読み解くことができるようになることに力点を置く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア・ログ(メディア分析レポート)の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	授業の前半で1本、後半で1本の計2本を提出する
日常点(小テスト)	40 %	授業への出席、グループ分析活動への参加度

* 日常点評価

評価は授業への出席・グループ活動などへの参加の度合い(40%)、授業中に課すメディアログ(30%×2=60%)による。なお個人で提出するメディアログ(メディア分析レポート)は、授業の進行に沿って随時だす課題のなかから選び、授業の前半で1本、後半で1本、計2本を執筆し、原則として、それぞれの課題ができる翌週に提出すること。(メディアログの書き方:A4でヨコ書き、ワープロ入力、枚数は自由)

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
Introduction / メディア社会を生きる私たち: 授業の組み立て / 評価方法 / 教科書・参考書、など / メディア社会のいま / メディア・リテラシー研究の歴史的背景 / 「私とメディア、私たちとメディア」	メディア社会
メディア・リテラシーをどう学ぶか: メディア・リテラシーの目標と定義、基本概念 / メディア研究モデル / 学びのスタイル	メディア・リテラシーの基本概念、メディア研究モデル、学びのスタイル
メディアはどう構成されているか: リプレゼンテーション / メディア分析1: メディアはどう構成されているか / メディアログ課題1	リプレゼンテーション
メディアが構成する「現実」(1): メディア分析2. メディアが構成する「現実」とは?	ニュースメディア
メディアが構成する「現実」(2): オーディアンズ / 「エンコーディング / デコーディング」モデルについて / メディア分析2 (つづき) / メディアログ課題2	オーディアンズ
メディアの広告機能とメディア言語: メディア分析3: テレビCMを使って映像言語を学ぶ	メディア言語、映像言語
広告がつくりだす文化: メディアの広告機能について / 広告文化について / メディア分析4. イメージと価値観の販売 / メディアログ課題3	広告、テレビCM、広告文化
広告がつくりだす文化とアクティブ・オーディアンズ: オーディアンズとは誰か? 消費者vs. アクティブ・オーディアンズ / メディア分析5. カルチャー・ジャマー / メディアログ課題4	アクティブ・オーディアンズ、カルチャー・ジャマー
メディアの表現と価値観・イデオロギー(1): 「ジェンダーとメディア」をめぐる国連を中心とする世界の動き、研究の系譜 / メディア分析6. ジェンダーをどう読み解くか	ジェンダー、GMMP
メディアの表現と価値観・イデオロギー(2): メディアの産業構造とジェンダー / メディア分析6 (つづき) / メディアログ課題5	ジェンダー分析、メディア産業構造
地球市民: 子どものメディア環境を考える(1): 「メディアと子ども」をめぐる議論と研究のグローバルな展開 / メディア分析7. 子どもオーディアンズとメディア環境	地球市民、メディア環境
地球市民: 子どものメディア環境を考える(2): 制度としてのメディア / メディアをめぐる社会的規律 / オーディアンズの申し立て / 自主的規律 / メディアログ課題6	社会的規律、自主規律

コミュニケーションをつくりだす(1):メディア分析8「人種差別を止めよう! PSA」メディアログ課題7 C = C、PSA

コミュニケーションをつくりだす(2)/全体のまとめ メディアログ課題7の提出日

テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
『新版Study Guideメディア・リテラシー[入門編]』(2004)	鈴木みどり/リベルタ出版/4-947637-59-5

参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
『Study Guideメディア・リテラシー[ジェンダー編]』(2003)	鈴木みどり編/リベルタ出版/4-947637-80-3
『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編/世界思想社/4-7907-0896-9
『新版メディア・コミュニケーション論』、	竹内郁郎、他編/北樹出版/

他は授業の流れのなかで随時、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

メディア・リテラシーの世界(Media Literacy Project in Japan)<http://www.mlpj.org/>
Media Awareness Network (Mnet) <http://screen.com/mnet/eng/>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

この講義では、メディアを、人が、集団もしくはシステムを形成する際の不可欠の媒体として考えて行く...と言うと大げさなのだけれども、要するに、太古の時代、我々の祖先が肉声で情報を交換し、その肉声が届く範囲で一つの集団を作ったのに始まって、新たなコミュニケーション・メディアが出現する毎に、人が形成する集団の規模も形態も、大きく変わって行ったのであって、まずは、その歴史を簡単に辿った上で、可能な限り、技術的な専門用語を敬遠しつつ、現代社会という一つの巨大なシステムと、その統合に不可欠な媒体としての、通信・情報メディアとの関係、そしてその狭間に浮遊する我々の存在について論じたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報、メディア系の講義を他にも聴いているにこしたことはないが、予備知識がなければ理解出来ない講義にはしない。ただし、1.歴史、とりわけ近代から現代の歴史に興味を持ち、2.マクルーハンが「メディア論」で、どんなことを言っているか(表現はユニークだが内容は難解)、知っていると思えると思う。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	複数出題から一問選択の記述問題(の予定)

* 定期試験として実施 講義内容をよく記憶していることが証明されている答案もさることながら、加えて、ユニークな視点、着想を伴った論評が披露されている答案を期待する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
人だけが何故、言語を発達させ、社会を形成したのか?	ネアンデルタール人の絶滅
シンボルと表象	通信メディアの存在しない時代の遠距離恋愛
宗教的シンボルと政治	命令・服従の根拠
文字と古代国家	人の記憶力と情報の保存
古代社会の統合媒体としての宗教的シンボルの限界。	
貨幣として蓄積される富の意義/その昔、富には賞味期限があった。	賞味期限のない富
システム統合の媒体としての貨幣	交通・通信革命
通信革命が引き起こすシステム革命	信長の鉄砲の三段撃ちは不可能
近代的システムの原型としての「工場」/時計というメディア	同期化(シンクロナイゼーション)
オンライン・コミュニケーションの三要素	端末・メディア・ID
ハイテク戦争とバーチャル・リアリティー	コミュニケーションの省略
コンピューター開発の経緯	通信と情報処理
コンピューター開発の経緯	ピラミッドとインターネット
定期試験	

テキスト

テキストは使用せず、詳細な資料を配付し、これに基づいて、講義を進める。ただし、これは教科書とは位置づけでないし、また、資料を棒読みするような講義もするつもりはない。資料とは楽譜のようなものであって、楽譜を見るだけでメロディーが鑑賞できる人は限られており、普通は、メロディーを聴いたことがあるから、楽譜が分かるのだということ、言うまでもないことだが、一応、言うておく。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
歴史のなかのコミュニケーション	デイヴィッド・クローリー、ポール・ヘイヤー編 / 新曜社 /
メディア論	吉見俊哉・水越伸 / 放送大学教育振興会 /
メディア・スタディーズ	吉見俊哉編 / せりか書房 /
古いメディアが新しくなった時	キャロリン・マーヴィン / 新曜社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ: 民衆の「余暇」活動と権力との関係

不幸にして「余暇」と訳されてしまった狭義の非労働時間は、この言葉から派生するやや消極的な意味とは裏腹に、われわれの生活に固有の意味を付与する非常に大きな価値をもっているように思われる。なぜなら「余暇」を欠落させた生活を考えることは、現状ではもはやリアリティを欠いているからである。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が娯楽性のみならず、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。実は、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理してゆくのかは国家をはじめとした諸権力にとっても非常に重要な課題であったのである。本講義では広範囲にわたる「余暇」活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するための講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	定期試験では知識を問う問題と論述問題を併用する。
レポート	15 %	講義のなかで数回に1度、ミニレポートを書いてもらうことになる。
日常点(小テスト)	20 %	中間試験ではあらゆる持ち込み物件を許可する。
その他	15 %	受講生の自学・自習の成果を評価する。

* 定期試験として実施

評価は基本的に定期試験の結果による。また中間試験を行う。基準は講義についての知識ならびに内容に関する自己の理論展開である。また、それぞれの講義のセクションごとにミニレポートを書いてもらい、それを評価の対象としたい。このミニレポートの評価基準はレポートの提出回数を基本とする。さらに、講義以外での自学・自習点を評価に加える。

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
講義の進め方、受講に際しての確認事項	講義の進め方
近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : 民衆娯楽の世界 賭け、闘鶏、ボクシング	民衆娯楽
近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : 福音主義と娯楽の合理化、動物愛護協会の活動	合理的娯楽
近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : カウンターアトラクションとしての合理的娯楽運動	労働者文化
<ビデオ鑑賞: プラス>	プラス
フットボールの社会史: マスフットボールから近代サッカー、アスレティズム	フットボールの社会史
ドイツにおけるアソシエーション : 都市の生活とアソシエーションへの期待	アソシエーション
ドイツにおけるアソシエーション : 男性合唱協会、体操協会、自主消防団の活動 <CD-Rom: 体操協会>	体操協会、自主消防団
ファシズムと娯楽: 「ドーボラボーロ」と「歡喜力行団」	ファシズムと娯楽
中間試験	
日本における「公と私」関係の推移と余暇・スポーツとの関係	公と私
近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : 運動会の社会史	運動会の社会史
近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : スポーツの政策化と娯楽の管理と統制そして逸脱	民衆文化
講義のまとめ	

テキスト

特に使用しない。その都度、参考文献などの情報を受講生に提供する。

参考書

<u>書名</u>	<u>著者/出版社/ISBNコード</u>
英国社会の民衆娯楽	R. マーカムソン / 平凡社 / 4-582-47325-3
近代ヨーロッパの探究8 スポーツ	有賀郁敏他 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03509-3
運動会と日本近代	吉見俊哉他 / 青弓社 / 4-7872-3167-7
近代日本スポーツ史の底流	高津 勝 / 創文企画 /
スポーツと教育	O. グルーベ / ベースボールマガジン社 / 4-583-03612-4

この他の参考文献については、講義の折に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義の場で必要に応じて紹介する。

その他

・シラバスを変更することがあるが、その場合は事前に受講生に説明し、了解を取る。

余暇論 S
現代余暇論 S

14532

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 棚山 研

講義内容・テーマ

本講義では、近年の余暇活動の全体的状況を概観し、さらにグリーンツーリズムや「まちづくり」活動などの「新しい余暇活動」に注目していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される「労働」の現代的なあり様について論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業では簡単に触れるに留めるが、何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。他の授業などを通じて、労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。また、3回生以上の受講生は「余暇・スポーツ史」の授業も参考になる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施 基本は定期試験(試験期間中)のみで評価する。その他、学生参加の授業形態を予定している。授業中、希望者を募り「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける。発表した人には、原則として単位認定する予定。第1回目の授業で希望者を募り、報告日程を決める(日程は講義日程後半に設定する)。詳しくは授業中に説明する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
余暇論の概略・コンセプト 余暇の人間の意義について	肉体的疲労 精神的疲労 レクリエーション
古代・中世的余暇と近・現代的余暇 余暇を論じることの文化的・未来社会論的意義	スコレー、オティム、ハイカルチャー 消費文化 フォーディズム
現代日本の余暇活動(1) 労働時間問題を国際比較を中心に	年総労働時間 週休2日制 有給休暇
現代日本の余暇活動(2) 余暇活動の実態と余暇に関する意識	
現代日本の余暇活動(3) レジャー産業の動向から見る	「薄利多売」
日本における余暇政策の展開	「36協定」「前川リポート」 リゾート・ブーム バカンス
現代日本の余暇活動(4) 「新しい余暇活動」のトレンド、「レジャー白書」から読み取れるもの	「スロー」「ファスト」IT化 地域
「新しい余暇活動」について(1) グリーンツーリズムをめくって	農村 都会 農業 食糧 地域振興 産地交流
「新しい余暇活動」について(2) 「まちづくり」など「社会性余暇」と呼ばれるものを中心に	ボランティア 公共事業 地域資源
「新しい余暇活動」について(3) 「新しい余暇活動」と市民社会	「縁」 楽しみ 公共性
「余暇社会」の可能性について考える 環境問題、情報化との関わりで	想像力
まとめ	

テキスト

使用しない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
余暇生活論	一番ヶ瀬康子ほか / 有斐閣 /
自由時間	内田弘 / 有斐閣 /
大真面目に休む国ドイツ	福田直子 / 平凡社(新書) /
『レジャー白書』2001、2003年版	社会経済生産性本部編 / /

既に絶版だが、佐藤誠『リゾート列島』岩波新書、も参考になる。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適宜紹介する。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程をライフサイクルの各ステージに沿って概説し、心理・社会的存在としての人間理解を深め、人間の一生について総合的に考察する。とくに、各段階の心理的危機とその克服過程について論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマを設定して、レポートを書いてもらうことが多い。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	レポート等の提出が無く、試験だけ受けても、合格点に満たない場合があります。
レポート	20 %	数回、レポートを書いてもらいます。
日常点(小テスト)	20 %	コミュニケーションカードで出席把握をし、評価に加えます。
* 定期試験として実施 数回のレポートと出席状況(40%)、定期試験にて(60%)評価する。		

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
ライフサイクルとは何か	人生周期
愛着関係の発達その1	自発的微笑、社会的微笑
愛着関係の発達その2	基本的信頼感の形成、アタッチメント
幼児期前期の発達課題と心理的危機	自我の芽生え
幼児期後期の発達課題と心理的危機	自制心の育ち
学童期の発達課題と心理的危機	学校生活、ギャングエイジ
思春期、青年期一内面の深まりと自分との出会い	アイデンティティの形成
青年期の親との葛藤と自立	侵入する母、親からの自立
レビソンの成人期の発達	生活構造の変化
成人前期の発達課題	育児期の女性の生き方、職業選択、結婚、出産
中年期の心理的特徴ー中年期の心身の変化	人生の転換期、衰退と充実
中年期の諸相、アイデンティティの問い直し	仕事と家庭、ボランティア、空の巣症候群
ライフサイクルの中の老い	老いの受容、人格の統合、絶望
まとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
子育て支援の現在	垣内国光・櫻谷真理子 / ミネルヴァ書房 /

とくに定めない。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

自己決定の尊重、生活の質(QOL)の確保、市民社会の自律性、NPO・NGOへの期待、公共圏の再構築、持続可能な社会創造など、生活の仕方や価値にかかわる新しい問題群が、新社会システム形成と関わって議論された。一言でいえば、多様なレベルの協働の創造である。新しいライフデザインを模索する問題群を扱いながら、人間の生き方や他者との関わり方が変容する時代の「A Way of Life」の諸相を明確にする。特に、ケアリングをめぐる問題群を主題として具体的な課題を扱う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の流れに即して解説を行う。ライフデザイン論は新しい分野なので、定型的な知識や体系化された知識が出来上がっているわけではない。ノートを取ることを基本にして講義を進める。資料など必要なデータは適時配布する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点(小テスト)	30 %	

試験を実施する。途中、3回小レポートを実施する。これは日常点として成績評価に反映させる。

講義スケジュール

テキスト

なし

参考書

担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社)、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』(ダットン著中村正訳、作品社)、『京都発NPO最前線』(京都新聞社)、『家族の暴力をのりこえる』(かもがわ出版)などがある。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義のなかで紹介する。

その他

リハビリテーション論 S
リハビリテーション論 S

14735

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 宮崎 博子

講義内容・テーマ

リハビリテーションは、理想的には「全人的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあつて、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義の時に提示する。以下に記載するのは講義の基本的内容であり、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細はこの通りではない(暫定版)。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	
定期試験として実施		

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
リハビリテーションと障害(総論)、本講義の詳細なスケジュールを提示します。	
脳卒中のリハビリテーション	
脊髄損傷および脊髄疾患のリハビリテーション	
リウマチおよび骨関節疾患のリハビリテーション	
脳性麻痺および小児のリハビリテーション	
神経筋疾患のリハビリテーション	
切断のリハビリテーション	
内部障害のリハビリテーション	
精神障害者、高齢者のリハビリテーション	
職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション	
教育的リハビリテーション	
介護保険とリハビリテーション	
トピックス	
試験	

テキスト

なし。必要なプリントをつくります。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
リハビリテーション医療入門	/ 医学書院 /
目で見るとリハビリテーション医学 第2版	/ 東京大学出版会 /
脳卒中のリハビリテーション	/ 医歯薬出版株式会社 /
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	/ 南江堂 /
嚥下障害ポケットマニュアル	/ 医歯薬出版株式会社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

臨床の現場がたくさんある。心理相談、福祉援助、医療・看護、臨床教育、障害者援助などだ。こうした人々の営為に社会学はどのように貢献できるのか。社会行動や相互作用の諸過程を分析する社会学の方法は臨床実践に「関係性」という射程をもって接近できるだろう。だからその射程は社会それ自体の病理性をも扱うこととなる。こうした広がりの中で臨床実践を把握する。可能な限り多くの主題を扱いながら、臨床社会学の基本的考え方について講義していきたい。社会病理の時代をいかにのりこえることができるのかについて考えるための講義としたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の流れに即して解説を行う。臨床社会学は新しい分野なので、定型的な知識や体系化された知識が出来上がっているわけではない。ノートを取ることを基本にして講義を進める。資料や視聴覚教材などを用いて分かりやすくすすめる。講義に必要なデータは適時配布する。社会病理現象を対象にしているため、その都度、素材となる事例を最新のものにしていきたい。講義の流れで予定している内容が変更されることもありうる。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
日常点 (小テスト)	30 %	

試験をおこなう。講義の進行にあわせて、途中2回の小レポートを実施する。これは日常点として扱う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
導入	
臨床社会学の対象	羅生門の現実、社会構築主義、行動化、相互作用
臨床社会学の方法	逸脱行動、境界性、マージナル、社会規範、社会秩序
社会的相互作用と行動問題	社会的自己、関係的自己、行動問題
関係性の病理と相互作用	パッシング、スティグマ、ラベリング
臨床社会学の視界1 - いじめと共同性の病理	いじめ、同調、沈黙する第三者
臨床社会学の視界2 - アディクションと生き方	依存症、共依存、12ステップ
臨床社会学の視界3 - ジェンダーの病い	ジェンダー、構造的暴力、
臨床社会学の視界4 - ひきこもりと脱青年期	脱青年期、社会的ひきこもり、就労支援、自立
臨床社会学の視界5 - 家庭内暴力と親密圏	子ども虐待、ドメスティック・バイオレンス、老人虐待者、親密圏
臨床社会学の視界6 - 修復的司法と少年非行	被害者の権利、厳罰化、修復的司法
臨床社会学の視界7 - 治療共同体と更生援助	治療的司法、更生、ハーフウェイハウス
臨床社会学の視界8 - 社会的差別・排除とソーシャルインクルージョン	社会的差別、インクルージョン
臨床社会学の理論問題	逸脱社会学、集合表象
まとめ	

テキスト

なし

参考書

担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』（人文書院）、『「男らしさ」からの自由』（かもがわ出版）、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』（作品社）、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』（ダットン著中村正訳、作品社）、『家族の暴力をのりこえる』（かもがわ出版）、『京都発NPO最前線』（京都新聞社）などがある。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業のなかで随時紹介する。

その他

社会病理現象に関しては新聞などをよく読むことを薦める。しかし、メディアの社会病理の扱い方に関しては批判的に位置づけることが必要だ。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 有賀 郁敬

講義内容・テーマ

講義のテーマ: 歴史における民衆と身体文化、シンボルと記憶、公と私

本講義では数ある歴史事象のなかから、身体文化をめぐる問題を題材に数名の歴史上の人物を選びだし、これらの人物が時代のなかでなした営為について、その歴史的な意味を考察していく。また同時に、通常、歴史叙述には固有名詞としてはほとんど登場しない社会の下層階級、女性など、総じて民衆と言われている人々の活動にも光をあて、こうした人々の歴史における意義も併せて考えてみたい。また、歴史のなかでシンボルや記憶が果たす役割についても考察する。近年、公と私の問題が様々な領域で議論されているが、本講義では歴史のなかで公と私の問題が、どのように理解されてきたのかについても論及する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生に対しては参考文献の他に、講義のなかで相当数の資料を提供することになるが、受講生にはこれら資料を事前、事後に精読してもらいたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	15 %	講義のなかで書いてもらうミニレポート
日常点(小テスト)	50 %	中間テスト、最終講義日テスト
その他	35 %	自学・自習の成果物

自学・自習に関しては、上で記した講義資料や参考文献などの感想あるいは講義テーマと関連し受講生自らが収集した資料などの検討が考えられる。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

オリエンテーション: 講義の進め方、受講生との確認事項

プラトンと身体文化: 「身体と知と道徳」

ヨーロッパ啓蒙主義における身体文化

ヨーロッパ啓蒙主義における身体文化

歴史におけるシンボルと記憶: モニュメント、祭典

アソシエーションの歴史と公共圏

中間試験

日本における公私観念の変遷

近代日本の国家と身体 : 「産育」から「教育」へー近代学校の誕生

近代日本の国家と身体 : 森有礼の権力のテクノロジー

ビデオ、スライド・運動会について

戦間期から現代における身体観: 総力戦と体力、身体ブーム

近代日本の国家と民衆文化: 通俗道徳、民衆娯楽

まとめ、最終講義日試験

テキスト

特に使用しない。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
古代オリンピック	桜井万里子編 / 岩波新書 / 4-00-430901-8
<方法>としての人間と文化	佐藤嘉一編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03992-7
スポーツと人間	O. グルーベ / 世界思想社 / 4-7907-1087-4
日本の近代化と民衆思想	安丸良夫 / 平凡社ライブラリー / 4-582-76306-5
啓蒙の世紀と文明観	弓削尚子 / 山川出版 / 4-634-34880-2

上記の参考文献に関しては、その都度、受講生に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

シラバスを変更することがあるが、その場合、受講生に事前に連絡し、了解をとる。

老人福祉論 S
老人福祉論 S
老人福祉論 SG

10656

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。「若い」を想像し、自分の問題としてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	10 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

* 定期試験として実施 定期試験及び講義の中で課す小レポート、出席点などによる総合評価

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

高齢者福祉の考え方

人口高齢化と高齢者問題の予見

家族変化と高齢者問題の現出

高齢者福祉制度の成立

高齢者福祉制度と福祉見直し論

高齢者福祉と在宅福祉の考え方

高齢者福祉と在宅福祉の展開

高齢者福祉と施設

高齢者福祉と地域

高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略

高齢者福祉と介護保険の成立

高齢者福祉と介護保険の問題点

高齢者福祉と介護保険の課題・展望

高齢者福祉の未来

テキスト

とくに定めない

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
社会福祉士養成講座(第2巻)「老人福祉論」	/ 中法法規出版 /
最新介護福祉全書(8巻)「老人の心理と援助」	/ メジカルフレンド社 /
体験ルポ世界の高齢者福祉	山野井和則 / 岩波新書 /
高齢者医療と福祉	岡本祐三 / 岩波新書 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

労働社会学 S
労働社会学 S

12803

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

21世紀になったのに日本の経済と社会は長い低迷の中にあり、失業、リストラ、就職難、フリーターの急増など、人々の仕事や働き方には大きな変化と問題が生じている。講義の内容は大きく2つの部分に分かれる。前半は最近の変化の理由や原因とそこから生じている新しい現象について考える。後半は君たちが仕事に就いたときに会う「サラリーマン生活」の仕組みについて考える。講義を通じて働くことの意味、自分自身のキャリア形成、仕事に取り組む基本的志向(キャリア・アンカー)について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

労働、勤労、職業、仕事などさまざまな言葉があるが、個性を生かし、収入を確保し、社会に参加するには誰もが働かなければならない。現実を直視してそれを乗り越える知恵を学んでほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
2講 仕事と職業の社会学 講義の狙いと構成、目標など	
3講 いま何が起きているのか 年功制と終身雇用への反省と改革	
4講 「多様な就労形態」 フリーター、派遣、裁量労働など	
5講 賃金制度の変化 年功給から成果主義へ	
6講 人事管理の変化 会社管理から自己責任へ	
7講 中間まとめ 企業社会から職業社会へ	
8講 専門職の仕事 専門職の歴史と現在	
9講 専門職の仕事 組織内専門職	
10講 ホワイトカラーの仕事 事務職	
11講 ホワイトカラーの仕事 技術職	
12講 ブルーカラーの仕事 熟練型技能職	
13講 ブルーカラーの仕事 量産型技能職	
14講 仕事とジェンダー 職場の性別分業	
15講 全体まとめ 仕事と人生	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	/ /

テキストを使わないが毎回レジュメを配布する。またレジュメのなかに参考書などを示す。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『講座社会学 6 労働』	稲上毅・川喜多喬編 / 東京大学出版会 1999 /
『仕事と家庭生活の調和』	前田信彦 / 日本労働研究機構 2000 /
『女性労働とマネジメント』	木本喜美子 / 頸草書房 2003 /
『ホワイトカラーの世界』	佐藤 厚 / 日本労働研究機構 2001 /
仕事の社会学	佐藤博樹、佐藤厚 / 有斐閣 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
 担当教員 吉田 美喜夫

講義内容・テーマ

この科目では、主として、労働組合と使用者との間の集团的労働関係上で発生する法的問題を扱う。たとえば、労働組合の結成や組合活動、労働条件の改善にかかわる団体交渉、ストライキなどの争議行為が対象となる。言い換えれば、労使が対等な立場で交渉を通じて労使関係上の諸問題を処理するという近代的な労使関係の検討が課題となる。今日、パートや派遣など、労働組合に加入しづらい雇用形態が増大しており、組合組織率も低下しているが、他方、地域ユニオンなど、新しい動向も見られる。このような動きにも注目しつつ、集团的労働関係法の課題を検討したいと考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

集团的労働関係法は、労使関係や労務管理の変化と密接に関係する。したがって、学部で開設されている、これらの問題を扱う科目の受講を求めたい。また、日頃から、労働運動や労務管理に関する変化を新聞報道などを通じてフォローしておく必要がある。なお、「六法」は受講に当たり、用意すること（『ポケット六法』とか『コンパクト六法』など）。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
その他	30 %	不定期に出席調査を行う

出席したら合格とはならないが、何回か行う調査は、日頃の学習のものさしになるので、重視する。

講義スケジュール

内容	キーワード
労働法の基盤となる労使関係・労働関係の現状を扱う	現代社会と労働法
憲法上の労働基本権の内容を扱う	労働者と労働基本権
労働関係・労使関係の主体概念を扱う	労働者と使用者
労働契約、就業規則、労働協約、労使協定など、労働関係の基本的な規制手段を扱う	労働関係と規制手段
労働組合の結成に関する法規制と活動を開始した場合に発生する問題を扱う	労働組合の結成と活動
労働組合と組合員の間の問題、つまり、組合の内部問題を扱う	労働組合と組合員
労働条件の維持改善のために行われる団体交渉上の法的問題を扱う	団体交渉と経営参加
労働協約の規範的効力という特別の効力を扱う	労働協約の効力
ストライキなどの争議権の憲法上の保護とその正当性の評価に関する問題を扱う	争議権の保障と争議行為の正当性
争議行為が正当でないと評価される場合の責任とその帰属の問題を扱う	争議行為と民事上の法的問題
団結権を保護する制度である不当労働行為制度の内容と意義を検討する	団結権保障と不当労働行為
どのような使用者の行為が不当労働行為となるかの判断基準と救済内容を検討する	不当労働行為の種類と救済
補足講義	
補足講義	
定期試験	定期試験

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
労働法	萬井隆令・西谷敏 / 法律文化社 /

指定の教科書以外でも良いが、できるだけ新しい教科書を使用すること。

参考書

労働法を深く学ぶためには、判例や法的争点について学ぶ必要がある。ジュリスト(有斐閣発)別冊の『労働法の争点』、『労働判例百選』が参考になる。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省や日本労働研究・研修機構のホームページが有益である。

その他

労働と余暇 N
労働社会学 N

12077

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

日本の労働者は若年層を中心として余暇志向を高めているが、日本企業では企業社会の価値観を前提とした諸制度として労使関係や労務管理が制度化しており、労働者の意識や行政の政策と比較して、「企業制度」の改革が十分ではない。本講義では余暇の理論的定義や、余暇に対する意識を述べつつ、仕事優先の企業内諸制度の課題について述べていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

キーワード 「企業社会」としての日本企業、「所得保障なき労働時間」の課題、残業を是認する労働基準法第36条(サブロク協定)

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	
日常点(小テスト)	20 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

テキスト

牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版, 2001年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

課題レポートはテキストの範囲から設定するのでテキストを購入すること

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 2以上
 担当教員 吉田 美喜夫

講義内容・テーマ

労働法は、前期科目である労働団体の法の領域と、労働契約の締結、配転、出向、労働時間、休憩、休日、年休、賃金、女性・年少者の保護、解雇保護、職場の安全・衛生、労災補償などについて扱う労働保護法の領域から構成される。後者が本科目の対象領域である。わが国では、過労死が問題になるなど、安心して働ける労働条件が実現しているとはいえない状況にある。したがって、この講義では、学生諸君が、将来、就職して労働者となった場合、あるいは使用者になった場合に出会うことになるであろう職場の労働条件保護の問題について、主として労働基準法上の規定に即して検討することを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期科目である労働団体の法を受講していることが望ましい。また、言うまでもないことですが、法令集は必ず講義に持参すること。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	
その他	30 %	出席調査を行う

* 定期試験として実施 * 日常点評価

定期試験だけでなく、何回か出席調査および質問表の記入を求めます。これも評価に反映させます。

講義スケジュール

内容	キーワード
労働条件の意義、法的保護の必要性、労働法の体系、労働契約の機能、労働者・使用者の義務などについて学ぶ。	労働条件の法的保護と労働基準法 労働契約
就業規則の意義と機能、内容、作成手続、法的性質と法的効力を学ぶ	就業規則
労働関係を規律する理念について学ぶ。	労働憲章
募集から採用内定、配転、出向など人事全般の法的問題を扱う。	採用と人事
労働者にとって最も深刻な問題となる解雇について、それから労働者がどのように保護されているかを学ぶ	解雇保護
労基法上の賃金保護の内容、賞与・退職金の法的問題、休業手当、最低賃金法	賃金
労働時間の概念、変形労働時間制、フレックスタイム制、みなし労働時間制などについて学ぶ	労働時間の法規制
時短の重要性、時間外労働の規制、休憩、休日、年休保	時短の促進と自由時間の開発
均等法の内容とセクシュアル・ハラスメント問題を検討する。	男女雇用機会均等法
パート、アルバイト、派遣労働の問題について	雇用形態の多様化と労働法上の問題
職場の安全衛生の確保と、不幸にして労働災害・職業病が発生	健康の確保と労災補償
国際化に伴って発生している国際労働基準の確保の課題や外国人労働者	国際化と労働法
労働保護法の今後の課題について。まとめの講義とする場合もある。	総括と展望
定期試験	定期試験

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
労働法2(第5版)	西谷敏・萬井隆令編 / 法律文化社 /

生協で販売されます。なお、労働法は頻りに改正されているので、最新の文献を使用してください。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『労働法』	菅野和夫 / 弘文堂 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省や日本労働研究・研修機構、アジア経済研究所などのホームページにアクセスし、最新の労働統計や法令を参照して下さい。たとえば、<http://www.jil.go.jp/>が有益です。

その他

労働法は社会・経済の動きと密接に関係しています。国内だけでなく、国際的な情勢にも日頃から関心を向けてください。とくに新聞は毎日、丹念に読むようにして下さい。

老年社会学 S
 老人福祉論 S
 老年社会学 SG

11235

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む。「老い」を想像し、自分の問題としてほしい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	10 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

* 定期試験として実施 定期試験及び講義中に課す小レポート、出席点による総合評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
「老い」を想像する	
高齢期のこころと身体	
高齢期の世代的特性	
高齢期の健康生活と痴呆症	
高齢期の経済生活と年金	
高齢期の家族生活と老親扶養慣行	
高齢ねたきりと介護問題	
高齢期の無為と生きがい・社会活動	
高齢期の孤独・孤立と疎外	
高齢期の自殺と虐待	
高齢期の性愛とジェンダー	
エイジズム	
高齢期と「世代性」	
「老い」の意味	

テキスト

とくに定めなし

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
エイジングの社会学	/ 日本評論社 /
図説高齢者白書	/ 全国社会福祉協議会 /

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他